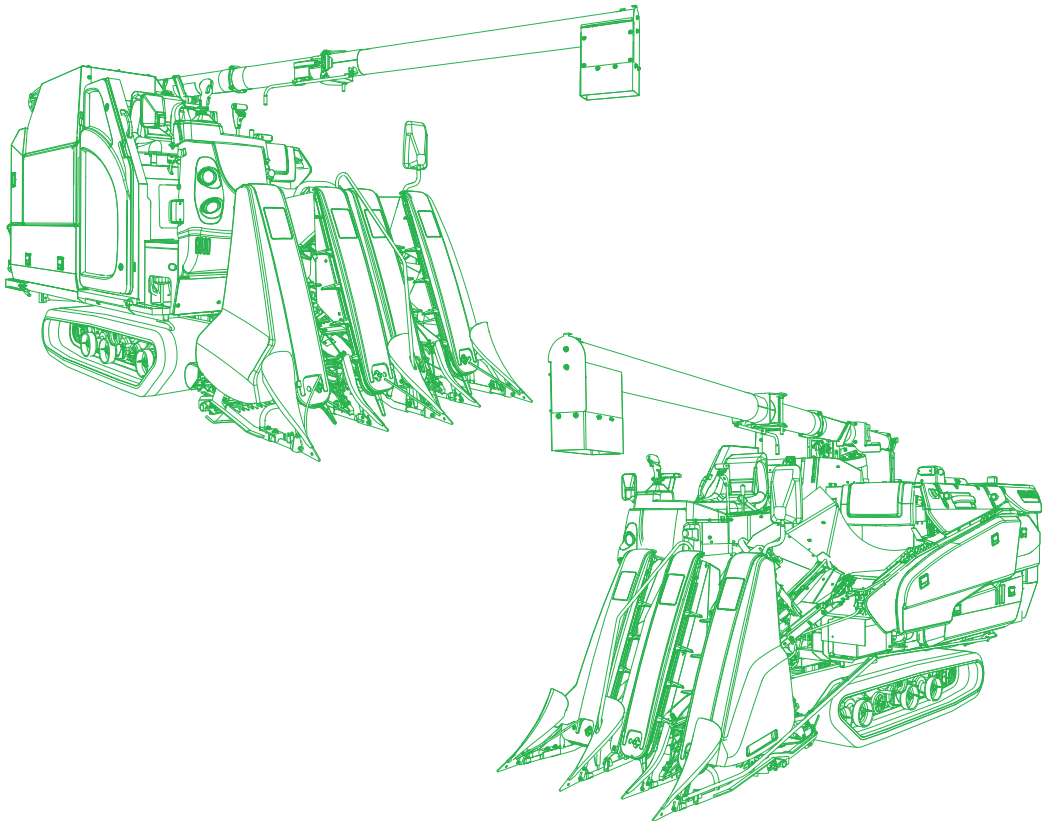
コンバイン

取扱説明書

V435・335



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびは，コンバインをお買いあげいただき，誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は，機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れのしかた，また，守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえに，この取扱説明書をよくお読みいただき，安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管し，いつでも読めるようにしてください。（保管場所は6ページ参照）
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。

・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，次のように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	その警告に従わなかった場合は，死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠警告	その警告に従わなかった場合は，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠注意	その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容，およびイラストなどの一部が機械と一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は稲・麦の収穫作業に使用してください。
・上記作業以外には，使用しないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は，保証の対象になりません。（詳細は，保証書をご覧ください。）

こんなとき，こんなことが知りたいとき，ここを見てください！

この取扱説明書は，次のように構成されています。まず，**安全作業のために** からお読みいただき，基本事項から操作，点検まで機械の正しい取扱い方を理解してください。

安全作業のために 安全な作業をするための注意事項は？

安全な作業をしていただくために，安全に関する基本事項，表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明しています。よく読んで必ず守ってください。

ご使用まえに 使用前に知っておかなければならないことは？

機械の概要「**仕様（装備）**」などについて説明しています。

各部のはたらき 各部のはたらきを知るには？

各部の主な名称，操作レバー，装置の取扱いを説明しています。

運転のしかた コンバインを動かすには？

運転前の点検：作業前の点検項目と内容について説明しています。必ず実施してください。
運転操作のしかた：エンジンの始動，走行のしかた，自動車への積込み・積降ろしのしかたなどを説明しています。

作業のしかた 収穫作業を行うには？

コンバイン作業の基本操作を説明しています。作物の条件やほ場条件にあった機械の調整をして，上手な収穫作業をしてください。

自動装置について 自動装置を使用して作業するには？

各自動装置の取扱いについて説明しています。

手入れのしかた 機械を長もちさせるには？

機械をいつも正常な状態に保つために，手入れのしかたについて説明しています。
「**定期点検整備表**」に従って保守，点検してください。

長期格納のしかた 機械を３ケ月以上格納するときは？

機械を長期に格納するときの手入れのしかたについて説明しています。

不調時の処置 故障かなと思ったら？

作業中のトラブルや不調，異常を感じたときはすぐ原因を調べ処置してください。

付　　表 諸元・関連部品は？

機械に係る諸元表・消耗部品などを一覧表で説明しています。

もくじ

安全作業のために……(安-1)～(安-23)

（安全作業説明編）

ご使用まえに……1

1．保証とサービスについて…… 1

2．仕様（装備）について…… 2

3．用語について…… 4

4．小型特殊自動車について…… 5

1．小型特殊自動車の届出…… 5

2．公道走行するために…… 5

各部のはたらき……6

1．各部の名称…… 6

2．運転装置の取扱い…… 7

1．スイッチ・計器関係…… 7

2．ペダル・レバー関係……19

運転のしかた……28

1．運転まえの点検……28

2．エンジンの始動と停止……30

1．エンジン始動のしかた……30

2．エンジン停止のしかた……31

3．DPF（ディーゼル・パティキュレート・フィルタ）装置のはたらきと取扱い……31

3．走行・停車のしかた……34

1．走行のしかた……34

2．停車のしかた……36

4．自動車への積込み・積降ろし……36

1．自動車・アユミについて……38

2．機械の積込み要領……38

5．ほ場への出入り……39

1．ほ場への出入りのしかた……39

作業のしかた……40

1．作業まえの準備……40

1．作物の条件について……40

2．ほ場の条件について……40

3．ほ場の準備……41

4．機械の準備……41

2．刈取り作業のしかた……46

1．刈取り操作の手順……46

2．作業速度の選びかた……49

3．ほ場の刈取り手順……50

4．こく粒排出操作方法……53

5．グレンタンク補助樋口の取扱い……57

6．ニューツインハーモニー……57

7．リフトシャットの取扱い……58

8．トルクリミッタの取扱い……59

9．手こぎ作業……60

10．手こぎ緊急停止スイッチの取扱い……61

11．エンジン自動停止の取扱い……61

12．夜間作業……63

13．刈取り作業終了後の取扱い……63

14．警報装置について……64

3．ワラ処理部の取扱い……65

1．カッタ作業……65

2．中割り作業……66

3．マルチカッタ切替レバー［マルチカッタ仕様］……66

4．排ワラ作業……66

4．麦刈り作業時の調整のしかた……67

1．選別ダイヤルの調節……67

5．刈刃の高さ調節のしかた……67

自動装置について……68

1．エンジン回転自動制御……68

1．運転装置……68

2．こぎ深さ自動制御……69

1．運転装置……69

2．こぎ深さセンサの調整……70

3．こぎ深さ自動制御が使えない条件……70

3．方向自動制御［ディーラーオプション］…70

1．運転装置……70

2．作業のしかた……71

3．方向自動制御の使えない条件……71

4．刈高さポジションコントロール……72

1．運転装置……72

2．自動での作業のしかた……72

3．手動での作業のしかた……73

5．水平自動制御［L仕様］……73
（ジャストマチック）
1．運転装置……73
2．自動での作業のしかた……74
6．選別自動制御……74
1．運転装置……74
7．排出オーガ旋回自動制御……75
1．運転装置……76
8．送じん量自動調節……77
9．マイコン（マイクロコンピュータ）……78

手入れのしかた……**79**
1．定期点検整備……79
「定期点検整備表」……79
2．給油・注油・給水のしかた……81
「給油・注油・給水表」……82
1．燃料の補給……83
2．エンジンオイル・オイルフィルタの点検・交換…84
3．ラジエータ冷却水の点検・交換……86
4．トランスミッションケースのオイル点検・交換…88
5．油圧作動油の点検・交換および油圧オイルフィルタ・HSTオイルフィルタの交換……88
6．スターホイル駆動ケース……90
7．脱こくギヤケースのオイル点検・交換…90
8．こぎ胴ギヤケースのオイル点検・交換…91
9．搬送HSTギヤケースのオイルの点検・交換…91
10．グレン入力ギヤケースのオイル点検……92
11．集中注油タンク……92
12．機体水平制御リフトアーム軸受部の給脂［L仕様］…92
13．ローラ・アイドラのグリスアップ……93
14．各部の注油 ……94
15．集中注油装置の使いかた……95
3．各部の点検と掃除のしかた……96
1．ラジエータ吸気部の掃除……96
2．エアクリーナの掃除……97
3．排気装置（DPF・排気管）の掃除……97
4．燃料フィルタ・セジメンタの掃除・交換・エア抜き……98
5．ソレノイドバルブのフィルタの点検と掃除… 100
6．ヒューズの交換…… 101
7．電気配線の点検と掃除…… 104
8．バッテリの点検と充電…… 104
9．刈取部サイドカバー右・左の外しかた… 111
10．引起しカバーの外しかた…… 111
11．グレンタンクの回動のしかた…… 112
12．こぎ胴部の開閉のしかた…… 113
13．カッタ部の開閉のしかた…… 115
14．切替カバーの開閉のしかた…… 116
15．脱こく部の掃除のしかた…… 116
16．脱こく内部の掃除…… 117
17．揺動流板の掃除…… 121
18．グレンタンク部の掃除…… 124
4．各部の点検と部品交換のしかた…… 126
1．カッタ刃組品の取外しと分解…… 126
2．爪の交換のしかた…… 135
3．ホース類の点検と交換…… 135
4．ワラ切カマの手入れ…… 136
5．こぎ歯の点検と交換…… 138
5．各部の点検と調整のしかた…… 138
1．走行クラッチペダル・駐車ブレーキ… 139
2．脱こく・刈取クラッチレバー…… 140
3．こく粒排出レバー…… 141
4．排ワラ切替レバー…… 141
「ベルトの点検・調整」…… 142
5．エンジンファンベルト…… 142
6．走行ベルト…… 143
7．こぎ胴伝動ベルト…… 144
8．搬送ＨＳＴベルト…… 144
9．こぎ胴ベルト…… 144
10．１番ラセンベルト…… 145
11．カッタベルト…… 145
12．選別ベルト…… 146
13．穂先排ワラベルト…… 146
14．排ワラベルト…… 147
15．グレンベルト…… 147
16．かき込みベルト（刈取部）…… 148
「チェンの点検・調整」…… 150
17．株元搬送チェン…… 150
18．こぎ深さ搬送チェン…… 152

19. 穂先搬送チェン…… 152
20. かき込み搬送チェン（右，左）…… 153
21. 脱こくフィードチェン…… 154
22. 排ワラチェン…… 154
「クローラの点検・調整」…… 155
23. クローラ…… 155
24. 刈刃…… 156

長期格納のしかた ……158
1．機械の掃除と洗浄…… 158
2．錆止めと注油…… 158
3．エンジンの手入れ…… 158
4．点検・整備…… 158
5．格納…… 159
6．再使用にあたって…… 160

不調時の処置 ……161
1．エンジン部…… 161
2．走行・運転操作部…… 163
3．電気・自動制御部…… 165
4．刈取部…… 166
5．脱こく部…… 167
6．ワラ処理部…… 169
7．グレンタンク部…… 169

付　　表 ……170
1．主要諸元…… 170
2．ベルト一覧表…… 171
3．主な消耗部品…… 172
1．爪関係…… 172
2．カッタ関係…… 174
3．ヒューズ…… 174
4．ランプバルブ…… 175
5．刈刃・カマ関係…… 176
4．アタッチメント（別売り）…… 178
5．付属品一覧表…… 178
6．潤滑油について…… 179
1．エンジンオイル…… 179
2．油圧作動油…… 179
3．ギヤオイル…… 179
7．コンバイン関連商品…… 180

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ

1．安全作業のしかた……（安-1）

⚠作業前に次のことを守りましょう！……（安-1）

⚠安全作業のポイント……（安-2）

⚠作業前の一般的な注意事項……（安-4）

⚠点検・整備および掃除をするときは……（安-5）

⚠エンジンを始動するときは……（安-9）

⚠路上走行をするときは……（安-10）

⚠自動車への積込み・積降ろしをするときは……（安-12）

⚠ほ場で作業をするときは……（安-14）

⚠１日の作業が終わったら……（安-17）

⚠長期格納するときは……（安-18）

2．表示ラベルについて……（安-19）
（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）

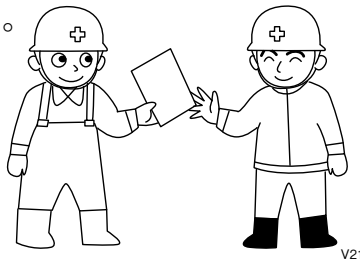
安全作業のために

1．安全作業のしかた

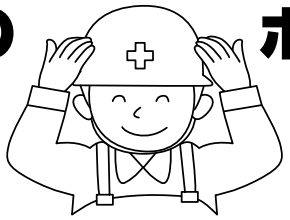
・安全上の重要な事項を **⚠危険** ⚠警告 ⚠注意 の３段階に分類して説明していますので，よく読んで理解し安全作業に努めてください。

・なお，この項の安全作業の説明は**コンバイン全般**についてのものです。これ以外にも本文の中でも同様に説明していますので，よく読んで必ず守ってください。

⚠作業前に次のことを守りましょう！

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆このような人は運転しないでください。 ●酒気をおびた人 ●妊娠している人 ●16才未満の人 ●指導者のいない運転未熟練者 ●過労・病気・薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人 ●運転する人は健康に気をつけて適当な睡眠と休けいをとってください。	誤操作しやすく思わぬ事故を起こすことがあります。  V207
⚠警告 ◆作業に合ったキチンとしたものを着用してください。  V208	このような服装は衣服が回転部に巻込まれたり，足をスベらせたりして思わぬ事故を起こすことがあります。  V209
⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合は取扱説明書も合わせて貸して，安全な作業ができるよう説明してください。  V210	借りた人が不慣れなため，思わぬ事故を引起こすことがあります。

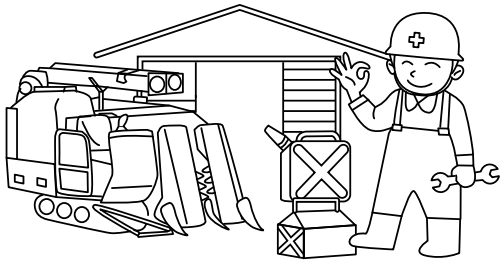
⚠安全作業のポイント

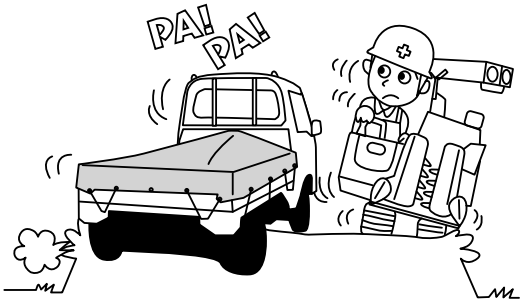

V211

●取扱説明書，機械のラベルをよく読んでから運転をする。

始業・点検　準備点検

●平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する。
●機械に貼ってあるラベルがなくなったり，汚れたりして読めなくなったら新しいラベルに貼り替える。
●エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する。
●バッテリコードや電気配線，燃料ホースを点検する。
●集中注油作業時は，運転者以外の人を機械に近づけない。
●給油，冷却水の点検はエンジンが冷えているときに行う。
●燃料補給時はエンジンを停止し，火気を近づけない。
●方向指示器などの保安部品の作動を確認する。
●刈取部を上げて掃除や点検をするときは，油圧を固定して刈取部の下に固定脚を置く。
●機械は改造しない。
●機械の制御系に影響を与える可能性があるので，業務用無線やアマチュア無線などの無線機器を設置しない。


V277



V278

エンジン始動

●始動前にすべてのカバーを取付ける。
●駐車ブレーキをかけ，各操作レバーを《中立》または《切》にする。
●屋内で始動するときは窓や戸を開けて換気をする。
●機械の周囲から人を遠ざける。
●エンジンの始動はシートに座って行う。
●始動のときは周囲の人に「合図」をする。

走行・運転

●刈取部先端部にバンパを取付ける。
●ナローガイド，排出オーガを収納する。
●機械に子供など，人や物をのせない。
●走行する前にグレンタンク内のこく粒をすべて排出する。
●発進時は，周囲をたしかめる。
●走行時の旋回は，低速で行う。
●後進時は，後方を確認する。
●急発進，急ブレーキ，急旋回はしない。
●わき見運転や手放し運転をしない。
●脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にする。
●運転中は子供など，人を機械に近づけない。
●排出オーガは折りたたむ。

道路（公道）走行

●ナンバープレートの交付を受ける。
●運転免許証を携帯し，交通法規を守る。
●取扱説明書で指定された作業機以外は取外す。
●前後左右を確認し，低速車線を走る。
●夜間走行は，前照灯をつける。（作業灯は消す）
●走行中に飛び乗り，飛び降りはしない。

狭い農道・凸凹道・坂道の走行

●速度を落として走行する。
●対向車を避けるとき，端に寄りすぎない。
●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない。
●急な坂道でのギヤ変速操作はしない。
●下り坂では，速度を下げて走行する。
●急傾斜地は，走行しない。
●坂道での旋回は，低速で行う。

停車・駐車

●平坦な場所で刈取部を下げて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する。
●傾斜地では駐車しない。
（やむを得ず駐車するときは車止めをする）
●機械を離れるときはスタータスイッチよりキーを抜取る。
●副変速レバーを《標準》に入れる。

自動車への積込み・積降ろし

- アユミはじゅうぶんな強度，長さ（荷台高さの４倍以上），幅（クローラが外れない幅）すべり止め，フック付きを使用する。
- アユミは自動車の荷台に平行にかけ，フックが外れないことを確認する。
- 周囲を確認し，機械の周囲には人を近づけない。
- 脱こく・刈取クラッチレバーは《切》にする。
- 積込みは前進，積降ろしは，後進で低速で行う。
- アユミの上では進路変更や変速操作をしない。
- アユミの上ではジャストディレクタを操作しない

ほ場作業　ほ場の出入り

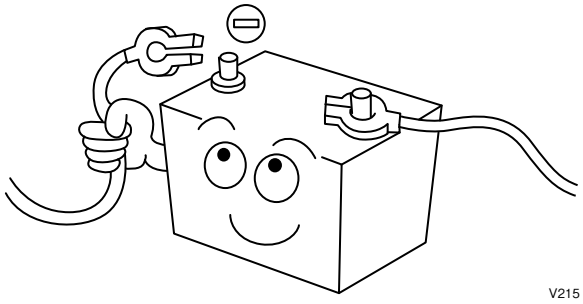
- グレンタンク内のこく粒を排出して行う。
- 副変速は，《標準》であぜに対して直角に行う。
- あぜ，溝，急傾斜を越すときはアユミを使用して行う。
- あぜがくずれないことを確認しゆっくり行う。

ほ場での作業

- エンジン始動，クラッチ《入》の前には周囲を確認する。
- 刈取り作業は，機械の周囲に子供など，人を近づけない。
- 旋回時は，周囲の状況を確認し，低速で行う。
- 排出オーガの排出口内に手を入れない。
- 排出オーガの操作は，運転席から周囲の安全をよく確認してから行う。
- 運転走行中の乗り降りはしない。
- 過労にならぬようゆとりをもって，作業の間に休憩を入れる。
- あぜ際での旋回時は周囲を確認する。
- ノッタの結束ひもを交換するときはエンジンを停止する。［ノッタ仕様］
- ノッタのそばに手や身体を近づけない。［ノッタ仕様］

手こぎ作業

- 脱こく･刈取クラッチレバーを《脱こく 入》にして，走行を停止して行う。
- 手袋は使用しない。
- 手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れない。
- カッタの切ワラが溜まったら，手こぎを中断して移動する。
- ワラクズの近くに機械を停止しない。



V215



V279



V214

作業途中の点検

- 平坦な場所で刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけてエンジンを停止する。
- 詰まりなどの異常時には，エンジンを停止して行う。
- カッタやグレンタンクを回動したときはストッパをかける。
- 取外したカバー類は，すべて取付けて作業を始める。

終業・格納　１日の作業が終わったら

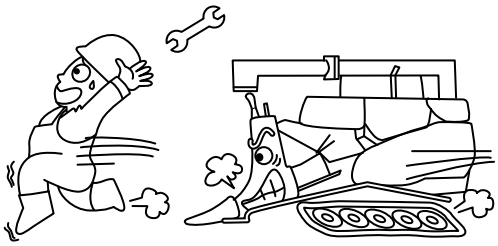
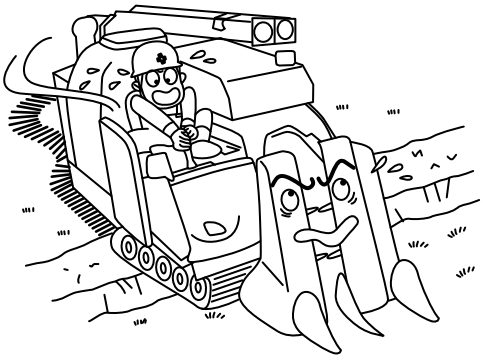
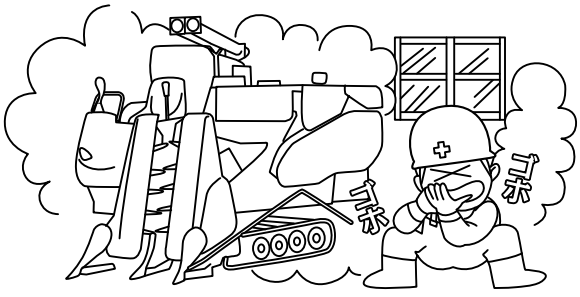
- 平坦な場所に置き，刈取部を下げ，駐車ブレーキをかけて車止めをする。
- スタータスイッチよりキーを抜取る。
- エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲を掃除する。
- マフラやラジエータなどは冷えるまで直接触れない。
- シートカバーはエンジンが冷えてからかける。

長期格納

- １シーズンごとに定期点検をする。
- 新しい燃料を入れ，タンクの燃料を満量にしておく。
- 燃料コックを閉じる。
- バッテリコードの「㊀側」を外すか，バッテリを取外す。
- 平坦な場所で刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて，クローラに車止めをする。

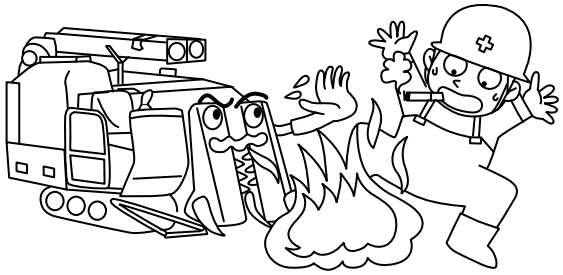
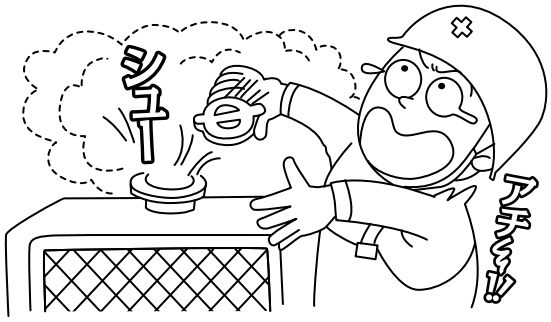
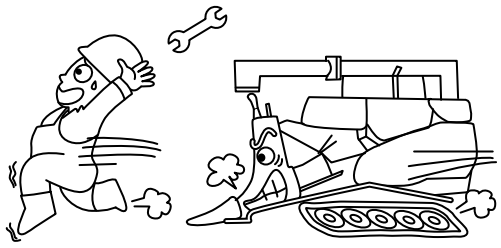
⚠作業前の一般的な注意事項

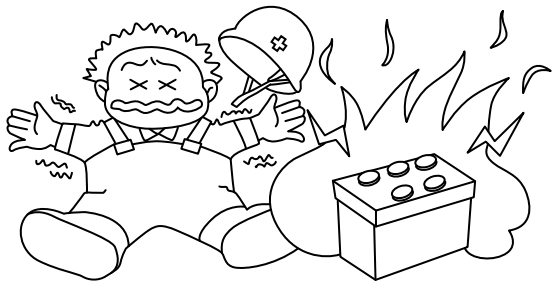
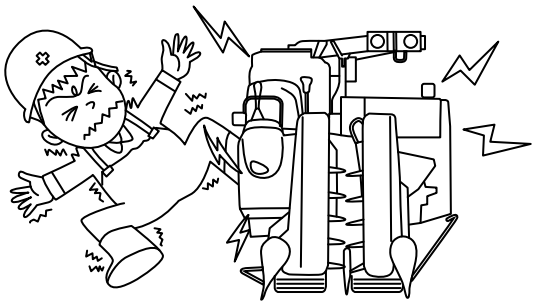
必 ず 守 っ て く だ さ い	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆機械を稲や麦の収穫作業以外には使用しないでください。	思わぬ傷害事故を引起こす原因になります。  V216
⚠警告 ◆機械は改造しないでください。	人身事故の原因となることがあります。  V280
⚠警告 ◆毎日の運転まえには,「運転まえの点検表」の項目を点検し，異常があれば整備してから運転してください。 ◆1年ごとに定期点検整備を行い，各部の保守を行なってください。	整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。  V281
⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気してください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害になったり死亡することがあります。  V282

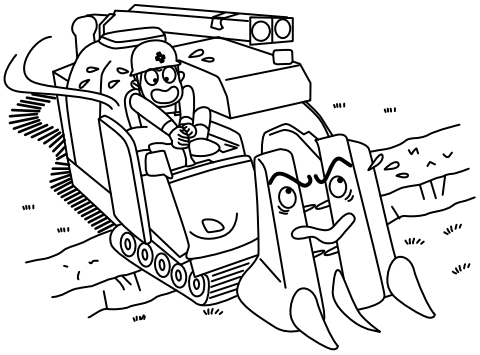
⚠点検・整備および掃除をするときは……

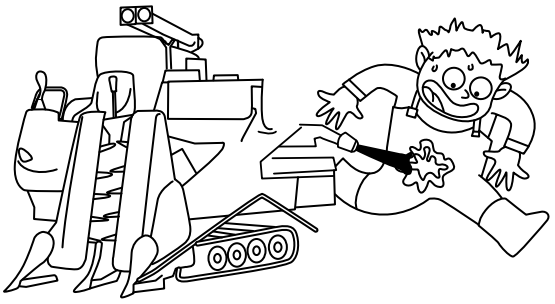
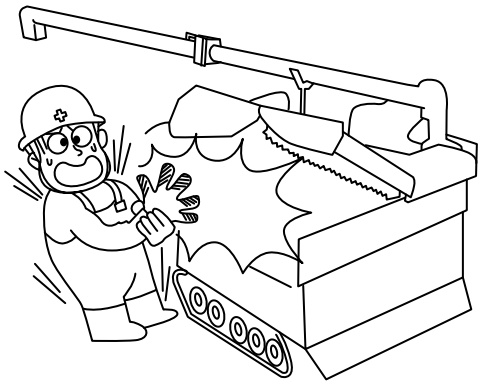
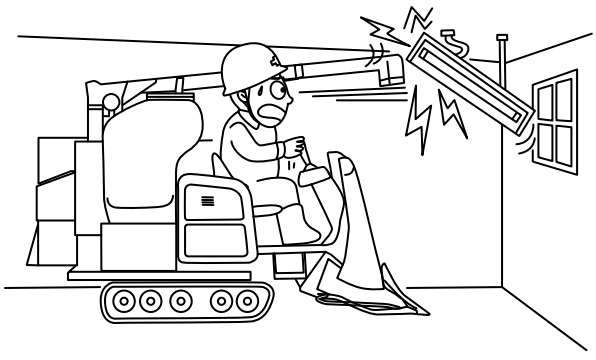
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆燃料補給時は，くわえタバコなど火気を近づけないでください。 ◆燃料を補給したときは，燃料キャップを確実に締め，こぼれた燃料はきれいにふきとる。 ◆エンジン回転中や，エンジンが熱い間は給油，注油をしない。 ●燃料ホースの破損や燃料漏れがないか，点検してください。 ●燃料ホースは２年ごとに交換する。	燃料などに引火し，火傷や火災の原因となることがあります。  V283
⚠警告 ◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを開けないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止しエンジンが冷えてからラジエータキャップを開ける。 ●冷却水の点検は，補助タンクで行う。	熱湯が吹きだし，火傷することがあります。  V221
⚠注意 ◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し各部の回転が止まってから行なってください。	機械が動き出し，思わぬ事故を起こすことがあります。  V280

必 ず 守 っ て く だ さ い	守らないとこんな事故が！
⚠危険 ◆バッテリの点検時，火気（タバコ・ライターなど）を近づけないでください。	バッテリから水素ガスが出ますので，引火により爆発して死亡する恐れがあります。  V222
⚠危険 ◆バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。 ◆バッテリ液が，目，皮ふ，衣服，物についたときは，すぐに多量の水で洗い，飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入ったときや飲み込んだときは医師の診断を受けてください 。	バッテリ液（希硫酸）で服が破れたり，死亡する恐れがあります。  V223
⚠警告 ◆バッテリ端子からコードを取外すときは，⊖側を先に取外してください。取付けは⊕側を先に取付けてください 。 ●バッテリは指定されたバッテリを使用してください。 ●⊕，⊖を逆に接続しないでください。	ショートして，火傷や火災の原因となります。  V284

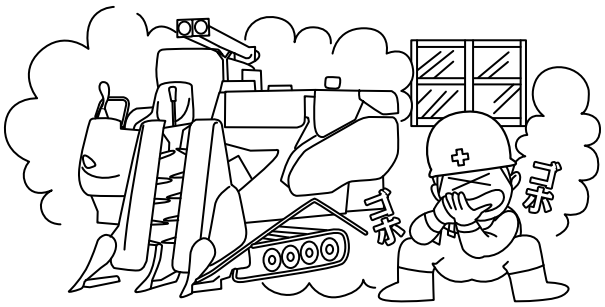
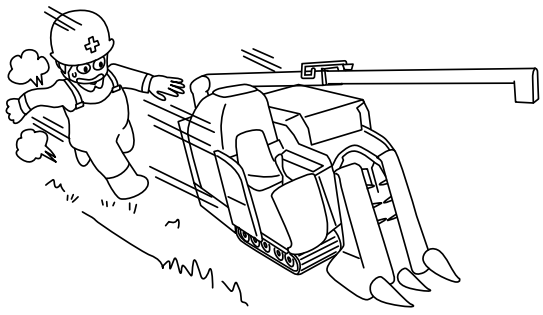
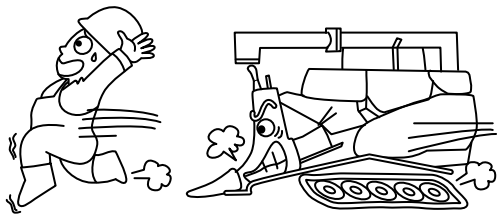
必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆電気配線が他の部品に接触していないか，剥れや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。 ●クランプや固定金具のゆるみがないか点検してください。	火災事故を引起こすことがあります。  V285
⚠警告 ◆エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲にワラクズやゴミなどが付着していないか，作業前に点検して付着していれば取除いてください。 ●ベルトカバー内のワラクズを取除いてください。	火災の原因となることがあります。  V286
⚠警告 ◆方向指示器などの保安部品の作動確認は機械を動かす前に行なってください。	交通事故を引起こす原因となります。  V216
⚠警告 ◆マルチステアリングレバーの効き具合や，片効きなどがないか点検し，異常であれば「お買いあげ先」で整備を受けてください。	正常な走行ができず事故を引起こす原因となります。  V281

必 ず 守 っ て く だ さ い	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆油圧関係の部品を点検したり取外す前に，エンジンを停止し，油圧リフト部をもっとも下げた状態にして，残圧を抜いてから作業をしてください。 ●もし，高圧噴油に触れたら，直ちに医師の診断を受けてください。	圧力がかかって噴出した油は，皮ふに浸透し傷害の原因になります。 油が皮ふに浸入した場合，取除かないと壊疽（えそ）になる恐れがあります。  V287
⚠注意 ◆点検・整備などで外したカバーなどは，すべて取付けてください。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こすことがあります。  V288
⚠注意 ◆排出オーガの作動確認は周囲にゆとりのある広い場所で行なってください。 ●屋外では電線などに引っ掛けないでください。	屋内などの狭い場所で旋回すると，排出オーガの先端で電灯などを引っ掛けて損害事故を起こすことがあります。  V229

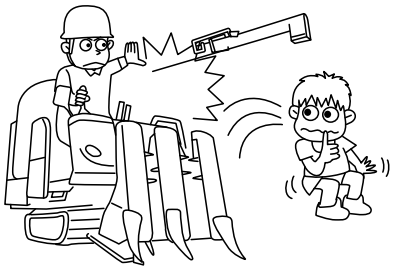
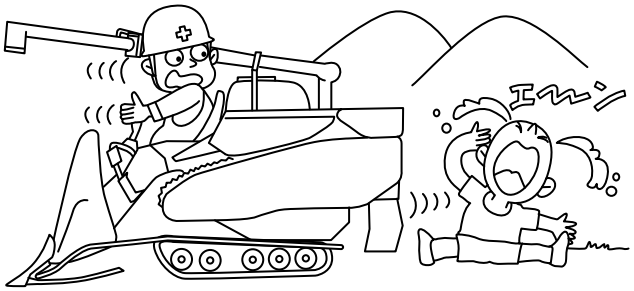
⚠エンジンを始動するときは……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

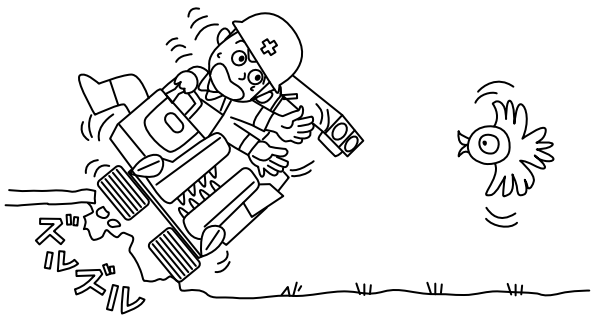
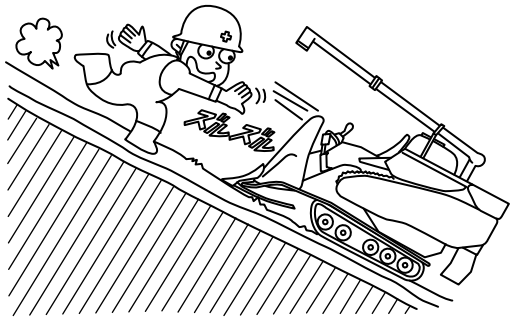
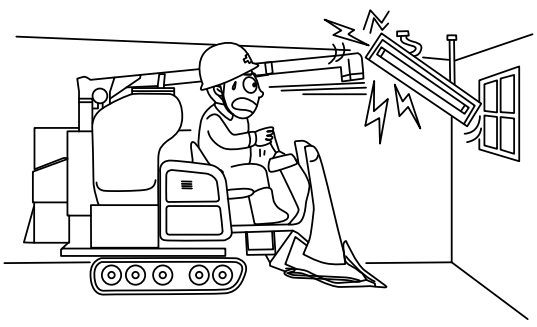
⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気をよくしてください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠状態になって脳障害になったり死亡することがあります。  V282
⚠警告 ◆駐車ブレーキをかけてください。 ◆主変速を《中立》にしてください。 ◆脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にしてください。 ●主変速が《中立》になっているか手で動かして確認する。 ●周囲を確認し，合図してから始動する。	変速やクラッチが入っていると機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。  V230
⚠警告 ◆始動は，運転席のシートに座って行なってください。	機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。  V289
⚠警告 ◆暖機運転は，駐車ブレーキをかけ，主変速レバーを《中立》，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にして行なってください。	急に発進したりして思わぬ事故の原因となります。  V290

⚠路上走行をするときは……

必 ず 守 っ て く だ さ い ⟶ 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆路上走行時は，交通法規を守り，ヘルメットを着用してください。 ●夜間の走行は，前照灯をつけ，作業灯は消してください。	思わぬ傷害事故の原因となります。  V233
⚠警告 ◆子供など，人や物を機械に乗せないでください。 ●荷物は，別の自動車（運搬車）などで運んでください。	思わぬ事故を引起こす原因となります。  V291
⚠警告 ◆発進するときは，機械の周囲から人を遠ざけて，低速で発進してください。 ●前後，左右の確認をし，わき見運転はしないでください。	傷害事故を引起こす原因となります。  V292
⚠注意 ◆走行時は，ナローガイド，排出オーガを収納してください。 ◆路上走行するときは，刈取部の先に指定されたバンパを取付けてください。 ◆脱こく・刈取クラッチレバーが《切》になっていることを確認してください。 ●急発進，急ブレーキ，急旋回しないでください。 ◆取扱説明書で指定された作業機以外は，取外してください。 ●刈取部先端を35㎝程度上げてください。 ◆グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。	思わぬ事故を引起こす原因となります。  V293

必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆道路の端には寄りすぎないようにしてください。 ◆対向車を避けるとき，端に寄りすぎないでください。 ◆軟弱な路肩や草が生い茂っている所は，走行しないでください。 ◆雨天，雨あがりのときは，低速で慎重に走行してください。 ◆凸凹道路，下り坂は速度を落とし，慎重に走行してください。	路肩がくずれ，横転事故を引起こすことがあります。  V294
⚠警告 ◆坂道の途中で走行クラッチを切ったり変速レバーを操作しないでください。 ●坂の手前で一旦停止して，副変速を《標準》に入れ変えてから，登り降りしてください。 ●坂道での斜め走行や旋回はしないでください。 ●急傾斜地を走行しないでください。	エンジンブレーキがきかず思わぬ事故を引起こすことがあります。  V238
⚠警告 ◆坂道では駐車しない。やむを得ず坂道の途中で駐車するときは駐車ブレーキをかけて，エンジンを停止し，木片などで車止めをしてください。 ●刈取部は下げておいてください。 ●機械から離れるときは，スタータスイッチからキーを抜取ってください。	機械が動き出し，事故の原因となることがあります。  V239
⚠警告 ◆業務用無線やアマチュア無線などの無線機器は機械の制御系に影響を与える可能性がありますので機械に設置しないでください。	思わぬ事故を引起こすことがあります。  V229

⚠自動車への積込み・積降ろしをするときは……

必 ず 守 っ て く だ さ い ⟶ **守らないとこんな事故が！**

⚠警告

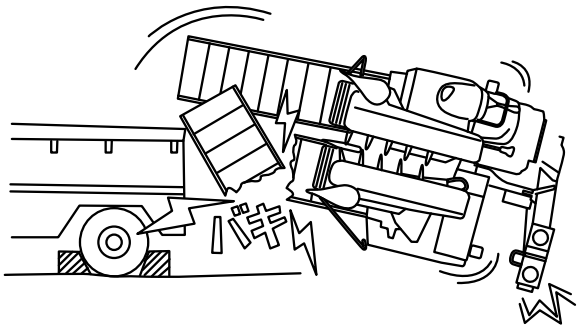
◆積載重量が自動車の最大積載量を超えない車で，かつ荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。

●自動車は駐車ブレーキをかけエンジンを停止し変速を１速か後進に入れ，タイヤに車止めをしてください。

◆アユミはじゅうぶんな強度，長さ，幅のある基準に合ったすべり止め，フック付きを使用してください。

●アユミの幅は，クローラ幅に合ったものを使用してください。

アユミが折れたりして，転倒事故を起こすことがあります。



V295

⚠警告

◆アユミを機械のクローラ間隔に合わせ，自動車の荷台に平行に真直ぐにかけてください。

●荷台にアユミのフックをかけ，外れないことを確認してください。

⚠注意

◆グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。

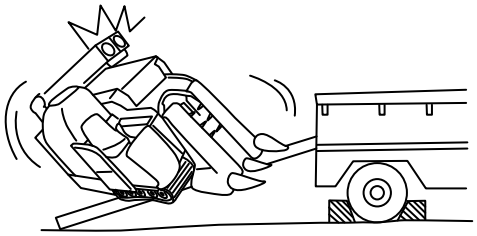
◆積込みは前進，積降ろしは後進で副変速は《標準》で行なってください。

◆水平自動スイッチを《切》にして，機体を一番下げた状態で行なってください。

◆［方向自動付き（ディーラーオプション）］は自動スイッチを《切》にしてください。

●こぎ深さ自動スイッチも《切》にしてください。

転倒の恐れが増し，傷害事故の原因となります。



V296

⚠警告

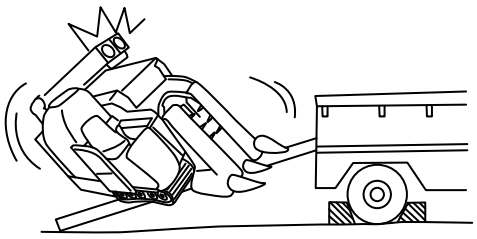
◆アユミの上では，進路変更や変速操作をしないでください。

●機械をアユミに対して真直ぐに止め，左右のクローラがアユミの中央にあることを確認し，アユミの途中で機械を止める必要がないようにしてください。

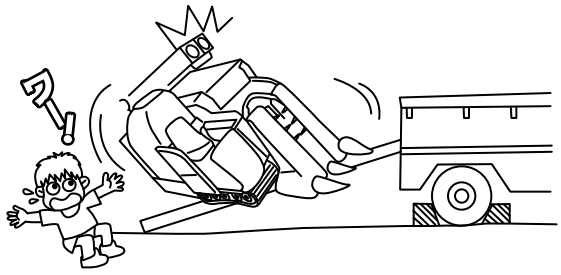
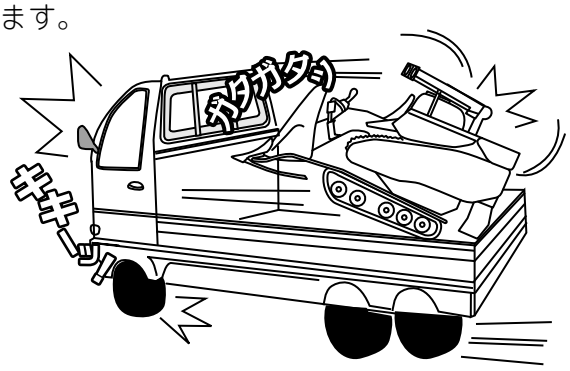
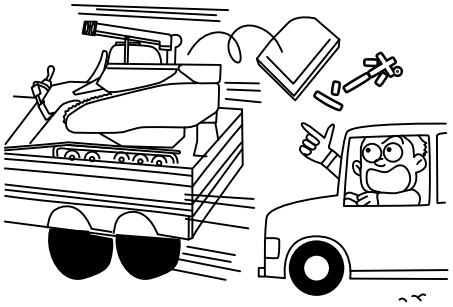
●アユミの上では，急なマルチステアリングレバーの操作や主変速レバー，副変速レバー，走行クラッチペダル，左右水平，ブレーキロックレバー，ジャストディレクタの操作はしないでください。

◆自動車などへの積込み・積降ろしのときは，アユミの上でジャストディレクタを操作しないでください。

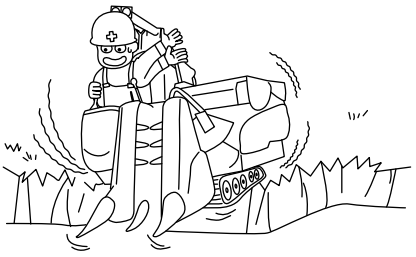
急旋回したり，急降下したりして転倒事故を起こすことがあります。



V296

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆補助者立合誘導のもとに行なってください。機械の周囲に子供など，人を近づけないでください。	転倒事故に巻き込まれる恐れがあります。  V297
⚠警告 ◆自動車の荷台の上では，刈取部を床に当たるまで降ろして駐車ブレーキを掛けてください。 ●副変速レバーを《標準》位置にしてください。 ◆所定の［ロープ掛けフック（４箇所)］にロープを掛けてしっかり固定してください。 ●車止めをしてください。	輸送中に機械が動き，思わぬ事故の原因となることがあります。  V300
⚠警告 ◆自動車での輸送時には機械の各カバーを固定してください。 ●カバー類などは風圧で破損，脱落の恐れがありますので，確実に固定するか，外して荷台に置いてください。	輸送中にカバー類が脱落し，思わぬ事故の原因となることがあります。  V299
⚠警告 ◆輸送中の急発進，急ブレーキ，急旋回はしないでください。	輸送中に機械が動き，思わぬ事故の原因となることがあります。  V300

⚠ほ場で作業をするときは……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆10㎝以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りはアユミを使ってください。 ●アユミ上では進路変更しない。 ●グレンタンク内のこく粒を排出して行ってください。	バランスを崩したりして，転倒事故を引起こすことがあります。  V301
⚠警告 ◆あぜ越えは，副変速を《標準》にして，あぜに直角に横切るようにしてください。 ●あぜが崩れないことを確認して行ってください。	転倒事故を引起こすことがあります。  V302
⚠警告 ◆補助者との共同作業が多いので，作業前によく打合わせをしてください。 ●エンジン始動や発進するとき，脱こく・刈取クラッチレバーを入れるときは，ホーンで合図してください。 ◆作業時の旋回は，低速で行なってください。 ●旋回するときは，周囲を確認し，低速で行ってください。 ●機械の周囲に人を近づけない。	傷害事故の原因となります。  V248
⚠警告 ◆手こぎ作業のときは，手や衣服を供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れないでください。 ◆手こぎ作業をするときは，そで口はきっちり止めて，巻きタオル，腰タオルは着用しないでください。 ●手袋は使用しない。 ●供給口が見えなくなるほど，多量の作物を供給しない。 ●カッタ切ワラが溜まったら，手こぎ作業を中断して移動する。 ●手こぎ作業は走行を停止して脱こく・刈取クラッチレバーを《脱こく 入》位置にして行ってください。	機械に巻込まれたりして，傷害事故を起こします。  V249

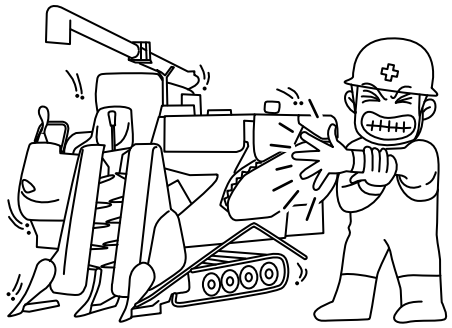
必ず守ってください → 守らないとこんな事故が！

⚠警告

◆詰まりなどの除去や，ノッタのひも交換（ノッタ仕様）をするときは，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行なってください。

●脱こく部やカッタの詰まり，チェンやベルトのワラの巻付き，垂れ穂などに気付いても，作動中は手を出さない。

傷害事故を引起こすことがあります。



V303

⚠警告

◆補助者は作業中はワラの巻付き，詰まりを取除かないでください。

◆補助者は，機械に近づくとき運転者に合図をして，確認を取ってください。

◆人が機械の近くにいないことを確認してからエンジン始動，脱こく・刈取クラッチレバー操作をしてください。

◆カッタでの事故がいちばん多く発生していることを，作業者は認識しておいてください。

◆エンジンが作動中は，カッタのそばに手・足・衣服を近づけないでください。

◆補助者に，機械の機構，運転や操作のしかたをよく知らせておいてください。

◆作業中は機械に人を近づけないでください。

◆運転者は，常に補助者の状態を確認しながら作業をしてください。

●特に，カッタや搬送部・脱こく部・刈取部付近には作業中は近づかない。

◆ワラなどの巻付き・詰まりなどが発生しても，作動中は手を出さないでください。

◆運転者と補助者は常に「合図」し合いながら作業をしてください。

傷害事故を引起こすことがあります。



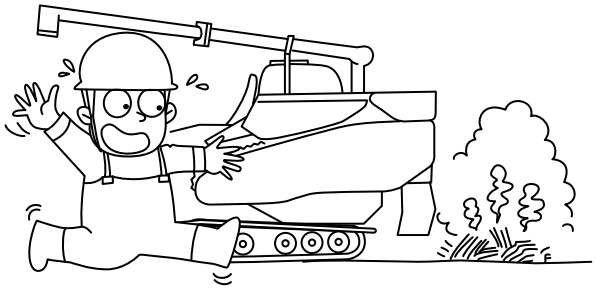
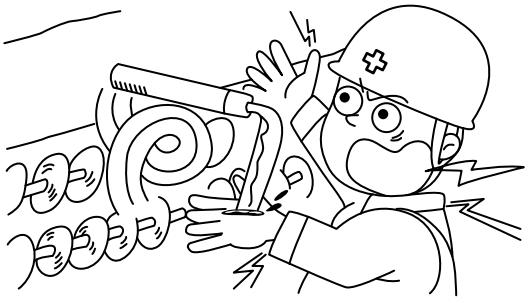
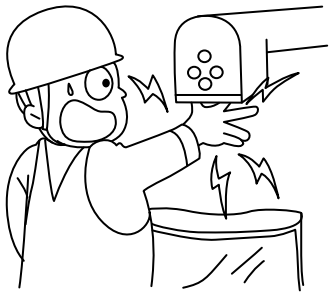
V251



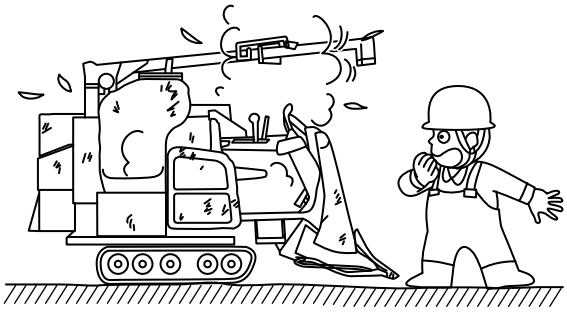
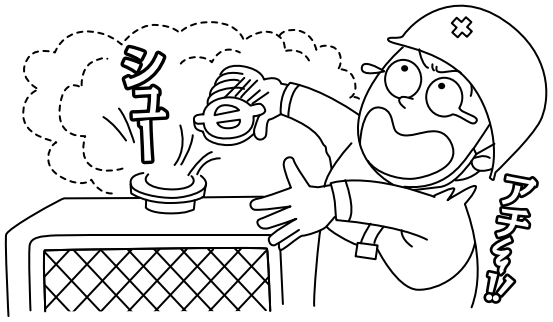
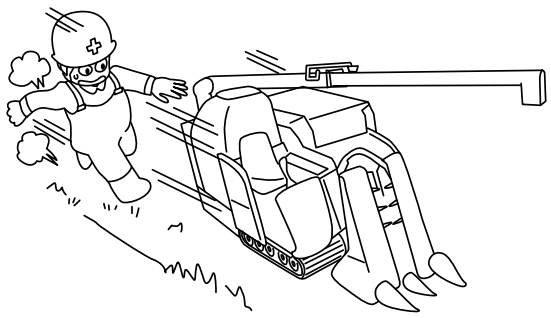
V252



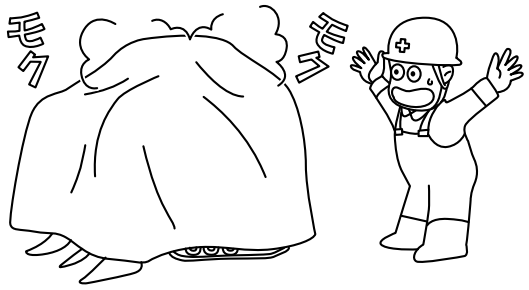
V253

必 ず 守 っ て く だ さ い	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆ワラクズの近くには機械を止めないでください。 ●エンジン排気による火災を防ぐため，ワラのないところに機械を止めてください。 ●手こぎ作業時，ワラの上に機械を止めて作業をしないでください。	マフラの排気で火災になることがあります。  V304
⚠警告 ◆エンジンやマフラ，バッテリ，燃料タンクの周囲，ベルトカバーにワラクズが溜まった場合は，エンジンを停止して掃除をしてください。	火災の原因となることがあります。  V286
⚠注意 ◆作業中にカマなどを使って，脱こく部やカッタの掃除をしないでください。 ●カッタにワラが巻付いても，回転中は掃除をしないでください。カッタのカバーを開閉するときはエンジンを停止してください。 ●カッタを開いたときは，ストッパをかける。	カマなどがはね飛ばされて，傷害事故の原因となります。  V254
⚠注意 ◆排出オーガの排出口内には手を入れないでください。 ◆排出オーガの操作は運転席から周囲の安全を確認してから行なってください。 ●走行の前に，排出オーガがオーガ受けに収納され，固定されているか確認してください。	ラセンに巻込まれたり，シャッタに手をはさまれたりして負傷することがあります。 排出オーガが周囲の人に当たり，負傷したりすることがあります。  V256  V257

⚠1日の作業が終わったら……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆作業が終了したら，平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い，掃除をしてゴミなどを取除いてください。 ●高温部が冷えてから，エンジン・マフラ・バッテリ・燃料タンクの周囲のワラクズを除去・掃除してください。	火災の原因となることがあります。  V305
⚠警告 ◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを開けないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからラジエータキャップを開けてください。 ●冷却水の点検は補助タンクで行ってください。	熱湯が吹きだし，火傷することがあります。  V221
⚠警告 ◆保管は，平坦な場所に置き，刈取部を下げて，駐車ブレーキをかけて車止めをしてください。 ●副変速レバーを《標準》に入れ，駐車ブレーキをかけてください。 ●スタータスイッチからキーを抜取っておいてください。	機械が動き出し，思わぬ事故の原因となります。  V289
⚠警告 ◆エンジンが熱いときは，シートカバーをかけないでください。	火災の原因となることがあります。  V259

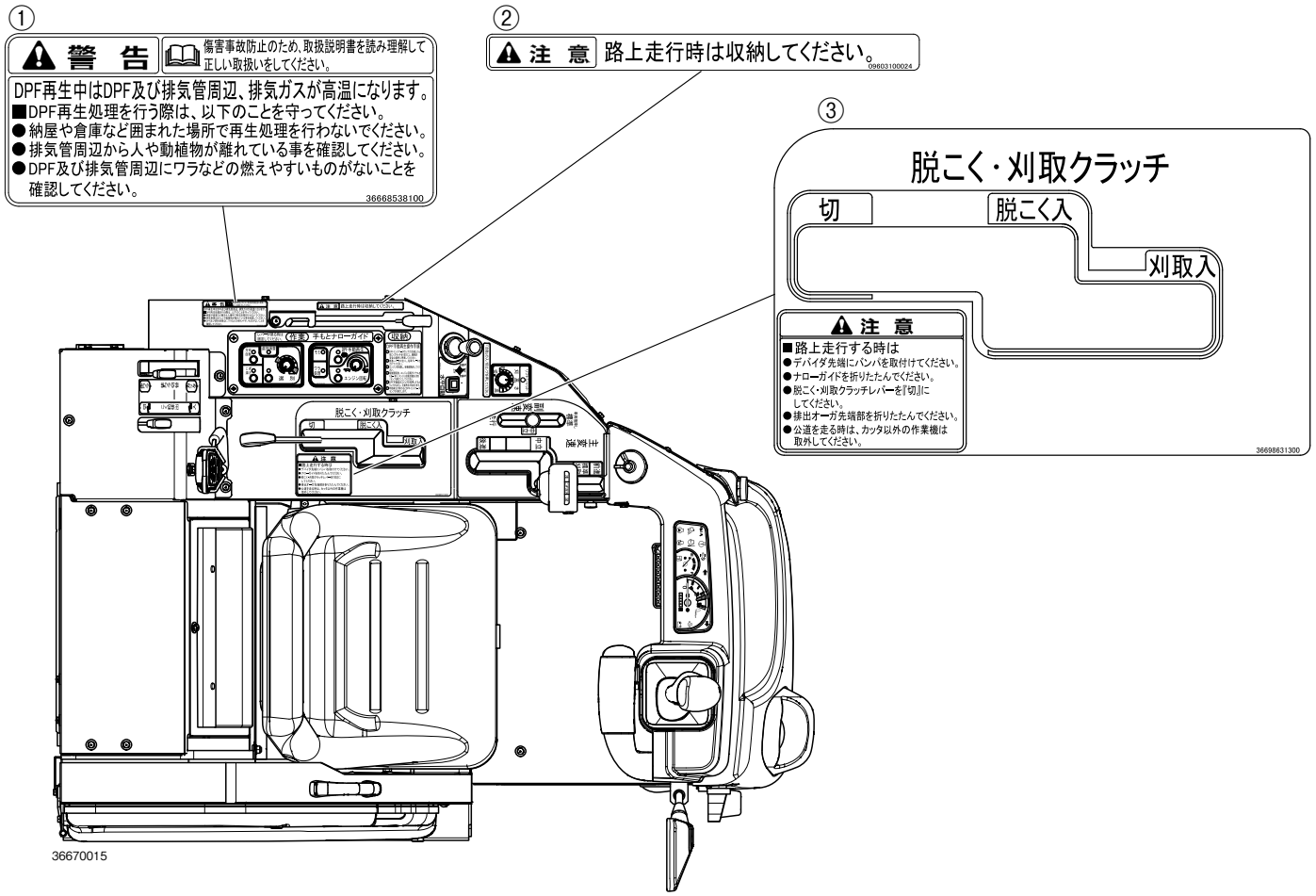
⚠長期格納するときは……

必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆バッテリコードの「⊖側」を外すか，バッテリを取外してください。 ●１ケ月に１回程度補充電をしてください。 ◆燃料コックを閉じてください。		思わぬ火災事故を起こす場合があります。  V260
⚠警告 ◆平坦な場所に置き，刈取部先端にバンパを取付け，駐車ブレーキをかけて車止めをしてください。 ●副変速を《標準》に入れ，クローラに車止めをしてください。 ●スタータスイッチよりキーを抜取っておいてください。		機械が動き出し，思わぬ傷害事故を起こすことがあります。  V261
⚠警告 ◆シーズン終了後には，定期点検を受けてください。 ●１年ごとに定期点検・整備を「お買いあげ先」で純正部品を使用して行なって，各部の保安を確保してください。  V262		整備不良のまま使用すると，思わぬ事故を引起こす原因となります。

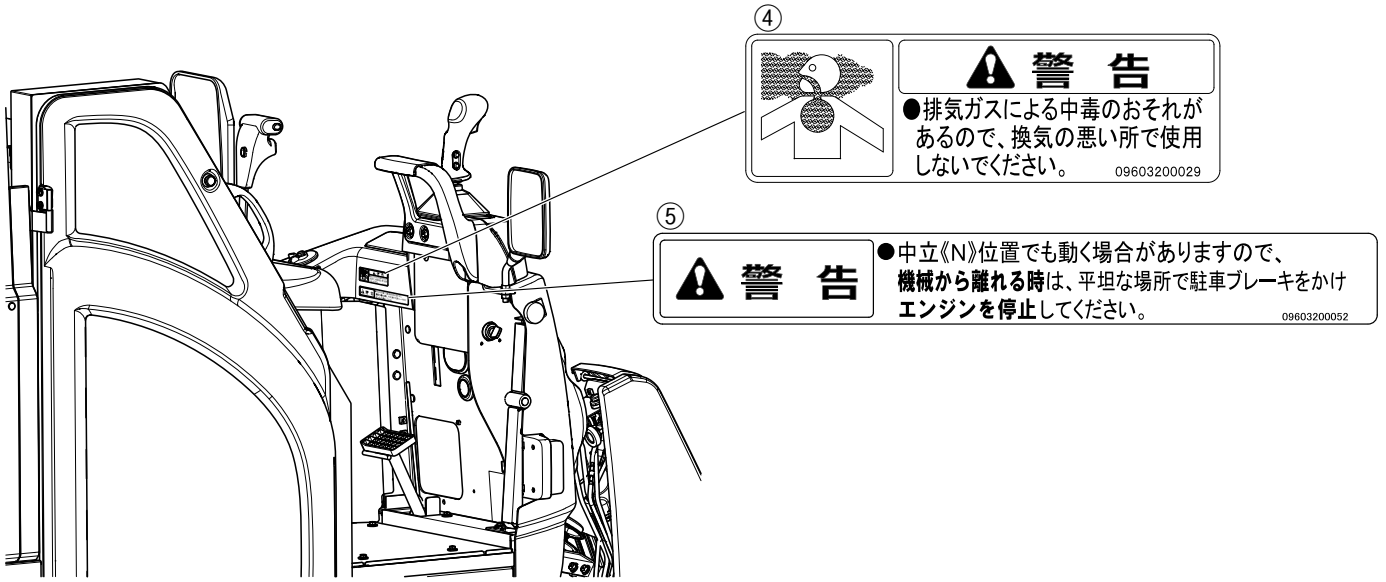
2. 表示ラベルについて

この機械には各運転装置の近くやカバーに各々の安全な取扱い方について説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

また，機械に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを**「お買いあげ先」**に注文して購入し貼り替えてください。



36670015



36670030

⑦

⚠ 警 告

ケガや死亡事故を起さないために

■ エンジンを始動する前に
- 機械の周囲から人を遠ざけてください。
- 各部のカバーをすべて取付けてください。
- 座席に座り、駐車ブレーキをかけてください。
- 変速レバーを《中立》、脱こく・刈取クラッチは《切》にしてください。
- 屋内での始動は、窓や戸を開けて換気してください。

■ 正しい操作方法で
- 機械に運転者以外の人や物をのせないでください。
- エンジン回転中は、カバーの中へ手を入れたり、回転物に手・足・衣服を近づけたりしないでください。
- 発進及び旋回する時は、機械から人を遠ざけてください。
- 緊急停止が必要なときは、ブレーキペダルをすみやかに、いっぱい踏み込んでください。
- 刈取作業時以外（特に、あぜ越え時・移動走行時・運搬時・格納時）は『こく粒』はすべて排出、あるいは降ろしてください。
- 詰まりを取除く時は、各クラッチを《切》にし、エンジンを停止し、各部の動きが止まってから行なってください。

■ 転倒防止
- 発進、旋回操作、荒地での運転は低速で行なってください。
- 傾斜地及び急な坂道では旋回しないでください。

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください。
- 軟弱な路肩、草の生い茂っている所は転倒・転落の恐れがあるので走行しないでください。
- あぜを横切る時は、低速であぜに対して直角に走行してください。

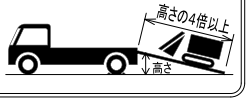
■ 停止する時は
- 平坦な場所で駐車ブレーキをロックし、刈取部を下げ、変速レバーを《中立》、脱こく・刈取クラッチは《切》にした後、エンジンを停止してください。
- 機械から離れるときは『始動キー』を抜いてください。また、止むを得ず坂道で駐車するときは車止めをして暴走を防いでください。

■ 清掃・点検・整備・燃料補給
- エンジン停止後、各部の動きが止まってから行なってください。
- 火災防止のためエンジン、マフラ、燃料タンク、バッテリ周囲のワラクズ等を掃除してください。
- 刈取部が不意に下降してはさまれる危険があるので、刈取部を上げて点検・調整するときは油圧固定スイッチを《油圧固定》位置にしフックを掛けてください。
- 火災の危険があるので燃料補給時は必ずエンジンを停止してください。
- 燃料補給時はタバコなど一切の火気は厳禁です。
- こぼれたディーゼル軽油は必ずふき取ってください。

35868525102

⚠ 警 告

■ 自動車への積込み・積降ろしをする時は
- 平坦な場所を選んで、補助者の立会誘導のもとに行なってください、また、機械の周囲に人を近づけないでください。
- 積込む前にグレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。
- アユミは機械の重量に耐えられる強度で、長さは自動車荷台高さの4倍以上のものを使用してください。
- アユミの上では進路変更、変速操作を行なわないでください、旋回（左右）操作をすると転倒する危険があります。左右のクローラをアユミの中央にまっすぐにセットしてください。
- 車への積込みやあぜ越えは前進で、車から降ろすときは後進で、低速で移動してください。
- 自動車への積込み・積降ろしは、主変速《低速》、副変速を《車両積降ろし》の位置で操作します。
- 自動車への積込みは、マルチステアリングレバーを《上げ》に操作し、
- 刈取部を上げます。
- 積込みが終ったらマルチステアリングレバーを《下げ》にして刈取部を一杯下げます。



⑥

⚠ 注 意

●巻込まれてケガをするおそれがあります。
折りたたみ時、開口部に手を近づけないでください。

取扱のポイント 折りたたむ時は、排出オーガ内のこく粒をすべて排出してください。

35538556200

⑧

35448656000

⚠ 注 意 路上走行時および**カッター**作業時は閉じてください。

⑨

⚠ 注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

掃除口

35868537500

⑩

点検・掃除

⚠ 注 意

■点検掃除位置に切り替える時は各クラッチを切りエンジンを停止し、各部の作動が停止してから行ってください。

35968653000

⑪

09603200013

⚠ 警 告

●エンジンが熱い時はキャップを開けないでください。

⑫

35968521400

走行クラッチ

入

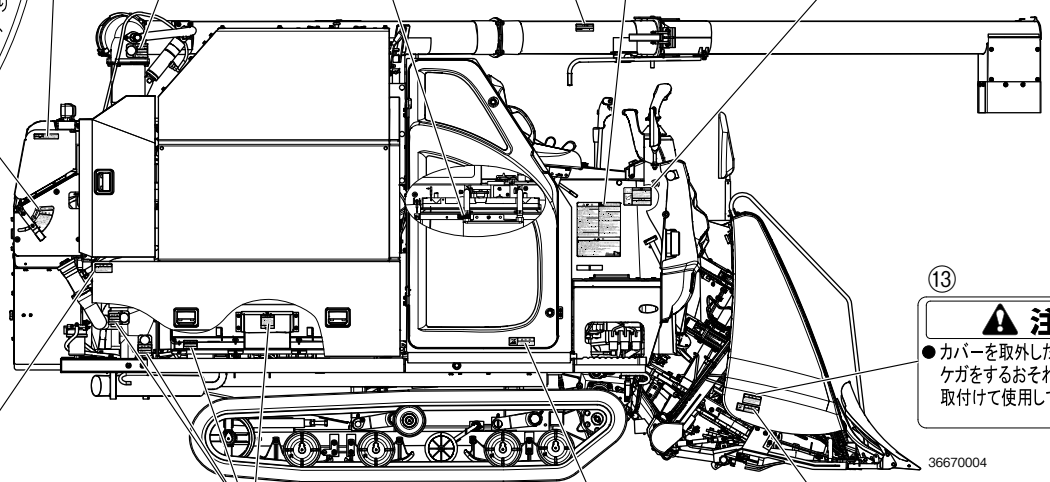
切 ブレーキ

⚠ 警 告

●マルチステアリングレバー又はジャストディレクタで旋回（左右）操作をする時は走行クラッチペダルに足を乗せないでください。
●ペダルに足を乗せていると旋回後も直進に戻らないことがあります。

⚠ 注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。



36670004

⑬

⚠ 注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

⑬

⚠ 注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

⑨

⚠ 注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

掃除口

35868537500

⑭

09603100027

⚠ 注 意

●やけどをするのでマフラー、フィンなどの高温部にふれないでください。

⑮

09603000019

⚠ 危 険

●刃部に手をかけないでください。
●着脱作業時は手袋をしてください。

⑯

⚠ 注 意

- 走行，あぜ越え，自動車への積込み，積降ろしの時は，グレンタンクを空にし，排出オーガは収納位置にしてください。
- 排出オーガを上げた状態での刈取作業，路上走行はしないでください。
- 傾斜地でエンジンを停止する時は，排出オーガを収納してください。
- 排出オーガの操作は、周囲を確認し、作動範囲内に頭や手を近づけないで行なってください。

■オーガ旋回自動の取扱い

- 排出位置を選択してオーガ旋回スイッチを押すと選んだ排出位置まで自動的に旋回します。
- 収納位置以外でオーガ旋回スイッチを押すと収納位置へ戻ります。

36598555100

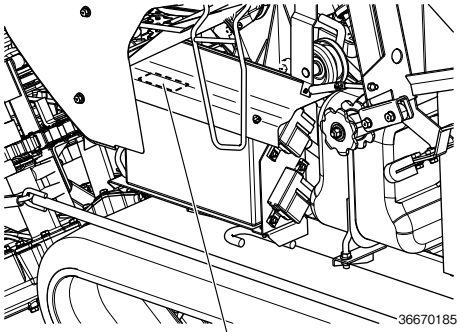
⑨

⚠ 注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

掃除口

35868537500



36670185

28



⑰

⚠ 警 告



●こぎ胴が回転しているときは、手・衣服等を近づけないでください。

09603200034

⑲

⚠ 注 意

●開閉する時はエンジンを停止してください。

09603100015

⑱

⚠ 注 意

35968525100

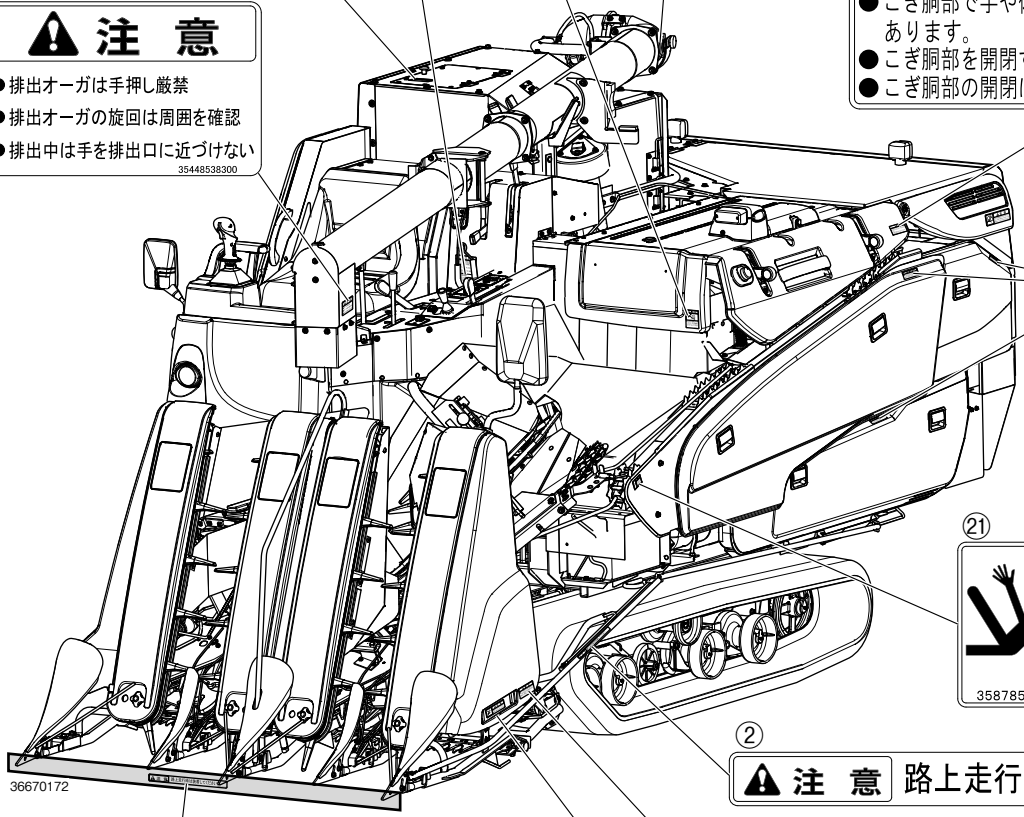
- こぎ胴部を開閉する時はエンジンを停止してください。
- こぎ胴部で手や体をはさまれて，ケガをするおそれがあります。
- こぎ胴部を開閉する時は人を近づけないでください。
- こぎ胴部の開閉はゆっくり行なってください。

⑳

⚠ 注 意

- 排出オーガは手押し厳禁
- 排出オーガの旋回は周囲を確認
- 排出中は手を排出口に近づけない

35448538300



36670172

⑬

⚠ 注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

㉑



35878524000

⚠ 警 告

- ワラ等の巻付き・詰まり除去のときは、エンジンを必ず止めてください。
- 手こぎ作業をする時は、手・衣服を供給口に入れたり、フィードチェンに触れたりしないでください。

②

⚠ 注 意 路上走行時は収納してください。

09603100024

⑬

⚠ 注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

㉒

⚠ 注 意 路上走行時は装着してください。

09603100023

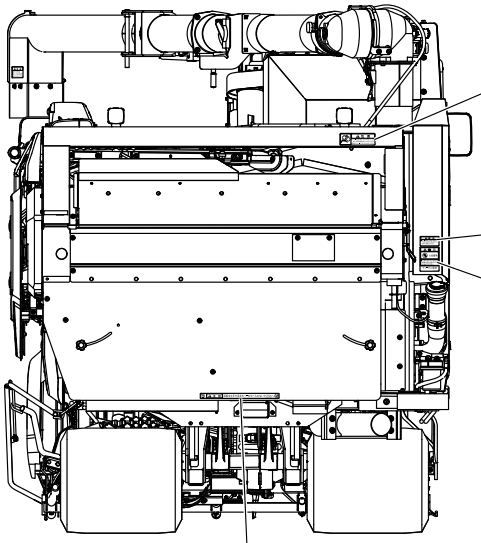
⑮



09603000019

⚠ 危 険

●刃部に手をかけないでください。
●着脱作業時は手袋をしてください。



36670002

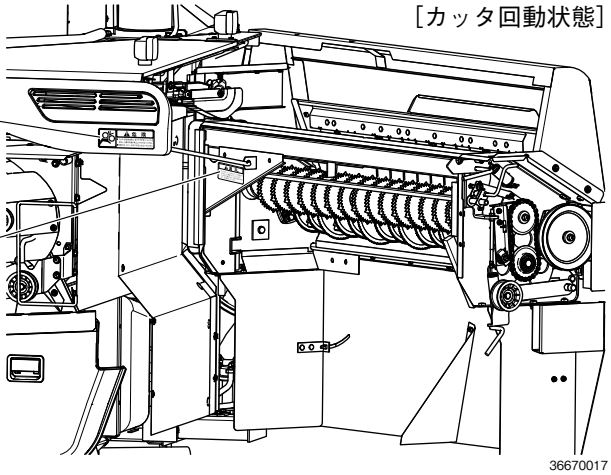
⑬
注 意
●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。
09603100017

⑭
危 険
● カッター部点検の際は，各クラッチを切り、エンジンを停止し、各部の作動が停止してから行なってください。
●回転中は，カバーの中に手を入れないでください。
35518658000

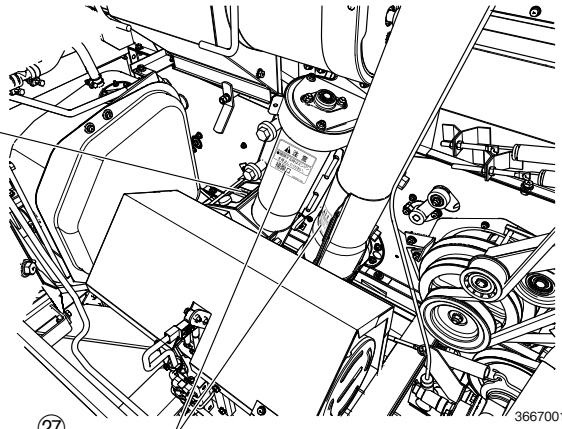
⑮
警 告
火気厳禁
●火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを止めてください。
ディーゼル軽油
35878542000

⑯
注 意
回転中は手や足をカバーの中へ入れないでください。
09603100020

［カッタ回動状態］

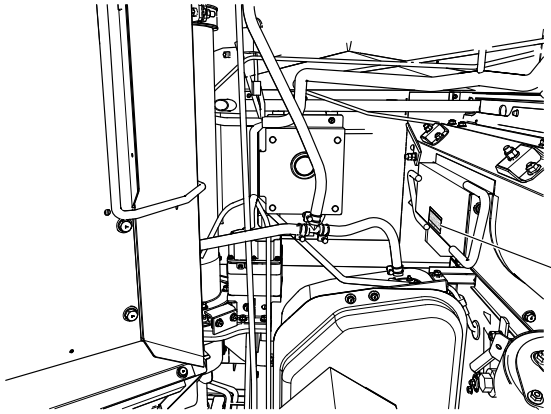


36670017



36670016

［グレンタンク回動状態］



36670069

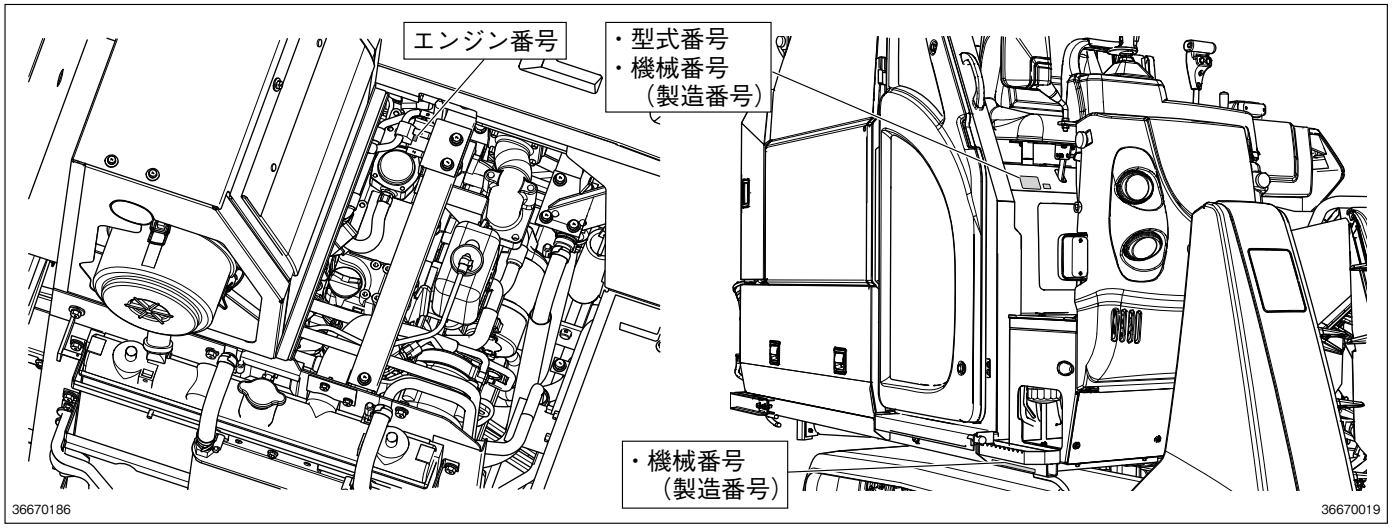
［グレンタンク回動状態］

No.	部　品　名　称	部　品　番　号	備　　考
①	LABEL, CAUTION DPF	3666　8538　100	
②	チュウイラベル・シュウノウ	0960　3100　024	
③	LABEL, CLUTCH	3669　8631　300	
④	ケイコクラベル・ハイキ	0960　3200　029	
⑤	ケイコクラベル・ストップ	0960　3200　052	
⑥	チュウイラベル	3553　8556　200	
⑦	ケイコクラベル・トリアツカイ	3586　8525　102	
⑧	チュウイマーク	3544　8656　000	
⑨	チュウイラベル	3586　8537　500	
⑩	チュウイラベル	3596　8653　000	
⑪	ケイコクラベル・ラジエータ	0960　3200　013	
⑫	トリアツカイマーク	3596　8521　400	
⑬	チュウイラベル・カバー	0960　3100　017	
⑭	LABEL C, MUFFLER	0960　3100　027	
⑮	キケンラベル・カリハ	0960　3000　019	
⑯	LABEL, CAUTION	3659　8555　100	
⑰	ケイコクラベル・コギドウ	0960　3200　034	
⑱	トリアツカイマーク	3596　8525　100	
⑲	チュウイラベル・カイヘイ	0960　3100　015	
⑳	チュウイマーク	3544　8538　300	
㉑	ケイコクラベル・チェン	3587　8524　000	
㉒	チュウイラベル・バンパ	0960　3100　023	
㉓	キケンラベル・カッター	3551　8658　000	
㉔	ケイコクラベル・ケイユ	3587　8542　000	
㉕	チュウイラベル・カッタカバー	0960　3100　020	
㉖	チュウイマーク	3572　8592　000	
㉗	チュウイラベル	3586　8527　100	
㉘	キケンラベル・バッテリ	0960　3000　017	

ご使用まえに

1．保証とサービスについて

・この機械には，保証書が添付されていますので，ご使用前によくお読みください。
・この機械のサービスについてのお問い合わせや，部品などのご用命のときは，「**お買いあげ先**」にご相談ください。その際「**型式名**」・「**機械番号（製造番号）**」と「**エンジン番号**」をお知らせください。



・補修用部品の供給年限について

・この製品（機械）の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後９年といたします。
但し，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
・補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期および価格についてご相談させていただきます。

・機械の使用目的について

・この機械は，**稲・麦の収穫作業**以外には使用しないでください。
・この機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は，保証の対象となりませんのでご注意ください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆機械を使用目的以外の作業に使用しないでください。
◆機械を改造しないでください。
◆使用目的以外の作業や改造すると，本来の機能を発揮できないばかりか，人身事故の原因になることがあります。

2. 仕様（装備）について

・主な仕様（装備）は，次のようになっています。
仕様の異なる型式の場合は，都度［○○**仕様**］表示で型式を示し追加説明していますので，お買いあげの機械の型式をお確かめのうえ，お間違えのないようにお読みください。

・お買いあげの機械の型式と主な仕様の違いを，次の表でお確かめください。

［4条型］

型式名	主な仕様と型式記号																									
	エンジン			走行部											操作部					刈取部						
	D1803 CR 35・1PS	コモンレールシステム	DPF	作業速度（1・02m／s）	HST+副2段	クローラ ハイラグ 420㎜	クローラ 皿型 460㎜	ブレーキ旋回	可動転輪	グリスアップ転輪	外部駐車ブレーキ	旋回性能向上（ブレーキ圧力制御）	マルチステアリング	ジャストディレクタ	DX座席シート	ナローガイド手元操作	排ワラ切替手元操作	負荷モニター	籾充填モニター	三段かき込み搬送	電動集中注油	強制かき込み	倒伏スイッチ	リフトシャット	刈高ポジコン	引起しカバー前止め
三菱V435 V435M	○	○	○	○	○	○		○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
V435LM	○	○	○	○	○	○		○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
V435LUM	○	○	○	○	○		○	○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

［3条型］

型式名	主な仕様と型式記号																									
	エンジン			走行部											操作部					刈取部						
	D1803 CR 35・1PS	コモンレールシステム	DPF	作業速度（1・22m／s）	HST+副2段	クローラ ハイラグ 400㎜	クローラ ハイラグ 420㎜	クローラ 皿型 460㎜	ブレーキ旋回	可動転輪	グリスアップ転輪	外部駐車ブレーキ	旋回性能向上（ブレーキ圧力制御）	マルチステアリング	ジャストディレクタ	DX座席シート	ナローガイド手元操作	排ワラ切替手元操作	負荷モニター	籾充填モニター	三段かき込み搬送	ワイドレンジピックアップ	電動集中注油	強制かき込み	倒伏スイッチ	リフトシャット	刈高ポジコン
三菱V335 V335M	○	○	○	○	○	○			○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
V335LM	○	○	○	○	○	○			○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
V335LYM	○	○	○	○	○		○		○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
V335LUM	○	○	○	○	○			○	○	○	○	OP	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

主な仕様と型式記号																															
脱こく部								収こく・排出部							カッター部	自動化機構							その他								
増速ツインこぎ胴	ダイヤメッシュ受け網	トリプルダイレクト排塵	送塵量自動調節	撥水揺動流板	ニューコンポアップ	ニューツインハーモニー	揺動スライドオープン	グレンサイドオープン	二段折れオーガ	グレンタンク800L	運転席有線リモコン	手動排出クラッチ	籾満杯予告シグナル	マルチカッタ　60／180㎜	新緊急停止スイッチ	エンジン回転制御	水平自動	こぎ深自動	選別自動MAC-S	オーガ自動　旋回・収納	左サイドミラー	オーガ排出時間短縮	オーガ排出回転警報	中分草カン	ものさしラベル	QRコードシール	キー付き燃料キャップ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

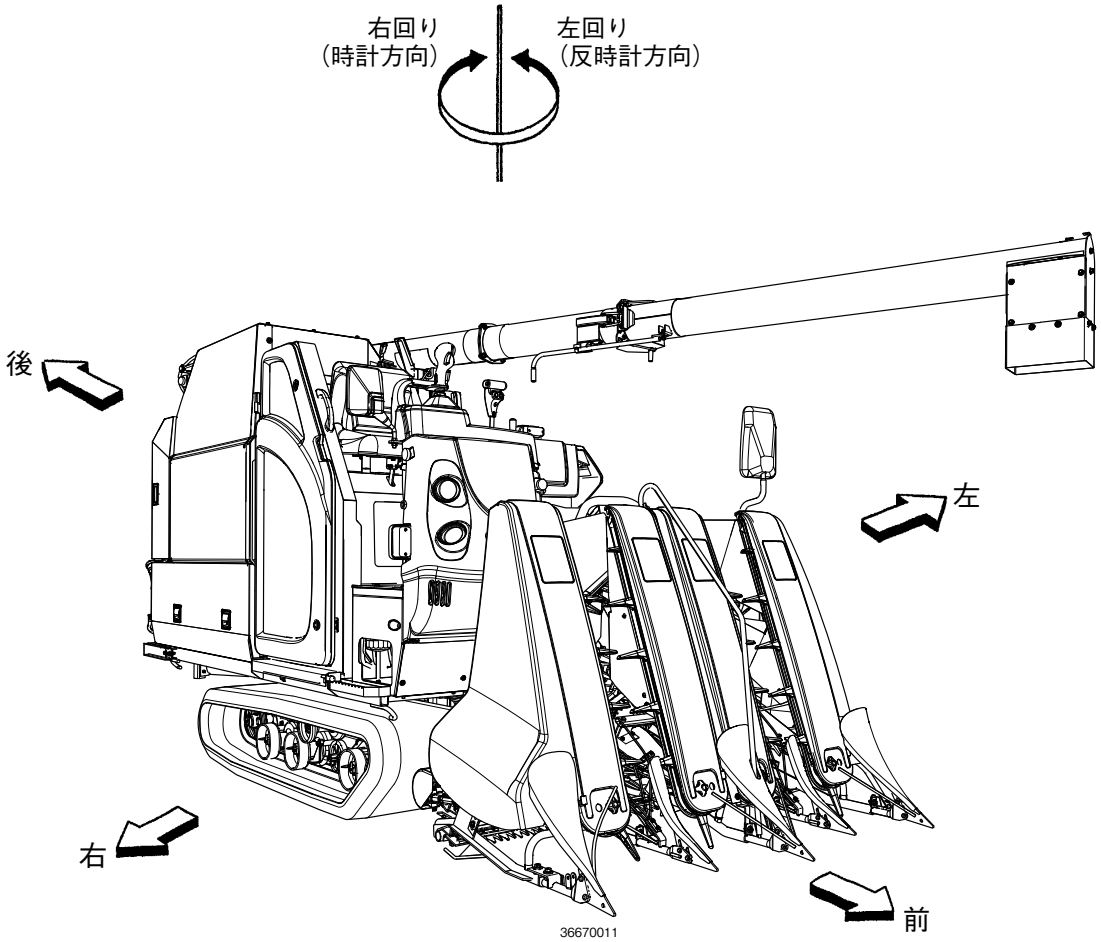
主な仕様と型式記号																																
	脱こく部								収こく・排出部							カッター部	自動化機構							その他									
引起しカバー前止め	増速ツインこぎ胴	ダイヤメッシュ受け網	トリプルダイレクト排塵	送塵量自動調節	撥水揺動流板（ミドリ）	ニューコンポアップ	ニューツインハーモニー	揺動スライドオープン	グレンサイドオープン	二段折れオーガ	グレンタンク800L	運転席有線リモコン	手動排出クラッチ	籾満杯予告シグナル	マルチカッタ　60／180㎜	新緊急停止スイッチ	エンジン回転制御	水平自動	こぎ深自動	選別自動MAC-S	オーガ自動　旋回・収納	左サイドミラー	オーガ排出時間短縮	オーガ排出回転警報	中分草カン	ものさしラベル	QRコードシール	キー付き燃料キャップ
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

M＝マルチカッタ（切断長60/180㎜）　Y＝ハイラグクローラ・420㎜　U＝皿型広幅クローラ・460㎜

L＝水平自動

3．用語について

⑴ この取扱説明書に使用している**「前後・左右・右回り・左回り」**などの用語は，図示のとおりです。



⑵ **形式別表示**

・この取扱説明書は，435型を基本に説明してあります。区分により仕様（装備）が異なる場合は，その都度［**L 仕様**］などで記載して追加説明しています。

型式名(仕様)	本文表示	
435型	**[435型]**	**［4条型］**
335型	**[335型]**	**［3条型］**

⑶ **マークの説明**

この取扱説明書ではその都度守っていただきたい事柄を次のマークを使用して説明しています。

・**⚠危険** **⚠警告** **⚠注意** ……安全上重要な事項を，３段階に分けて説明していますので，必ず読んでください。

・**取扱いのポイント** ……機械の機能・性能上に関する説明です。守らないと，故障の原因になることがあります。

4. 小型特殊自動車について

このコンバインは，道路運送車両法の**小型特殊自動車**に該当します。

1. 小型特殊自動車の届出

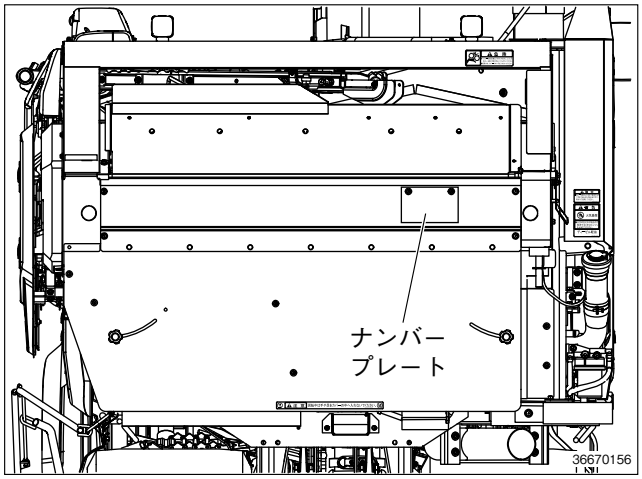
❶ 小型特殊自動車取得の届出とナンバープレートの取付け

新たにコンバインを購入された方または，所有者となられた方は，市（町・村）条例により，その取得を市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けなければなりません。

・手続きは，市（町・村）により多少異なりますので，詳しいことは**「市（町・村）役所」**または**「お買いあげ先」**に相談してください。

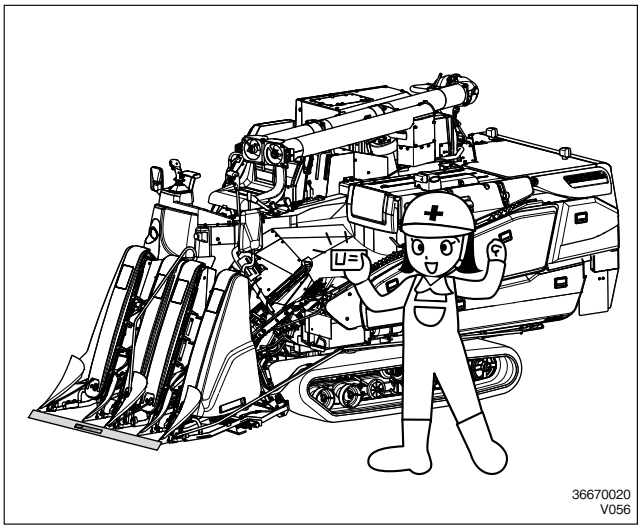
小型特殊自動車の取得証明書，または売渡・販売証明書など（**「お買いあげ先」**で準備します）を添えて，市（町・村）役所に届出し，ナンバープレートの交付を受けます。

ナンバープレートは，機械の指定された位置に取付けます。



2. 公道走行するために

❶ 公道を走行するときは，**「小型特殊自動車」**の運転免許が必要です。運転免許証を所持してください。



❷ **「小型特殊自動車」**の運転免許で運転できる自動車の基準。

車体の大きさ	全　長	4.7m以下
	全　幅	1.7m以下
	全　高	2.0m以下 （注１）
最 高 速 度		15㎞／時以下
原動機の総排気量		制限なし

（注１）但し，キャビンを除いた部分の高さが2.0m以下のものは2.8m以下。

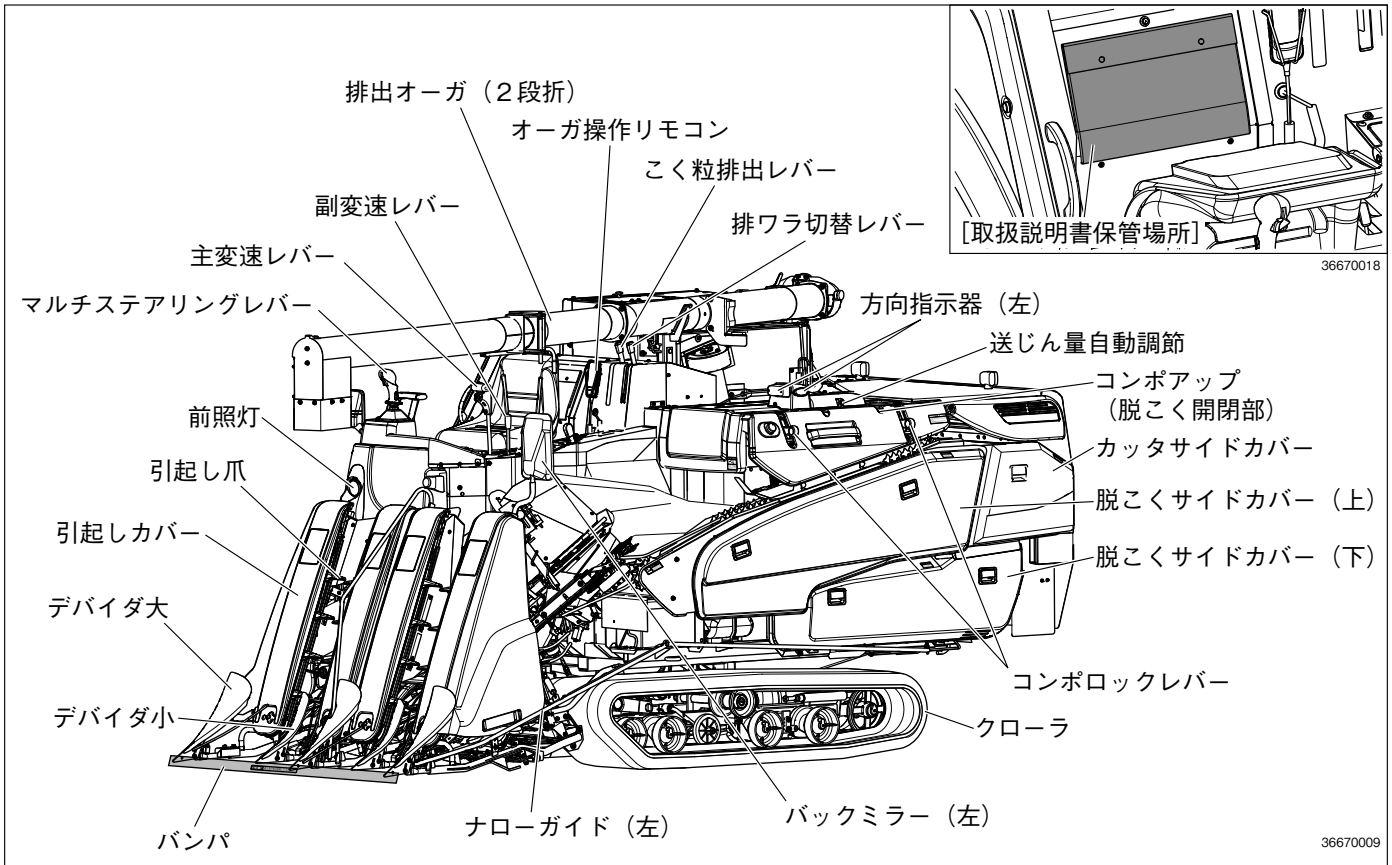
❸ 指定の作業機（カッタ）以外の作業機を取付けた状態では，公道走行はできません。

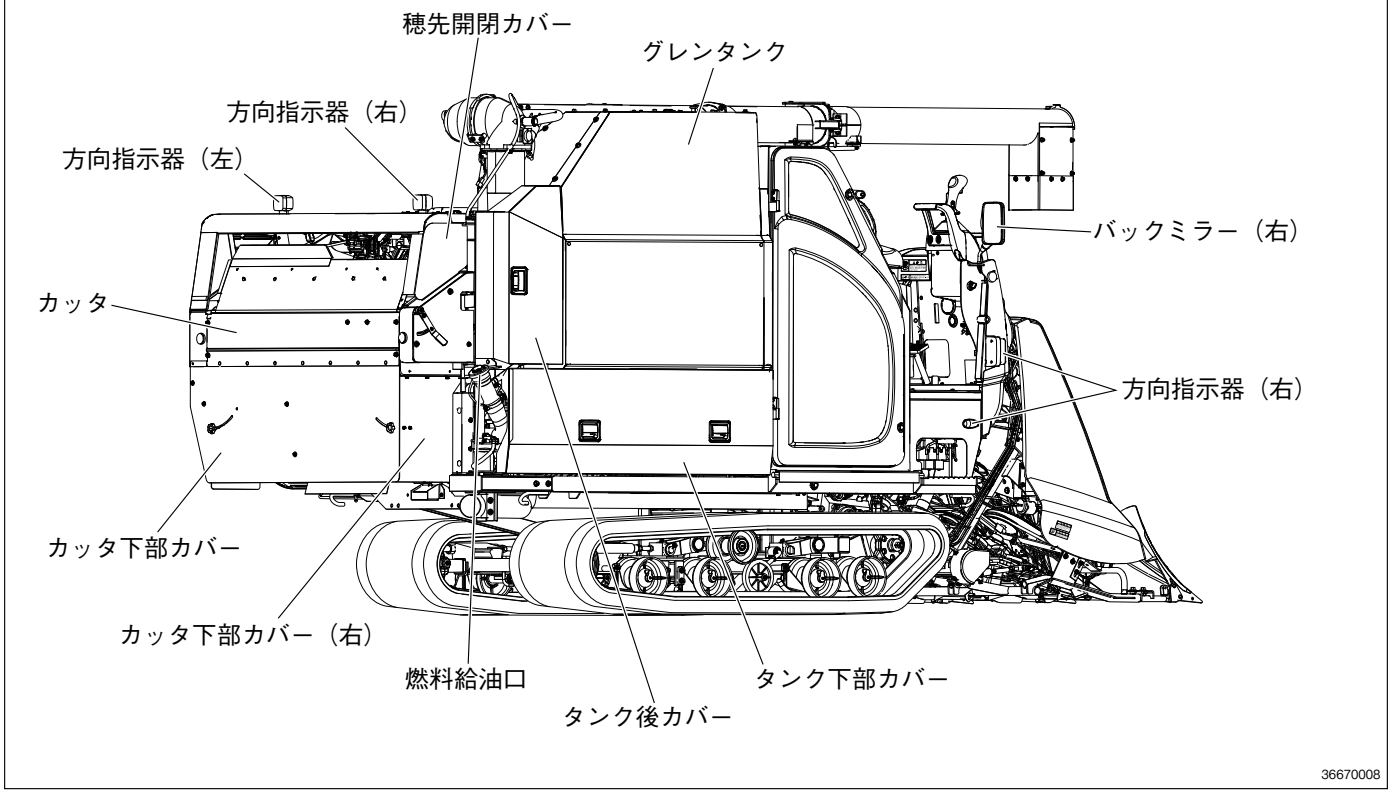
❹ 任意保険のお勧め

万一の交通事故に備え，任意保険に加入されるようお勧めします。

各部のはたらき

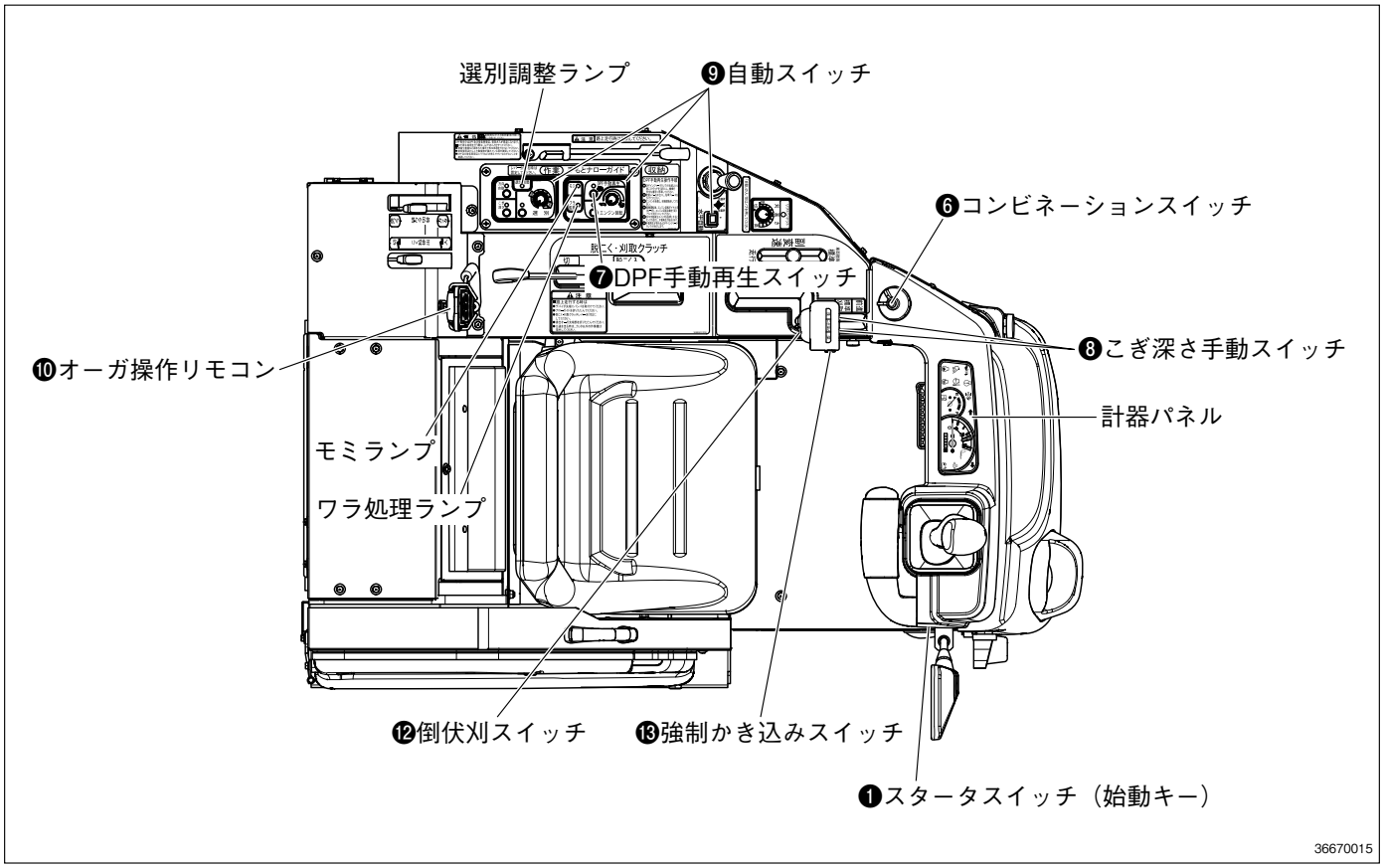
1．各部の名称

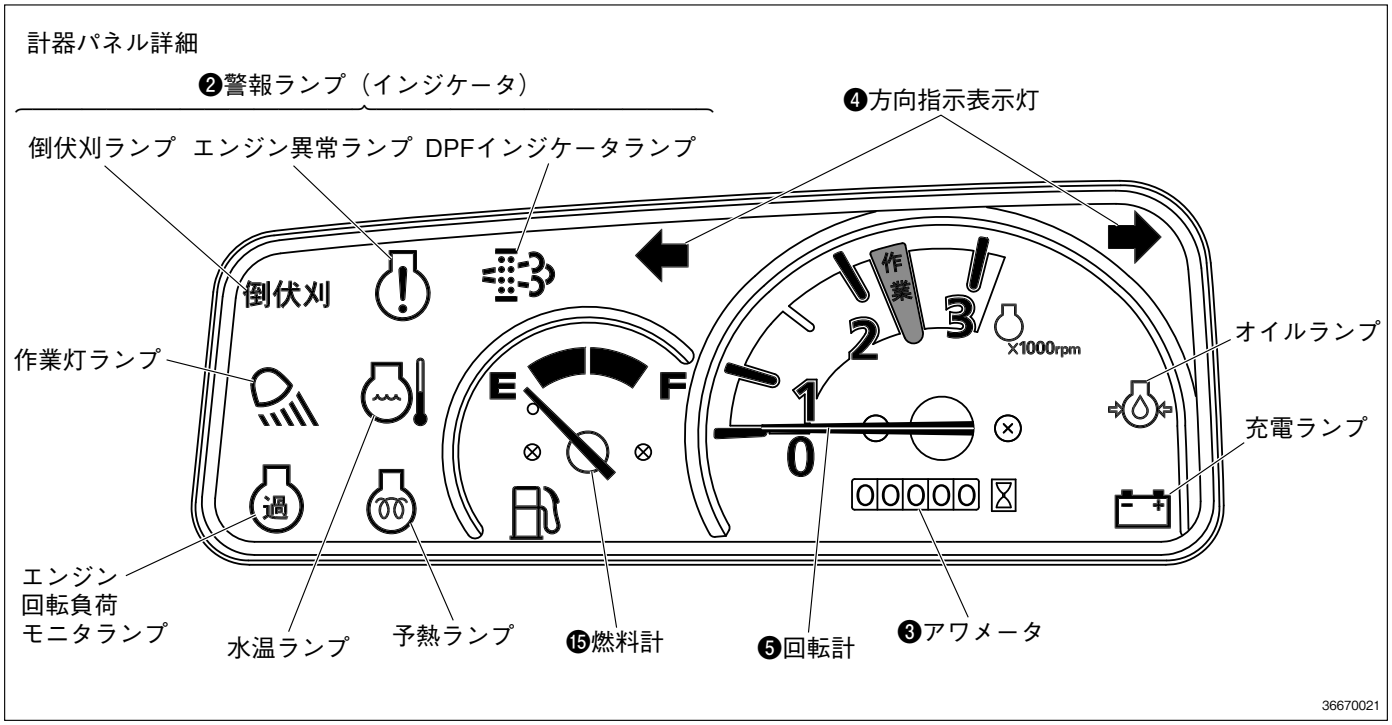




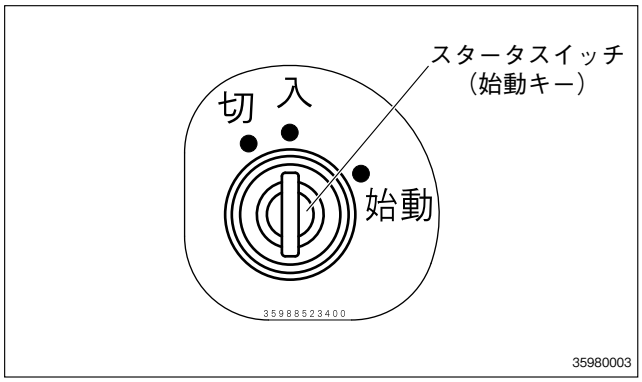
2．運転装置の取扱い

1．スイッチ・計器関係





❶ スタータスイッチ（始動キー）



《切》……電源切（エンジン停止）

スタータスイッチを**《切》**にするとエンジンが停止します。

《入》……電源入（運転中・予熱）

スタータスイッチを**《入》**にすると，メータ内の予熱ランプが点灯し，エンジンを予熱します。

約0.1秒～10秒（温度による）で予熱が完了すると消灯します。

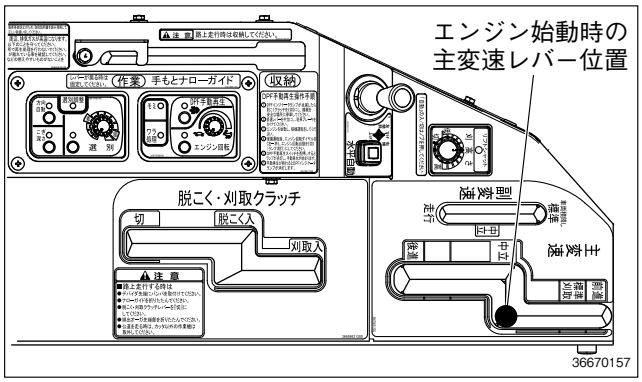
《始動》……エンジン始動

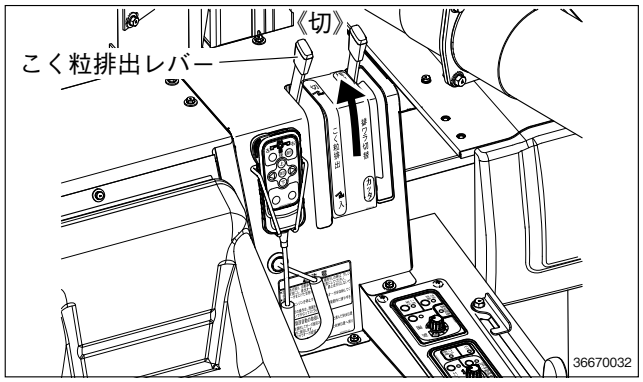
スタータスイッチを**《始動》**位置に回すと，エンジンが始動します。

手を放せば，自動的に**《入》**位置に戻ります。

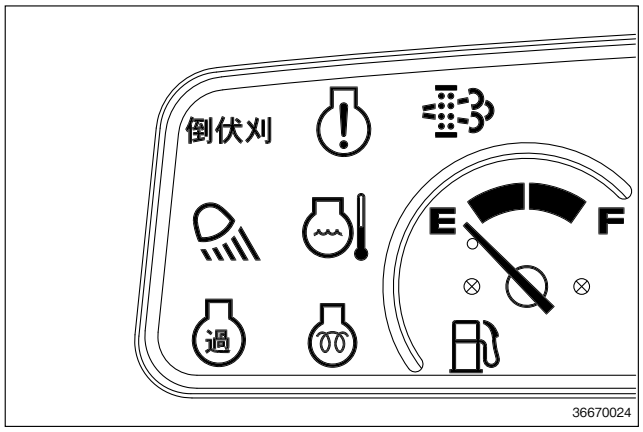
取扱いのポイント

●脱こく・刈取クラッチレバーおよびこく粒排出レバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとエンジンの始動はできません。（走行クラッチペダルを踏込むと主変速レバーは《中立》になります。）





❷ 警報ランプ（インジケータランプ）



⑴ 予熱ランプ



スタータスイッチを**《入》**位置にすると，計器パネル内の予熱ランプが点灯し，エンジンの予熱を示します。

予熱の時間は外気温より異なります。

⑵ 水温ランプ



エンジンの冷却水温度が異常に上昇（**オーバーヒート**）すると，**「点灯」**し，警報ブザーが鳴ります。

取扱いのポイント

●運転中に水温ランプが点灯し警報ブザーが鳴ったら直ちに作業を中止し，温度が下がるまでエンジンのみ「低速運転」してください。（警報ブザーは連続音から断続音になります）

●冷却水温度が下がり，ランプが消灯し警報ブザーが鳴り止んだら，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからエンジンカバー，ラジエータフィンなどのラジエータ吸気部のゴミの付着（96

ページ参照)・エンジンファンベルトの張り（142ページ参照)，エンジンオイル量，および冷却水（補助タンク）の水量などを点検してください。

⑶ エンジン回転負荷モニタ



エンジンの過負荷状態を知らせるランプです。刈取り作業中，過負荷運転でエンジン回転が下がるとモニタランプの点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。エンジン回転が下がり，モニタランプが点滅し警報ブザーの断続音が鳴ったら，主変速レバーで走行速度を下げます。

取扱いのポイント

●エンジン回転負荷の警報ブザーは，警報切ボタンを押しても鳴り止みません。走行速度を下げて，エンジン負荷を軽くするとブザーは鳴り止みます。

⑷ 倒伏刈ランプ



主変速グリップの倒伏刈スイッチを押して《**入**》にすると，倒伏刈ランプが点灯し，刈取部の速度が通常より速くなります。

刈取部または脱こくフィードチェン搬送部の前に詰まりが発生すると，倒伏刈ランプが点滅し，警報ブザーの断続音が鳴り，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

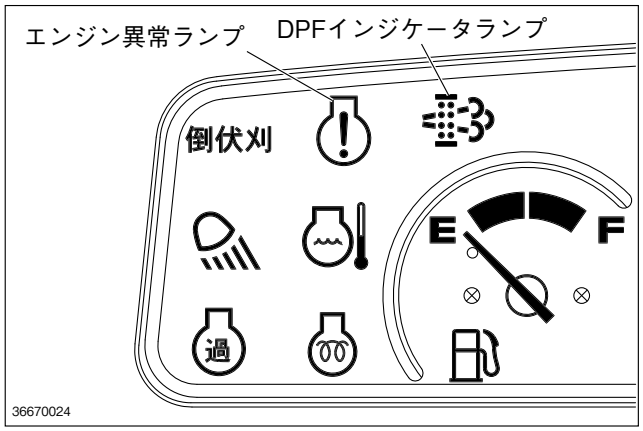
●通常の刈取で刈取部速度が最高速に達しているときは倒伏刈スイッチを《入》にしても，それ以上速くはなりません。

⑸ 作業灯ランプ



スタータスイッチを《**入**》位置にし，コンビネーションスイッチを２段回すと作業灯ランプが点灯し，作業灯が点灯します。

・路上走行時は，作業灯を消灯します。



⑹ エンジン異常ランプ



このランプは，２つの機能を持っています。もしランプが点灯した場合，原因がどちらにあるか調べ，適切な処置を行なってください。

[エンジン・コントロールシステムの異常]

運転中，水温ランプは消灯しているが，エンジン異常ランプが点灯した場合，いったんエンジンを止め，再始動を行なってください。エンジン異常ランプが消灯しない場合，直ちに「**お買いあげ先**」にて点検を受けてください。

取扱いのポイント

エンジン異常ランプが点灯時，エンジンの故障箇所により下記現象が現れます。

●エンジンが突然止まった。
●エンジンが再始動できない。または始動してもすぐ止まる。
●エンジン出力が充分でない。
●エンジン出力は充分あるがエンジン異常ランプが点灯する。
●エンジン出力が充分でない場合，直ちに作業を中断し，安全な場所にコンバインを移動し，エンジンを止めてください。

[エンジンのオーバーヒート]

水温ランプが点灯し，エンジン異常ランプが点灯した場合，エンジンのオーバーヒートが予測されます。

「不調時の処置」のエンジン部項を参照し，コンバインを点検してください。

⑺ DPF（ディーゼル・パティキュレート・フィルタ）インジケータランプ



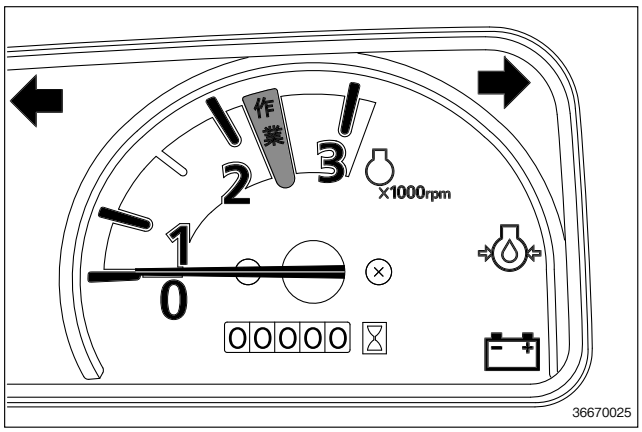
このランプは２つの機能を持っています。

［手動再生要求］

DPF内に一定量のＰＭ（ススなど粒子状物質）が堆積しDPFの手動再生処理が必要なとき，ランプが点滅します。ランプが点滅した場合は，手動再生処理を行って堆積したＰＭを除去してください。（再生手順の詳細は12～13ページ参照）

［再生処理中表示］

自動再生処理および手動再生処理を開始すると点灯し，自動再生処理または手動再生の手順が終了すると消灯します。



⑻ オイルランプ



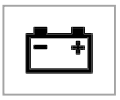
エンジン運転中，エンジンの潤滑系統に異常があれば「**点灯**」します。

正常なときは，スタータスイッチを《**入**》位置にすると１回点灯し，直ぐに消灯します。

取扱いのポイント

- **運転中に点灯したときは，直ちにエンジンを停止しエンジンオイル量を点検してください。（84～86ページ参照）**
  オイル量が適量であれば，ほかに異常があります。「お買いあげ先」にて点検を受けてください。

⑼ 充電ランプ



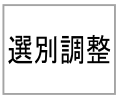
エンジン運転中，充電系統に異常があると点灯します。

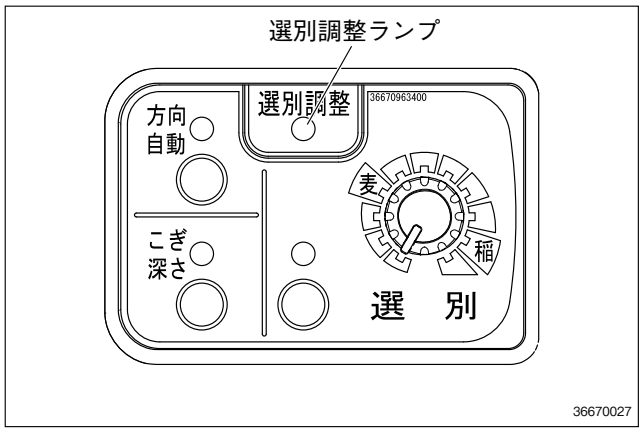
正常なときは，スタータスイッチを《**入**》位置にすると「**点灯**」し，エンジンが始動すると消灯します。

取扱いのポイント

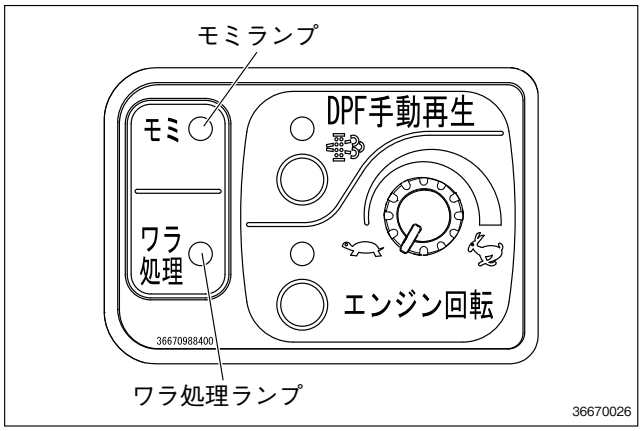
- **エンジンの運転中に連続点灯するときは，エンジンを停止し，エンジンファンベルトの張りを点検し，調整してください。（142ページ）**
- **エンジンファンベルトが正常であれば，ほかに異常があります。「お買いあげ先」にて点検を受けてください。**

⑽ 選別調整ランプ





選別部が過負荷のときに点滅します。作業速度を下げるか，選別ダイヤルを「**開**」側に回します。



⑾ モミランプ

モミ

刈取り作業中グレンタンク内にこく粒が充満した状態を警報するランプで，満杯時に点灯と警報ブザーの断続音で知らせます。そのまま作業を続けると，グレンタンク上側からこく粒がオーバーフローしてランプが点滅し，警報ブザーが鳴りエンジンが停止します。

取扱いのポイント

- **警報ブザーが鳴ったら，刈取り作業を中止しグレンタンク内のこく粒を排出してください。**
- **警報ブザーはコンビネーションスイッチのホーン・警報切ボタンを押すと鳴りやみます。**
- **グレンタンクからこく粒がオーバーフローし，エンジンが停止した場合は，主変速レバーを《中立》位置にし，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，エンジンを再始動できます。その後，こく粒排出場所まで移動し，グレンタンク内のこく粒を排出してください。**

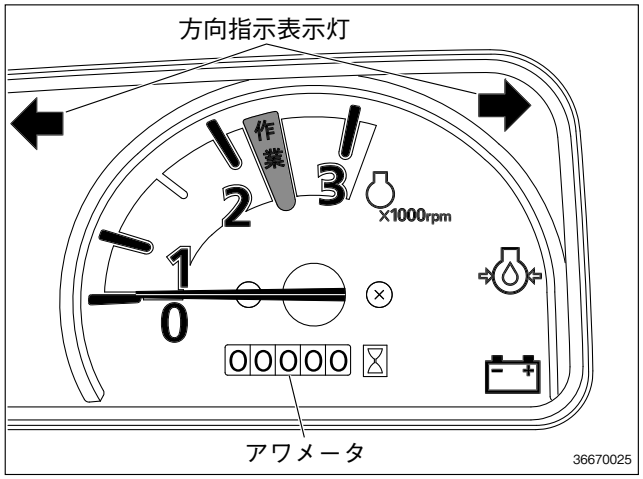
⑿ ワラ処理ランプ

ワラ処理

フィードチェン終端部または排ワラチェン終端部に詰まり発生や排ワラ切替カバーが後方に開いていると，ワラ処理ランプが点灯し，警報ブザーが鳴り，エンジンが停止します。

取扱いのポイント

- **エンジンが停止したらスタータスイッチを《切》位置にし，詰まりを取除いてください。また，排ワラ切替カバーをカッタ・排ワラ作業状態にしてください。**
- **脱こく・刈取クラッチレバーおよびこく粒排出レバーを《切》位置にして走行クラッチペダルを踏込むとエンジンの再始動ができます。**



❸ アワメータ

OOOOO

エンジン稼動時間の積算時間を表示します。

取扱いのポイント

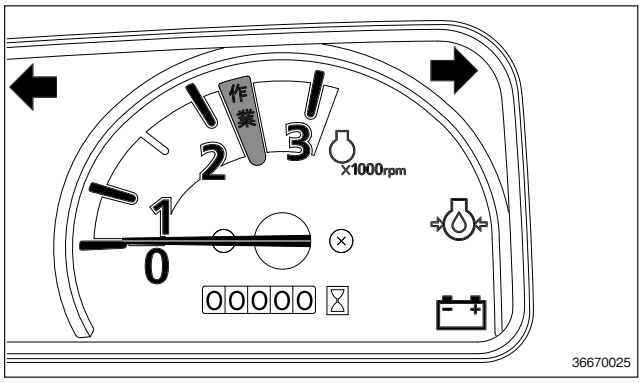
- **定期点検整備はアワメータ表示時間を基準に行ってください。**

❹ 方向指示表示灯

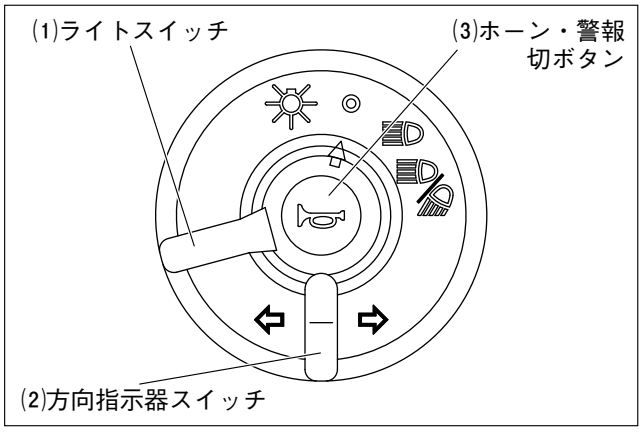
方向指示器スイッチを操作すると点滅します。グレンタンクにこく粒が約60%以上に充填したときに点滅します。

❺ 回転計

エンジンの１分間の回転数を表示します。



❻ コンビネーションスイッチ



(1) ライトスイッチ

《 ◎ 》……消灯

《 ≣D 》……回転計の照明・前照灯が点灯します。

《 ≣D 》……回転計の照明が点灯し，前照灯および作業灯が点灯します。

(2) 方向指示器スイッチ

方向指示器（左），（右）を点滅させます。

・右折，左折のときに使用します。

(3) ホーン・警報切ボタン

・スタータスイッチを《**入**》の位置にして，ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。走行するときの警報，作業時の合図に使用します。

・モミセンサ(満杯)で，警報ブザーが鳴ったとき，このボタンを押すと警報ブザーが鳴り止みます。またDPFインジケータランプがゆっくり（１秒間に１回）点滅し，警報ブザーが間欠的に鳴ったときもこのボタンを押すと警報ブザーが鳴り止みます。

取扱いのポイント

●つぎの場合は，警報切ボタンを押しても鳴り止みません。下記の方法で警報を解除してください。

●警報時の点検と処置については，64ページをご参照ください。

警報機能	解除方法
・水温ランプ点灯（オーバーヒート）	水温が下がるまでエンジンを「低速運転」する。
・ワラ処理ランプ点灯・点滅 ・倒伏刈ランプ点滅 ・モミランプ点滅	脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にしてスタータスイッチを《切》にする。
・エンジン回転負荷モニタ（ランプ）点滅	走行速度を下げる。
・DPFインジケータランプが早く（１秒間に２回）点滅	DPFの手動再生を行います。

❼ DPF（ディーゼル・パティキュレート・フィルタ）手動再生スイッチ

⚠警告 傷害事故防止のために

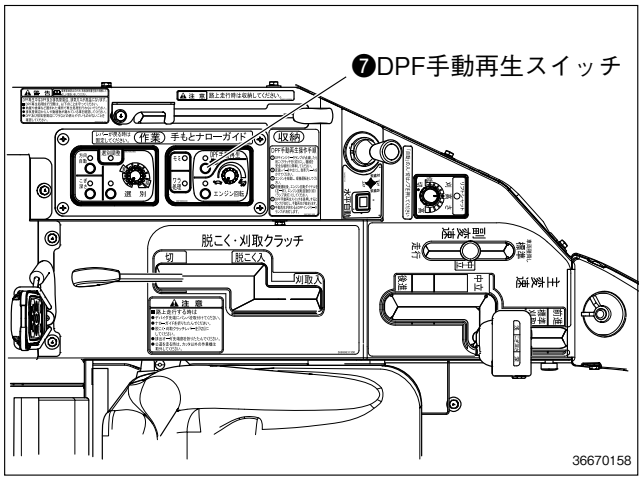
◆DPF再生中は，排気管やマフラなどが高温状態になり，火傷や火災が発生する原因になると共に排気ガスによる中毒になる恐れがあります。下記の事項を遵守してください。

●納屋や倉庫など換気の悪い場所では，再生処理を行なわないでください。

●再生処理を行なう前には，排気管やマフラおよび周辺部に，発火する原因となる燃えやすいゴミなどがあれば取除いてください。

- DPF再生中は，排気管やマフラおよび周辺部に人を近付けないでください。また，コンバインからは離れないでください。
- DPF再生中とその直後３分程度は，手こぎ作業をしないでください。再生処理の直後はまだ排気管やマフラが高温です。
- 一日の作業終了後は排気管やDPFおよびその周辺にワラなどの燃えやすいものが溜まっていないか点検し，溜まっていたら掃除して取除いてください。
- DPF再生中とその直後は排気管やマフラが高温になっています。シートをかけたり保管する場合は冷えてから行ってください。

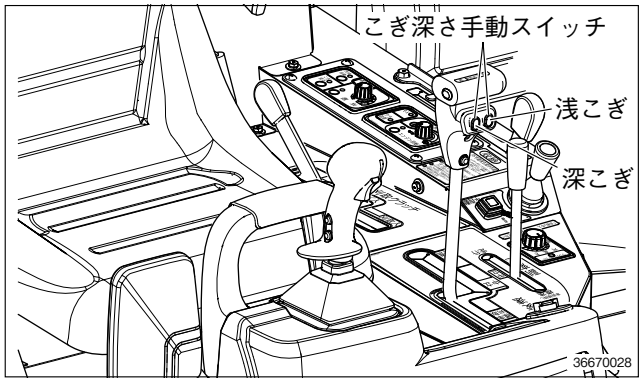
ＰＭ（ススなど粒子状物質）がDPF内に一定量堆積すると，DPFインジケータランプが点滅すると同時に警報ブザーが鳴ります。その際にＰＭを除去するため，手動再生処理を行なうスイッチです。



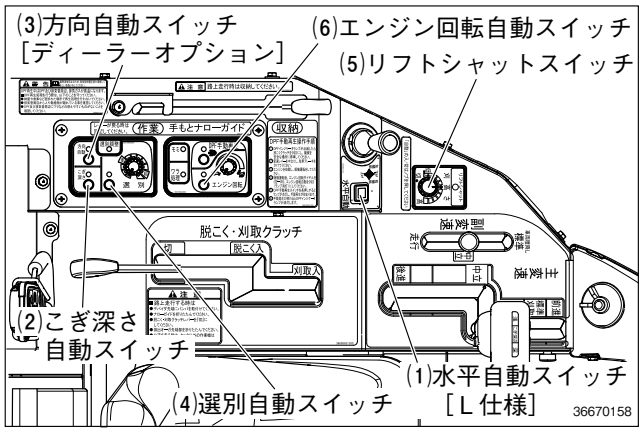
手動再生処理を行なうとき，手動再生条件にセットしてDPF手動再生スイッチを長押し（１秒以上）すると，DPFインジケータランプが点滅から点灯に切換わり手動再生処理が始まります。再生の手順が終わると，DPFインジケータランプは消灯します。（再生手順の詳細は31～33ページ参照）

❽ こぎ深さ手動スイッチ

作物の長さに合わせて，脱こく部へ供給される作物の穂の位置を調整するスイッチです。



❾ 自動スイッチ



(1) 水平自動スイッチ［Ｌ仕様］

水平自動を使用するときは，水平自動スイッチを押して，ランプ点灯で使用します。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。

水平自動スイッチを「**切**」（ランプ消灯）にしたら，水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。

(2) こぎ深さ自動スイッチ

スタータスイッチを《**入**》位置にすると，ランプが点灯し，こぎ深さ自動が「**入**」になります。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。

(3) 方向自動スイッチ［ディーラーオプション］

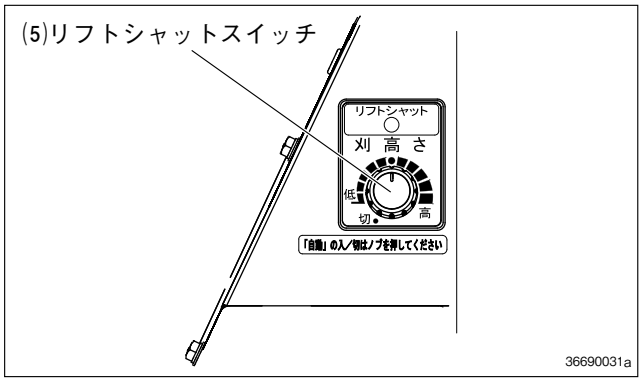
方向自動を使用するときは，方向自動スイッチを押して，ランプ点灯で使用します。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。

(4) 選別自動スイッチ

スタータスイッチを《**入**》位置にすると，ランプが点灯し，選別自動が「**入**」になります。点灯状態から再びスイッチを押すと，ランプが消灯し，自動は働きません。

⑸ リフトシャットスイッチ〈ダイヤル一体型〉

刈取部を上げると刈取搬送，脱こくフィードチェンが停止する機構がリフトシャットです。リフトシャットスイッチを《**入**》にするとランプが点灯します。



取扱いのポイント

- **あぜ際や枕地刈りのときは，リフトシャットを《切》にして行なってください。**
- **刈取り作業をする前に，リフトシャットの作動を確認してから，作業を始めてください。**

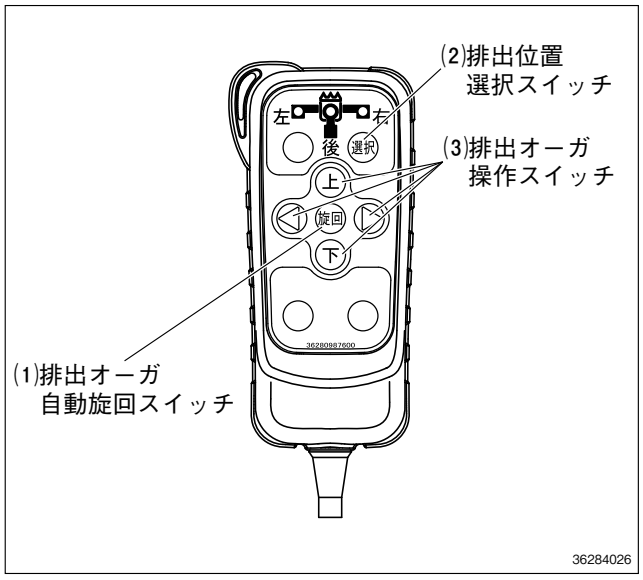
⑹ エンジン回転自動スイッチ

・エンジン回転自動を使用するときはスイッチを押してランプ点灯で使用します。
・ランプが点灯状態から，スイッチを押すか，ダイヤルを回すと，ランプが消灯し，自動が働きません。

⑩ オーガ操作リモコン

⚠警告 傷害事故防止のために

◆排出オーガを操作するときは，排出オーガ固定リングをフックから外して周囲の障害物と衝突しないように行ってください。
◆排出オーガを上げたままでの路上走行や，ほ場の移動はしないでください。上げたままで走行しますと，障害物との衝突により事故となることがあります。また，故障の原因にもなります。

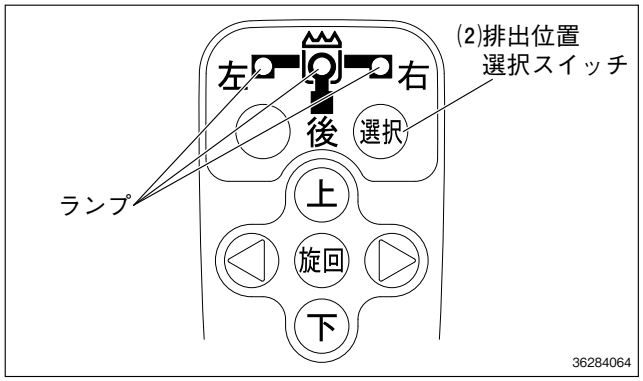


⑴ 排出オーガ自動旋回スイッチ

・排出オーガ収納位置で，排出オーガ自動旋回スイッチを押すと，排出オーガが排出位置まで，自動旋回します。
・排出オーガ収納位置以外で，排出オーガ自動旋回スイッチを押すと，排出オーガが収納位置へ戻ります。
・排出オーガ自動旋回中，または自動収納途中で旋回停止を行う場合は，再度，排出オーガ自動旋回スイッチを押すと停止します。（詳細は，75～76ページ参照）

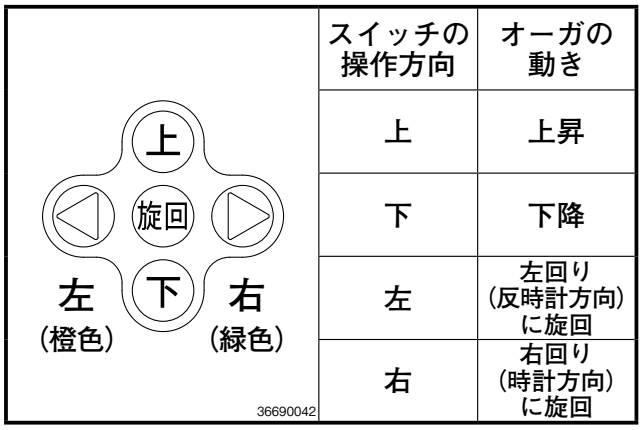
⑵ 排出位置選択スイッチ

・排出位置選択スイッチを押すと排出オーガが自動旋回し，停止する排出位置（「**後**」「**右**」「**左**」の３方向）の選択を行うスイッチです。
・排出位置選択スイッチを押すと
「**後**」→「**右**」→「**左**」→「**後**」→の順に切換り，ランプが点灯します。



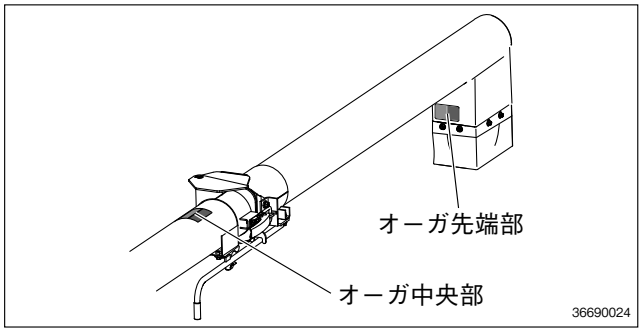
⑶ 排出オーガ操作スイッチ

・排出オーガの旋回および上昇・下降の操作を行うスイッチです。
・排出オーガを旋回するときは，排出オーガを上限まで上げてから行います。

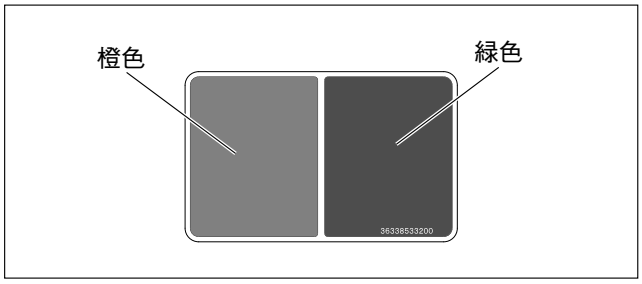


スイッチの操作方向	オーガの動き
上	上昇
下	下降
左	左回り(反時計方向)に旋回
右	右回り(時計方向)に旋回

オーガ操作方向識別ラベル貼付位置（２箇所）



オーガ操作方向識別ラベル

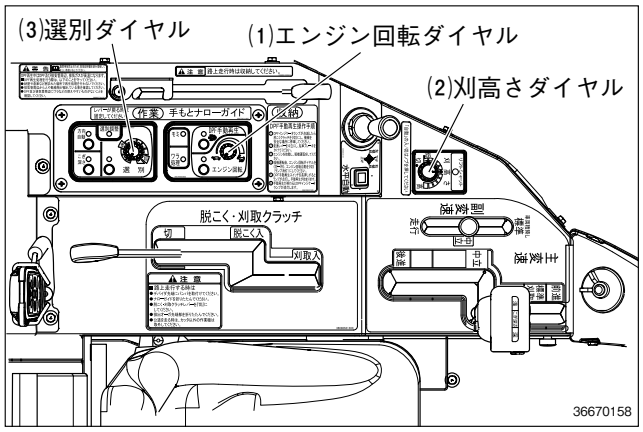


取扱いのポイント

- こく粒を排出する場合は，エンジン回転計の「作業の上限（黄色）」に合わせてください。回転が低いと詰まりの原因となります。
- 排出オーガを動かすときはフックから排出オーガ固定リングを外してください。
- 水平位置より下げた状態で排出オーガを旋回しないでください。

⓫ 自動調整ダイヤル

各自動制御の調整ダイヤルが，装備されています。



⑴ **エンジン回転ダイヤル**

・エンジン回転をコントロールするダイヤルです。ダイヤルを右に回すと回転数が上がります。
・エンジン回転自動を使用するときは，エンジン回転自動スイッチを押してランプ点灯で使用します。
・ランプが点灯状態からスイッチを押すか，ダイヤルを回したときは，ランプが消灯し，自動は働きません。

⑵ **刈高さダイヤル（スイッチ一体型）**

刈高さポジションコントロールを使用するときは，ダイヤルを回して《**切**》位置以外で使用します。
・刈高さの調節は，刈高さダイヤルの操作によって，希望する「**刈高さ位置**」を設定することができます。
・刈高さダイヤルは，通常《**標準**》位置（●印位置）で使用します。

取扱いのポイント

- 刈高さポジションコントロールを使用しないときは，ダイヤルを《切》位置で使用します。
- ほ場の凹凸が多い場合には，マルチステアリングレバーで手動操作してください。
- 刈高さダイヤルをどの位置にセットしても，刈高さポジションコントロールが設定できないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検・配線接続部の外れなどがないか確認してください。

⑶ 選別ダイヤル

刈取る作物に合わせて，選別ダイヤルをいずれかの位置にセットします。

《麦》－通常のムギ刈り作業は，この位置で行います。

《稲》－通常のイネ刈り作業は，この位置で行います。

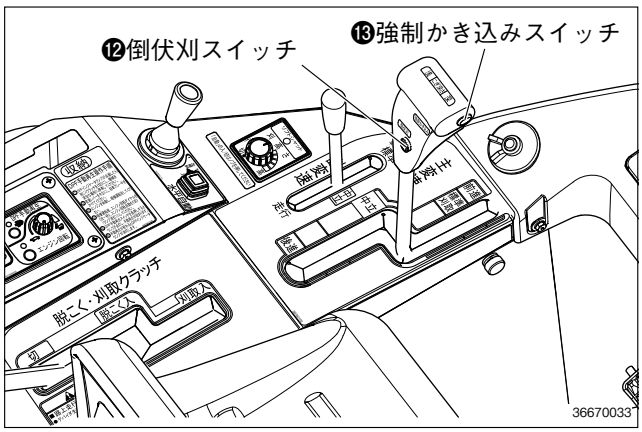
取扱いのポイント

- **選別自動スイッチ「入」(ランプ点灯）状態で作業すると，刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。**
- **選別自動スイッチ「切」(ランプ消灯）状態で作業するときも，選別ダイヤルを作物に合わせてセットしてください。**
- **選別自動スイッチは「切」(ランプ消灯）の状態でも作業に支障はありませんが，良好な選別状態を得られない場合があります。**
- **スタータスイッチを《入》にして，選別自動スイッチのランプが点灯しないときは，作業を中止しエンジンを停止して，ヒューズの点検・配線の接続部の外れがないか点検してください。**

❽，❾，❿，⓫，⓬の詳細は，自動装置についての項（68～75ページ）を参照してください。

⓬ 倒伏刈スイッチ

倒伏刈取作業などで，刈取部の速度を通常より速くしたいときは，倒伏刈スイッチを押してください。計器パネルの倒伏刈ランプが点灯します。

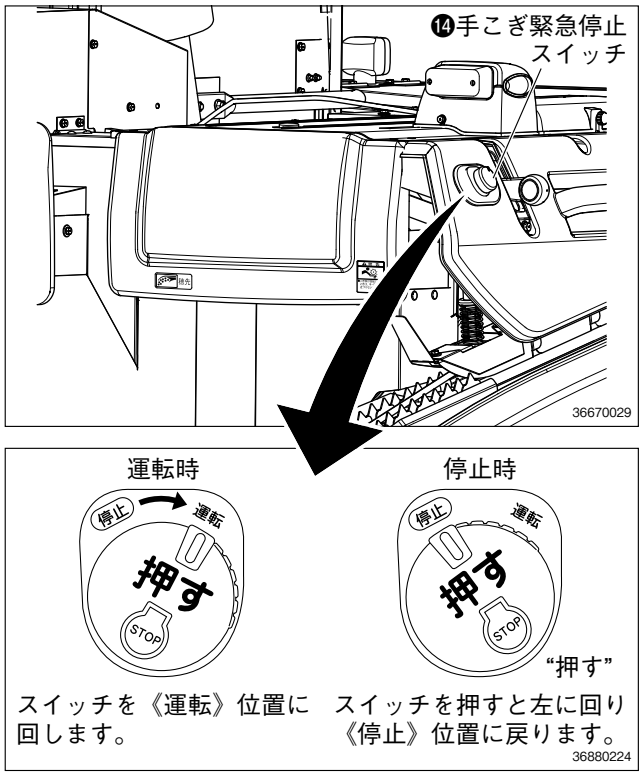


⓭ 強制かき込みスイッチ

脱こく・刈取クラッチレバーが《**刈取 入**》位置のとき，走行停止状態，リフトシャット作動時または後進時に刈取搬送および脱こくフィードチェンを作動させたいときは，強制かき込みスイッチを押してください。押しているあいだ作動します。

⓮ 手こぎ緊急停止スイッチ

手こぎ作業時などのトラブル発生時に，このスイッチを押すと，エンジンが停止します。



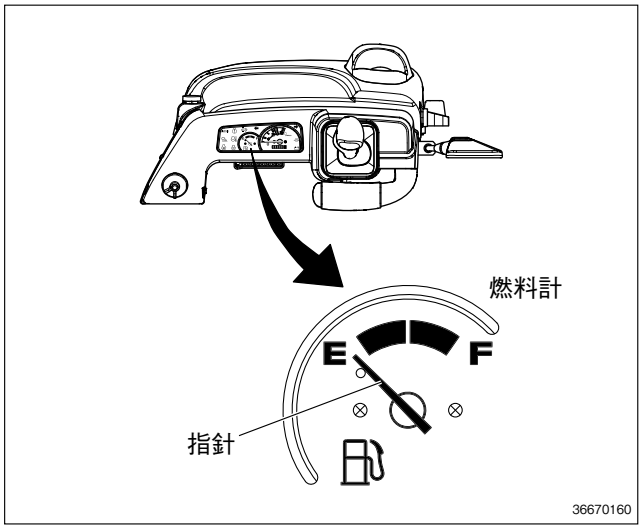
・運転前に手こぎ緊急停止スイッチを《**運転**》位置にします。

取扱いのポイント

- **手こぎ緊急停止スイッチは，脱こく・刈取クラッチレバーが《脱こく 入》または《刈取 入》位置のときに作動します。**

⓯ 燃料計

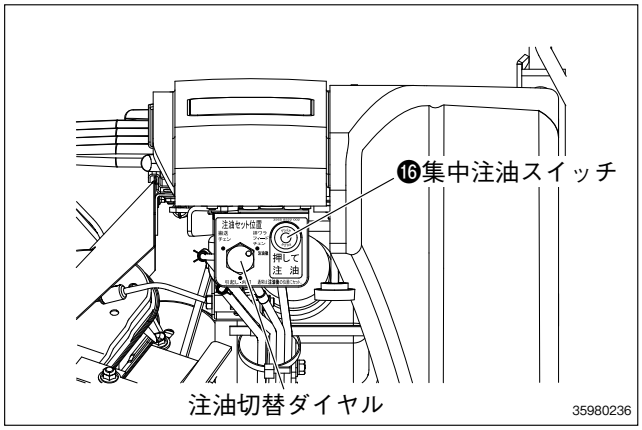
燃料の残量を指針の位置で示します。《F》が満量（31L）を示し，指針が《E》に近づくにつれて燃料が減っていくことを表示します。



取扱いのポイント

- **指針が《E》近くになったら早めに燃料を補給してください。**

⓰ 集中注油スイッチ（注油切替ダイヤル）



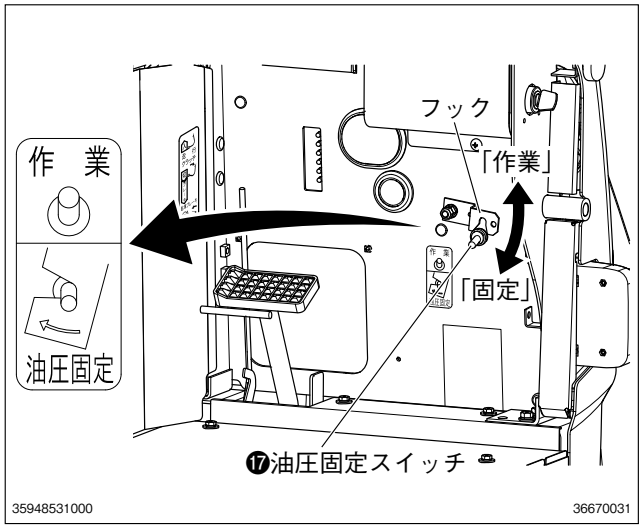
・集中注油スイッチを押している間だけモータが作動し，刈刃やチェン類に注油します。
・注油切替ダイヤルを回し，注油箇所（搬送チェン・排ワラフィードチェン・注油後・引起し・刈刃）の切替えを行います。
（詳細は95ページ参照）

⓱ 油圧固定スイッチ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆刈取部を上げて，その下で整備などするときは，エンジンを停止し，油圧固定スイッチを《油圧固定》の位置にし，フックをかけてください。さらに刈取部が下がらないように刈取部の下に固定脚などをおいて作業してください。
◆油圧固定スイッチを操作するときは，刈取部付近に人がいないことを確認してください。

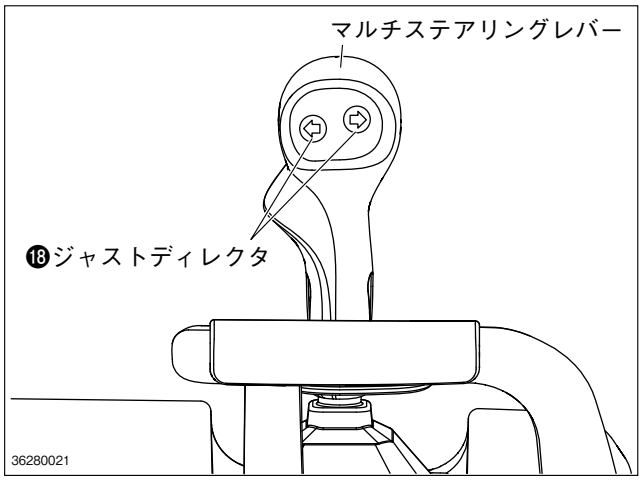
刈取部の「**上げ**」・「**下げ**」を固定します。
・《**油圧固定**》位置にすると，マルチステアリングレバーを操作しても作動しません。《**油圧固定**》位置にしたときはフックかけてください。路上を走行するときは，《**油圧固定**》位置で使用します。
・作業時には，油圧固定スイッチを《**作業**》の位置で使用します。



⑱ ジャストディレクタ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆自動車などへの積込み・積降ろしのときは，アユミの上でジャストディレクタを操作しないでください。操作をすると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。

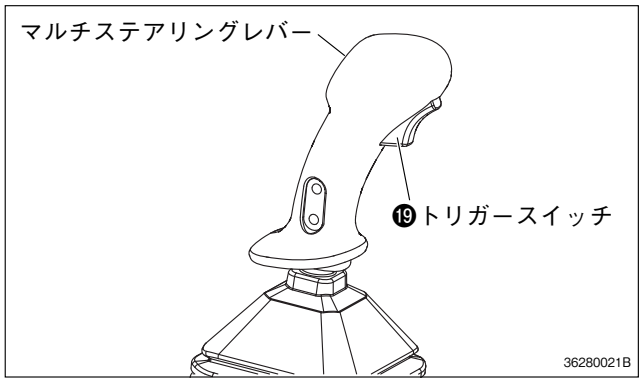


・ジャストディレクタ《⇨》を押すと右方向に，《⇦》を押すと左方向に機械の進行方向を修正します。
・刈始めの条合わせや，刈取り中の微調整に使用します。

取扱いのポイント

●ジャストディレクタと，マルチステアリングレバーとの併用はできません。マルチステアリングレバー操作が優先します。
●ジャストディレクタは旋回力が小さいので旋回には使用できません。

⑲ トリガースイッチ



⑴ **半自動後進上昇機能［L 仕様］**

湿田刈取などのとき車高上昇操作を容易にする機能です。

水平自動が作動している状態で機体後進時，トリガースイッチを握りながらマルチステアリングレバーを上げ操作し続けます。まず刈取部がいっぱいまで上昇した後，機体が上がります。（自動制御は一時停止）トリガースイッチを離すか，刈取部を下げると，元の車高に復帰してから自動制御が再び作動します。

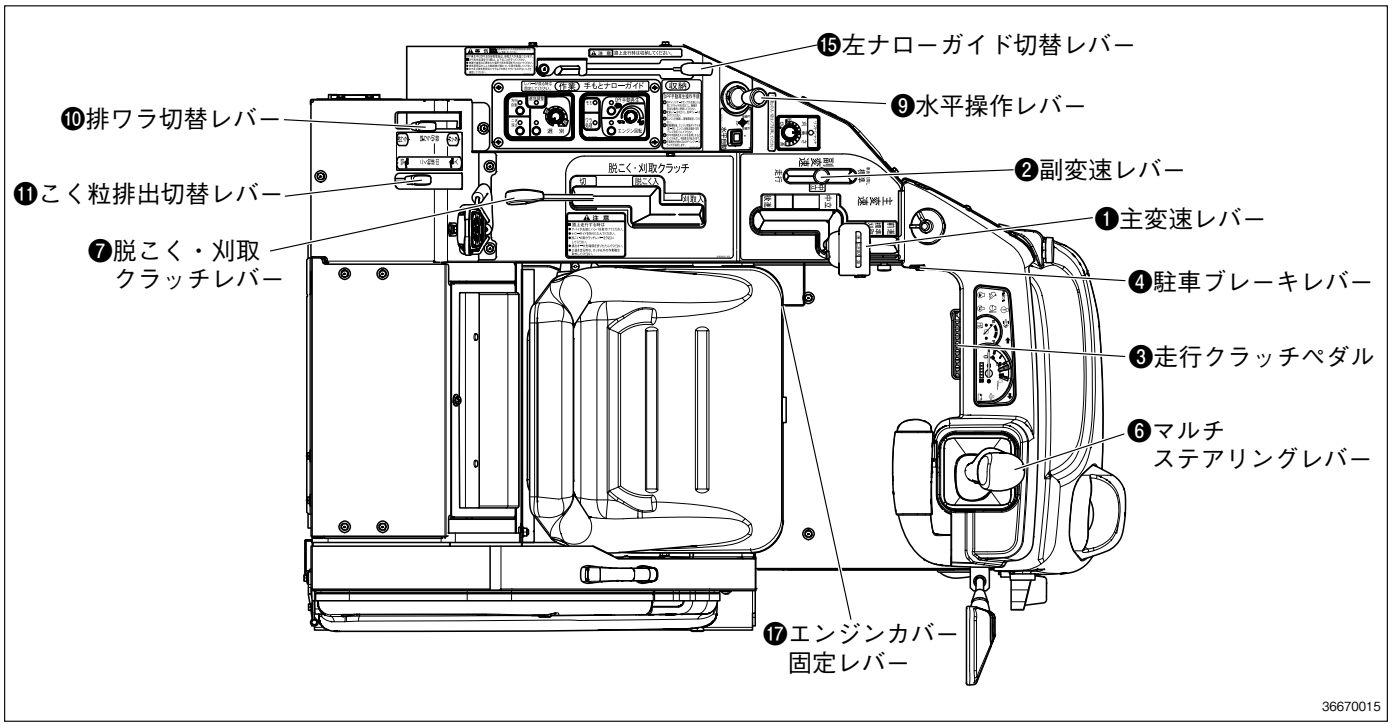
⑵ **刈高解除機能**

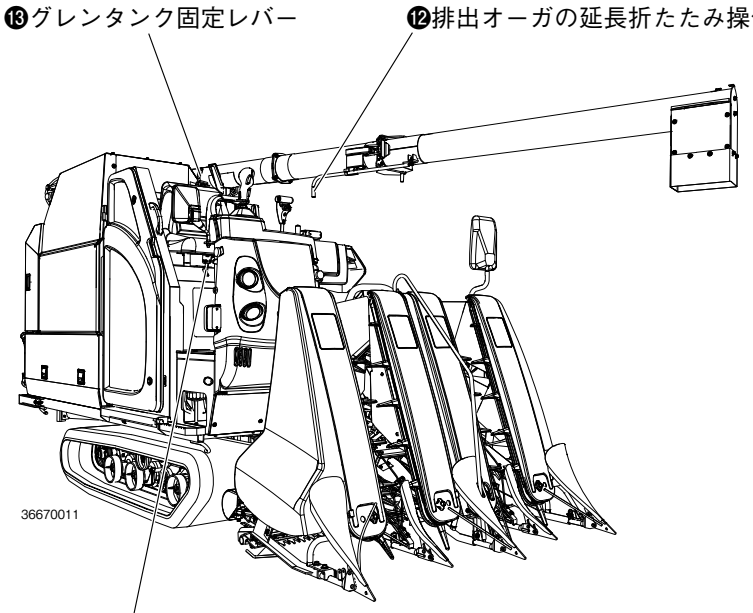
刈高さポジションコントロールで設定された刈高さを解除する機能です。

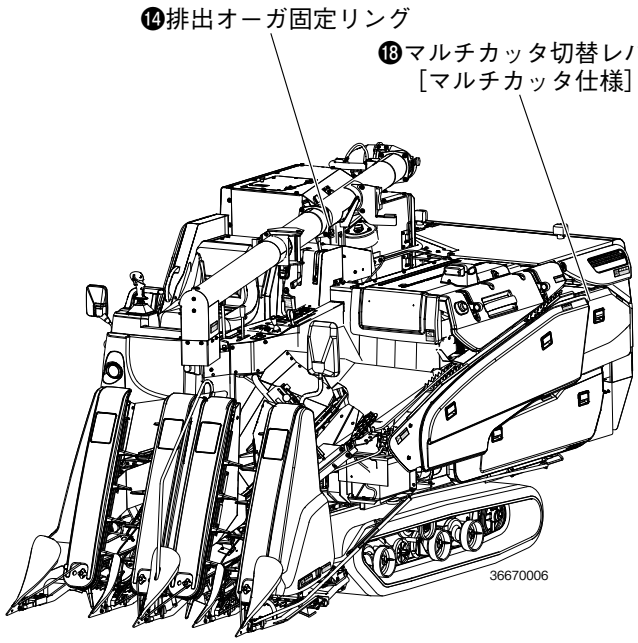
刈高さセット位置よりもさらに刈取部を下げたいときはトリガースイッチを握りながらマルチステアリングレバーを下げ操作します。

詳しい操作については「**刈高さポジションコントロール**」を参考にしてください。

2．ペダル・レバー関係


⓯左ナローガイド切替レバー
⑨水平操作レバー
⑩排ワラ切替レバー
⓫こく粒排出切替レバー
❷副変速レバー
❶主変速レバー
❼脱こく・刈取
クラッチレバー
❹駐車ブレーキレバー
❸走行クラッチペダル
❻マルチ
ステアリングレバー
⓱エンジンカバー
固定レバー
36670015


⓭グレンタンク固定レバー
⓬排出オーガの延長折たたみ操作レバー
36670011
⓰座席シート調節ピン


⓮排出オーガ固定リング
⓲マルチカッタ切替レバー
［マルチカッタ仕様］
36670006

❶ 主変速レバー

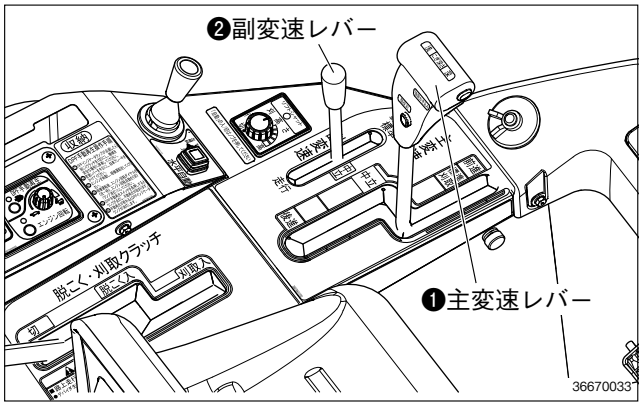
⚠警告 傷害事故防止のために

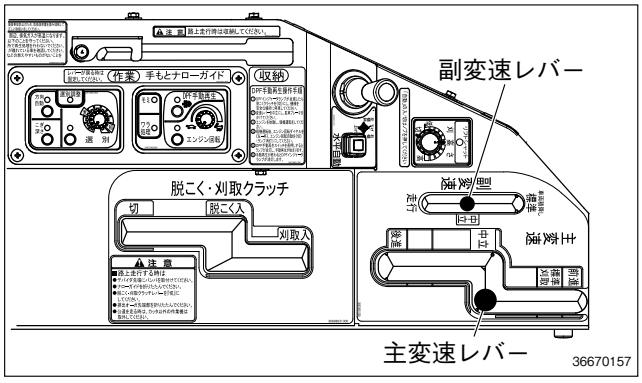
◆走行中，主変速レバーを急激に増減速操作しないでください。
◆前後進の切替えは，機械が停止してから行ってください。
◆自動車などへの積込み・積降ろしのときは，アユミの上で変速操作，クラッチ操作をしないでください。
◆機械から離れるときは，《中立》でも動く場合があるので，平坦な場所で駐車ブレーキをかけエンジンを停止してください。

走行クラッチペダルを踏まないで走行速度の変速ができます。前進・後進いずれにも任意の位置に操作するだけで，作業に適した速度が得られます。

エンジンの始動は，主変速レバーを**《中立始動》（前進側中立位置）**位置にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏込まないとできません。

・走行クラッチペダルを踏むと，主変速レバーは《**中立**》位置に戻ります。





作業内容	副変速	主変速
積込み，あぜ越え	標準	［中立］から［前進・低速］
積降ろし		［中立］から［後進・低速］
路上，ほ場走行(前進)	標準 走行	［中立］から発進し，その場の状況に応じ順次速度を上げる。
路上，ほ場走行(後進)	標準	
刈取時の後進		
標準刈取り	標準	［低速刈］から［標準刈］
倒伏刈取り	標準	［低速刈］から［標準刈］
集中注油	中立	［中立］から［標準刈］

❷ 副変速レバー

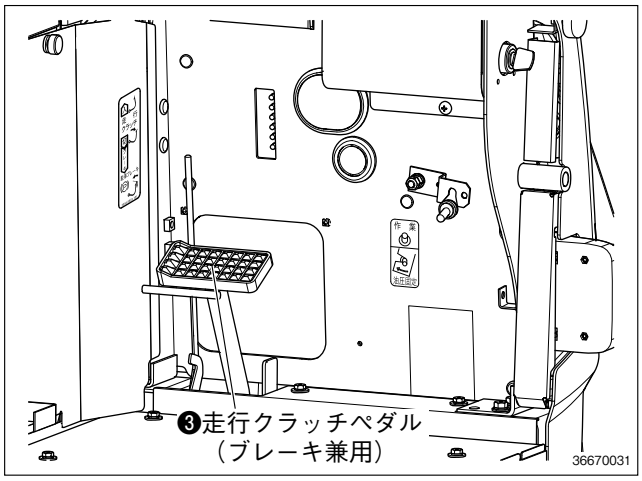
作業目的や刈取り条件により《**標準**》，《**走行**》の２段に変速ができます。

・副変速レバー操作は，主変速レバーを《**中立**》にして，走行を停止してから走行クラッチペダルを踏込んで行います。
・自動車への積込み・積降ろし，ほ場への出入りは《**標準**》位置で行います。
・刈取り作業は《**標準**》位置で行います。《**走行**》位置での刈取り作業はしないでください。
・見通しが良く平坦な道路では《**走行**》位置で走行します。狭い道路や凹凸のある道路は《**標準**》で走行します。

❸ 走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行クラッチペダルは自動車への積込み・積降ろしなどアユミの上では操作しないでください。転落事故を起こすことがあります。
◆通常の停止は主変速レバーの操作で停止してください。
◆走行クラッチペダルに足を乗せたまま旋回操作をしないでください。
ペダルに足を乗せていると旋回後も直進に戻らないことがあります。

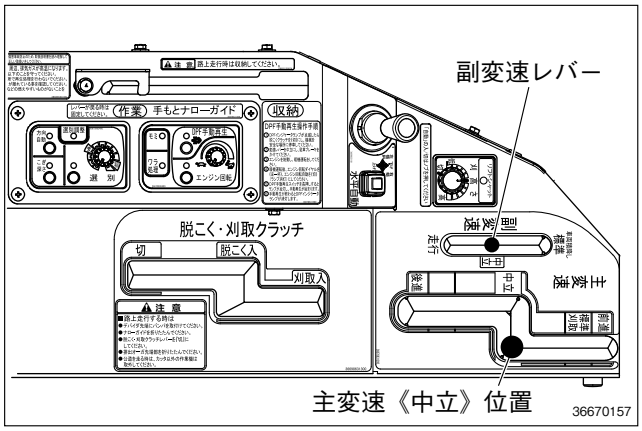


機械の始動，副変速レバーの操作に使用します。

走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）をいっぱいに踏込むと，主変速レバーが《**中立**》に戻り，トランスミッションへの動力が絶たれ，ブレーキがかかる構造になっています。

⑴ **エンジンの始動に使用します。**

・エンジンを始動するときは，走行クラッチペダルをいっぱいに踏込みます。



⑵ **走行の停止（ブレーキ）に使用します。**

・走行クラッチペダルをいっぱいに踏込むと，主変速レバーが《**中立**》に戻りブレーキがかかる構造になっています。

⑶ **機械の副変速レバーの操作に使用します。**

・副変速レバーを操作するときは，走行クラッチペダルをいっぱい踏込みます。

取扱いのポイント

- **走行クラッチペダルを踏んだままだと，主変速レバーは操作できません。**
- **作業中，走行クラッチペダルを踏むと走行と同時に刈取部も停止します。**

❹ **駐車ブレーキレバー**

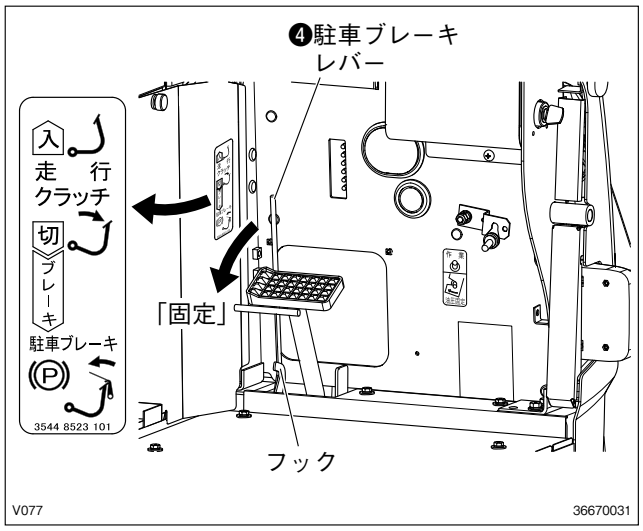
⚠警告 傷害事故防止のために

◆坂道など傾斜のある所では，駐車しないでください。やむをえず駐車する場合には，駐車ブレーキをかけ，木片などでクローラに「車止め」をしてください。

◆駐車ブレーキレバーは，自動車への積込み，積降ろしなどアユミの上では操作しないでください。

・駐車するときに使用します。走行クラッチペダルをいっぱい踏込み，駐車ブレーキレバーを操作してフックをペダルに掛けます。

・解除するときは，走行クラッチペダルをいっぱい踏込むと，自動的に駐車ブレーキレバーのフックが外れます。



取扱いのポイント

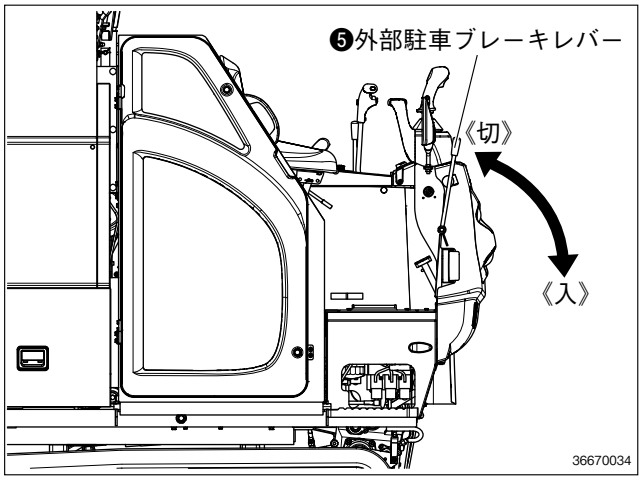
- **機械を駐車するときは走行クラッチペダルをいっぱい踏込んで駐車ブレーキレバーのフックを「固定」方向に倒してください。**

❺ 外部駐車ブレーキレバー
［ディーラーオプション］

⚠警告 傷害事故防止のために

◆坂道など傾斜のある所では，駐車しないでください。やむをえず駐車する場合には，駐車ブレーキをかけ，木片などでクローラに「車止め」をしてください。
◆駐車ブレーキレバーは，自動車への積込み，積降ろしなどアユミの上では操作しないでください。

・外部駐車ブレーキレバーを前方（《**入**》方向）に倒すと駐車ブレーキがかかります。
・外部駐車ブレーキレバーは主変速レバーと連動していますので，運転席から降りて，機械の停止操作を行うときにも使用します。



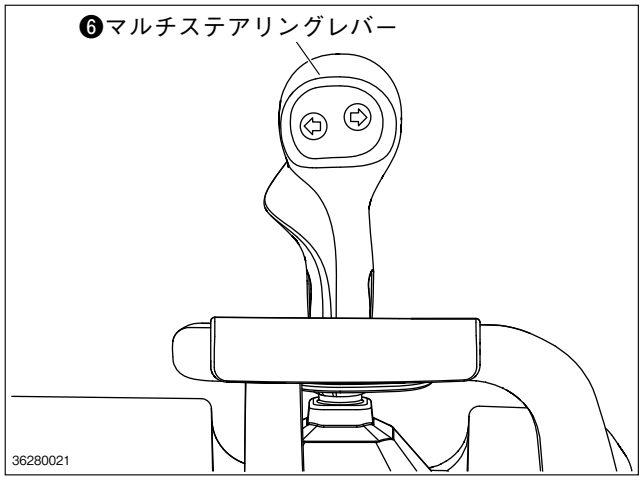
取扱いのポイント

●外部駐車ブレーキレバーを《入》方向に倒すと主変速レバーが《中立》位置に戻りますので，再発進するときは外部駐車ブレーキレバーを《切》にしてから，主変速レバーを操作してください。

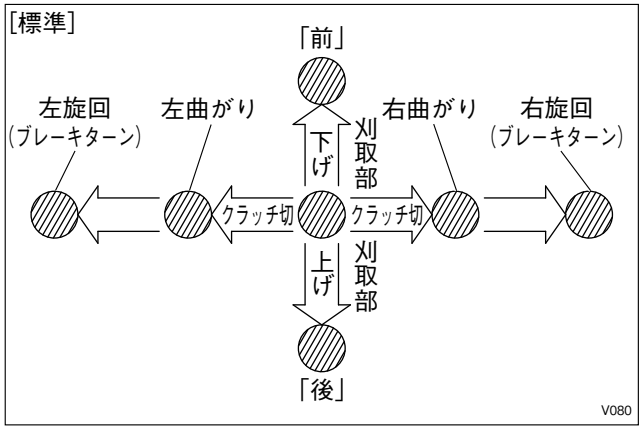
❻ マルチステアリングレバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆旋回するときは，主変速レバーで速度を落として行ってください。
◆自動車などへの積込み・積降ろしのときは，アユミの上でマルチステアリングレバーを左右操作しないでください。レバー操作をすると急に方向転換して転落事故を起こすことがあります。



・１本のレバー操作により，左右操作で「**旋回**」，前後操作で刈取部の「**上げ**」「**下げ**」ができます。
・左右方向に浅く倒すと機械は倒した側に徐々に曲がり，深く倒すと旋回します。



取扱いのポイント

●マルチステアリングレバーを斜め方向に操作すると，刈取部の上げ下げと方向修正・旋回が同時に行えます。

❼ 脱こく・刈取クラッチレバー

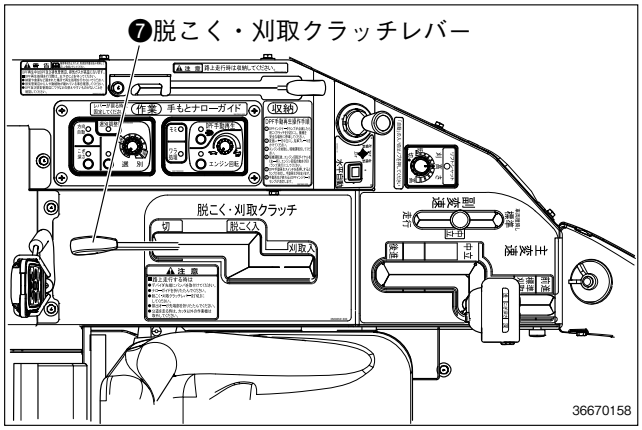
⚠警告 傷害事故防止のために

◆脱こく・刈取クラッチレバーを《入》に操作するときは，コンバインの周囲から人を遠ざけてください。

◆エンジンを始動する場合は，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にしてください。

・脱こく・刈取クラッチレバーを脱こく《**入**》位置にすると脱こく部が作動します。

・脱こく・刈取クラッチレバーを刈取《**入**》位置にすると，脱こく部に連動して刈取部が作動します。また脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にすると，刈取部と脱こく部が停止します。



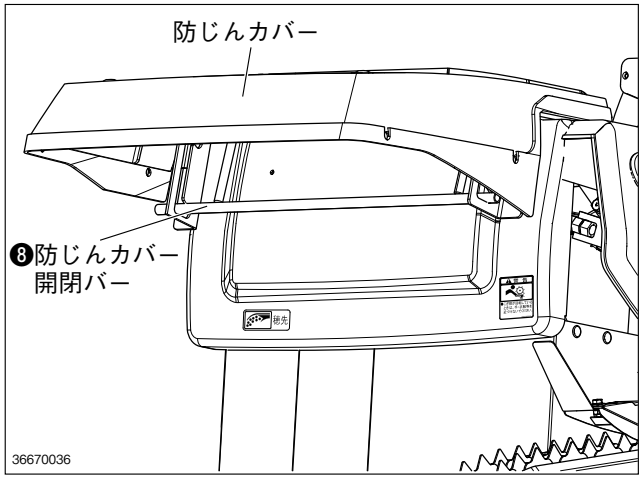
取扱いのポイント

- **刈取り作業を行うとき，回転計の「作業」以下では《入》位置にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。**
- **刈取・脱こく運転中，走行クラッチペダルを踏むと，走行は停止し，同時に刈取部とフィードチェンも停止します。(脱こく部は止まりません)**
- **エンジンを始動するときは，脱こく・刈取クラッチレバーおよびこく粒排出レバーを《切》位置にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んでください。**

❽ 防じんカバー開閉バー［ディーラーオプション］

防じんカバーを上げる（開く）ときに使用します。

上げるときは防じんカバー開閉バーを持って上方に開きます。下げる（閉じる）ときも防じんカバー開閉レバーを持って下げます。

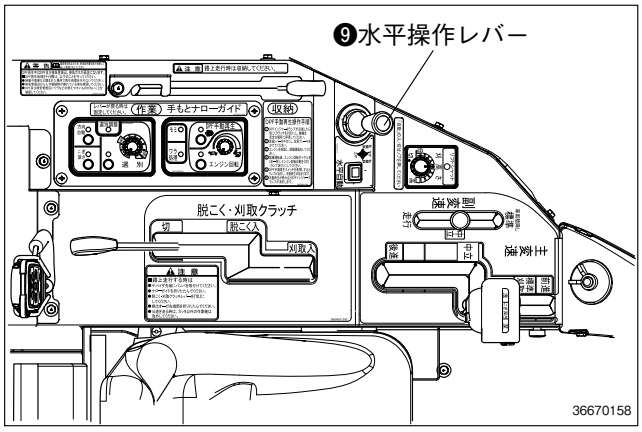


・コンポアップのときは，防じんカバーを下げ位置にしてください。

❾ 水平操作レバー［L 仕様］

機体の「**上げ**」「**下げ**」「**右傾斜**」「**左傾斜**」をします。

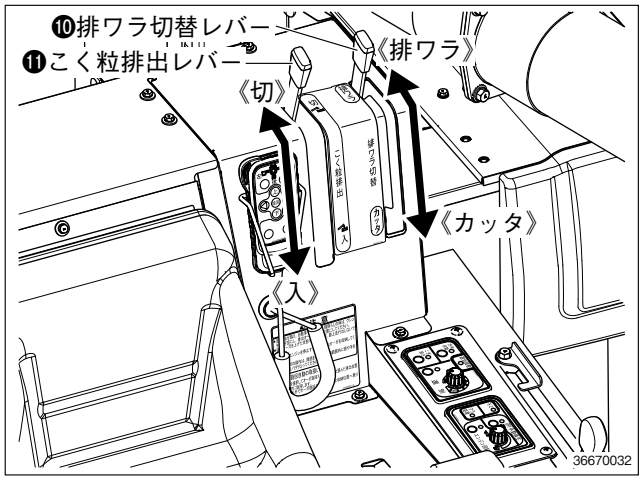
・レバーを《**上げ**》の方向に倒すと，機体が上がります。
・レバーを《**下げ**》の方向に倒すと，機体が下がります。
・レバーを《**右傾斜**》の方向に倒すと，機体が右傾斜します。
・レバーを《**左傾斜**》の方向に倒すと，機体が左傾斜します。



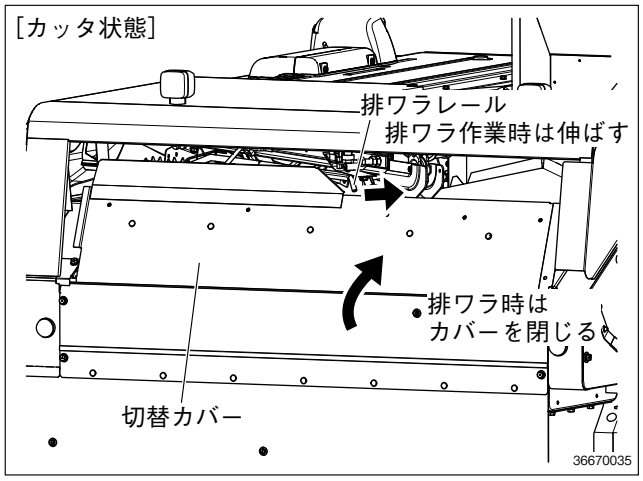
❿ 排ワラ切替レバー

カッタ作業または排ワラ作業の切替えをするレバーです。

・切替え操作は作物が搬送中にないことを確認してから行います。



《**カッタ**》……ワラをカッタで切断します。
《**排ワラ**》……結束作業，ドロッパ作業，ワラをそのまま排出する作業。



⓫ こく粒排出レバー

グレンタンク内のこく粒を排出するレバーです。

取扱いのポイント

- **水平位置より下げた状態で排出オーガを旋回しないでください。**
- **こく粒を排出する場合は，エンジン回転を回転計の「作業の上限（黄色）」に合わせてください。回転が低いと詰まりの原因となります。**
- **エンジンを始動するとき，こく粒排出レバーが《入》位置にあると始動できません。**

⑫ 排出オーガの延長折りたたみ操作レバー

⚠警告 傷害事故防止のために

◆排出オーガの延長操作をするときは，平坦な場所に駐車しエンジンを停止して操作し，排出オーガを固定してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

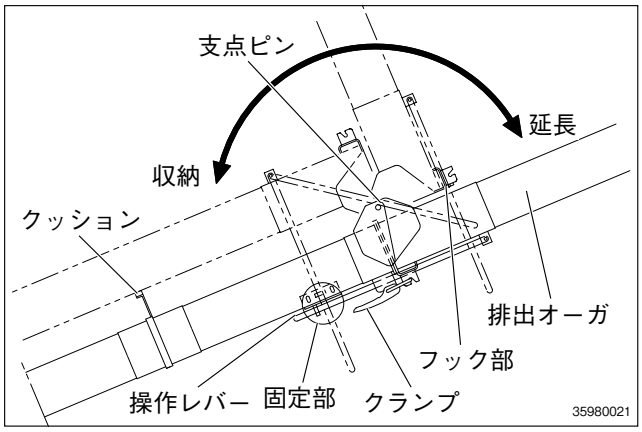
◆排出オーガを延長するときは，連結部に手を入れないでください。

◆路上走行するときは，排出オーガを折りたたんで固定し走行してください。

［延長のしかた］

⑴ 操作レバーを固定部より外し，支点ピンに操作レバーを掛け排出オーガを延長方向へ回します。

⑵ 操作レバーをフックに掛け直し排出オーガを回して「**延長状態**」でクランプを掛け「**固定**」します。



［折たたみかた］

⑴ クランプを「**解除**」し，操作レバーをフックに掛けて排出オーガを収納方向へ回します。

⑵ 操作レバーをフックから外し手前に引き，排出オーガがクッションと接触したことを確認します。

⑶ 操作レバーを固定部に掛けて固定します。

⑬ グレンタンク固定レバー

⚠警告 傷害事故防止のために

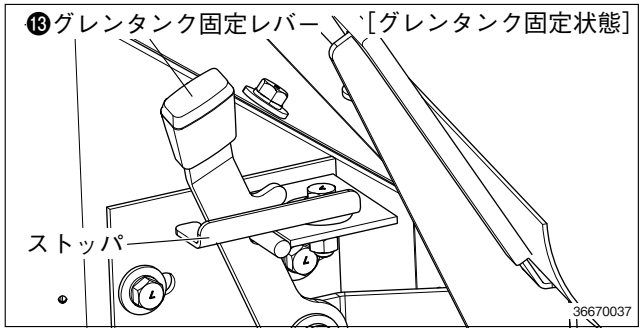
◆グレンタンク固定レバーを《解除》するときは，平坦な場所で各クラッチを切り，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。

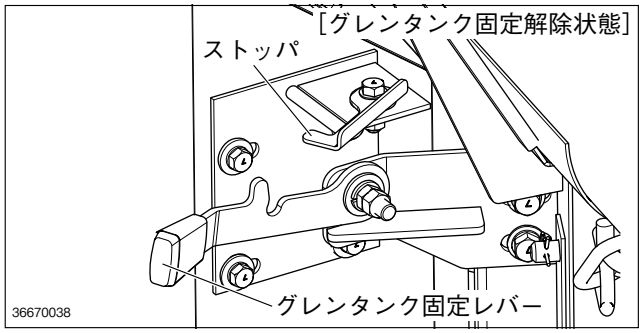
◆グレンタンク内にこく粒が入っていないことを確認してから行います。
タンク内にこく粒が入った状態でグレンタンク固定レバーを《解除》するとグレンタンクが不意に回動し，事故となることがあります。また故障の原因となります。

◆エンジンを始動する前に，グレンタンクが固定レバーで固定されている事を確認します。グレンタンクが固定されていない状態でエンジンを始動するとグレンタンクが不意に回動し，事故となることがあります。また故障の原因となります。

グレンタンクを定位置に固定するためのレバーです。

グレンタンクを回動（112～113ページ参照）するときは，ストッパを解除し，グレンタンク固定レバーのロックを解除します。



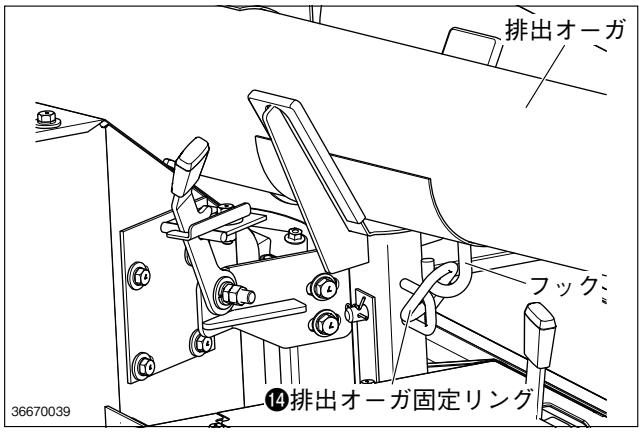


グレンタンク回動以外のときは，タンク固定レバーを固定状態とし，ストッパをかけ，タンクを固定状態としておきます。

⓮ 排出オーガ固定リング

排出オーガを収納状態で固定するリングです。

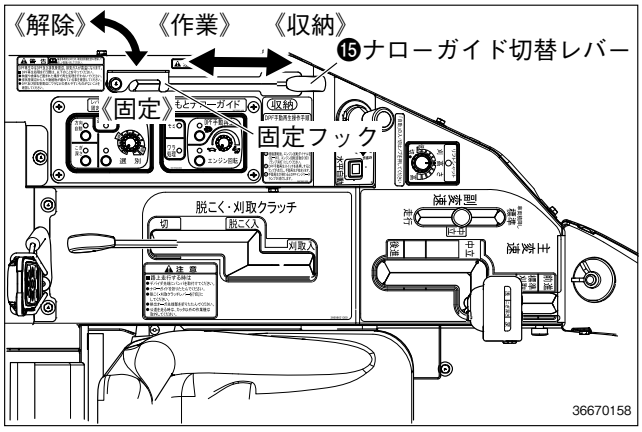
排出オーガを操作をする前に，排出オーガ固定リングをフックより外します。排出オーガ収納時は，排出オーガ固定リングをフックにかけておきます。

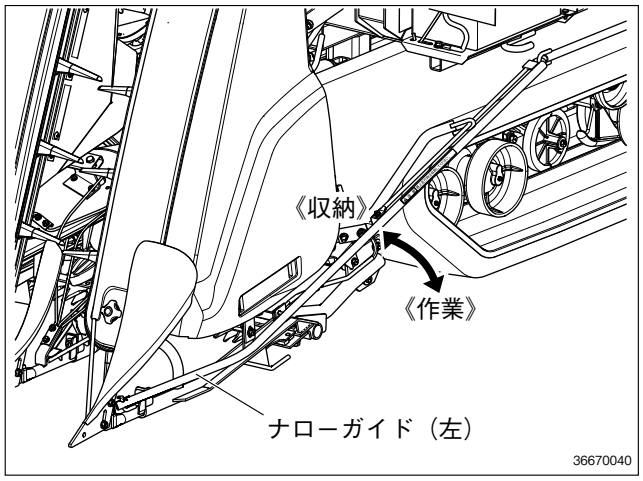


⓯ ナローガイド切替レバー

ナローガイド（左）を運転席に座ったまま操作するレバーです。

・ナローガイド切替レバーを《**作業**》にすると，ナローガイド（左）が引出され作業状態になります。
・通常固定フックは《**解除**》の位置で作業します。
・作業時，ナローガイド切替レバーが戻る場合は固定フックで《**固定**》位置にします。
・公道走行時は《**収納**》位置にします。

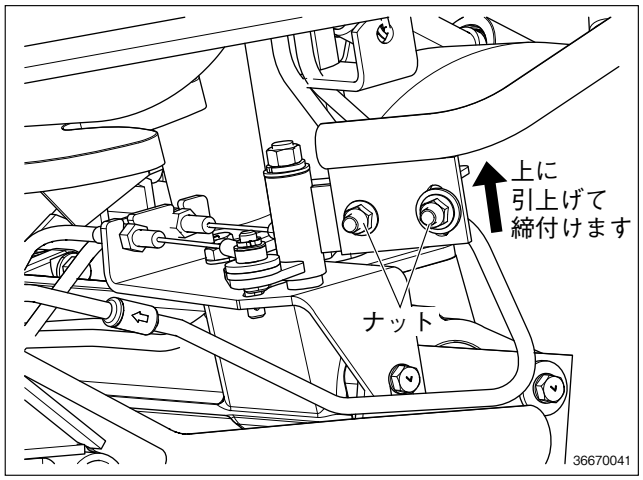




・右回り，あぜ際刈取など，障害物があるときは，《**収納**》位置にします。

取扱いのポイント

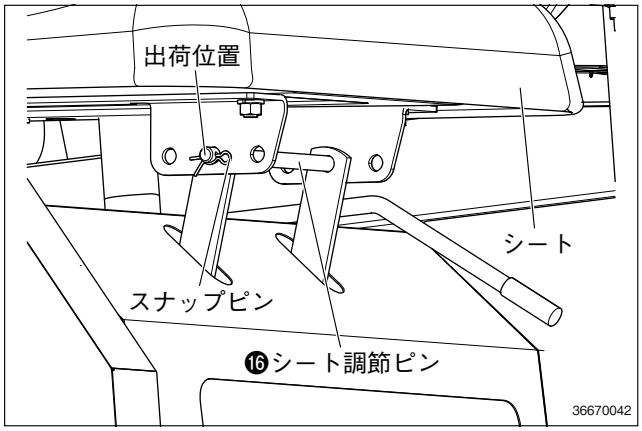
●長稈材などで未刈稈が倒れ込み，脱こく入口部の搬送に支障がある場合は，「上向きセット」にして作業を行います。
ナローガイドを引出した状態で下図のナット（2箇所）をゆるめ，上に引上げナットを締付けます。



⑯ シート調節ピン

シートの前後位置がシート調節ピンで3段階に調節できます。

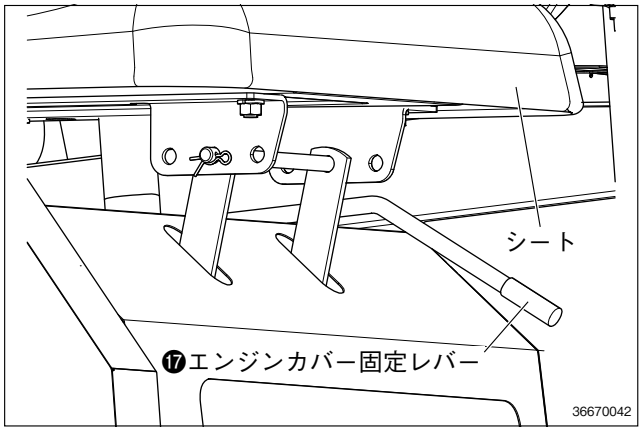
スナップピンを外し，シート調節ピンの位置を変えて，シートの前後位置を調節します。



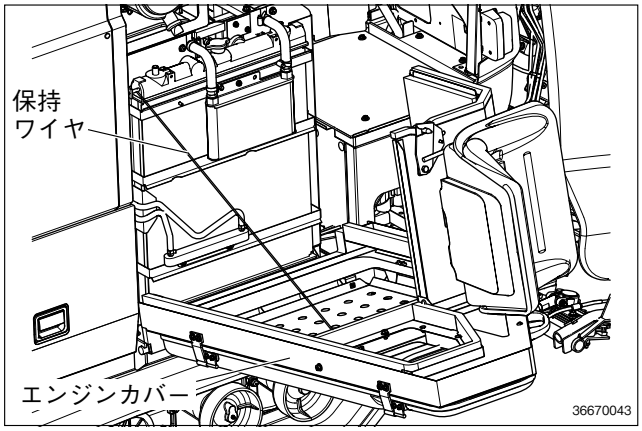
⑰ エンジンカバー固定レバー

エンジンカバーを開くときに使用します。

(1) エンジンカバー固定レバーを機体右方に引き，固定を解除します。

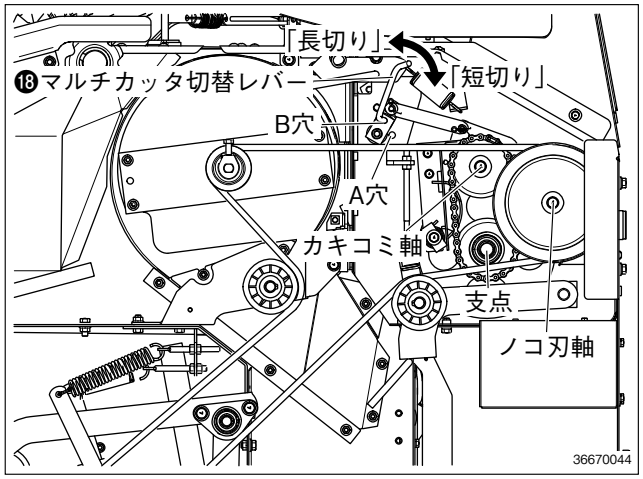


(2) エンジンカバーをゆっくり外側に開きます。



⑱ マルチカッタ切替レバー［マルチカッタ仕様］

マルチカッタ切替レバーを握ることで，マルチカッタ切替レバーが穴から抜け，自由に回動します。この状態で，「**A穴**」または「**B穴**」にマルチカッタ切替レバー位置を合わせて，差し込むことにより「**短切り**」，「**長切り**」に切替え操作ができます。



運転のしかた

1．運転まえの点検

安全作業のために，毎日の運転前に「**運転まえの点検表**」を参考に点検してください。

⚠警告 火傷や火災防止のために

◆異常が見つかった場合は，処置が完了するまで使用しないでください。整備不良のまま使用すると思わぬ事故を引き起こす可能性があります。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油をしないでください。
◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給したときは燃料キャップを締め，こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。
◆燃料タンクや燃料ホースの劣化や，傷による漏れなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し，傷や漏れがあれば交換してください。
◆給油・注油・点検するときには機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し駐車ブレーキをかけてから行ってください。
◆ラジエータキャップの取外しは，エンジンが冷えてから行ってください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆点検整備などで取外したカバー類は，すべて取付けてください。

「**運転まえの点検表**」

点検箇所	内　　容	処　　置	参照ページ
エンジンカバー ラジエータフィン オイルクーラフィン	・エンジンカバーの内側にゴミが溜まっていませんか。 ・ラジエータフィン，オイルクーラフィンの目詰まりはありませんか。	・やわらかいブラシなどで，掃除をする。 ・ラジエータフィン，オイルクーラフィンは，コンプレッサでエアを吹き付ける。	96～97
DPF，排気管，エンジン回り，サイドカバー（上）(下)	・ワラクズが溜まっていませんか。	・掃除をする。	―
各部の損傷，汚れ，ボルトのゆるみ	・エンジン始動後の異常音の原因となります。	・ボルトのゆるみを締付ける。 ・損傷したものは交換してください。	―
油漏れ	・各給油箇所部に油漏れがありませんか。	・給油，排油，検油栓のゆるみを締付ける。 ・直らないときは，点検を受けてください。	81～95
燃料漏れ	・燃料ホースに燃料漏れがありませんか。	・ホースを交換してください。 ・継ぎ部をしっかり締付ける。	135
電気配線	・他の部品に接触していませんか。 ・損傷はありませんか。	・傷んだ配線を交換修理してください。 ・電気配線回りのワラクズなどを取り除く。	104

点検箇所	内　　容	処　　置	参照ページ
エアクリーナ	・エレメントが目詰まりしていませんか。	・エレメントを外して軽くたたくか，コンプレッサで内側からエアを吹きつける。	97
エンジンオイル（エンジンクランクケース）	・オイルがオイルレベルゲージの上・下限の間にありますか。	・エンジンオイルを適量補給する。	84～86
冷却水（ラジエータ）	・補助タンクに適量ありますか。（給水レベルの上・下限の間にあること。）	・清水を補助タンクに適量補給する。	86～87
エンジン	・エンジン始動後の異音がありませんか。 ・排気ガスの色はきれいですか。	・点検を受けてください。	―
燃料（燃料タンク）	・作業に必要な量の燃料が入っていますか。	・ディーゼル軽油を補給する。	83～84
燃料セジメンタ	・分離した水が溜まっていませんか。（赤色のフロートが排水レベルに達していませんか）	・分離した水を排出してください。	99
ホーン	・警報切ホーンボタンを押せば鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	12 101～103
方向指示器などの保安部品	・正常に作動しますか。	・球切れ，ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	11 101～103
バックブザー（ホーン）	・主変速レバーを「後進」位置にしたとき，バックブザーが鳴りますか。	・ヒューズ切れ，配線の外れを調べ，処置する。	101～103
インジケータランプ	・オイル，充電，予熱ランプは消灯しますか。（エンジン始動後）	・エンジンオイルを補給する。 ・異常箇所を調べ，処置する。	8～12，64 161～165
回転計	・正常に作動しますか。（エンジン始動で）	・点検を受けてください。	12
マルチステアリングレバー	・ゆっくり走行してレバー操作して正常に旋回，刈取部刈取部が上下しますか。	・異常箇所を調べ，処置する。	22
走行クラッチペダル（ブレーキ兼用）	・ゆっくり走行してペダル操作したとき，正常に機械が停止しますか。	・異常箇所を調べ，処置する。	139
チェン，ベルト，ワイヤ，クローラ	・たるみ，損傷はありませんか。	・正常に調整する。	138～155

2. エンジンの始動と停止

⚠警告 傷害事故防止のために

◆主変速レバー，副変速レバーが《中立》位置，脱こく・刈取クラッチレバーが《切》位置であることを確認してください。
●機械の周囲から人を遠ざけてください。
◆始動はシートに座って行なってください。
◆屋内での始動は，窓や戸を開け換気をしてください。
◆暖機運転は主変速レバー，副変速レバー《中立》にして，脱こく・刈取クラッチレバー《切》で駐車ブレーキをかけて行ってください。
●運転者はエンジンをかけた状態で機械の周囲から離れないでください。
●外気温が「0℃以下」のときは暖機運転を10分間以上行ってください。行なわないと油圧装置が正常に作動しなくなり，方向変換ができなくなることがあります。
◆空運転するときは，こぎ胴部およびカッタ部を開かないでください。

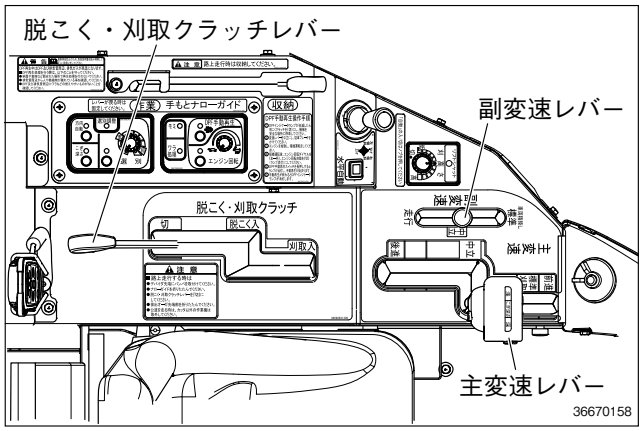
⚠注意 傷害事故防止のために

◆点検整備などで取外したカバー類は，すべて取付けてください。

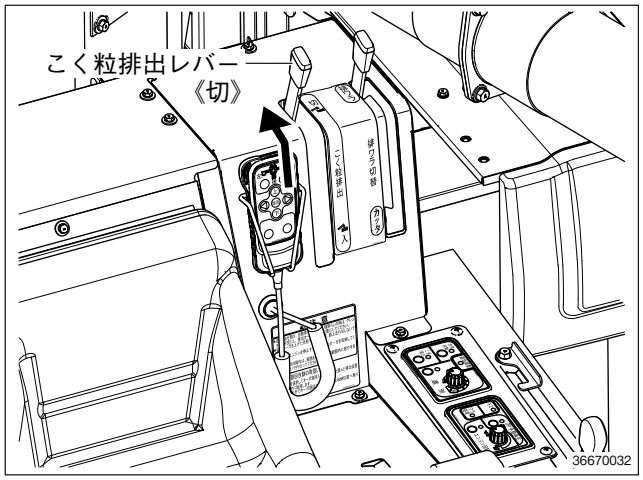
1. エンジン始動のしかた

❶ 体格に合わせシート調節ピンで着座位置を調節します。(23ページ参照)

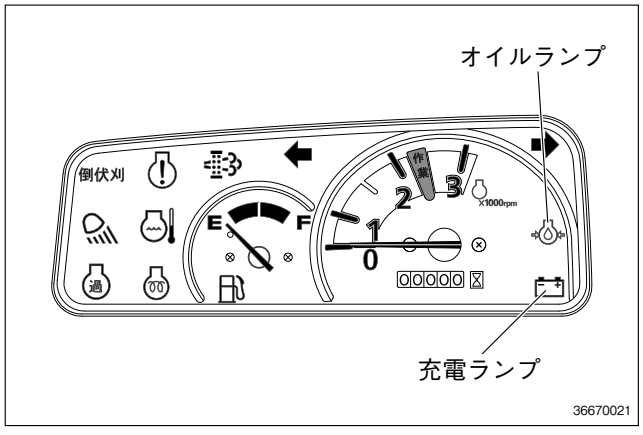
❷ 主変速レバーを《**中立始動**》(**前進側中立位置**)，副変速レバーを《**中立**》位置にします。



❸ 脱こく・刈取クラッチレバーおよびこく粒排出レバーが《**切**》位置にあることを確認します。



❹ スタータスイッチを《**入**》位置にし，「**オイル**」，「**充電**」のランプが点灯することを確認します。



❺ 走行クラッチペダルをいっぱい踏込み，スタータスイッチを《**始動**》位置に回し，エンジンを始動します。

❻ 始動後，駐車ブレーキをかけ，エンジン回転を低回転「**2000回転**」程度にセットし，暖機運転をします。

取扱いのポイント

- **主変速レバーを《中立始動》（前進側中立位置）にし，走行クラッチペダルをいっぱい踏み込まないとエンジンは始動しません。**
- **エンジン始動後，「オイル」「充電」のランプが消灯することを確認してください。**
- **スタータスイッチは５秒以上の連続使用はしないでください。**
- **セルモータは短時間に大きな電力を消費しますので５秒以上の連続使用はバッテリ故障の原因となりますので避けてください。**

2．エンジン停止のしかた

❶　脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にします。

❷　エンジン回転ダイヤルで《🐢》(**低速**）にします。

❸　スタータスイッチを《**切**》位置にすると，エンジンが停止します。

3．DPF（ディーゼル・パティキュレート・フィルタ）装置のはたらきと取扱い

⚠警告　傷害事故防止のために

◆排気ガス中毒になるおそれや，DPF再生中の高温状態の排気管やDPFに接触して火傷や火災が発生する原因となるため，下記事項を遵守してください。

- 納屋や倉庫など換気の悪い場所では，再生処理を行なわないでください。
- 再生処理を行なう前には，排気管やDPFおよび周辺部に，発火する原因となる燃えやすいゴミなどがあれば取除いてください。
- DPF再生中は，排気管やマフラおよび周辺部に人を近付けないでください。また，コンバインからは離れないでください。
- 刈取作業中に自動再生処理が始まりますので，わらなどの燃えやすいものが多い場所の上ではコンバインを停止しないでください。また，コンバインを停止する場合は，排気管の後方にわらなどの燃えやすいものが少ない場所に停止してください。
- DPF再生中とその直後３分程度は，手こぎ作業をしないでください。再生処理の直後はまだ排気管やDPFが高温です。
- 一日の作業終了後は，排気管やDPFおよびその周辺にわらなどの燃えやすいものが溜まっていないか点検し，溜まっていたら掃除して取除いてください。

DPFは，ディーゼルエンジンから排出される排気ガス中のＰＭ（ススなど粒子状物質）をフィルタで捕集し，大気中に放出されるＰＭの量を削減させます。

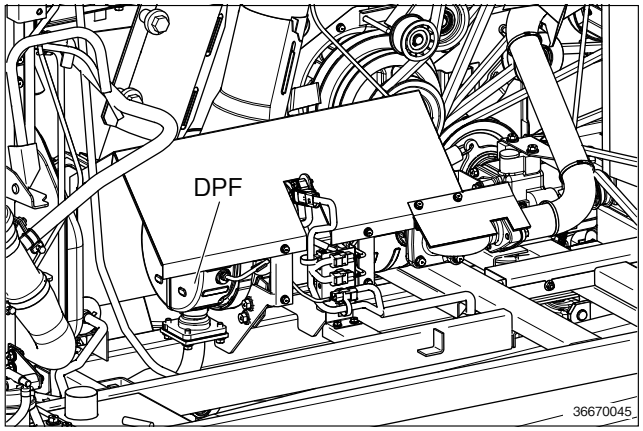
捕集したＰＭをDPF内で燃焼させてＰＭ除去フィルタ内を浄化および再生します。また，DPFの再生処理方法には自動再生と手動再生の２通りが

あります。刈取作業中は自動再生モードになっています。

自動再生モード中は，DPF内にＰＭが堆積されると自動再生機能がはたらき，ＰＭを自動的に除去します（自動再生処理)。また，ＰＭがDPF内に堆積し，手動再生の警報が発生したときは，手動再生処理を行なって堆積したＰＭを除去してください。

取扱いのポイント

- **DPFインジケータランプがゆっくり点滅し，警報ブザーが間欠的に鳴ったときは，刈取作業を中止し手動再生処理を行なってください。継続して作業を行ない，さらにDPFインジケータランプが早く点滅し，警報ブザーが断続的に鳴り始めたときは，直ちに作業を中止して手動再生を行なってください。**
- **手動再生の警報を無視し続けると，エンジンの出力が低下します。また，手動再生ができなくなり故障の原因となります。手動再生ができない場合は，直ちに「お買いあげ先」に連絡してください。**
- **再生処理を行なうとき，自動再生処理と手動再生処理でエンジン回転数が異なりますので注意してください。**
- **指定の純正エンジンオイル以外のエンジンオイルを使用すると，再生処理（自動再生および手動再生）を行なう頻度が増加し，作業能率の低下や燃料消費量の増加の原因となりますので必ず指定のエンジンオイルを使用してください。**
- **通常，再生処理には10～30分程度かかります。再生処理にかかる時間は，外気温度・排気温度・エンジン回転数によって変わります。**
- **再生処理終了直後は，DPF（および排気管）はまだ高温です。排気装置（DPF・排気管）を冷却するために，３分間程度エンジンの運転を継続します。**



［自動再生処理について］

自動再生処理は刈取作業を行っているとき（脱こく・刈取クラッチレバー《**刈取 入**》）にはたらきます。自動再生処理中は通常どおり刈取作業ができます。

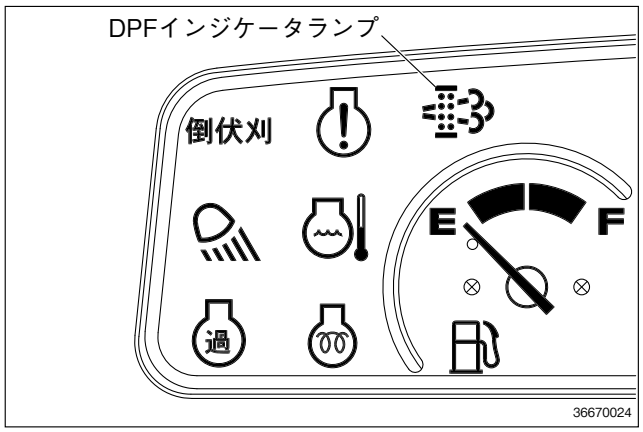
⑴ 刈取作業中にＰＭが堆積すると，DPFインジケータランプが点灯し自動再生を開始します。

⑵ 自動再生が終了すると，DPFインジケータランプが消灯します。

［手動再生処理について］

ＰＭがDPF内に一定量堆積したときには，手動再生処理を行なってください。

⑴ ＰＭが一定量堆積すると，DPFインジケータランプがゆっくり（１秒間に１回）点滅すると同時に警報ブザーが間欠的に鳴ります。警報ブザーは警報切ボタンを押すと止まります。



取扱いのポイント

- **継続して作業を行なうと，DPFインジケータランプが早く（１秒間に２回）点滅し，警報ブザーが断続的に鳴り始めます。このときは警報切ボタンを押しても鳴り止みません。**

⑵ 作業をいったん中止したあと，平坦な場所に移動します。

換気の悪い納屋や倉庫などへは移動しないでください。

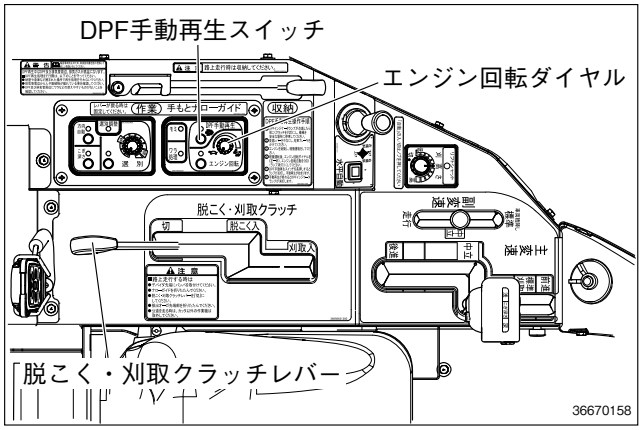
⑶ 各レバー，ペダル，スイッチを下記の手動再生処理条件の状態にセットします。

・脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》位置にします。

・主変速レバーを《**中立**》，副変速レバーを《**中立**》にします。

・駐車ブレーキをかけます。

・エンジン回転ダイヤルを《🐢》(**低速**) にし，エンジン回転自動《**切**》(**ランプ消灯**) とします。



⑷ DPF手動再生スイッチを長押し（１秒以上）すると，エンジン回転数が上がると同時に，DPFインジケータランプが点灯し，手動再生処理が開始されます。

⑸ 手動再生処理が終了すると，エンジン回転数がアイドリング回転数まで下がります。

再生処理の直後はまだ排気管やマフラが高温ですので，DPFインジケータランプが消灯するまで（３分間程度）そのままエンジンの運転を継続します。

取扱いのポイント

- **エンジン始動直後に手動再生を行う場合はエンジンを暖機後に行います。**
- **手動再生処理中に，各レバー，ペダル，スイッチは触らないでください。手動再生処理条件の状態が解除されると，手動再生処理が途中で停止します。この場合は再度手動再生処理を行なう必要があります。**
- **条件を満たしても，手動再生スイッチを受けつけない場合には，直ちに「お買いあげ先」に連絡してください。**

3. 走行・停車のしかた

1. 走行のしかた

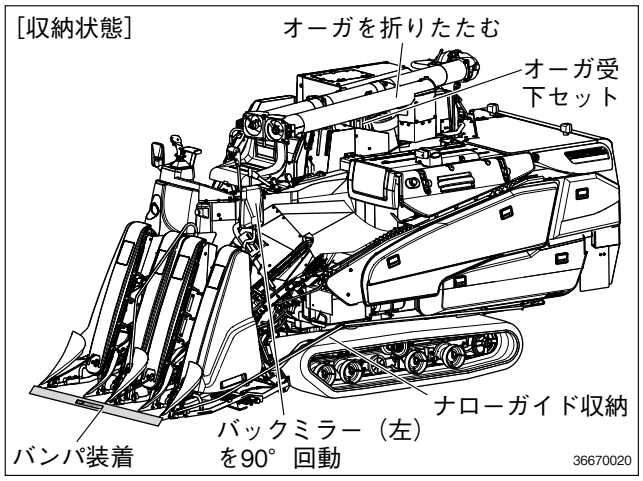
⚠警告 傷害事故防止のために

◆公道走行は交通法規を守って運転してください。
◆運転者の他に子供など，人や物を機械にのせないでください。
◆ヘルメットをかぶってください。
◆発進，停止および旋回するときは周囲を確認し速度を落としてください。
◆狭い農道や傾斜地では，路肩に寄りすぎないようにして低速走行し，軟弱な路肩や草の生い茂っている所は走行しないでください。
◆走行時に排出オーガ先端部を障害物などにあてないようにしてください。
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろし時には，水平自動スイッチを《切》にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げてください。[L 仕様]
◆あぜ越え，路上走行などではジャストディレクタを使用しないでください。

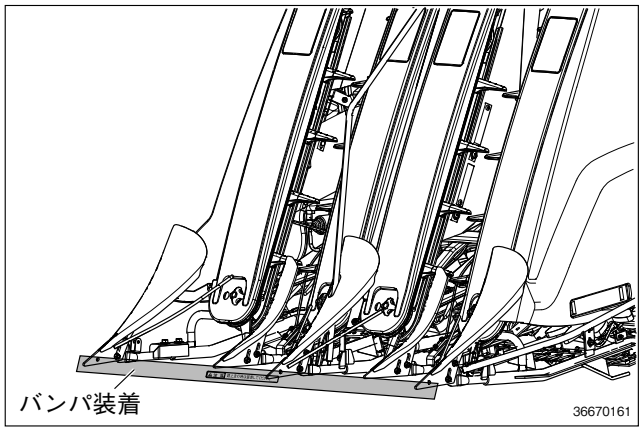
⚠注意 傷害事故防止のために

◆走行する前に機械を「収納状態」にしてください。
●籾タンク内の籾はすべて排出します。
●バンパを取付けます。
●ナローガイドを収納します。
●排出オーガを「下セット」にし，折りたたんで固定リングをフックに掛け固定します。
●グレンタンク固定レバーでグレンタンクを固定します。
●方向自動制御スイッチを《切》（ランプ消灯）にします。[ディーラーオプション]
●カッタ以外のアタッチメントを取外します。
●防じんカバーを下げます。[ディーラーオプション]（23ページ参照）
◆路上走行するときは，作業灯は消灯してください。

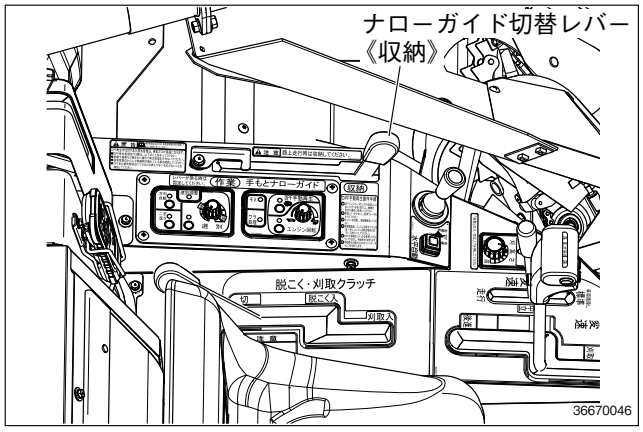
❶ 走行するときは機械を「**収納状態**」にして「**安全な速度**」で走行します。

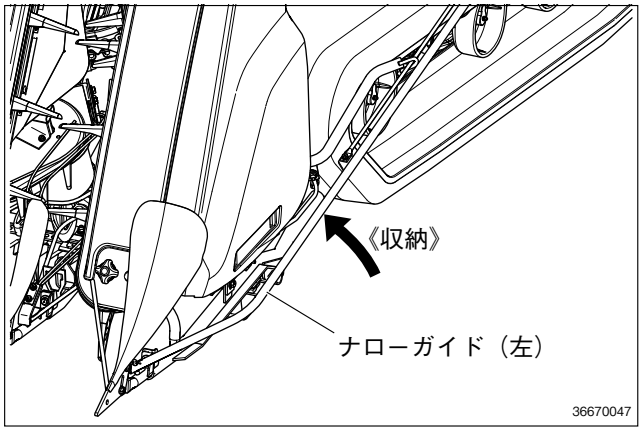


❷ デバイダ先端に「**バンパ**」を取付ける。



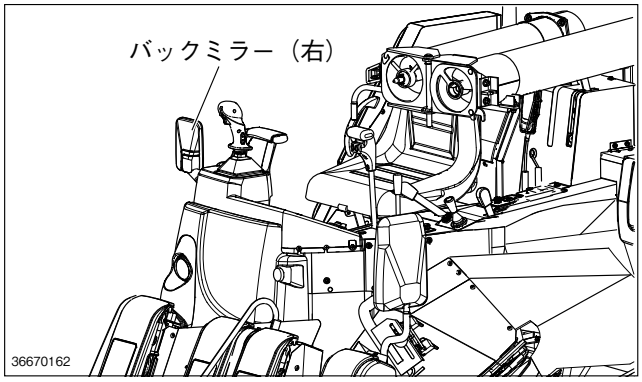
❸ ナローガイド切替レバーを《**収納**》位置にします。



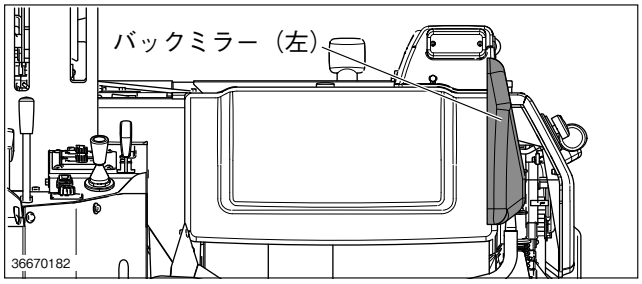


❹ バックミラーの調整

バックミラーは上下，左右に角度調整ができます。バックミラー（右）は，運転席に座って見やすい位置に調節してください。

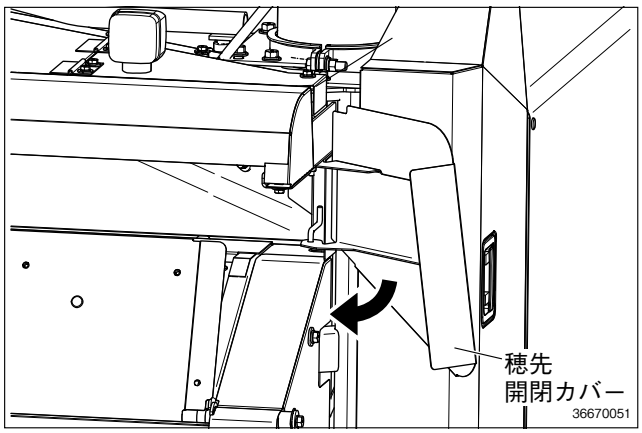


バックミラー（左）は，たたみます。



❺ 公道を走行するときは，カッタ以外の**アタッチメント（ノッタなど）**を取外します。

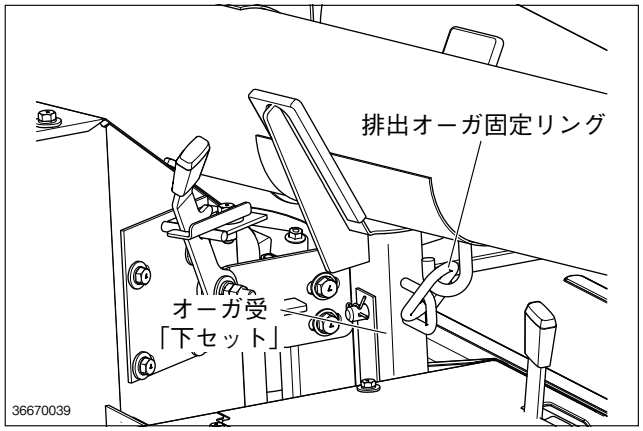
・カッタ右側の穂先開閉カバーを閉じます。



❻ グレンタンク内のこく粒をすべて排出します。

❼ オーガ受を「**下セット**」位置にします。（44ページ参照）

排出オーガの「**排出オーガ固定リング**」がかかっていることを確認します。

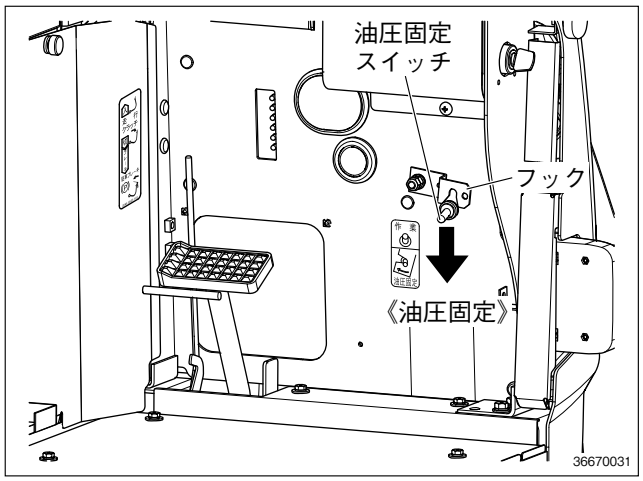


❽ 脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にし，方向自動スイッチ［**ディーラーオプション**］を《**切**》にして，防じんカバー［**ディーラーオプション**］を下げてからエンジンを始動します。

❾ エンジン回転ダイヤルでエンジン回転を「**2000回転**」以上にセットします。

❿ マルチステアリングレバーで刈取部先端を「**35㎝**」程度上げます。

⓫ 油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にして，フックをかけ，刈取部を固定します。



⓬ ［**L仕様**］は水平自動スイッチを「切」にして，水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。

⓭ 副変速レバーを走行する条件に合った位置にします。

⓮ ブレーキロックレバー（駐車ブレーキ）を解除します。

⓯　主変速レバーをゆっくり操作し，適正な走行速度にします。

⓰　路上走行で方向を変えるときは，方向指示器の点灯で合図をします。

⓱　発進するときや作業開始するときはホーンで合図をします。

⓲　路上走行時，作業灯は消灯します。

取扱いのポイント

●副変速レバーを動かすときは，必ずクラッチペダルを踏んで行なってください。

2．停車のしかた

⚠警告　火災や傷害事故防止のために

◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，刈取部を下げて，各操作レバーを《切》《中立》，副変速レバーを《標準》に入れてください。機械から離れるときは，スタータスイッチからキーを抜取ってください。

◆燃えやすいものの近くには，止めないでください。

❶　主変速レバーを《**中立**》にします。

❷　脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》位置にします。

❸　駐車ブレーキをかけます。

❹　エンジン回転を《🐢》(**低速**）にし，５分間程度空運転を行います。

❺　スタータスイッチを《**切**》位置にして，エンジンを停止します。

❻　副変速レバーが《**標準**》に入っていることを確認し，ブレーキロックレバーがかかっていることも確認します。

取扱いのポイント

●ブレーキロックを解除するときは，走行クラッチペダルをいっぱい踏込んで離してください。

4．自動車への積込み・積降ろし

・自動車への積込み・積降ろしは，周囲に障害物のない平坦で硬い場所を選び，運転者は誘導する補助者と協力して次のことを守り，慎重に行います。

⚠警告　傷害事故防止のために

◆積載重量が，自動車の最大積載量を超えないで，かつ荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。

●自動車は平坦で硬い場所に停止し，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，変速を１速か後進（バック）に入れ，タイヤに車止めをしてください。

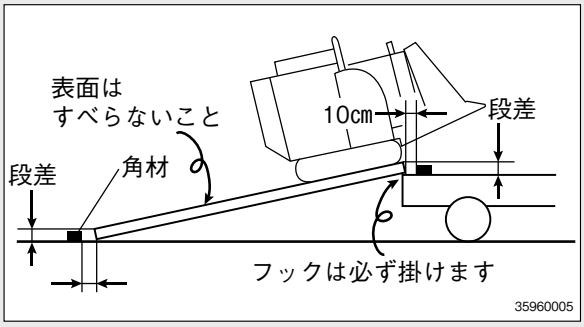
◆アユミは，機械の重量に耐える強度，幅，（クローラが外れない幅）長さ（荷台高さの４倍以上）のある，すべり止め，フック付きのものを使用します。

●アユミを機械のクローラ間隔に合わせ自動車の荷台に平行にはずれないようにかけます。

◆積込み・積降ろしは補助者立会誘導のもとに行ってください。また機械の周囲に人を近づけないようにしてください。

●アユミの上での進路変更がないように，左右のクローラをアユミの中央に真直ぐにセットします。

◆アユミと路面および自動車の荷台との段差が６㎝以上ある場合は段差の半分程度の高さの角材などを置いてください。



◆自動車への積込み・積降ろし中は，つぎの操作はしないでください。操作をすると，急に方向転換し転落する恐れがあります。

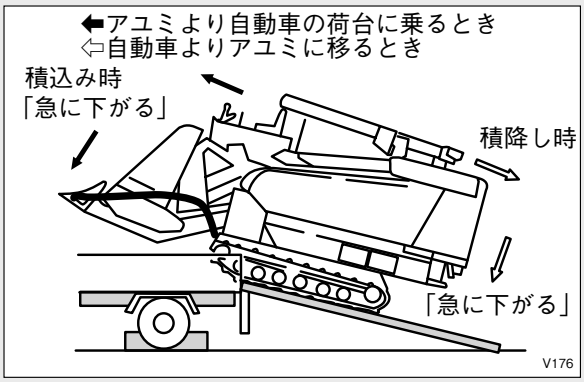
・主変速レバー
・副変速レバー
・マルチステアリングレバー
・走行クラッチペダル
・ブレーキロックレバー
・ジャストディレクタ

} はアユミの上では操作しないこと。

◆積込みは前進，積降ろしは後進で，主変速レバー《低速》位置，副変速レバー《標準》位置で行ってください。

◆機械に乗らないでください。また，機械の直前・直後には立たないでください。

◆運転者は機械が自動車に乗る直前や降りた直後では，急に姿勢が変わることがありますので，機械が自動車に乗って（降りて）から近づき，機械を停止させてください。



◆各カバーの固定が確実か確認してください。

◆防じんカバーが開いていると，風圧で防じんカバーが破損・脱落の恐れがありますので，閉じてロープなどで浮上がりを防いでください。[ディーラーオプション]

◆積込みが終わったら駐車ブレーキをかけ，コンバインのフレームの４隅のフックにロープまたはワイヤをかけて機械を固定してください。

このフックは他の物のけん引には使用しないでください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆機械は積込む前に，「収納状態」にしてください。

●グレンタンク内のこく粒はすべて排出します。

●バンパを取付けます。

●ナローガイドを収納します。

●排出オーガをオーガ固定リングをフックに掛け固定します。

●グレンタンク固定レバーでグレンタンクを固定します。

●水平自動スイッチを《切》にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。
［L仕様］

●方向自動スイッチを《切》(ランプ消灯）にします。[ディーラーオプション]

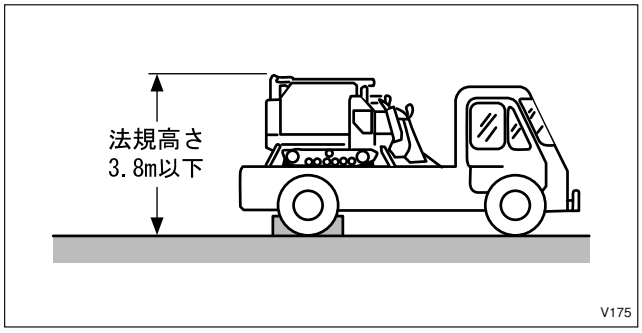
●防じんカバーを下げます。[ディーラーオプション]

●カッタ以外のアタッチメントを取外します。

1．自動車・アユミについて

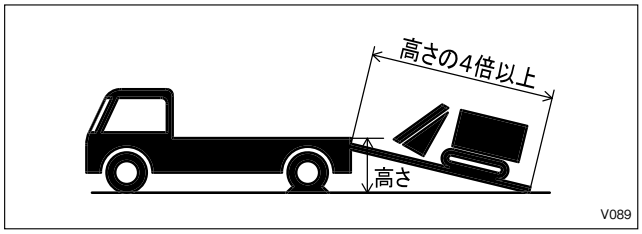
❶ 積載重量が，自動車の最大積載量を超えないで，かつ荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。

・トラックに積んだ場合，**「車両制限令」**により地上からの高さが3.8m以下に規制されています。3.8mを越える場合は許可が必要になりますので所轄の警察署で緩和申請を受けてください。



❷ 自動車は駐車ブレーキをかけ，タイヤに**「車止め」**をします。

❸ アユミは，機械の質量に耐える強度，幅（クローラが外れない幅），長さ（荷台高さの４倍以上）のあるすべり止め付き，フック付きのものを使用します。



アユミの基準

長さ	自動車の荷台高さの４倍以上
幅	50cm以上
数量	２枚
強度	１枚が1,500kg以上の重量に耐えるもの

❹ アユミは機械のクローラに合わせ自動車の荷台と平行に**「段差」**のないようにかけ，**「横ずれ」**したり，**「外れ」**たりしないようにセットします。

❺ 機械輸送時の自動車の運転で，急発進・急停止・急ハンドルなどの操作は行わないでください。荷くずれや自動車の転倒事故につながります。

2．機械の積込み要領

❶ ナローガイド，排出オーガを収納します。（収納状態）グレンタンク，排出オーガの固定を確認します。

❷ エンジンを始動し，エンジン回転ダイヤルでエンジン回転を**「2000回転」**程度にセットします。

❸ 刈取部をいっぱい上げます。

❹ 積込みは，主変速レバー**《前進》**の低速，副変速レバー**《標準・車両積降ろし》**で行います。

❺ 積降ろすときは，主変速レバー**《後進》**の低速，副変速レバー**《標準・車両積降ろし》**で行います。

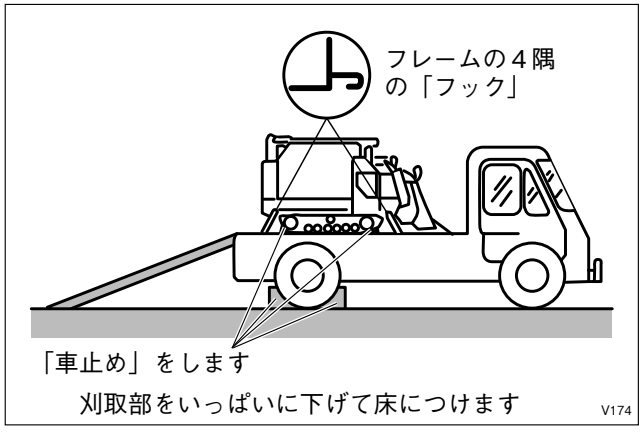
❻ 積込み・積降ろしは，機械から降りて行います。

❼ 積込み・積降ろしの途中では，進路変更，走行クラッチ操作，変速操作はしない。

❽ 補助者の立会誘導のもとに，周囲を確認して行います。

❾ 自動車に積込みが終わったら，機械のクローラに**「車止め」**をし，駐車ブレーキをかけ，機械のフレームの４隅のフックにロープまたはワイヤをかけて固定します。

❿ 刈取部は完全に下げて床につけます。こぎ深さは，いっぱいに下げ（深こぎ側）ておきます。



5. ほ場への出入り

⚠警告 傷害事故防止のために

◆10cm以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りは，アユミを使用し「低速」で「直角」に行ってください。

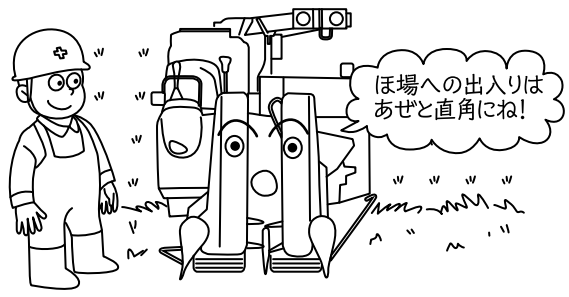
●急な坂道の場合は，進行方向や速度を誤ると，転倒してケガをするおそれがあります。

◆ほ場への出入りをする前に，グレンタンク内のこく粒をすべて排出してください。

◆［L仕様］は水平自動スイッチを《切》にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げてください。

◆あぜがくずれないことを確認してから，ゆっくり行ってください。

1. ほ場への出入りのしかた



V306

❶ 刈取部を上げ，エンジン回転ダイヤルでエンジン回転を「**2000回転**」程度にセットし，副変速レバーを《**標準・車両積降ろし**》位置，主変速レバーを《**前進**》の低速または《**後進**》の低速にしてあぜに直角に走行します。

❷ アユミを使用するときは，「**自動車への積込み・積降ろし**」の内容に従って行います。

作業のしかた

1．作業まえの準備

作物やほ場の条件が刈取り作業に適していないと，脱こく精度が低下する恐れがあります。次の条件を整えて作業に入ります。

1．作物の条件について

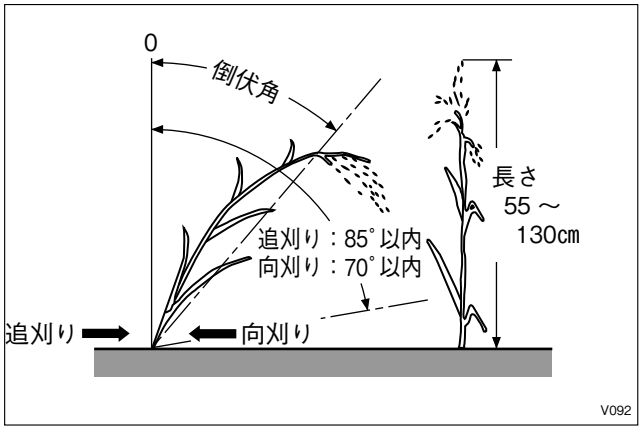
❶ 作物の長さと倒れ

・長さ…55～130㎝まで刈取りできます。

・倒れ（倒伏角）

…追刈り：85° 以内まで刈取りできます。

向刈り：70° 以内まで刈取りできます。



❷ 作物の濡れ

・濡れた作物（雨あがり・朝露）の刈取りは，次のようなことがありますので，乾燥するのを待って刈取ります。

・能率があがらない

・選別不良

・詰まりやすい

・乾燥処理時間の増加

❸ 病害虫に侵された作物

・病害虫に侵された作物の刈取りは，次のようなことがありますので，刈取り作業の速度を遅くするか，またはできるだけその部分は「**手刈り**」をしておきます。

・こく稈が折れやすい

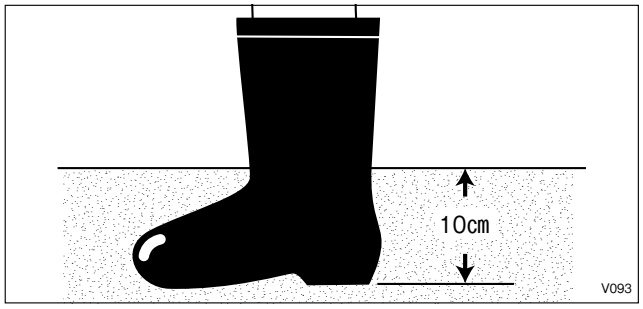
・刈取り・搬送部の詰まり

・脱こく部の詰まり

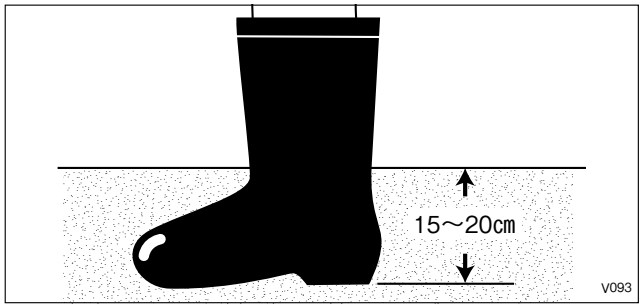
2．ほ場の条件について

❶ 湿田ほ場のぬかるみ程度

・沈下量が「**10㎝**」までは作業ができます。



・［**L仕様**］は沈下量が「**15～20㎝**」までは作業ができます。

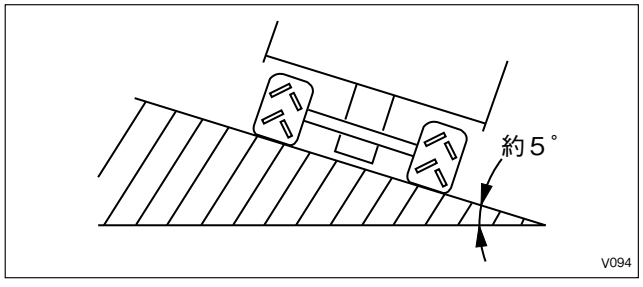


取扱いのポイント

●一度通ったクローラ跡はなるべく通らないようにしてください。

❷ 機械の傾斜

機械の傾斜角度５° 以上では作業できません。



取扱いのポイント

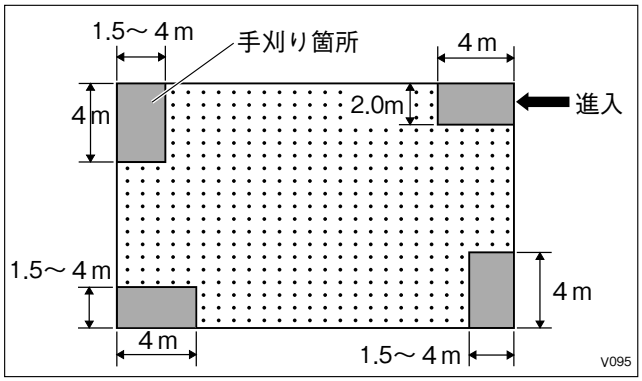
●適応範囲を越えての作業はできません。行わないでください。

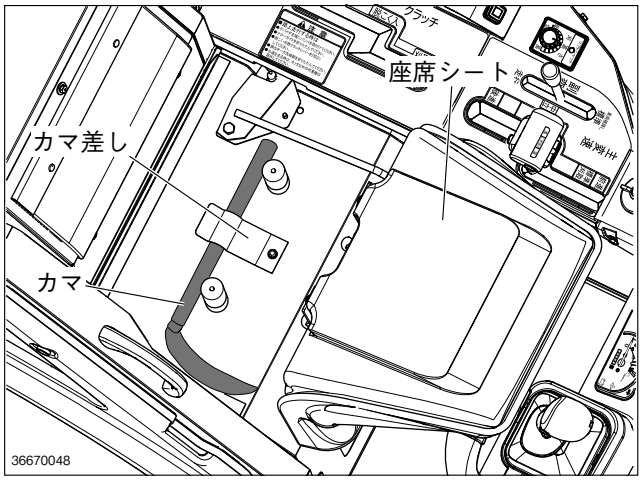
●ほ場内に雑草が多いと，刈取り作業ができない場合があります。ほ場内の除草に心がけてください。

3. ほ場の準備

❶ 手刈り

・機械をほ場に入れる前に，あらかじめ四隅を「**旋回できる程度**」手刈りします。





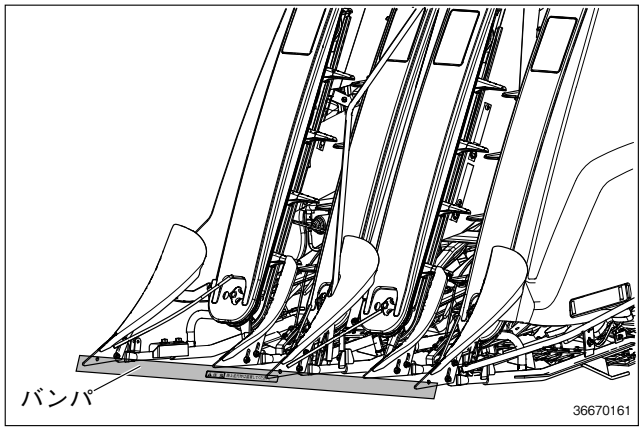
取扱いのポイント

- **強制かき込みスイッチを使用することにより，四隅の手刈り面積を少なくできます。**
- **ほ場の周囲がコンクリートあぜ，または高あぜで，あぜ際いっぱいに植付けされているときは，作業に支障がないように手刈りしてください。**
- **カマ差しは，シート後方にあります。**
- **カマは図のようにセットし，刃部に身体が触れないようにします。**

4. 機械の準備

❶ バンパの取外し

バンパを取外します。

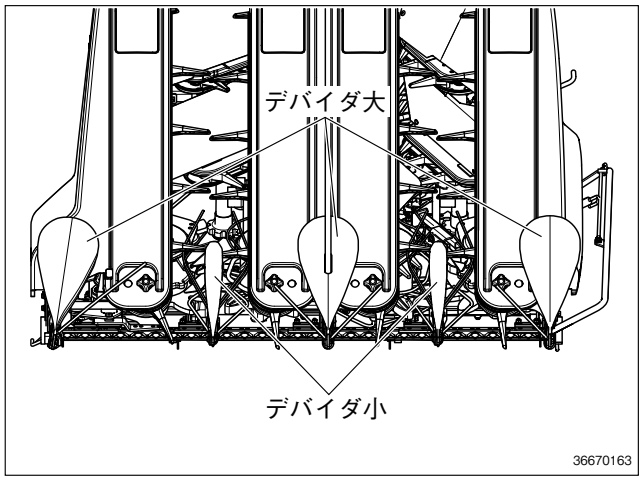


❷ デバイダの上下調整

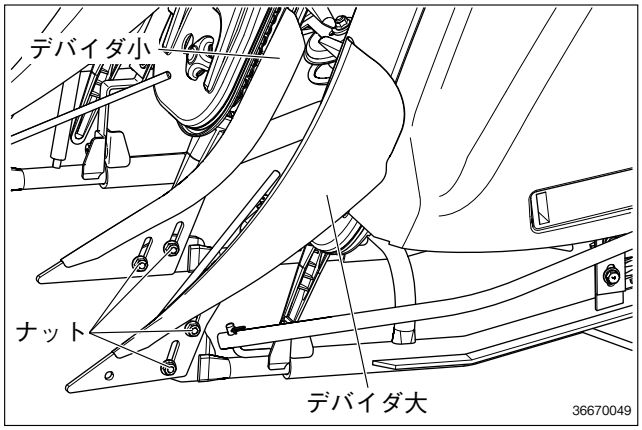
次のような場合は，デバイダを「**下側**」にセットします。

・刈取部を下げたときに，デバイダよりも先に刈刃が地面に着く場合。

・刈取部をいっぱいに下げても，デバイダが地面より離れている場合。



デバイダ取付のナットをゆるめて，デバイダが適正な高さとなるように調整し，締付けて固定します。



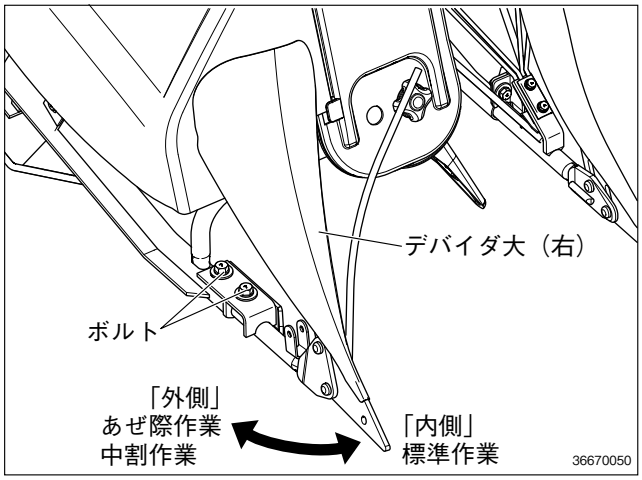
取扱いのポイント

- **デバイダは全て同じ高さになるようにセットしてください。**
- **湿田での作業時は，デバイダをフレームより「15～20㎜」下げて作業してください。**

❸ デバイダ大（右）の調整

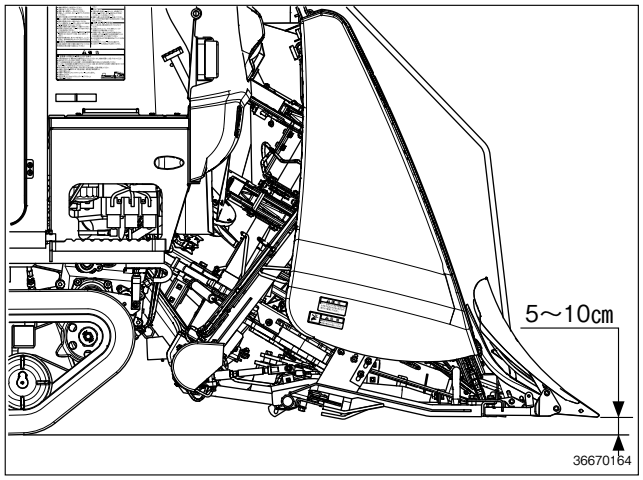
・デバイダ（右）は**「内側」**位置が標準です。

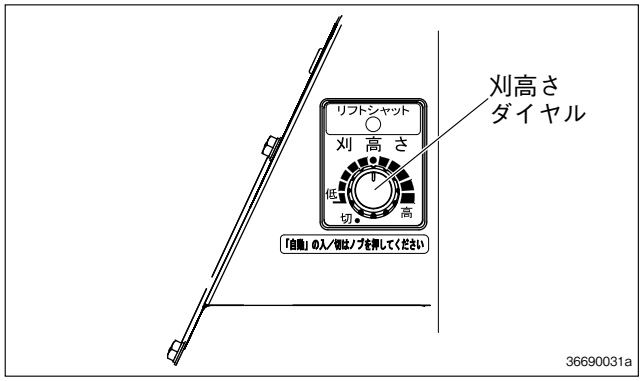
・中割作業やあぜ際作業をするときは，２本のボルトをゆるめて**「外側」**の位置にいっぱい広げ，締付けて固定します。



❹ 刈取り高さの調整

刈取部を下げ，デバイダ先端がほ場表面から**「５～10㎝」**になるように刈高さダイヤルで調整します。（72～73ページ刈高さポジションコントロール参照）





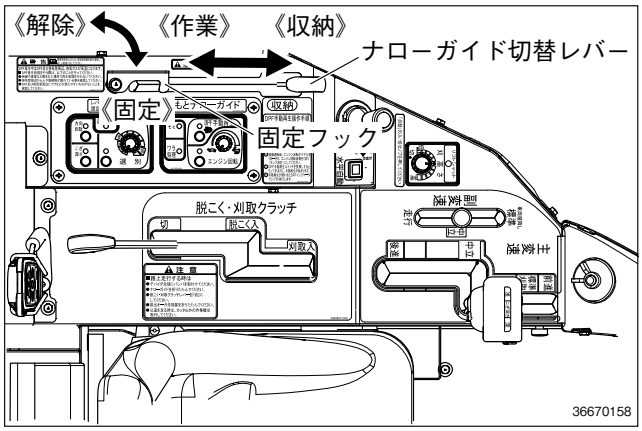
・倒伏および短い作物の場合は，デバイダ先端を地面すれすれに調節します。

❺ ナローガイドの調節

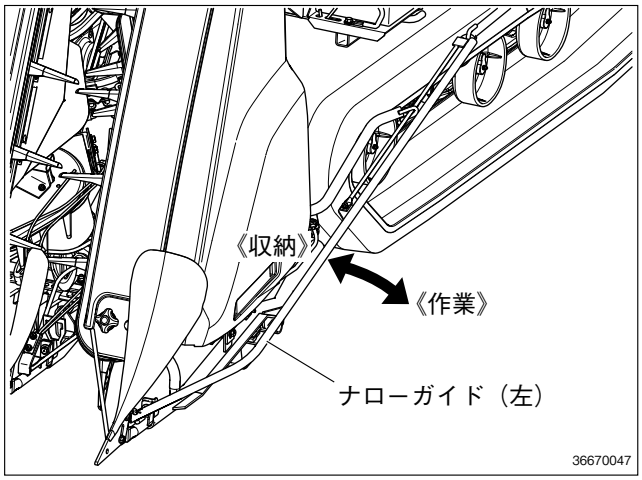
・ナローガイド切替レバーを《**作業**》にすると，ナローガイド（左）が引出され，作業状態になります。

・通常，固定フックは《**解除**》の位置で作業します。

・作業時，レバーが戻る場合は固定フックで《**固定**》してください。



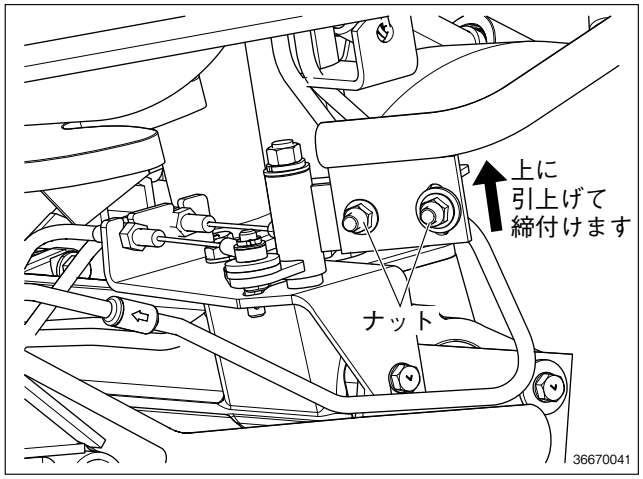
・右まわり，あぜ際刈取など，障害物があるときは収納にしてください。



取扱いのポイント

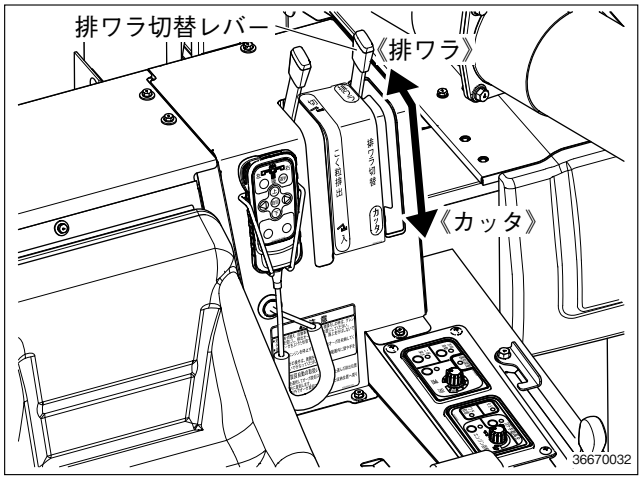
●**長稈材などで未刈稈が倒れこみ，脱こく供給口部の搬送に支障がある場合は「上向きセット」にして作業を行います。**

●**ナローガイドを引出した状態で下図のナット（２箇所）をゆるめ上に引上げナットを締付けます。**

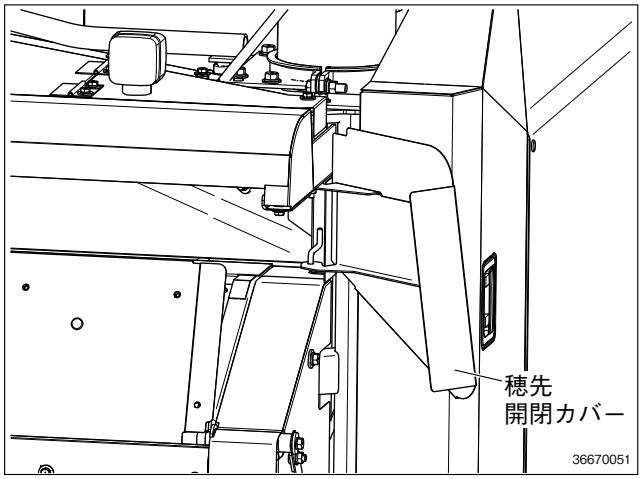


❼ 排ワラ切替え

(1) 作業内容に合わせて，切替レバーで《**カッタ**》・《**排ワラ**》の切替えを行います。



(2) 排ワラ作業の場合は，穂先開閉カバーを開きます。



❽ 排出オーガ受のセット

⚠注意 傷害事故防止のために

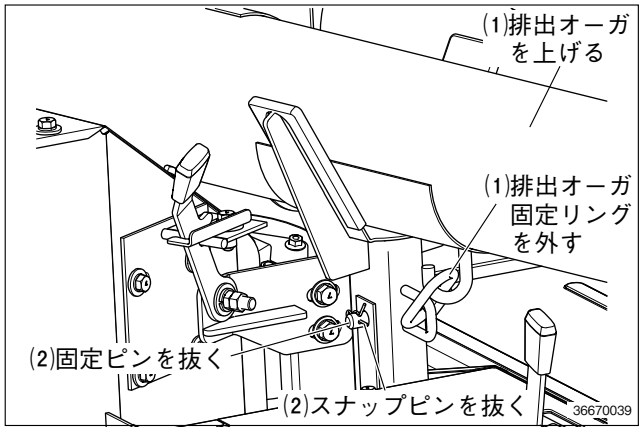
◆刈取作業時には，排出オーガを排出オーガ固定リングで固定してください。
◆路上走行時は排出オーガ受を「下セット」にして折りたたんでください。

工場出荷時に排出オーガ受は「**上セット**」で出荷されています。

(1) 排出オーガ固定リングをフックから外し排出オーガを《**上げ**》ます。

(2) 排出オーガ受をとめている固定ピンからスナップピンを抜き，固定ピンを排出オーガ受から抜きます。

「**下セット**」

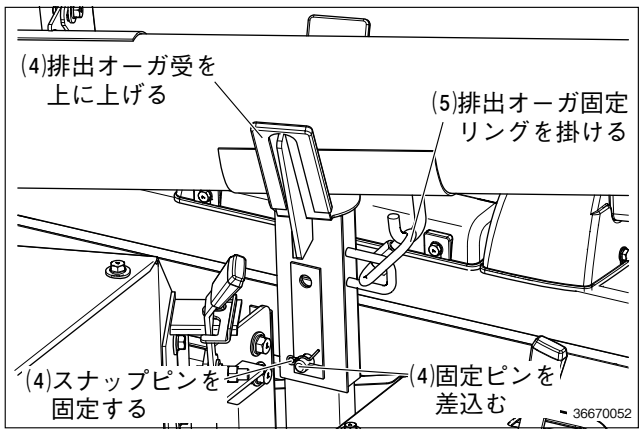


(3) 排出オーガ受「**上位置**」のセット穴に合わせます。

(4) 固定ピンを差込んで，スナップピンで止めます。

(5) 排出オーガを《**下げ**》フックに排出オーガ固定リングを掛けます。

「**出荷状態（上セット）**」



❾ 排出オーガの延長

⚠注意 傷害事故防止のために

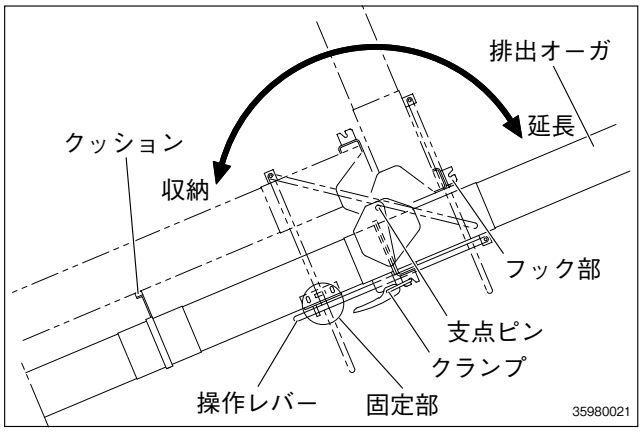
◆排出オーガの延長操作をするときは，平坦な場所に駐車し，エンジンを停止して操作し，排出オーガを固定してください。

◆排出オーガを延長するときは，連結部に手を入れないでください。

「延長のしかた」

⑴ 操作レバーを固定部より外し，支点ピンに操作レバーを掛け排出オーガを延長方向へ回します。

⑵ 操作レバーをフックに掛け直し排出オーガを回して「**延長状態**」でクランプを掛け，「**固定**」します。



「**折りたたみかた**」

・排出オーガを最上位まで上昇させて低回転で排出クラッチを《**入**》にし，残留こく粒を下降させた後，排出オーガを収納して「**延長と逆順**」に行います。

⑴ クランプを「**解除**」し，操作レバーをフックにて掛け排出オーガを収納方向へ回します。

⑵ 操作レバーをフックから外し手前に引き，排出オーガがクッションと接触したことを確認します。

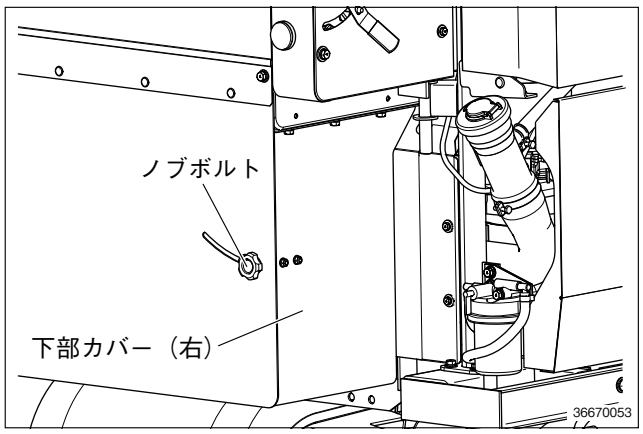
⑶ 操作レバーを固定部に掛けて固定します。

❿ カッタ下部カバーの調整

⑴ カッタ下部カバー（右）のノブボルトをゆるめ下部カバーを開閉します。

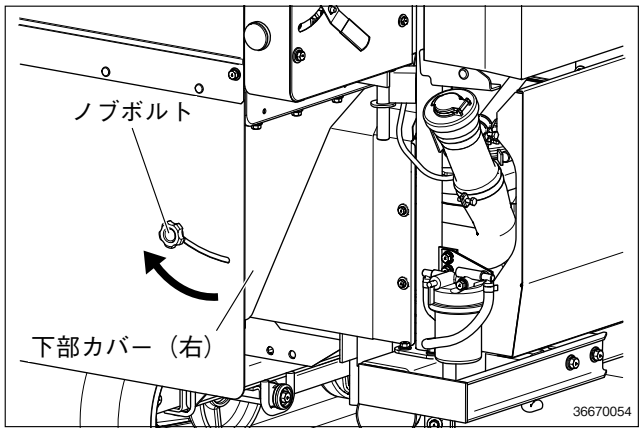
［**下部カバー（右）通常作業状態**］

・通常の作業時はこの位置にセットします。



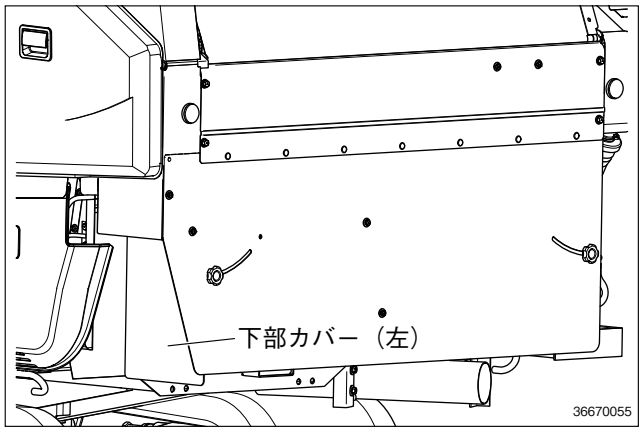
［**下部カバー（右）ワラよせ状態**］

・ワラを少し左側によせたいときに，この位置にセットします。



［**下部カバー（左）通常作業状態**］

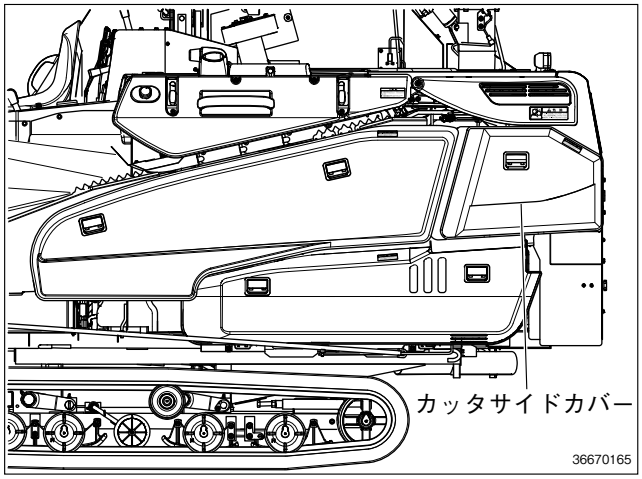
・通常の作業時はこの位置にセットします。

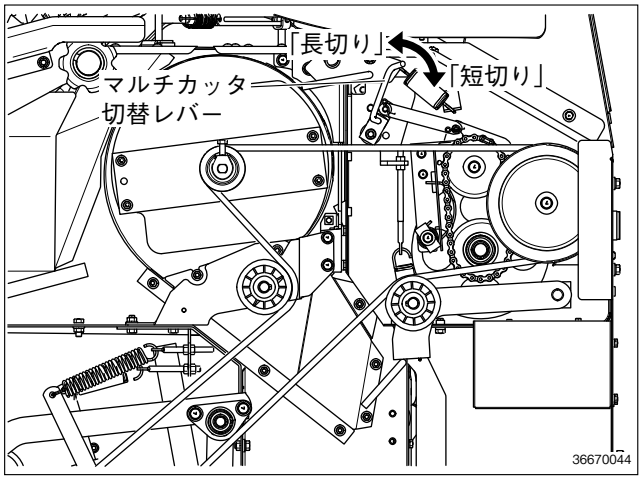


⓫ マルチカッタ切替レバーの調節

「**カッタ**」作業の場合は「**切ワラ長さ**」をマルチカッタ切替レバーで「**長切り**」「**短切り**」の２段階に調節します。(66～67ページ参照)

・カッタサイドカバーを外すと，マルチカッタ切替レバーが見えます。





⑴ レバーを引くことで，マルチカッタ切替レバーが穴から抜け，長切り，または短切りの位置に切替えます。

⑵ 回動後はレバーを押し戻し，確実に差し込んでください。

⑶ 切替後はカッタサイドカバーを取付けてください。

2．刈取り作業のしかた

麦刈り作業時の調整のしかたは67ページを参照してください。

各自動装置の取扱いは **自動装置について** の項を参照します。

1．刈取り操作の手順

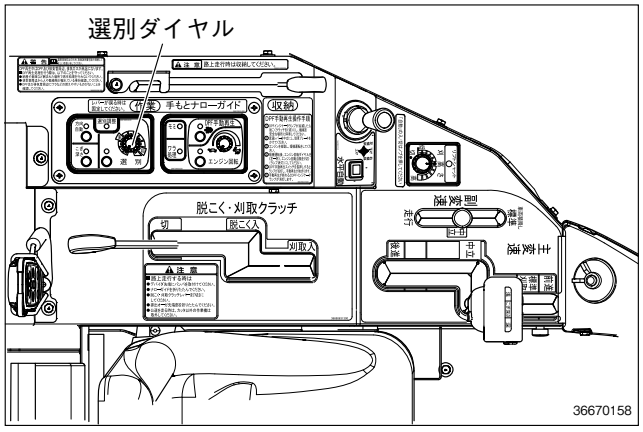
⚠警告 傷害事故防止のために

◆刈取り作業をするときは，周囲を確認し，機械に人を近づけないでください。

◆作業中に走行クラッチペダルを踏んで停止したときは，主変速レバーを低速から順次速度を上げてください。

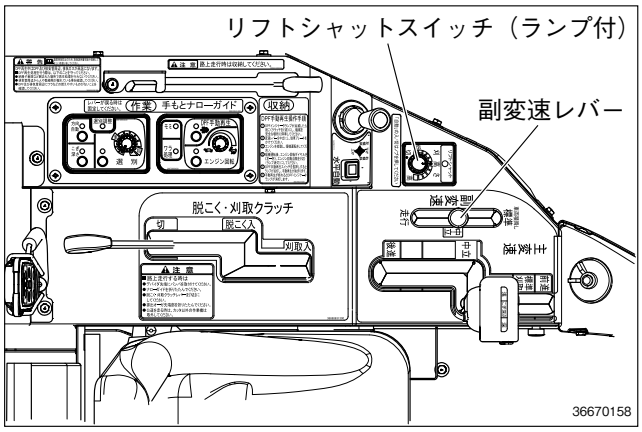
❶ エンジンを始動し，各自動スイッチが点灯していることを確認します。使用したい自動スイッチが消灯している場合は，スイッチを押して点灯させます。

❷ 選別ダイヤルを刈取る作物に合った位置にセットします。



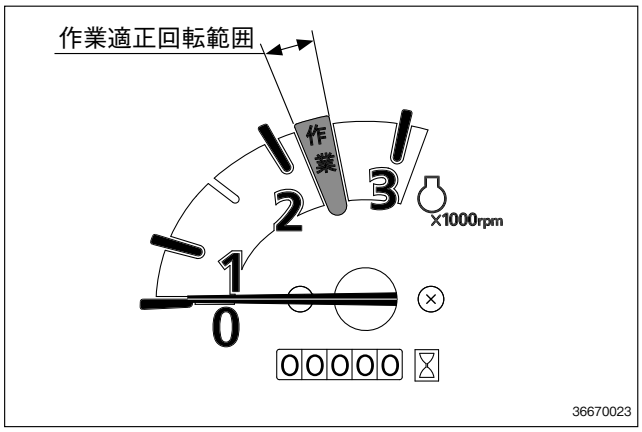
・選別ダイヤルのセット方法は，「**選別自動制御の取扱い**」の項74～75ページを参照してください。各自動装置の取扱いは68～75ページを参照します。

❸ リフトシャットスイッチを作業に応じて《**入**》，または《**切**》にします。



❹ 副変速レバーを《**標準**》にセットします。（49ページ参照）

❺ エンジン回転自動《**入**》のときは，脱こく・刈取クラッチレバーを《**刈取 入**》位置にするとエンジン回転が「**作業適正回転範囲の上限**」に自動的にセットされます。



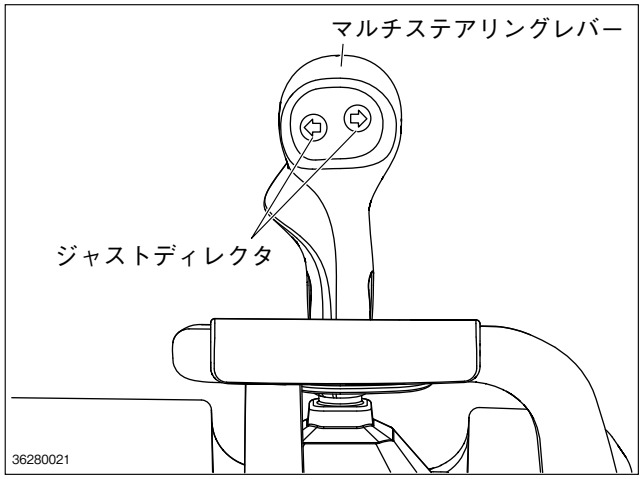
取扱いのポイント

- **刈取り作業中は，「作業適正回転範囲」内に常時指針があるように，主変速レバーとエンジン回転ダイヤルで作業速度を調整してください。**
- **規定の回転より低いと，こぎ残しが多くなったり，脱こく内部にこく粒が詰まったりすることがあります。**
  また，回転が高すぎると，こく粒が損傷したり飛散が多くなることがあります。
- **脱こく・刈取クラッチレバーを《脱こく 入》位置にすると，脱こく部が回転すると同時に脱こくフィードチェン搬送が一定速（手こぎ）回転となります。**
- **脱こく・刈取クラッチレバーを《刈取 入》位置にすると，刈取搬送と脱こくフィードチェン搬送が車速に同調した回転速度となります。（走行停止状態では刈取搬送および脱こくフィードチェン搬送は停止します）**

❻ 最初は低速で発進し，刈取り条件に合わせ，主変速レバーで適正な速度を選びます。（49ページ参照）

❼ 方向修正は，マルチステアリングレバーまたはジャストディレクタを操作して行います。

・方向自動制御を使用する場合は，「**方向自動制御の取扱い**」の項70～71ページを参照してください。［**ディーラーオプション**］

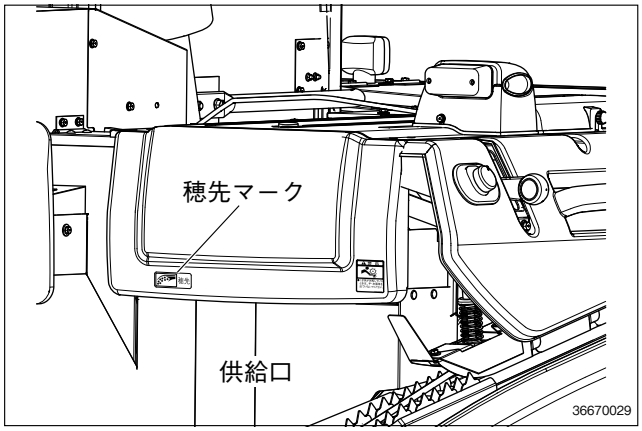


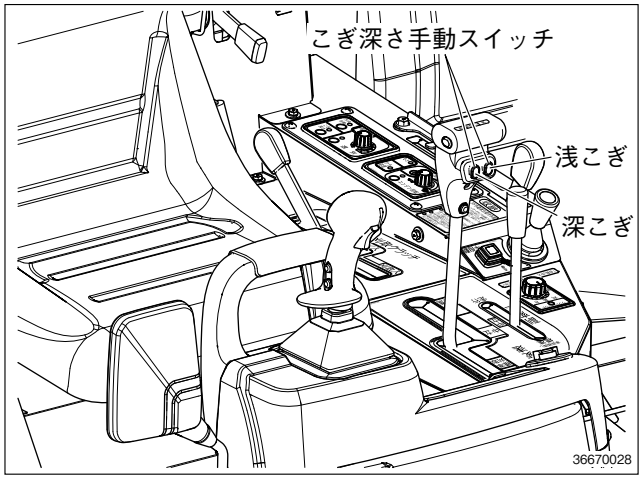
取扱いのポイント

- **ジャストディレクタで方向修正を行うとスムーズに行えます。**

❽ **適正こぎ深さの調整**

作物が脱こく供給口に搬送され始めたら，作物の穂先が「**穂先マーク**」の位置になるようにこぎ深さ手動スイッチで調整します。





取扱いのポイント

- **こぎ深さ自動制御は，「こぎ深さ自動制御の取扱い」の項69～70ページを参考にし，適正こぎ深さになるよう調整してください。**

❾ 作業中は，回転計の指針が，「**作業適正回転範囲内**」に位置するように，主変速レバーで適正な速度に調整します。

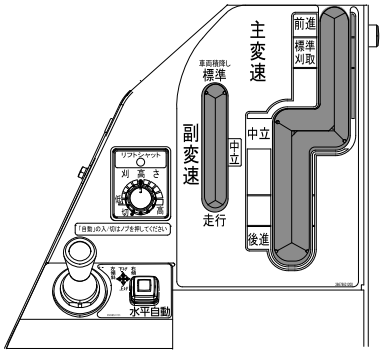
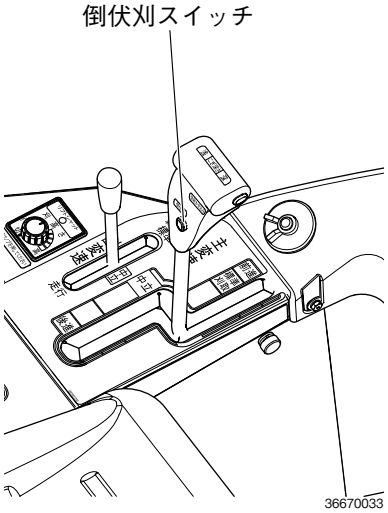
刈取り作業中，エンジン回転が下がると，エンジン回転負荷モニタの点滅と警報ブザーの断続音で異常を知らせます。主変速レバーで走行速度を下げ，適正負荷レベルにして作業を行います。（10～12ページ参照）

取扱いのポイント

- **エンジン回転負荷の警報ブザーは，ホーン・警報切ボタンを押しても鳴り止みません。走行速度を落としてエンジンの負荷を軽くすると，ブザーは鳴り止みます。**

2．作業速度の選びかた

・作業の状態など，作業内容に合わせて，副変速・主変速レバーの速度を選び，最適の状態で作業してください。

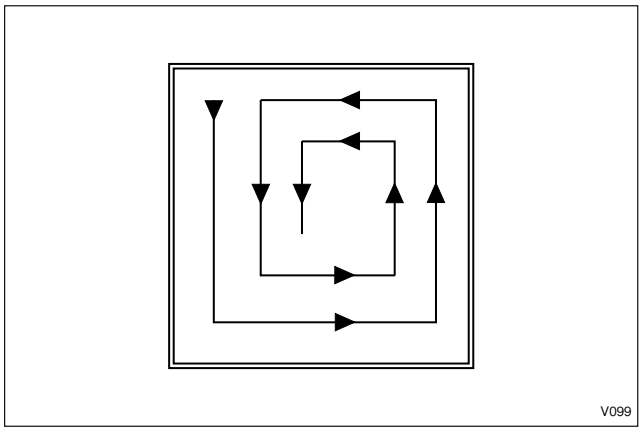
No.	使用条件 （作物の状態）	変速レバー位置			
		副変速	倒　伏 スイッチ	主　変　速	各レバー略図
①	1．直立。 2．中倒伏の場合。	標準	**《切》**	**「中立」**位置から発進してください。 **「標準刈取」**の範囲で刈取作業を作業を行い，稈の搬送状態，およびエンジンの馬力の余裕に応じて順次速度を上げてください。	 36670166 倒伏刈スイッチ  36670033
②	1．倒伏追い刈りなどで穂先が極端に遅れている場合。または整然と搬送されない場合。	標準	**《入》**		
③	1．全倒伏の場合。 2．周囲刈りで，低速作業をする場合。 3．稈のボリュームが多く，脱こく部が頻繁にゴトゴト音を発する場合。	標準	**《入》**		
④	1．脱粒しやすい品種を刈取る場合。 2．倒伏向刈りなどで株抜けや，稈の浮き上がりが目立つ場合。 3．根腐れや根付きが悪く，株抜けが発生する場合。	標準	**《切》**		
⑤	1．④の２，３の場合で穂先の遅れや稈のボリュームが多く，脱こく部がゴトゴト音を発する場合。	標準	**《入》**		
⑥	1．路上走行 2．長距離の走行	走行	**ー**		
⑦	1．積込み，積降ろし 2．あぜ越え	標準	**ー**	**「中立」**から低速，エンジン2000回転程度	
⑧	1．集中注油	中立	**ー**	**「中立」**から**「標準刈取」**	

3. ほ場の刈取り手順

❶ 回り刈り（左回り）

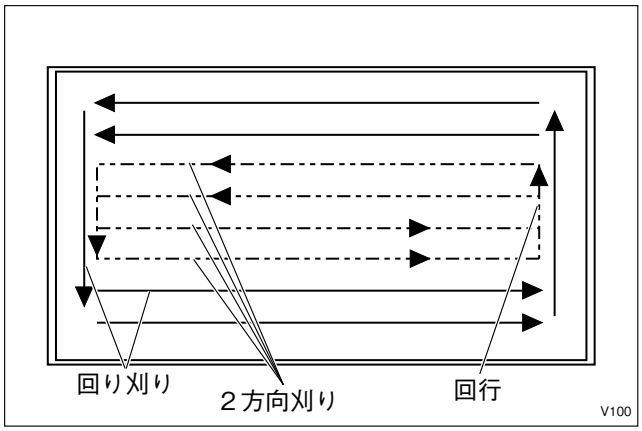
・このコンバインでの刈取りは，**「左回り刈り」**が基本です。
ほ場の形状・大きさにより，つぎのような刈取りをします。

⑴ 正方形に近いほ場



⑵ 長方形に近いほ場

・回行部分が広くなったら，長い２方向のみ刈取ると能率的です。

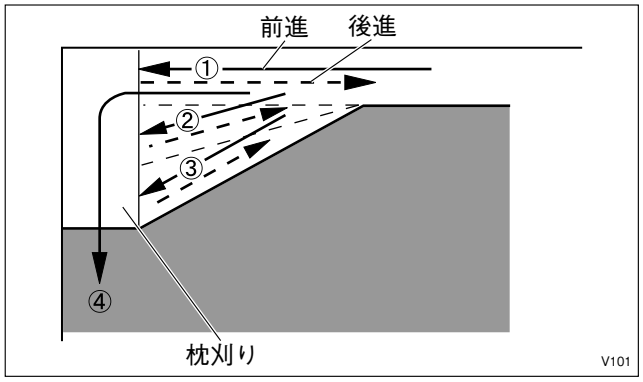


⑶ あぜ際刈り

あぜの草などにより，デバイダが見づらい場合がありますので，右デバイダをあぜに当てたり，デバイダ先端を突っ込んだりしないように刈取りします。

⑷ コーナー部の刈取り

回り刈り時機械が旋回できるコーナー部が狭い場合の刈取りは，下図のようにします。

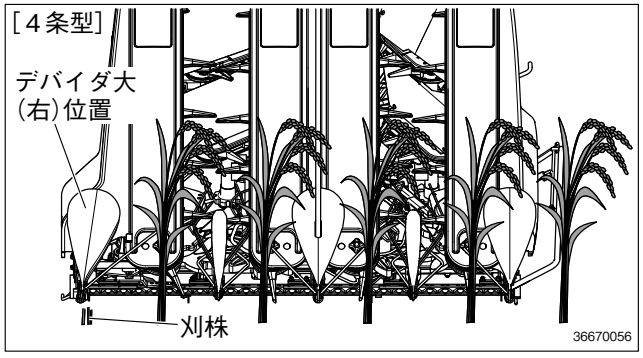


取扱いのポイント

- **コーナー部の刈取り中に方向修正しないでください。途中で方向修正すると稈が倒れ稈長が不揃いになりこぎ残しの原因になります。**
- **②③の斜め刈りで回行しにくいときや湿田では斜め刈りの回数をふやして刈取りしてください。**
- **刈り終わりから前進する余裕がないときは，刈取部を上げる前に強制かき込みスイッチを使用して稈こぼれを防ぎます。**

⑸ 条合わせ刈り

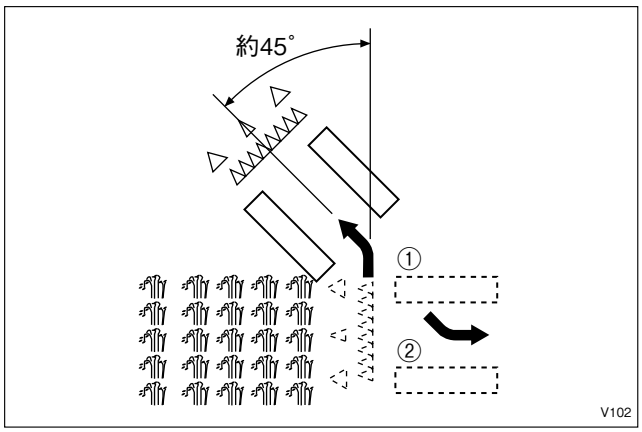
・デバイダ大（右）を基準に**「左回り」**で刈残しのないように刈取りします。





⑹ **旋回のしかた（左回り刈り）**

・刈り終わったら，刈取部を40㎝程度上げます。エンジン回転はそのままで，連続作業の状態で旋回します。（湿田では，大きく旋回します）
・左に「**約45°**」向きを変えて停止します。
・後進しながら向きをかえ，次の刈取る方向に機械が真直ぐになるように「**条合わせ**」をします。

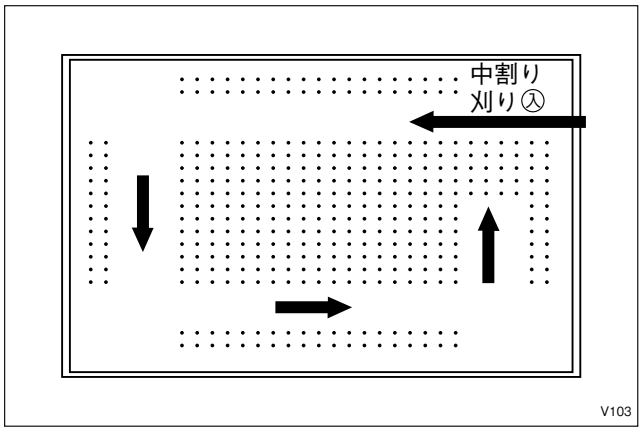


取扱いのポイント

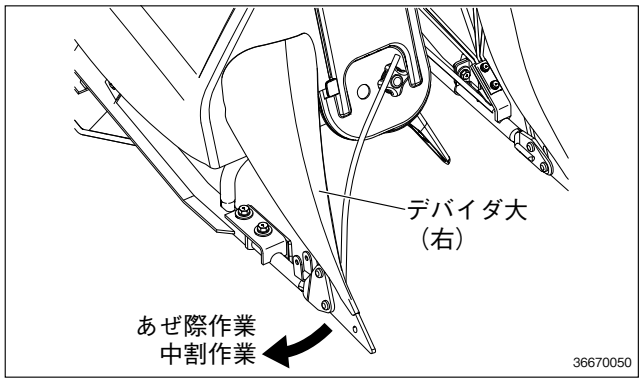
●**旋回のときには，エンジン回転を下げたり，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にしないでください。脱こく部の詰まりの原因となります。**

❷ **中割り刈り**

・あぜ際刈りや，ほ場の状態により部分的に刈取りするとき，「**中割り刈り**」をします。
・中割り刈りは，《**標準刈取**》よりやや「**低速**」で行います。



⑴ デバイダ大（右）を，あぜ際作業，中割作業位置にセットします。



⑵ デバイダ大（右）を，刈取りする株元の右側に合わせ，刈取ります。

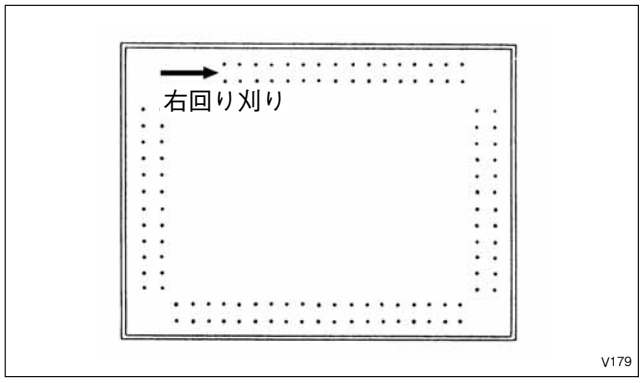
❸ **４条型の右回り刈り**

⑴ 回りのあぜが高く，あぜ際まで植付けされているときは，あぜ際４条を残し「**中割り・左回り**」で刈取りをします。
⑵ 残した４条を最後に「**右回り**」で刈取ります。
⑶ あぜ際を「**右回り刈り**」するときは，「**ナローガイド（左）**」を収納し，「**デバイダ（左）**」をあぜに突込まないようにします。

❹ **３条型の右回り刈り**

まわりのあぜが高く左回り刈りできないときは，右回りであぜ際を刈取ります。

⑴ 回りのあぜが高くあぜ際まで植付けされているときは，あぜ際３条を残し「**中割・左回り**」で刈取りをします。
⑵ 残した３条を最後に「**右回り**」で刈取ります。
⑶ あぜ際を「**右回り刈り**」するときはを「**ナローガイド左**」を収納し「**デバイダ左**」をあぜに突っ込まないようにします。

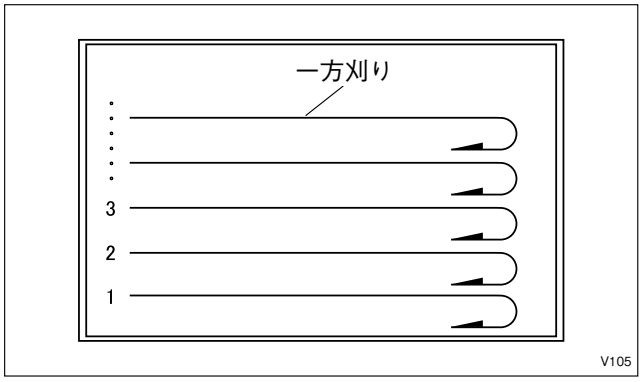


取扱いのポイント

- **ほ場の状態によっては，最初にあぜ際を「右回り」で刈取り，次から正常な「左回り」で刈取りするのが良い場合もあります。**
- **あぜがコンクリートの場合はあぜでクローラを傷めることがありますので，左回り刈りで外側を［４条型］は４条，［３条型］は３条残して刈取り,最後に右回りで外側を［４条型］は４条，［３条型］は３条刈取ります。**

❺ 倒伏作物の刈取り

・倒伏した作物は，状態にあわせて「**一方刈り**」を行います。



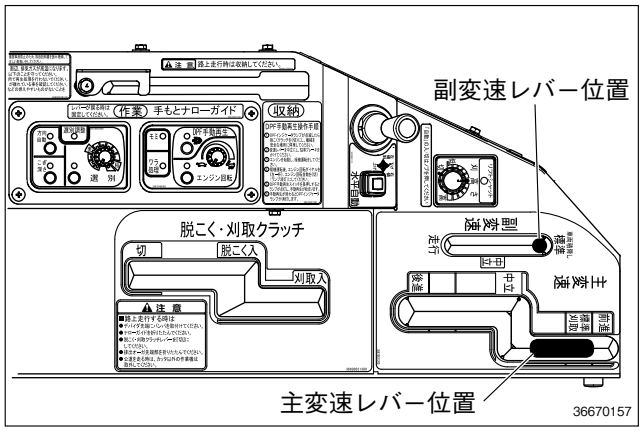
⑴ 刈取り方向

・倒伏した作物の刈取りは右の図表を参考にして行います。

1．倒伏，中倒伏の場合の副変速は《**標準**》で，倒伏刈スイッチは倒伏している場所でのみ《**入**》にして刈取作業を行ってください。

※中倒伏および倒伏とも，主変速レバーは，《**標準刈取**》の範囲で使用してください。搬送姿勢が安定した刈取作業ができます。

2．②右倒伏刈りが困難なときは，「**④左倒伏刈りまたは・③追い刈り**」となるように「**一方刈り**」をします。



［方向自動を使用しないとき］

刈取り方向＼倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
① ③ ② ④	①向い刈り	×	△	○
	②右倒伏刈り	×	○	○
	③追い刈り	△	○	○
	④左倒伏刈り	△	○	○

○ 刈取り可能
× 刈取り不可能
△ 走行速度を落として刈取り可能

［方向自動で刈取りするとき］［ディーラーオプション］

刈取り方向＼倒伏程度		倒伏	中倒伏	立毛状態
① ③ ② ④	①向い刈り	×	×	○
	②右倒伏刈り	×	○	○
	③追い刈り	×	○	○
	④左倒伏刈り	×	○	○

○ 刈取り可能
× 刈取り不可能（倒伏刈取りできません）

⑵ スーパーデバイダ（別売り）

スーパーデバイダは稲の倒伏方向が一定でないとき（右倒伏・向い倒伏刈りとなるとき），倒伏材の引起し性能をさらにアップさせます。

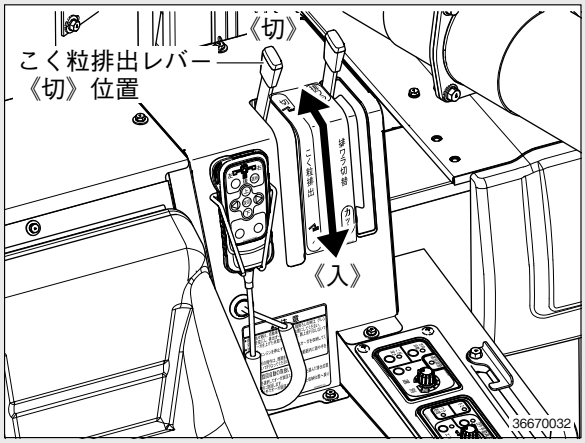
取扱いのポイント

- **倒伏した作物を刈取るときは，引起し爪が最も下がった状態（地面に近い位置）で作用するようにデバイダを調整してください。**
- **デバイダ先端が土に突込まないようにしてください。**
  土に突っ込むと株の引抜きが発生し，詰まりの原因となります。
- **クローラで穂先を踏まないようにしてください。脱こく部の詰まりなどの不具合につながることがあります。**
- **倒伏した作物の，中割り刈りは避けてください。**
- **倒伏した作物を刈取る際に，刈取部の速度を通常より速くしたいときは，倒伏刈スイッチを押し，ランプ点灯状態で作業してください。**

4．こく粒の排出操作方法

⚠警告 傷害事故防止のために

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしをするときは，グレンタンク内のこく粒を排出してください。
◆傾斜地でのこく粒の排出作業はしないでください。
◆排出オーガの操作は運転席から，後方を向いて周囲の安全を確認してから行ってください。
◆こく粒の排出作業をするときは，駐車ブレーキをかけて行なってください。
◆排出オーガ先端部に溜まったこく粒を取除く場合は，こく粒排出レバーを「切」にしエンジンを停止してください。



◆旋回範囲近くに障害物がある場合は，排出オーガ自動旋回スイッチを使用しないで，手動操作で排出オーガを操作してください。
◆水平自動スイッチを「切」にして，水平操作レバーで機体を一番下まで下げてから，排出作業をしてください。［L仕様］
◆作業終了後は，オーガ操作リモコンをリモコンホルダへ戻してください。

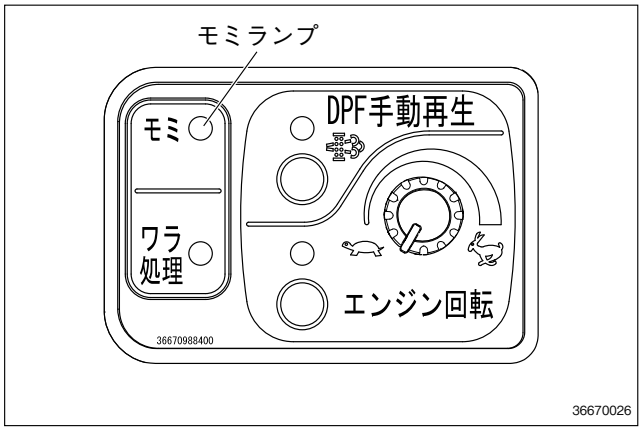
⚠注意 傷害事故防止のために

◆排出オーガの作動範囲に頭や手を近づけないでください。
◆こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定リングで固定してから行なってください。
◆排出オーガ排出口のビニールカバーは，人や物に接触したときに，相手を傷つけないように装備されています。ビニールカバーが破損したときは，直ちに「お買いあげ先」にて交換してください。
◆こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定リングで固定してから行なってください。

❶ グレンタンクのモミ警報

⑴ グレンタンクにこく粒が約60％以上充填するとフラッシャランプが点滅します。
⑵ グレンタンクにこく粒が充満すると，モミランプの「**点灯**」，「**点滅**」と警報ブザーの「**断続音**」で警報します。

⑶ 警報ブザーが鳴ったら直ちに刈取り作業を中止し，こく粒の排出を行います。
警報ブザーはホーン・警報切ボタンを押すと止まります。

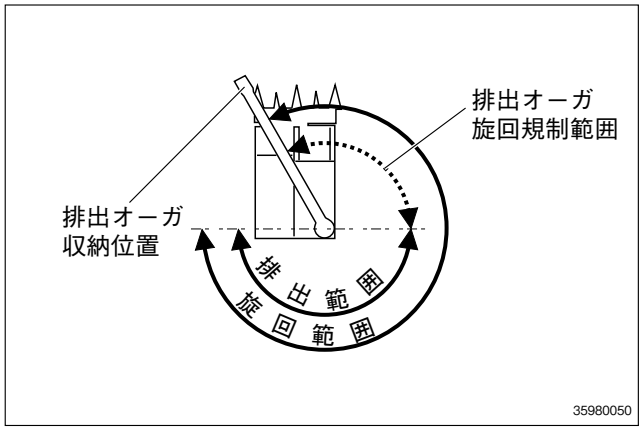


タンク充填率	状態・表示	内　容
約60％	・フラッシャランプ点滅	周囲にタンクの状況を知らせます。（こく粒排出時期が近づいています）
約80％	・フラッシャランプ点滅 ・モミランプ点灯 ・ホーン断続音の断続（５秒後ブザー断続音）	こく粒を排出してください。 ホーン・警報切ボタン押すと警報音が停止します。
約100％	・フラッシャランプ点滅 ・モミランプ点滅 ・ホーン断続音の連続（エンジン停止後ブザー連続音） ・エンジン停止	すぐに作業を中止してこく粒を排出してください。（脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にするとエンジン始動ができます）

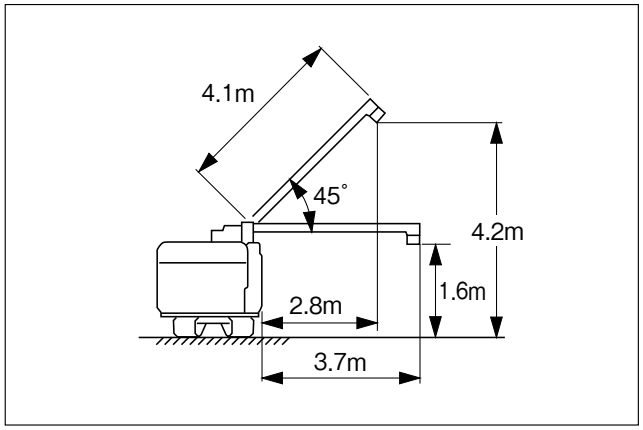
取扱いのポイント

●警報ブザーが鳴ったあと，そのまま作業を続けオーバーフローセンサが作動するとエンジンが停止します。脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にしないとエンジンの再始動ができません。

❷ こく粒排出位置まで移動し，平坦な場所を選び，主変速レバーを《**中立**》位置にし，駐車ブレーキをかけて機械を停止します。

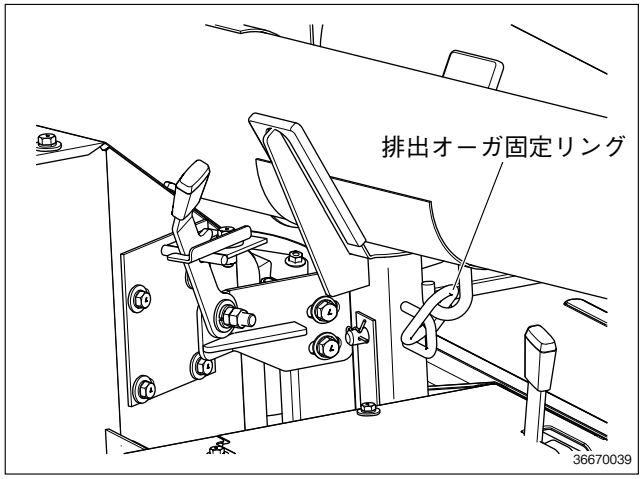


「排出オーガ高さと距離」



❸ **こく粒排出操作手順**

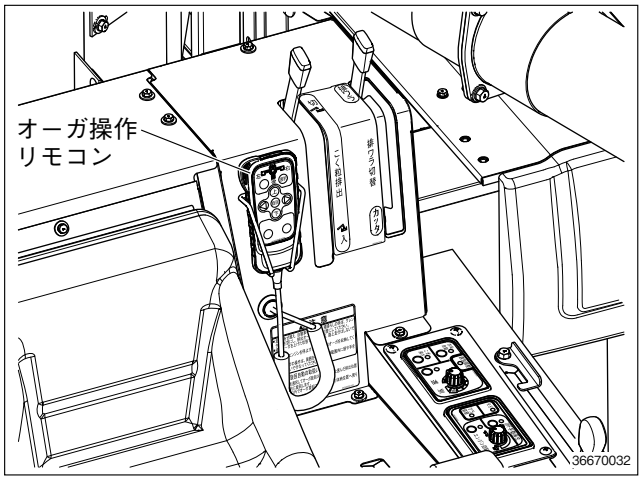
⑴ **排出オーガ固定リングを外す。**

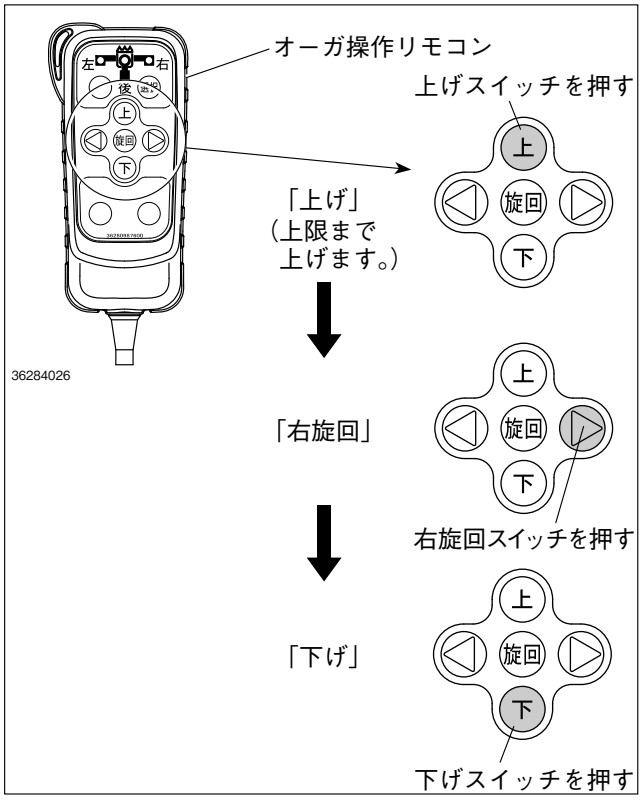


(2) こく粒排出オーガの先端部を排出位置にセットする。

位置セットする場合，**「手動」**と**「自動」**の二通りの操作が可能です。

手動操作のとき





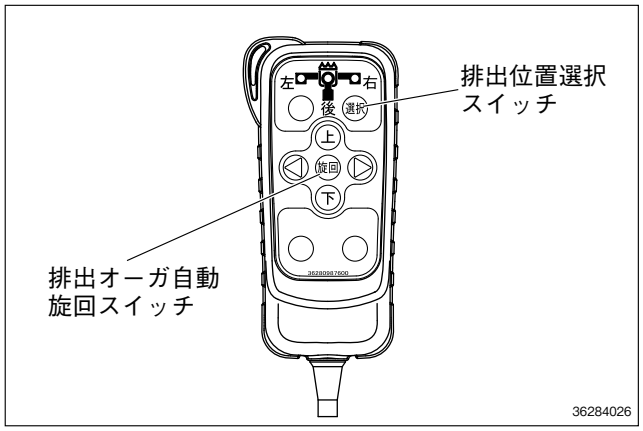
自動操作のとき ［排出時］

・排出位置選択スイッチにて排出位置を設定する。

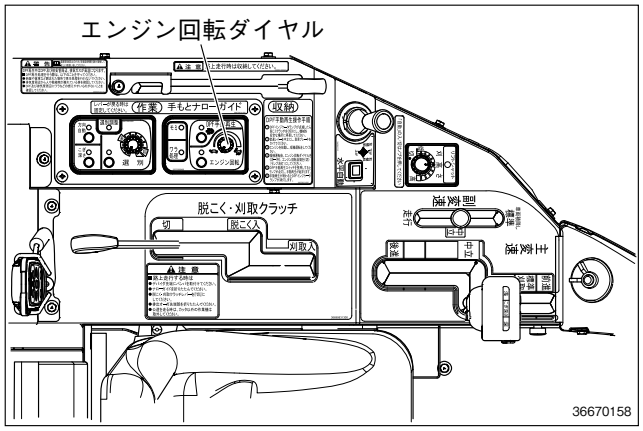
・排出オーガ自動旋回スイッチを**「押」**す。

……自動旋回開始

→ 設定した位置で停止→手動で高さを合わせる

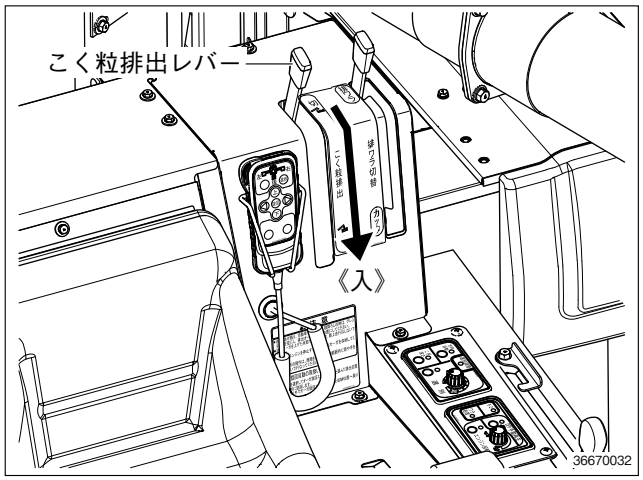


(3) こく粒を排出する場合は，エンジン回転を回転計の「色別表示」に合わせて行なってください。(詳細は68ページ参照)



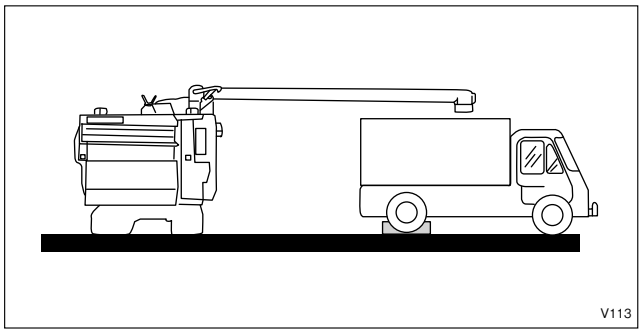
(4) こく粒排出レバーを「入」にする。

……こく粒排出開始



⑸ こく粒排出レバーを「切」にする。

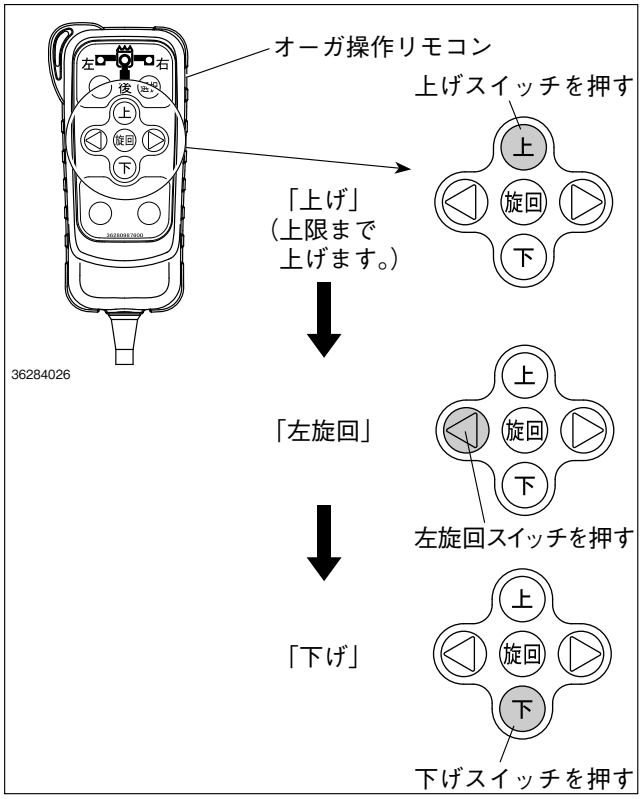
……こく粒排出終了



⑹ こく粒排出オーガを収納する。

収納する場合,「手動」「自動」の二通りの操作が可能です。

手動操作のとき



自動操作のとき ［収納時］

・排出オーガ自動旋回スイッチを「押」す。

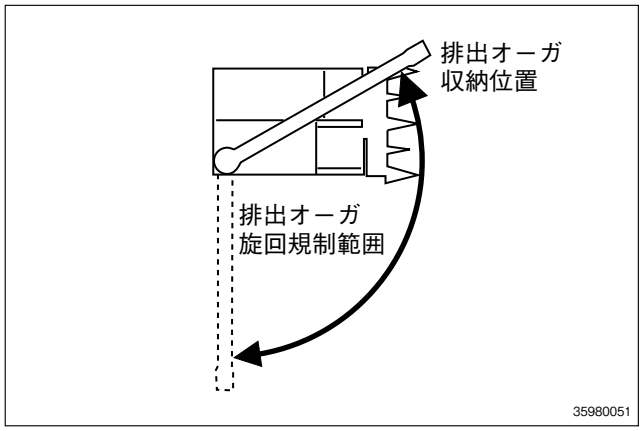
……自動収納開始

→ 収納位置で停止→自動収納終了

⑺ 排出オーガ固定リングをフック部にかける。

取扱いのポイント

- こく粒の排出は，排出オーガの先端部をこく粒で塞がないようにして，排出位置を変えながら行ってください。
- 排出位置の変更は，機械を止めた状態で，排出オーガを少しずつ回動させて行ってください。
- 機械が傾いた状態では，オーガの旋回が遅くなったり，旋回ができなくなったり（サーキットブレーカ作動）します。また，自動収納時，排出オーガ受けに納まらない場合がありますので旋回操作は平坦な場所で操作してください。
- 排出オーガは手で押して動かさないでください。故障の原因になります。
- 排出オーガ旋回規制範囲では，排出オーガを最上げ状態にしなければ旋回できません。
  また，この範囲内では，排出オーガの下降はできません。



5．グレンタンク補助樋口の取扱い

故障などにより，グレンタンク内のこく粒が排出不可能になったときに使用します。樋口はグレンタンク下部カバーを取外すと，その内側にあります。

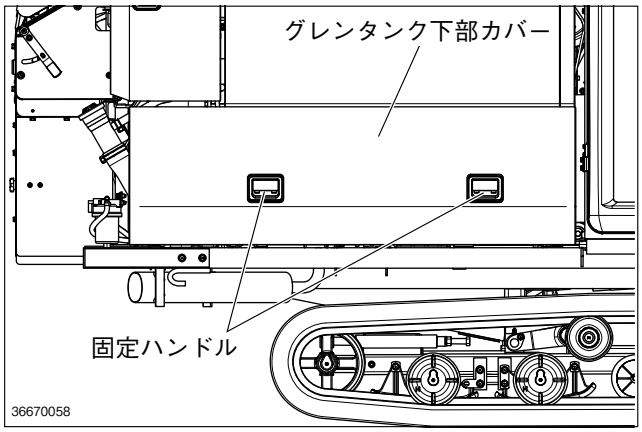
⚠警告 傷害事故防止のために

◆補助樋口からこく粒を取り出すときは，エンジンを停止してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

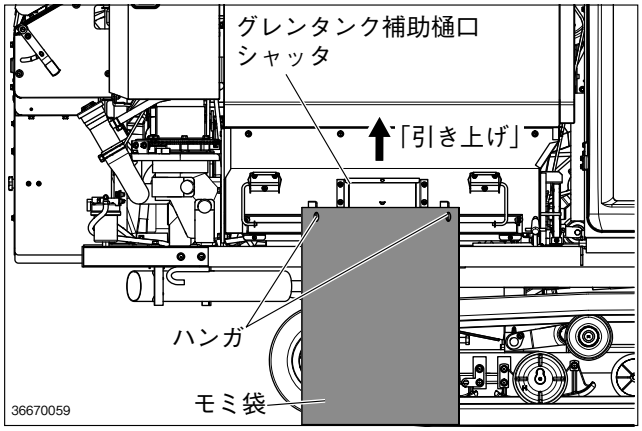
◆カバーを取外したままで使用すると，ケガをする恐れがありますので，取付けて使用してください。

❶ グレンタンク下部カバー固定ハンドルのロックを解除して，下部カバーを外します。



❷ ハンガにモミ袋をかけます。

❸ シャッタを引き上げ，タンク内のこく粒をモミ袋に取出します。



❹ こく粒の取出しが終了したら，シャッタを閉め，グレンタンク下部カバーを取付けます。

6．ニューツインハーモニー

⚠警告 傷害事故防止のために

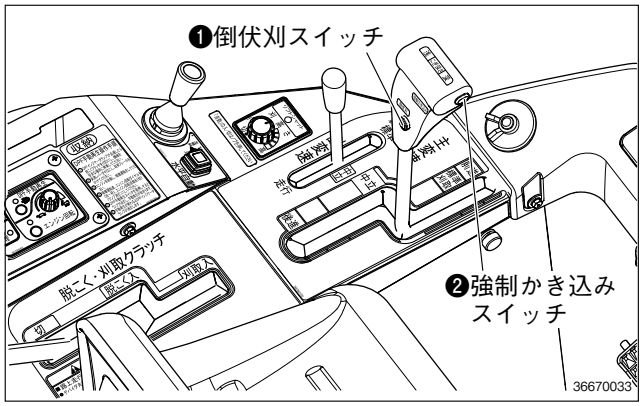
◆詰まりなどの異常が発生したときに，詰まったワラクズなどを取除く場合や，搬送部の点検をする場合には，刈取搬送，フィードチェンが突然回転する恐れがあります。脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にしてからエンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。

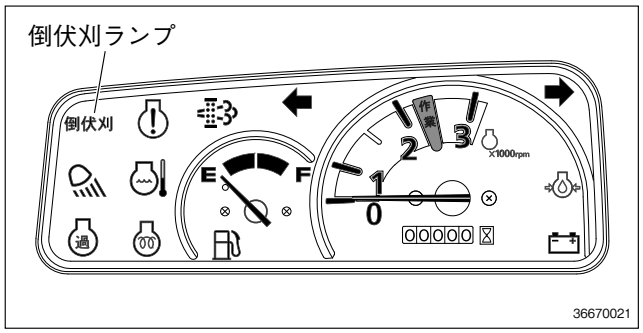
◆脱こく・刈取クラッチレバーが《脱こく 入》位置でフィードチェンが回転しているときに脱こく・刈取クラッチレバーの《刈取 入》操作を行うと，刈取搬送がわずかの間作動する場合があります。

◆強制かき込みスイッチの操作は，周囲の安全を確かめてから行ってください。

・刈取速度に応じて，刈取搬送，脱こくフィードチェンの搬送速度を同調制御します。

・手こぎ作業時および，強制かき込み作動中は刈取搬送，脱こくフィードチェンは一定速で回転します。





❶ 倒伏刈スイッチ

「入」……押すと倒伏刈ランプが点灯し，刈取搬送，脱こくフィードチェンの搬送速度が通常より速くなります。

「切」……再度押すと通常の状態に戻ります。

❷ 強制かき込みスイッチ

脱こく・刈取クラッチレバー《刈取 入》位置のときに，走行停止状態または後進時に押している間，刈取搬送，脱こくフィードチェンが作動します。

取扱いのポイント

- **脱こく・刈取クラッチレバーを《脱こく 入》位置にすると，脱こく部が回転すると同時に脱こくフィードチェン搬送が一定速（手こぎ）回転となります。**
- **脱こく・刈取クラッチレバーを《刈取 入》位置にすると，刈取搬送と脱こくフィードチェン搬送が車速に同調した回転速度となります。走行停止状態では刈取部および脱こくフィードチェン搬送は停止します。**
- **刈取作業中は強制かき込みスイッチを操作しないでください。搬送部の詰まりなどの原因になることがあります。**
- **ほ場端などでの刈り上げの際は，刈取部を上げる前に強制かき込みスイッチを使用して稈こぼれを防ぎます。**
- **ほ場進入（機体前傾）時，強制かき込みスイッチを押しながら刈取りすると，搬送がスムーズに行えます。**

7. リフトシャットの取扱い

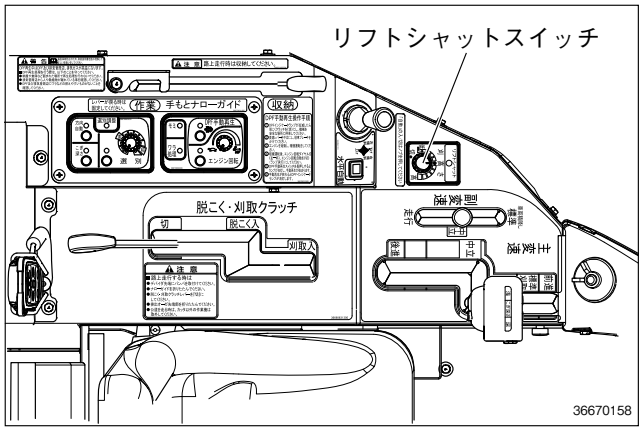
⚠警告 傷害事故防止のために

◆リフトシャットスイッチを《入》にして脱こく・刈取クラッチが入っていると，刈取部を下げたときは，刈取部，脱こくフィードチェンが回転します。刈取部，脱こく部に近づかないでください。

◆リフトシャットが作動し，刈取部，脱こくフィードチェンが停止していても，強制かき込みスイッチを押せば，刈取部，脱こくフィードチェンが回転します。強制かき込みスイッチを押すときは，周囲に人がいない事を確認してください。

リフトシャットとは，リフトシャットスイッチを《入》にして刈取部を上げると，脱こく・刈取クラッチが入った状態で自動的に刈取り搬送，脱こくフィードチェンが停止する機構です。刈取部を下げると自動的に回り始めます。

・リフトシャットスイッチを《切》にすると，リフトシャットは機能せず，刈取部の上下位置に関係なく，刈取部・脱こく搬送部は回転します。



次の場合は，リフトシャット《切》位置で使用します。

- **手刈りのしていないほ場の回り刈り作業**
- **あぜ越え直後からの刈取り作業**
- **あぜ際などを高刈りする場合**
- **湿田などで刈取部を上げた状態で作業する場合**

8. トルクリミッタの取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

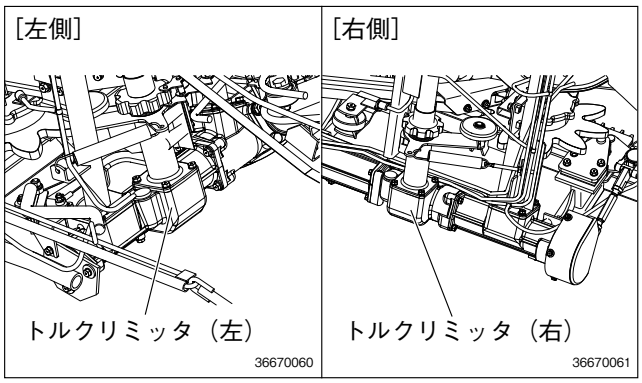
◆詰まりなどの異常が発生したときに詰まったワラクズなどを取除く場合や搬送部の点検をする場合には，平坦な場所でエンジン停止して各部の回転が止まってから行ってください。

◆刈取部を上げて掃除・点検をする場合は刈取部が下がらないように油圧固定スイッチを《油圧固定》の位置にし，油圧固定レバーをかけてください。さらに刈取部の下に「固定脚」などをかませて作業してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆詰まりを取除いて，回転確認を行う前に取外したカバーをすべて取付け，機械の周囲に人がいないことを確認し，低速回転で行ってください。

刈取り作業中に異常（詰まりなど）が発生したとき，機械の破損を未然に防ぐため，刈取部に「**トルクリミッタ**」が設けてあります。



❶ トルクリミッタの作動

	設置箇所	トルクリミッタの作動
4条型	スターホイル駆動ケース左内	・株元搬送で搬送詰まりおよび異常負荷が発生したとき
3条型	スターホイル駆動ケース右および左内	

❷ トルクリミッタの処置

⑴ 作業中，刈取部および脱こく部への搬送がスムーズに行われず，異常（詰まりなど）が発生したときは，「**トルクリミッタ**」が作動して搬送が停止します。

⑵ ただちに作業を中止し，脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》位置にし，エンジンを停止します。

⑶ エンジンを始動し，刈取部を上げ油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にし，フックをかけてください。さらに刈取部の下に「**固定脚**」をかませエンジンを停止します。詰まり箇所を掃除し，刈取搬送部を点検します。

⑷ エンジンを始動し，主変速レバーを《**中立**》，副変速レバーを《**中立**》にし，エンジン回転ダイヤルで《🐢》(**低速**) にし，脱こく・刈取クラッチレバーを《**刈取 入**》にします。主変速レバーを《**低速**》にし，搬送部が正常に回転することを確認してから作業を開始します。

取扱いのポイント

●リフトシャットが《入》の場合刈取搬送部は回らないときがあるので，リフトシャットを《切》にして，確認をします。

9. 手こぎ作業

⚠警告 傷害事故防止のために

◆手こぎ作業は機械を停止し駐車ブレーキをかけて行なってください。
●機械を走行しながらの手こぎ作業は，しないでください。
●機械をワラクズの近くに止めないでください。（火災予防）
◆脱こく・刈取クラッチレバーは，周囲の人に合図をしてから《入》にしてください。
◆手こぎ作業するときは，手袋を使用しないでください。
◆手こぎ作業は，手や衣服を脱こく供給口に入れたり，脱こくフィードチェンに触れたりしないでください。
◆手こぎ作業をするときは，そで口はきっちり止めて，はち巻き，巻きタオル，腰タオルは着用しないでください。
◆カッタの切ワラが溜まったら作業を中断し，機械を移動するか，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》にし，エンジンを停止してから，切ワラを取除いてください。

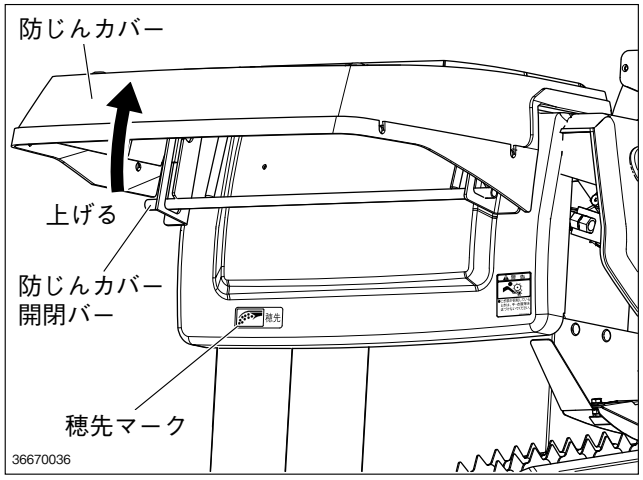
❶ 主変速レバーを《**中立**》および駐車ブレーキを《**入**》にし，走行を停止します。

❷ 脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にします。

❸ ［**L 仕様**］水平自動スイッチを「**切**」にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げます。

❹ 刈取部をいっぱいに「**下げ**」て，こぎ深さ搬送体をこぎ深さ手動スイッチ操作で「**深こぎ**」側に下げます。

❺ 防じんカバーを上方に開きます。[ディーラーオプション]



❻ 脱こく・刈取クラッチレバーを脱こく《**入**》にし，エンジン回転を「**作業適正回転範囲**」の上限にセットします。

❼ 作物の穂先を穂先マーク位置に合わせ，手こぎ作業をします。

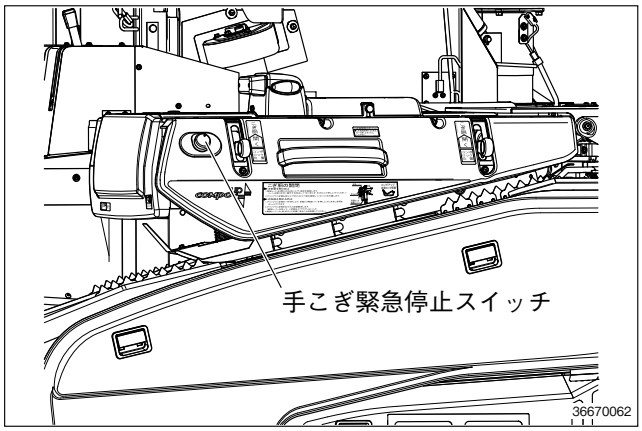
❽ 手こぎ作業が終わったら，脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にして，防じんカバー［**ディーラオプション**］を元の位置に戻し，こぎ深さ搬送体を手動スイッチで適正位置に調整します。

取扱いのポイント

●バラこぎで平均に供給します。結束した作物は供給しないでください。
●防じんカバー［ディーラオプション］を開いたままでこぎ胴部を開けると，防じんカバーが破損する恐れがありますので，元の位置に戻してください。
●脱こく・刈取クラッチレバーを《脱こく 入》位置にすると，脱こく部が回転すると同時にフィードチェン搬送が一定速（手こぎ）回転となります。
●脱こく・刈取クラッチレバーを《刈取 入》位置にすると，走行停止状態では刈取部およびフィードチェン搬送は停止します。

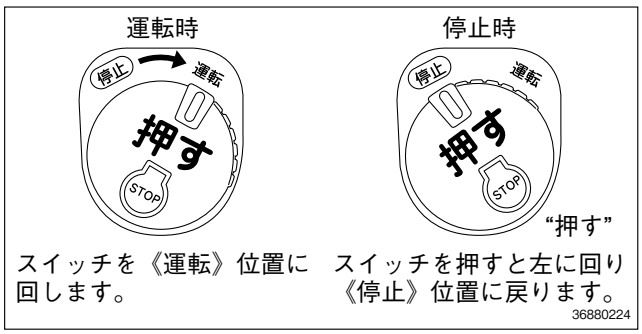
10. 手こぎ緊急停止スイッチの取扱い

脱こく・刈取クラッチレバーが《**脱こく 入**》または《**刈取 入**》のときに手こぎ緊急停止スイッチを押すと，エンジンが停止します。手こぎ作業中などに万一トラブルが発生したときは，この手こぎ緊急停止スイッチを押して，エンジンを停止します。



取扱いのポイント

- **手こぎ緊急停止スイッチでエンジンを停止したときは，手こぎ緊急停止スイッチを《運転》にした後スタータスイッチを《切》にしてください。そのまま放置するとバッテリが放電します。**
- **手こぎ緊急停止スイッチは緊急時以外は使用しないでください。**
- **手こぎ緊急スイッチが《停止》位置のままですとエンジンは始動できますが，脱こく・刈取クラッチレバーを《入》にした途端エンジンが停止します。**



11. エンジン自動停止の取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

◆詰まりなどの異常が発生しエンジンが自動停止した場合は，スタータスイッチを《切》位置にして，脱こく・刈取クラッチレバーを《切》位置にしてから，詰まりを取除いてください。

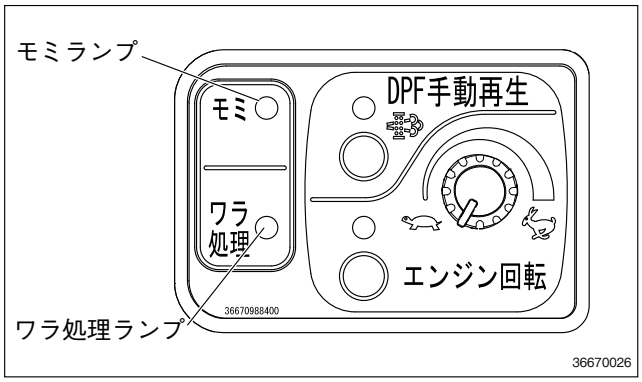
◆脱こくフィードチェンの詰まりの掃除・点検作業は，こぎ胴部を一杯持ち上げ（こぎ胴は自動ロックされます）ゆっくり手を離してロックされていることを確認してから行ってください。（113～114ページ参照）

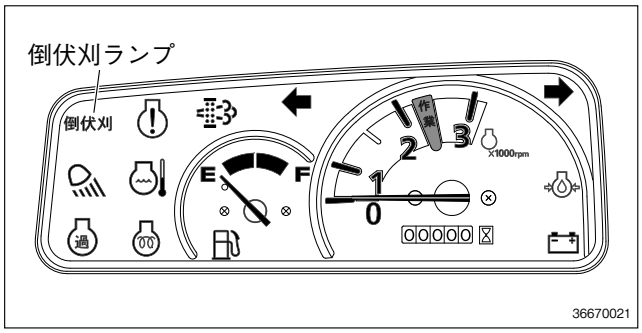
◆排ワラチェン詰まりやカッタ詰まりの掃除・点検作業は，カッタを開きストッパをかけてから行ってください。（115ページ参照）

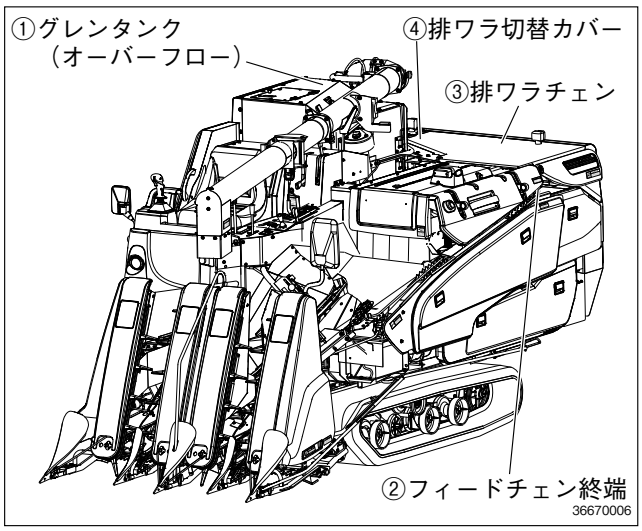
◆詰まりを取除いて回転確認を行う前に，全てのカバーを取付けて，こぎ胴部を閉め機械の周囲に人がいないことを確認してから，低速で回転確認を行ってください。

刈取り作業中に異常（詰まりなど）が発生したときは，機械の破損や変形を未然に防ぐため，次の箇所のセンサが作動して，警報ブザーが鳴り，ワラ処理ランプまたはモミランプが点灯あるいは，倒伏刈ランプが点滅してエンジンが自動停止します。

No.	センサ設置部	停止条件	センサ名
①	グレンタンク	オーバーフロー	オーバーフローセンサ
②	脱こくフィードチェン終端	詰まり	排ワラセンサ（脱こくフィードチェン）
③	排ワラチェン終端	詰まり	排ワラセンサ（排ワラチェン）
④	排ワラ切替カバー	オープン	カバーセンサ







❶ エンジンが停止したら，スタータスイッチを《**切**》位置にして，脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》位置にしてから詰まりやオーバーフローを取除きます。

❷ 詰まりを取除き，副変速レバーを《**中立**》にして，走行クラッチペダルをいっぱい踏み込んでエンジンを始動します。エンジン回転ダイヤルで《🐢》(**低速**）にし，脱こく・刈取りクラッチレバーを《**刈取 入**》位置にして，主変速レバーを《**前進**》に操作し，搬送部が正常に回ることを確認してから作業を開始します。

取扱いのポイント

- こぎ胴を閉じるときは，脱こくフィードチェン，排ワラチェン部のワラを取除いてから行ってください。
- リフトシャットが《入》の場合刈取搬送部は回らないときがあるので，リフトシャットを《切》にして，確認をします。

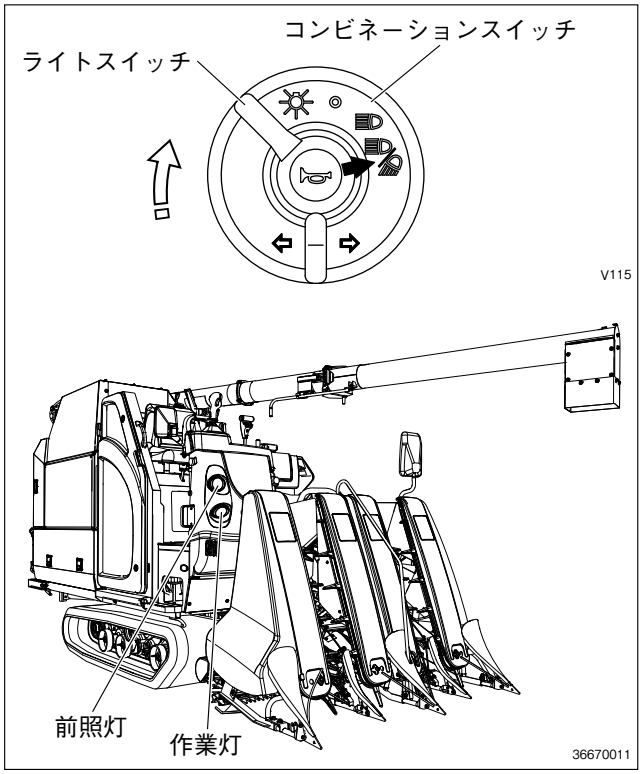
12. 夜間作業

⚠警告 傷害事故防止のために

◆夜間作業を行うときは，前照灯，作業灯を点灯してください。
◆作業灯電源を他の電源に使用しないでください。
◆路上走行するときは，作業灯を消灯してください。

コンビネーションスイッチのライトスイッチで，前照灯と作業灯を点灯または消灯します。

❶ ライトスイッチを１段回すと前照灯が点灯し，２段回すと作業灯も点灯します。



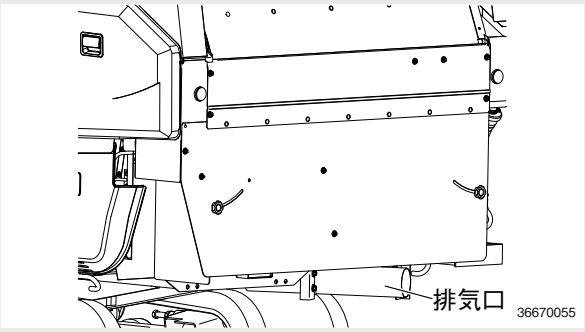
取扱いのポイント

●アタッチメント部品（別売り）として，以下３点の作業灯を準備致しておりますのでご利用ください。
① 脱こく入口部
② 刈取部左引起し上部
③ オーガ先端部

13. 刈取り作業終了後の取扱い

⚠警告 火災防止のために

◆機械をワラクズの溜まった近くに止めないでください。マフラ排気口にワラクズが触れ火災になることがあります。
◆シートカバーをかけるときは，エンジンが冷えてから行ってください。
◆エンジン，排気口，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズなどを掃除してください。



❶ 平坦な場所で主変速レバーを《**中立**》の位置にします。
❷ 脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》の位置にします。
❸ 駐車ブレーキをかけます。
❹ エンジン回転ダイヤルで《🐢》(**低速**）の位置に戻してしばらく空運転をし，エンジン温度を下げてから，副変速レバーを《**標準**》に入れて停止します。
❺ 作業後の手入れ
・機械をきれいに洗車し，各回転部・摺動部に注油します。

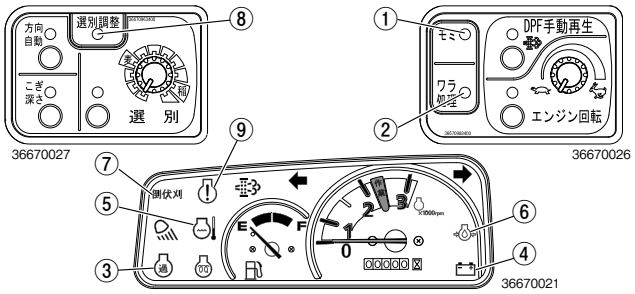
取扱いのポイント

●脱こく・刈取クラッチレバーは，脱こく内部のワラクズなどがきれいに排出されるまで空運転してから《切》にします。
●水洗いするときは，エンジン回り，電気配線部，マイコン装着部，運転パネル部および脱こく内部には水をかけないでください。故障の原因となります。

14. 警報装置について

つぎの箇所に異常が発生した場合は，インジケータランプの点灯，警報ブザー，エンジン停止などで警告します。

異常箇所を確認して，つぎの処置を行います。



	名称	現象	警告の方法			解除方法	点検と処置	参照ページ
			警報ランプ	ホーン	エンジン			
①	モミ	満杯	点灯	断続音の断続 ※	−	ホーン・警報切ボタン「**押す**」または脱こく・刈取クラッチレバー《**切**》	こく粒が満杯になっていますので，こく粒を排出します。	11 53〜56
		オーバーフロー	点滅	断続音の連続 ※	停止	脱こく・刈取クラッチレバー《**切**》		
②	ワラ処理	脱こくフィードチェン詰まり	点灯	連続 ※	停止	脱こく・刈取クラッチレバー《**切**》	脱こくフィードチェンにワラが詰まっていますので取除きます。	11
		排ワラ詰まり					排ワラチェンにワラが詰まっていますので取除きます。	113〜114
		排ワラ切替カバー（後方に開いた状態）					排ワラ切替カバーを閉め，作業状態（カッタまたはドロッパ）とします。	116
		ノッタひも切れ	点滅	連続	−		ノッタの結束ひもが切れているか，なくなっていますので点検します。	**ノッタの取説参照**
③	負荷モニタ	エンジン回転が下がる	点滅	断続	−	走行速度を下げる	走行速度を下げてエンジンの過負荷をなくします。	9，15
④	充電	充電不足	点灯	−	−	スタータスイッチ《**切**》	・スタータスイッチ《**入**》で点灯し，エンジンが始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯はバッテリへ充電されていませんので，エンジンを止め，ファンベルトなどを点検します。	10，142
⑤	水温	オーバーヒート	点灯	連続音「**低速運転**」中は断続 ※	−	水温が下がるまでエンジンを「**低速運転**」	・エンジンの冷却水温度が異常に上昇（オーバーヒート）しています。作業を中止し，エンジンを低速運転し，温度を下げます。その後，エンジンを停止し，ラジエータ吸気部，ファンベルトの張り，冷却水（補助タンク）の水量などを点検します。	8 86〜87 96 142
⑥	オイル	エンジンオイル量不足	点灯	−	−	スタータスイッチ《**切**》	・スタータスイッチ《**入**》で点灯し，エンジンが始動すると消えるのが正常です。 ・運転中の点灯は，エンジンオイル量を点検して補給します。	10
⑦	倒伏刈	刈取部またはフィードチェン部の詰まり	点滅	断続	停止	脱こく・刈取クラッチレバー《**切**》	・刈取部またはフィードチェン部にワラが詰まっていますので取除きます。 ・ＨＳＴ駆動モータ，ＨＳＴ回転センサの配線接続部外れがないか点検してください。	9
⑧	選別調整	選別部の過負荷	点滅	断続	−	−	作業速度を下げるか，選別ダイヤルを「**開**」側に回します。	15〜16
⑨	エンジン異常	エンジン異常	点灯	−	故障状態による	スタータスイッチ《**切**》	・スタータスイッチ《入》で点灯し，エンジンが始動すると消えるのが正常です。 ・点灯時はＰ９を参照し処置を行ってください。	9

※ホーンがブザー音に切替ります。

その他ランプあるいは自動スイッチランプが点滅するときには「**お買いあげ先**」で点検を受けてください。

3．ワラ処理部の取扱い

⚠警告　傷害事故防止のために

◆回転部にワラなどの巻付きが発生したり，異物が混入したりしたときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから，カッタを開き，ストッパをかけてワラなどを取除いてください。

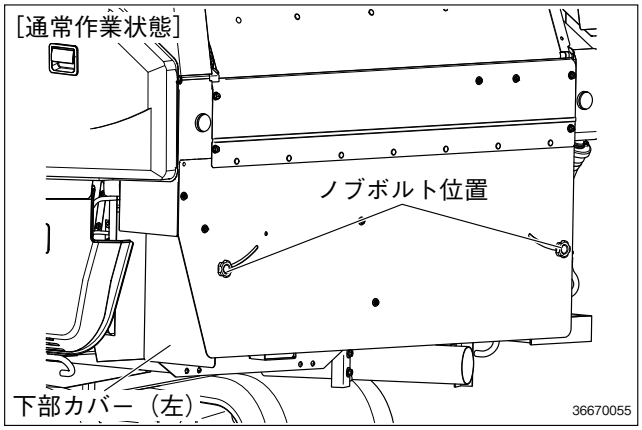
◆巻付きなどを取除くときは，カマなどを使用し，手ではカッタ刃に触れないでください。

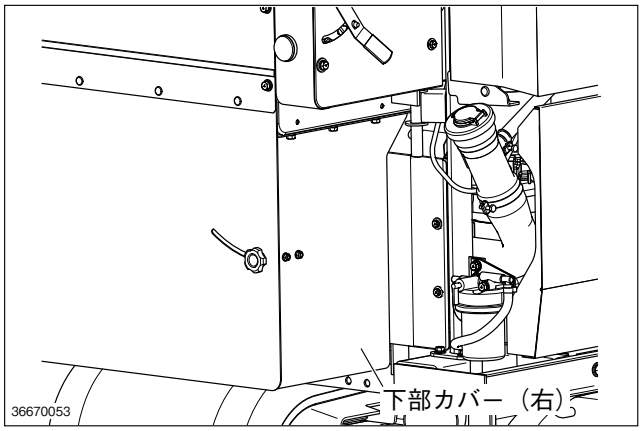
取扱いのポイント

- **排ワラ切替レバー操作は搬送通路のワラを完全に排出してから行います。**
- **脱こく作業中の切替え操作はしないでください。詰まりの原因となります。**

1．カッタ作業

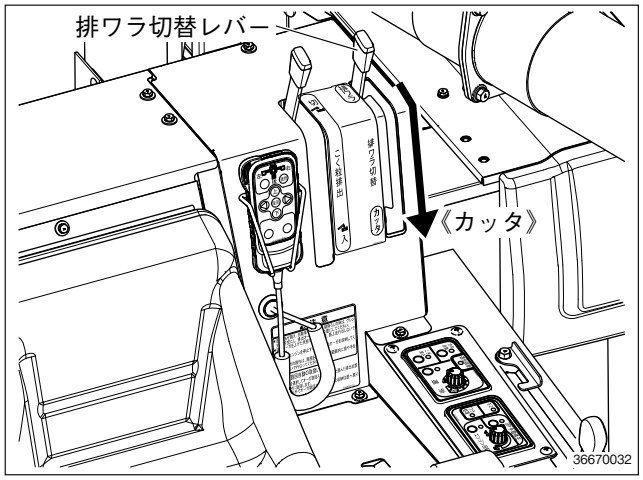
❶　下部カバー（右）（左）を**「通常作業状態」**にセットします。



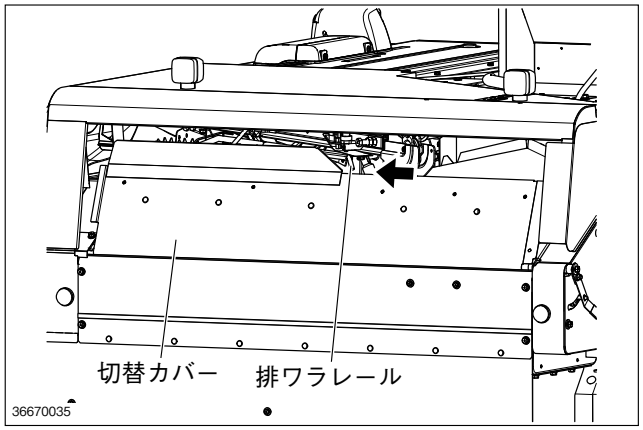


・各々のノブボルトをゆるめて，下部カバーを開き（閉じ）ノブボルトを締めます。

❷　排ワラ切替レバーを**《カッタ》**位置にします。



・排ワラレールが前方にスライドし，切替カバーが開いて，排ワラがカッタに入ります。

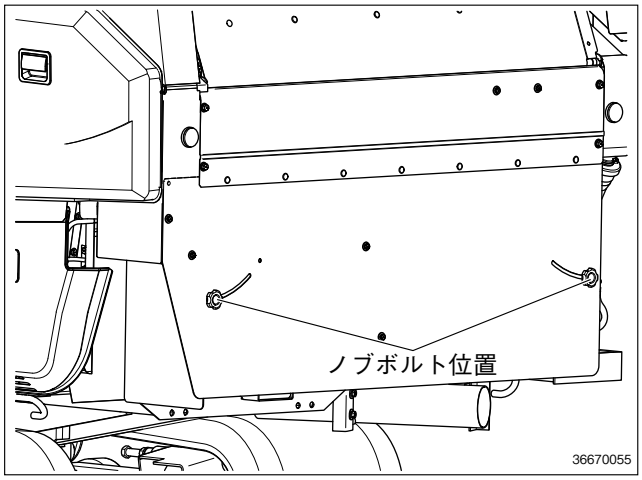


取扱いのポイント

- **刃の切れ味が低下すると，巻付きが発生しやすくなりますので，刃の交換を行ってください。**
- **倒伏した作物の刈取り作業を行う場合，ワラがカッタの回転軸に巻付くことがあります。巻付いたまま長時間作業しますと，巻付き防止パイプが変形する恐れがありますので，50 a（アール）作業ごとにエンジンを停止してカッタ内を点検し，巻付いている場合は巻付きを除去してください。**
- **カッタの点検，掃除はカッタを開き，ストッパをかけてから行います。(開きかたは，115ページ参照)**

2. 中割り作業

下部カバー（右），（左）を中割り作業位置にして行ってください。

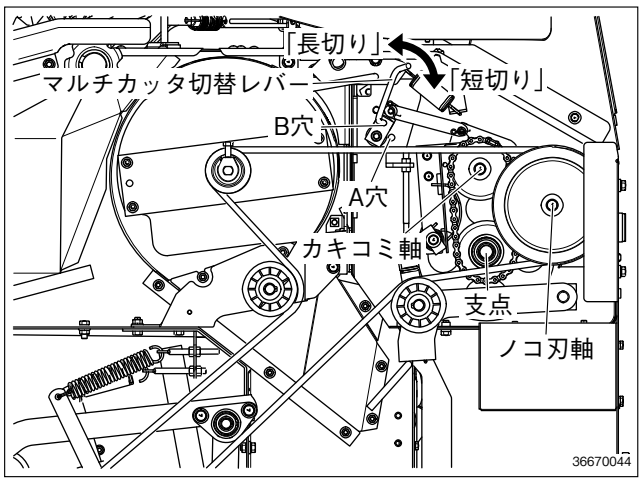


3. マルチカッタ切替レバー [マルチカッタ仕様]

マルチカッタは,マルチカッタ切替レバーを「**A穴**」「**B穴**」に差し替えることにより，排ワラの長さを「**短切り**」「**長切り**」に切替えることができます。

❶ 下図の様に「**A穴**」にマルチカッタ切替レバーを差し込んだ場合は，排ワラを「**短切り**」にします。

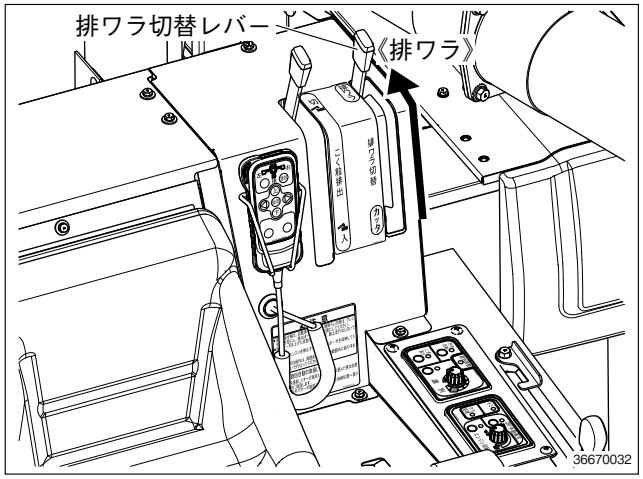
❷ マルチカッタ切替レバーを引くことで，マルチカッタ切替レバーが穴から抜け，自由に回動します。この状態で，「**A穴**」または「**B穴**」にマルチカッタ切替レバー位置を合せて，差し込むことにより切替操作ができます。



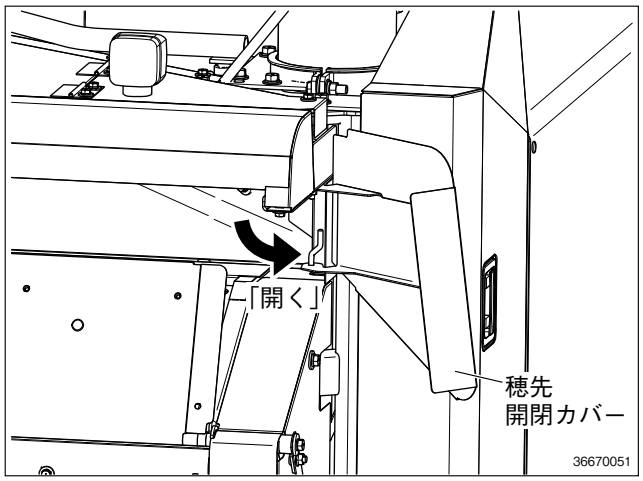
4. 排ワラ作業

排ワラ作業には，①脱こくされたワラをそのまま排出する作業，②ドロッパ作業，③ノッタ作業があります。

❶ 排ワラ切替レバーを《**排ワラ**》位置にします。



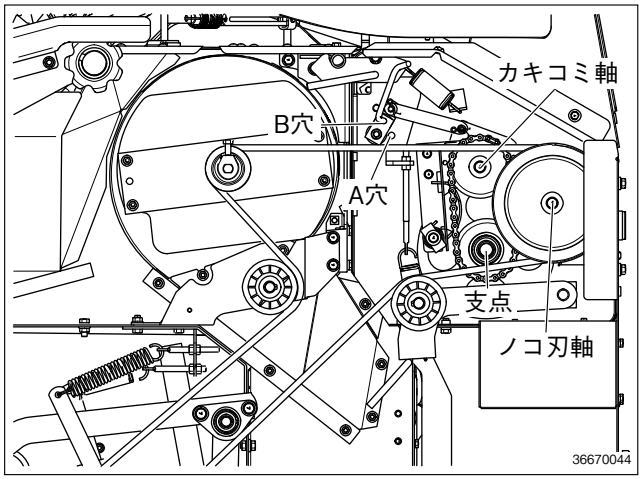
❷ 穂先開閉カバーを開きます。



取扱いのポイント

- **ノッタおよびドロッパは別売りです。取扱いについては，それぞれの「取扱説明書」をお読みください。**

❸ 下図の様に「**B穴**」にマルチカッタ切替レバーを差し込んだ場合は，排ワラを「**長切り**」にします。



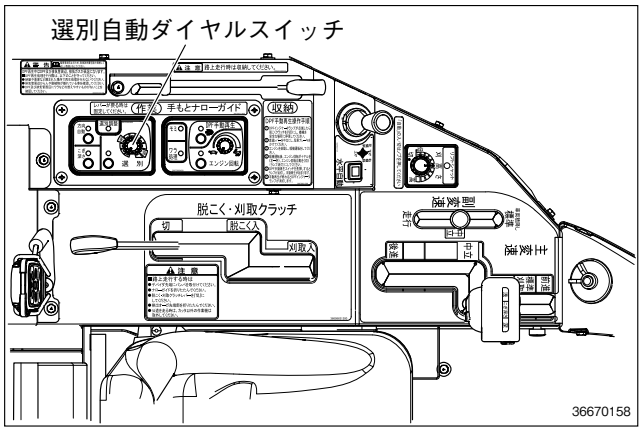
4．麦刈り作業時の調整のしかた

工場から出荷のときは，「**稲作業セット**」にしてあります。

麦刈り作業をするときは，次の箇所を「**麦作業セット**」に切替え調整します。

1．選別ダイヤルの調節

麦刈り作業をするときは，ダイヤルを《**麦**》位置にセットします。なお作業条件により，75ページの表のように使いわけてください。



・選別ダイヤルのセット方法は，「**選別自動制御の取扱い**」の項74～75ページを参照します。

取扱いのポイント

- **選別ダイヤルの操作は，脱こく内部のワラクズなどがきれいに排出されるまで，脱こく部を空運転し，ワラクズなどが排出された後に行なってください。**
- **脱こく内部にワラクズなどが溜まっていると，選別自動がセットできない場合があります。**
- **選別自動スイッチ「入」（ランプ点灯）状態で作業すると，刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。**
- **選別自動スイッチ「切」（ランプ消灯）状態で作業するときも，選別ダイヤルを作物に合わせてセットしてください。**
- **選別自動スイッチは「切」（ランプ消灯）の状態でも作業に支障はありませんが，良好な選別状態を得られない場合があります。**
- **スタータスイッチを《入》にして，ランプが点灯しないときは，作業を中止しエンジンを停止して，ヒューズの点検・配線の接続部の外れがないか点検してください。**

5．刈刃の高さ調節のしかた

・**出荷のときは，「上セット」になっています。うね栽培の麦刈りの場合および刈刃が土をかむことが多い刈取り時は，刈刃のカラーを入れ替えて「上セット」にします。**

・**セット方法は，156～157ページを参照します。**

自動装置について

1．エンジン回転自動制御

エンジン回転自動は，エンジンが負荷を感知する刈取作業や排出作業または，走行移動時のエンジン回転数を制御します。

エンジン回転自動中にダイヤルを回すと手動が優先となります。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしをするときはエンジン回転自動は「切」にしてください。

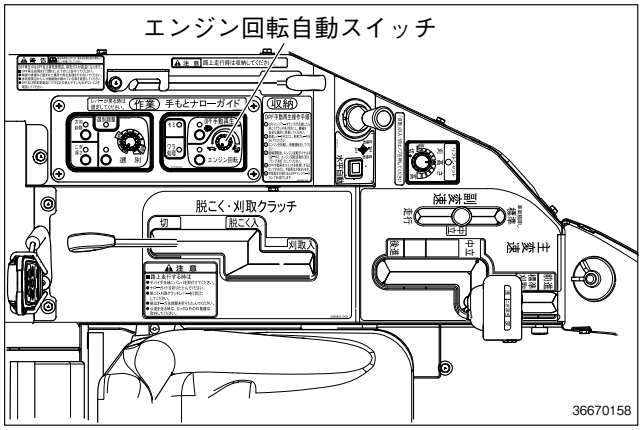
1．運転装置

エンジン回転自動制御が「**入**」のとき，下記自動上昇条件のいずれかの操作がおこなわれるとエンジン回転数が設定回転数まで自動上昇します。また，下記条件が全て解除されるとエンジンの回転数はアイドリング回転数になります。

［**自動上昇条件**］

・脱こく・刈取クラッチレバー《**脱こく 入**》位置
・オーガ振出アクション中（オーガ操作中，またはオーガ排出位置セット中）
・主変速レバー前進・後進操作

エンジン回転自動スイッチ



❶ **エンジン回転自動スイッチ**

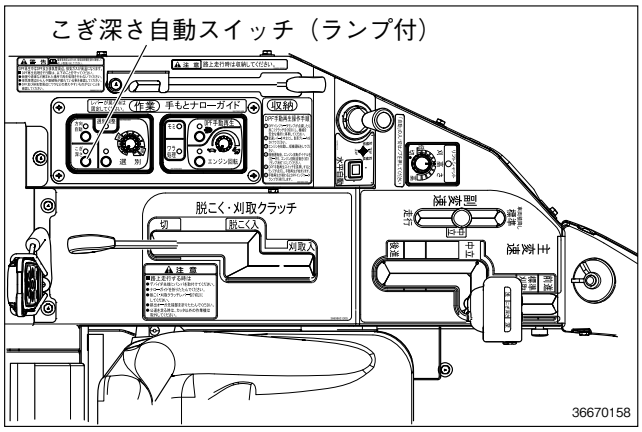
・「**入**」……エンジン回転自動スイッチを押すと，ランプが点灯し，エンジン回転自動が作動状態になります。

・「**切**」……ランプが点灯しているときに，エンジン回転自動スイッチを押すか，ダイヤルを回すとランプが消え，エンジン回転自動は作動しません。

2. こぎ深さ自動制御

こぎ深さ自動は，刈取った作物の長さを搬送の途中に設けたセンサで検出して，適正なこぎ深さとなるように自動的に調整します。こぎ深さ自動使用中に，手動スイッチで手動操作すると，手動が優先となります。

1. 運転装置



こぎ深さ調整は，**「自動制御」**と**「手動」**の二通りの操作が可能です。

・自動制御中は，手動スイッチによる調整の必要はありません。

但し，倒伏角45°以上の倒伏材，および雑草の多い材料で極端に作物の長さが変動するときは，自動制御を解除してこぎ深さ調整をこぎ深さ手動スイッチで行います。

❶ こぎ深さ自動スイッチ

スタータスイッチを**《入》**位置にすると，ランプが点灯し，こぎ深さ自動が作動状態になります。

・**「切」**……ランプが点灯しているときに，こぎ深さ自動スイッチを押すと，ランプが消灯し，こぎ深さ自動は作動しません。

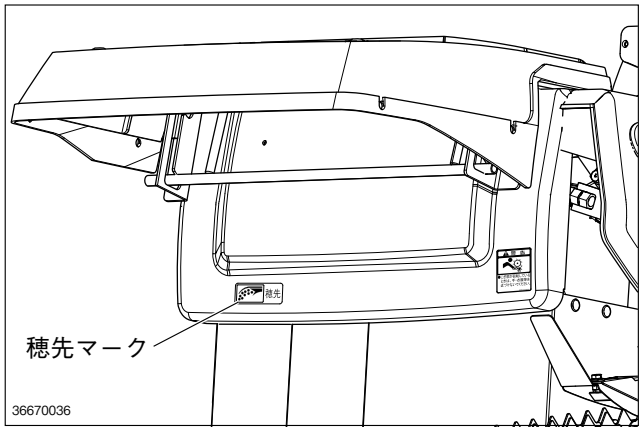


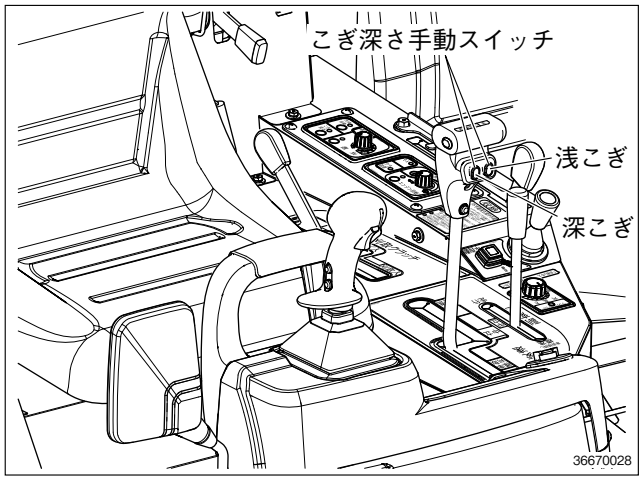
・**「入」**……再度，こぎ深さ自動スイッチを押すと，ランプが点灯し，こぎ深さ自動が作動状態となります。



❷ こぎ深さ手動スイッチ

脱こく供給口の**「穂先マーク」**位置に作物の穂先がくるように，こぎ深さ手動スイッチで調整します。





《深こぎ》……**《深こぎ》**側を押すと，作物の穂先が深い位置に移動します。

《浅こぎ》……**《浅こぎ》**側を押すと，作物の穂先が浅い位置に移動します。

取扱いのポイント

●自動制御が故障のときは，こぎ深さ手動スイッチによって，手動で操作してください。

❸ ヒューズ

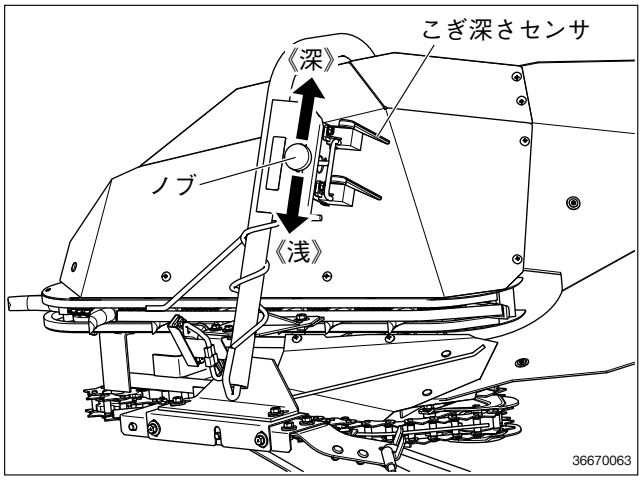
取扱いは，101～103ページを参照します。

取扱いのポイント

●こぎ深さ自動スイッチ内ランプが点灯しても，こぎ深さ自動が作動しないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。

2．こぎ深さセンサの調整

こぎ深さセンサは，工場からの出荷のときは，**「標準」**(合わせマークの中央）の位置に調整してあります。



・次のようなときは，ノブをゆるめセット位置を調整します。

こぎ深さを**「深く」**したいときは，センサケースを**《深》**方向へ移動します。

こぎ深さを**「浅く」**したいときは，**《浅》**方向へ移動します。

・調整後は，ノブを確実に締めます。

3．こぎ深さ自動制御が使えない条件

・次の状態では，こぎ深さ自動スイッチを**「切」**（ランプ消灯）にし，手動スイッチでこぎ深さを調整します。

○倒伏角45°以上の倒伏作物

○腐れ状態の作物

○雑草が多いとき

○作物の長さが極端に変動するとき

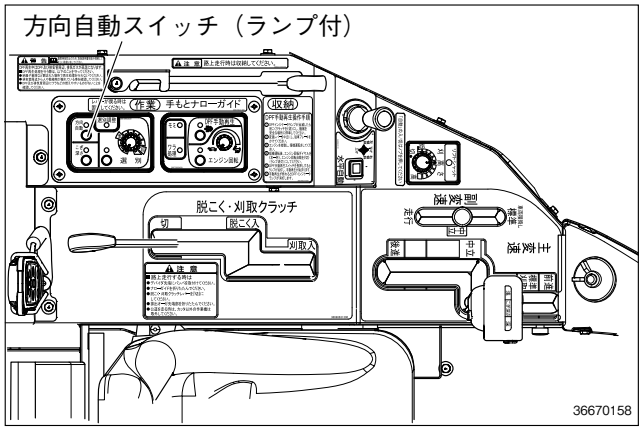
3．方向自動制御［ディーラーオプション］

方向自動は，刈取部に取付けた方向センサで条の曲がりを感知し，条列に沿って自動操行します。また，マルチステアリングレバーを操作すると，一旦，方向自動制御は**「解除」**され，手動操作優先となります。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしするときは方向自動スイッチを「切」にしてください。

1．運転装置



❶ 方向自動スイッチ

・**「入」**……



押すとランプが点灯し，方向自動スイッチが**「入」**の状態であることを表示します。

・**「切」**……



「入」の状態から再び押すと，ランプが消え，方向自動制御は作動しません。

❷ ヒューズ

取扱いは，101～103ページを参照します。

取扱いのポイント

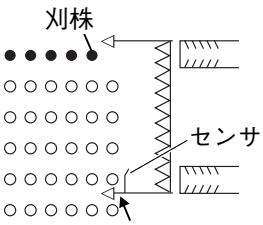
●方向自動スイッチ内ランプが点灯しても，方向自動が作動しないときは，エンジンを停止して，ヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。

2．作業のしかた

❶ スイッチの操作・条合わせのしかた

⑴ 方向自動スイッチを「**入**」（ランプ点灯）にします。

⑵ 機械が条列に真直ぐになるようにマルチステアリングレバーの操作で条合わせをします。

	方向自動スイッチ	条合わせのしかた
条刈り	スイッチのランプを「**点灯**」にする	 デバイダ(左)を条間に合わせる

❷ 刈取り作業中の手動操作

方向自動制御中でも，マルチステアリングレバー，ジャストディレクタを手動操作すると，「**手動優先**」で進路を変えることができます。

❸ 旋回時の操作

旋回するときは，マルチステアリングレバーで手動操作します。

このときに，方向自動スイッチを「**切**」にする必要はありません。

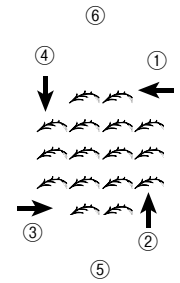
取扱いのポイント

●条合わせは機械が条列に真直ぐになるようにしてください。斜めになったときは，条外れすることがあります。

3．方向自動制御の使えない条件

次の条件では，方向自動スイッチを「**切**」にして，マルチステアリングレバーで手動操作します。

・横刈り
・中割り
・斜め刈り
・あぜ際刈り
・雑草が多いとき
・バラまきほ場
・湿田
・条間および株間が極度に乱れているとき
・稈量が少ないとき
・欠株が多いとき
・植付条間が25cm未満の場合
・植付条間が33cm以上
・植付株間20cm以上の場合
・倒伏材は，「**❺倒伏作物の刈取り**」項（52ページ）を参照
・次のような倒伏材

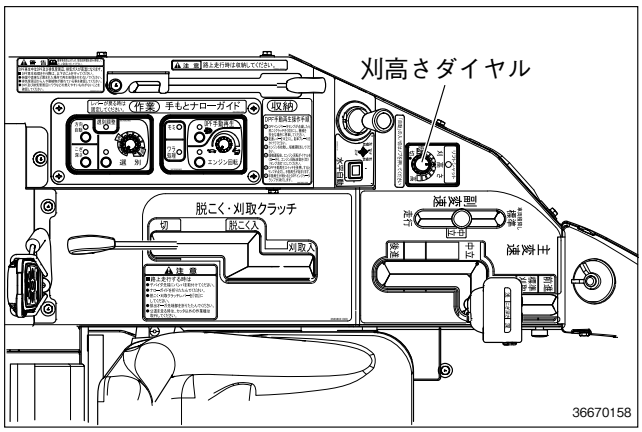
刈取り方向＼倒伏程度			倒伏程度 倒伏	中倒伏	立毛状態
標準刈取り		①向い刈り	×	×	○
		②右倒伏刈り	×	○	○
		③追い刈り	×	○	○
		④左倒伏刈り	×	○	○
中割刈取り		⑤右倒伏刈り	×	×	○
		⑥左倒伏刈り	×	×	○

○ 刈取り可能
× 刈取り不可能(方向自動が使えません)

4. 刈高さポジションコントロール

刈高さダイヤルにより，シートに座ったまま手元操作で，刈取部の下限高さを設定することができます。

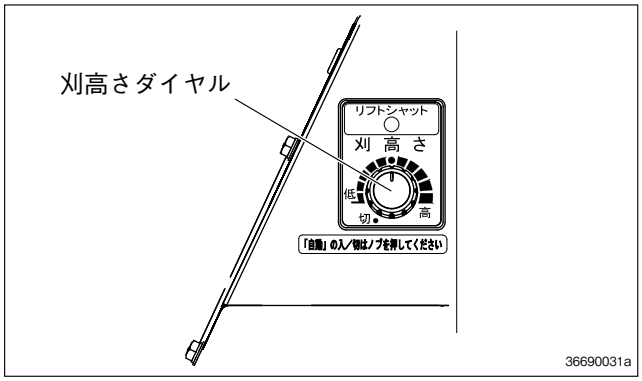
1. 運転装置



❶ 刈高さダイヤル

刈高さダイヤルを《**切**》位置以外にすると刈高さポジションの設定ができます。

・刈高さの調節は，刈高さダイヤルの操作によって，お望みの「**刈高さポジション**」を設定することができます。



・刈高さダイヤルは通常，《●》位置で使用します。

❷ ヒューズ

取扱いは，101～103ページを参照します。

取扱いのポイント

- **刈高さポジションコントロールを使用しないときは，刈高さダイヤル《切》位置で使用します。**
- **ほ場の凹凸が多い場合には，マルチステアリングレバーで手動操作してください。**
- **刈高さダイヤルをどの位置にセットしても，刈高さポジションが設定できないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れなどがないか確認してください。**

2. 自動での作業のしかた

刈高さダイヤル《**切**》位置と脱こく・刈取クラッチレバー《**切**》位置状態ではこの機能は働きません。

❶ 乾田での標準刈高さセット

ほ場・作物条件に合わせて，低く刈取るときは《**低**》の方向に，高く刈取るときは《**高**》の方向に刈高さダイヤルをセットします。

(1) 刈高さダイヤルを**標準**《●》位置にセットします。

(2) 脱こく・刈取クラッチレバー《**刈取 入**》位置で**マルチステアリングレバー**を《**下げ**》に操作して刈取部を下げます。刈取部が停止した位置が刈高さポジションの設定位置です。

❷ 刈高さが高すぎる場合

(1) 刈高さダイヤルを少し《**低**》側へ回します。

(2) 刈取部が下がり，停止した位置が新しい刈高さポジションの設定位置です。

❸ 刈高さが低すぎる場合

(1) 刈高さダイヤルを少し《**高**》側へ回します。

(2) 刈取部が上がり，停止した位置が新しい刈高さポジションの設定位置です。

取扱いのポイント

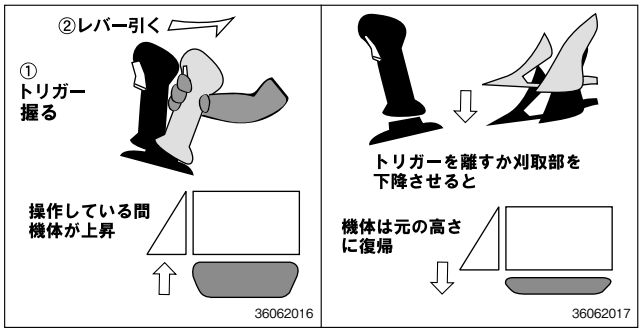
- **刈高さポジションコントロール中に，マルチステアリングレバーを瞬間的にでも《上げ》操作すると，ポジションコントロールが解除されます。再度ポジションコントロール状態にしたいときは，マルチステアリングレバーを《下げ》操作してください。**
- **刈高さダイヤルを《切》位置以外に設定しているときは，マルチステアリングレバーを《下げ》操作しても，刈高さセット位置より低くすることはできません。**

❹ トリガースイッチの使用

⑴ 半自動後進上昇機能［L仕様］

湿田刈取などのとき刈取部の上下操作に合わせ車高上昇操作を容易にする機能です。

水平自動が作動している状態で機体後進時，トリガースイッチを握りながらマルチステアリングレバーを上げ操作し続けます。まず刈取部がいっぱいまで上昇した後，機体が上がります。（水平自動制御は一時停止）トリガースイッチを離すか，刈取部を下げると，元の車高に復帰してから自動制御が再び作動します。

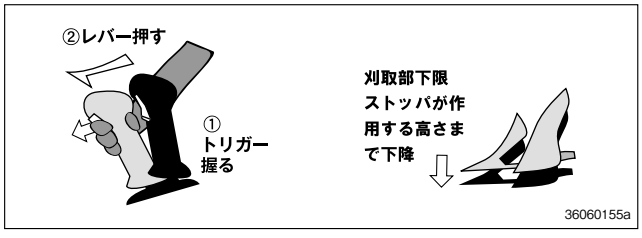


⑵ 刈高さ解除機能

刈高さセット位置よりもさらに刈取部を下げたいときはトリガースイッチを握りながらマルチステアリングレバーを下げ操作します。

ただし，刈取部の下限ストッパが作用する高さ以下には下がりません。

トリガースイッチの操作をやめると約１秒後に元の刈高さポジションコントロール位置に戻ります。



取扱いのポイント

- **トリガースイッチ操作中に元の刈高さポジションコントロール位置より高くした場合には元の高さに戻りません。**
- **再度ポジションコントロール状態にしたいときには，マルチステアリングレバーを《下げ》操作してください。**

3．手動での作業のしかた

刈高さダイヤル《**切**》位置にすると，刈高さポジションコントロールは作動しません。

マルチステアリングレバー操作によって，刈取部の高さを任意の位置に合わせることができます。

5．水平自動制御［L仕様］（ジャストマチック）

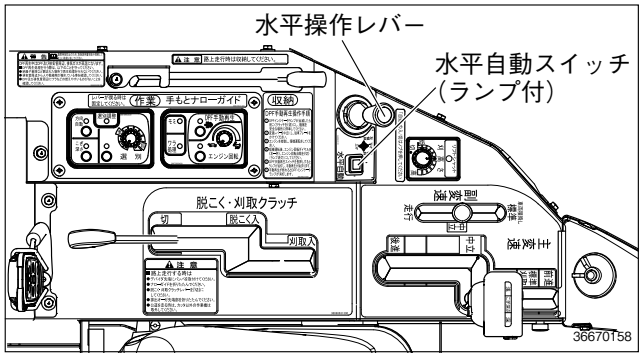
・水平自動は湿田などで機体が傾斜した場合，自動的に機体を水平に修正します。「**水平操作レバー**」で機体全体を持ち上げることもできます。

・ほ場進入時あぜ際や溝のある麦刈作業時および傾斜地での作業では，ほ場条件に合わせ，水平操作レバーで機体角度を調整し傾斜させながら作業ができます。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろし，こく粒の排出時は，水平自動スイッチを「切」にし，水平操作レバーで機体を一番下まで下げて行ってください。

1．運転装置



❶ 水平自動スイッチ

・「**入**」……押すとランプが点灯し，水平自動スイッチが「**入**」の状態であることを表示します。

・「**切**」……「**入**」の状態から再び押すと，ランプが消え，水平自動制御は作動しません。

取扱いのポイント

●水平自動スイッチランプが点灯しても，水平自動が作動しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検，配線の接続部の外れがないか点検してください。

❷ ヒューズ

取扱いは，101～103ページを参照します。

❸ 水平操作レバー

取扱いは，24ページを参照します。

2．自動での作業のしかた

❶ 刈取り作業

⑴ 脱こく・刈取クラッチレバー《**脱こく 入**》位置で水平自動制御が作動します。

⑵ 傾斜角を変えるときは，水平操作レバー「**右傾斜**」「**左傾斜**」を操作し，設定します。

傾斜角を保持するように自動制御（傾斜角制御）します。

水平操作レバーで機体傾斜角を変えたときは，水平自動ランプは点滅します。

⑶ 傾斜角制御状態から水平制御状態に戻すには水平自動スイッチを入れ直す（入→切→入）か水平手動操作（上下操作）を行うと戻ります。（傾斜角制御のときは「**ピッ**」，水平制御のときには「**ピッ，ピッ**」とブザー音がし，切替ったことがわかります）

⑷ 脱こく・刈取クラッチレバー《**切**》位置にしたとき，機体が左右どちらか低い方に合わせて，地面に平行になります。

取扱いのポイント

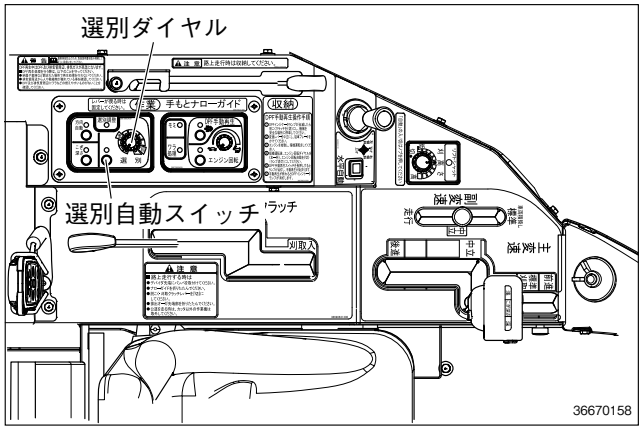
●水平自動スイッチが「入」でも水平操作レバーを操作すると，「手動優先」で機体高さ，機体傾斜角を変えることができます。
自動制御中，機体の高さを変えたいときは，水平操作レバーを操作してください。

●機体旋回中は水平自動制御は作動しません。

6．選別自動制御

選別自動は，脱こくしたこく粒の量に応じて自動的に揺動板を調整し，刈取り条件に合ったきめ細かい選別となるように自動的に調整します。

1．運転装置

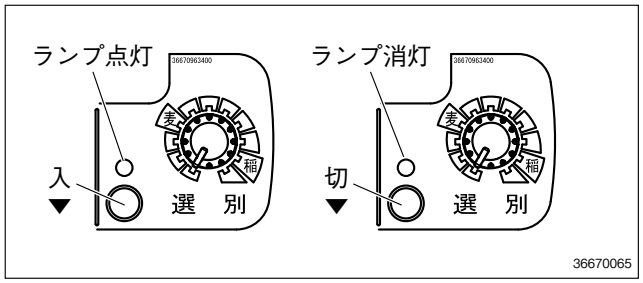


❶ 選別自動スイッチ

・スタータスイッチを《**入**》位置にするとランプが点灯し，選別自動が作動状態になります。

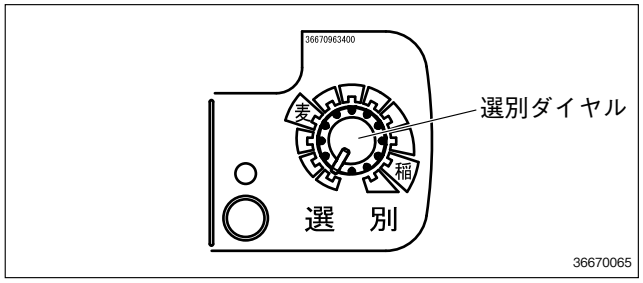
・選別自動スイッチのランプが点灯時に，選別自動スイッチを押すと，ランプが消灯し，選別自動は作動しません。

・再度，選別自動スイッチを押すと，スイッチランプが点灯し，選別自動が作動状態となります。



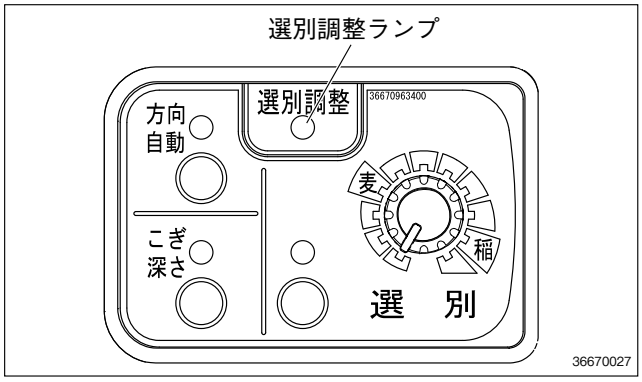
❷ 選別ダイヤル

刈取る作物に合せて，選別ダイヤルをいずれかの位置にセットします。



作業内容		選別ダイヤル
稲刈り作業	通常の刈取り作業	《稲》
	《稲》で選別が悪いとき	《稲》より《左》側にダイヤルを回します。
	青材，高水分材料，高収量材料または，脱こく負荷が大きいとき	《稲》より《右》側にダイヤルを回します。
麦刈り作業	通常の刈取り作業	《麦》
	《麦》で選別が悪いとき	《麦》より《左》側にダイヤルを回します。
	高収量材料または，脱こく負荷が大きいとき	《麦》より《右》側にダイヤルを回します。

❸ 選別調整ランプ



選別部に処理能力以上のこく粒などがあるときに点滅します。作業速度を下げるか，選別ダイヤルを右へ一杯に回します。

取扱いのポイント

- **処理後もランプが点滅するときは，「お買いあげ先」で点検を受けてください。**

❹ ヒューズ

取扱いは，101～103ページを参照します。

取扱いのポイント

- **選別ダイヤルの操作は，脱こく内部のワラクズなどがきれいに排出されるまで，脱こく部を空運転し，ワラクズなどが排出された後に行ってください。**
- **脱こく内部にワラクズなどが溜まっていると選別自動がセットできない場合があります。**
- **選別自動スイッチ「入」（ランプ点灯）状態で作業すると，刈取り条件に合ったきめ細かい選別制御ができます。**
- **選別自動スイッチ「切」（ランプ消灯）状態で作業するときも，選別ダイヤルを作物に合せてセットしてください。**
- **選別自動スイッチ「切」（ランプ消灯）の状態でも作業に支障はありませんが，良好な選別状態を得られない場合があります。**
- **スタータスイッチを《入》にして，ランプが点灯しないときは，作業を中止しエンジンを停止して，ヒューズの点検・配線の接続部の外れがないか点検してください。**

7. 排出オーガ旋回自動制御

・排出オーガ旋回自動は，自動スイッチの操作により，排出オーガが自動的に収納位置から自動旋回停止位置まで動き，排出位置から収納位置まで動きます。

⚠警告 傷害事故防止のために

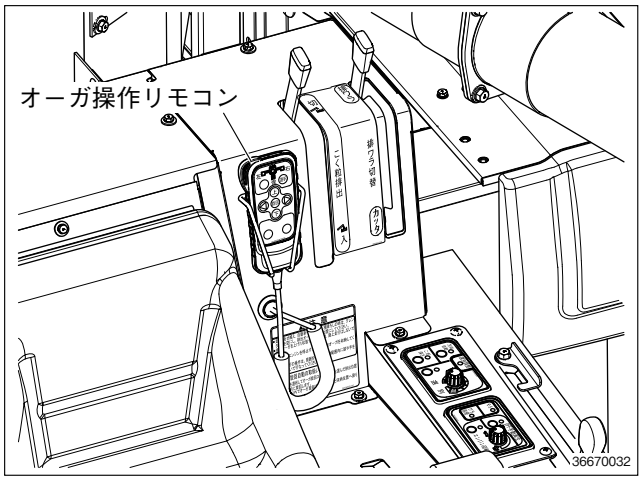
◆路上走行，あぜ越え，自動車への積込み・積降ろしをするときは，グレンタンク内のこく粒を排出してください。
◆傾斜地でのこく粒の排出作業は，行わないでください。
◆排出オーガの操作は運転席から，後方を向いて周囲の安全を確認してから行ってください。
◆こく粒の排出作業をするときは，駐車ブレーキをかけて行なってください。
◆排出オーガ先端部に溜まったこく粒を取除く場合は，こく粒排出レバーを「切」にして，エンジンを停止してください。
◆旋回範囲近くに障害物がある場合は，自動スイッチを使用しないで，排出オーガ操作スイッチで排出オーガを操作してください。

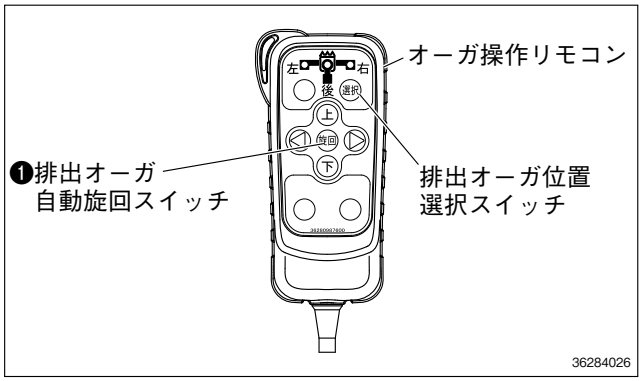
◆［L仕様］は水平切替スイッチを「切」にして，水平操作レバーで機体を一番下まで下げてから，排出作業をしてください。
◆作業終了後は，オーガ操作リモコンをリモコンホルダへ戻してください。

⚠注意　傷害事故防止のために

◆排出オーガの作動範囲に，頭や手を近づけないでください。
◆こく粒排出後の移動は，排出オーガを収納し，固定リングで固定してから行なってください。
◆排出オーガ排出口のビニールカバーは，人や物に接触したときに，相手を傷つけないように装備されています。ビニールカバーが破損したときは，直ちに「お買いあげ先」にて交換してください。

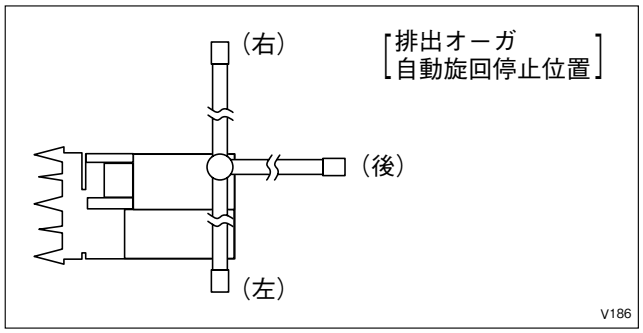
1．運転装置





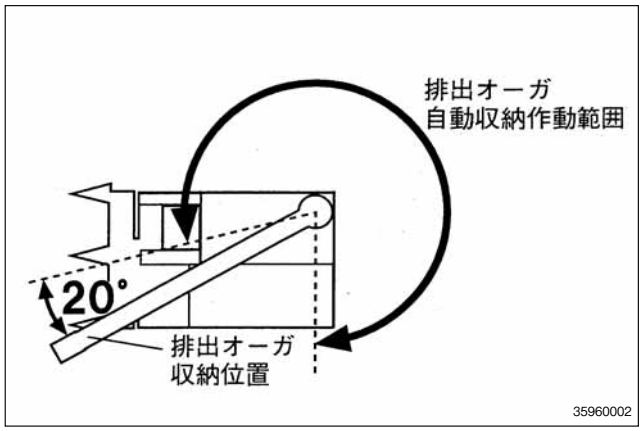
❶　排出オーガ自動旋回スイッチ

・排出オーガ収納位置で，自動旋回スイッチを押すと，排出オーガが排出位置選択スイッチで設定した排出位置まで，自動旋回します。
・排出オーガ収納位置以外で，自動旋回スイッチを押すと，排出オーガ収納位置へ戻ります。
・排出オーガ自動旋回中，または自動収納途中で旋回停止を行う場合は，リモコン内の何れかのスイッチを押して止めてください。



取扱いのポイント

●自動収納は，排出オーガが下図の範囲にあるときだけ作動します。



●自動旋回は，排出オーガが収納位置にあるときにだけ作動します。排出オーガ自動旋回スイッチの操作は，排出オーガの固定リングを解除してから行ってください。
●スイッチを「入」にして，作動しないときは，エンジンを停止してヒューズの点検・配線接続部の外れがないか確認してください。

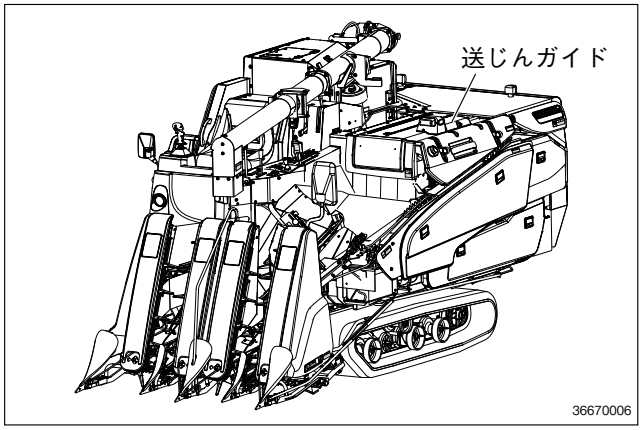
❷　ヒューズ

取扱い方は，101～103ページを参照します。

8. 送じん量自動調節

・送じん量は《**標準**》位置で出荷しています。

送じん量自動調節は，こぎ室内の発生クズ量に応じて送じんガイドの位置を自動で調整し，こぎ室内の負荷を軽減する機構です。



取扱いのポイント

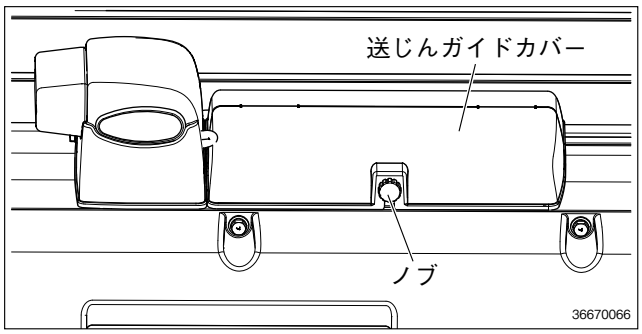
- **ほ場や材料の条件に合わせて自動初期位置を変えることができます。**
- **モミに枝梗の付着が多いときや，こぎ室内で「ゴトゴト音」がする場合は送じん量を調節することができます。**

作業状態	送じん量調節位置
こぎ室内で「**ゴトゴト音**」がする場合	《**多　い**》
通常の刈取りの場合	《**標　準**》**出荷位置**
枝梗の付着が多い場合	《**少ない**》

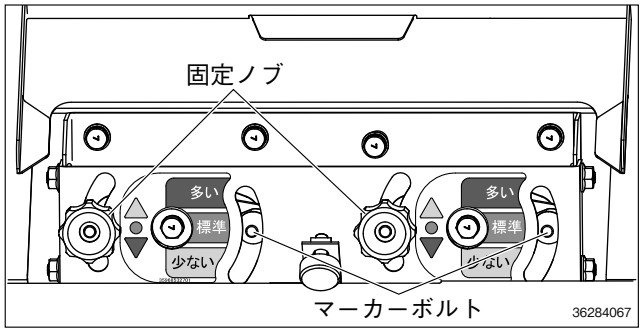
手動調節のしかた（送じんガイドの固定）

・作業状態に応じて送じん量調節位置の固定ができます。

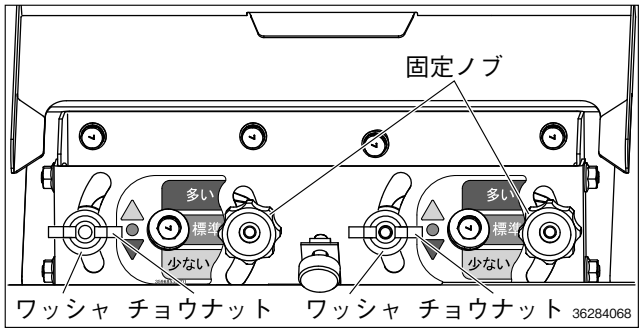
ノブをゆるめて，送じんガイドカバーを開きます。



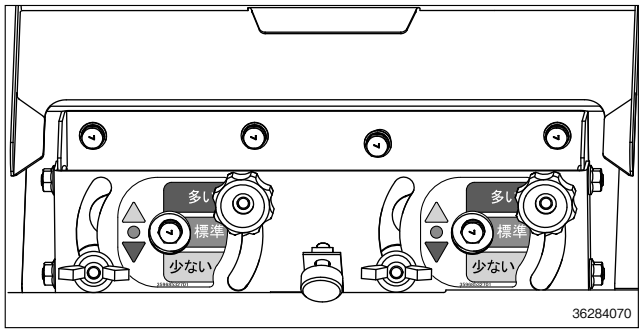
固定ノブを取外し，マーカーボルトを固定します。取外した側のボルトを付属品のチョウナットとワッシャで固定します。



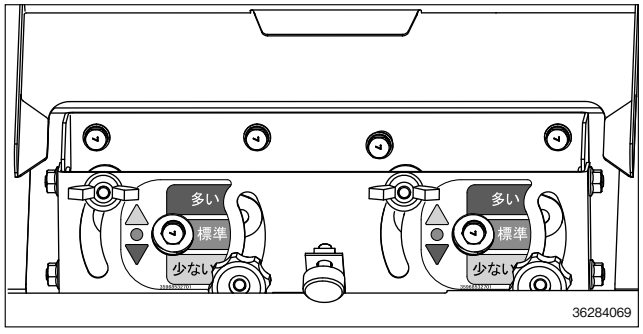
送じん量調節位置を《**標準**》での固定位置



送じん量調節位置が《**多い**》のときの固定位置



送じん量調節位置が《**少ない**》のときの固定位置



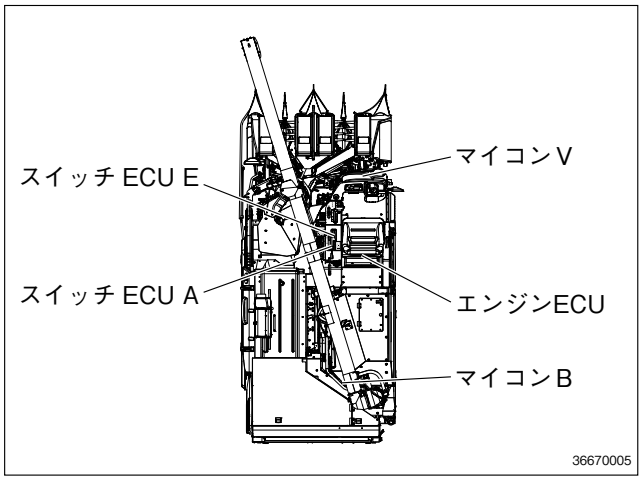
9. マイコン（マイクロコンピュータ）

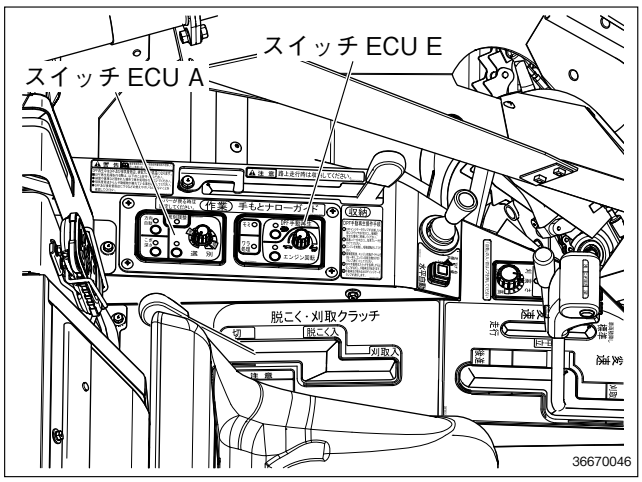
高性能マイクロコンピュータが搭載されています。これにより下記の制御が集中コントロールされ，オペレータの作業が軽減されます。

❶ マイコンによる制御機能

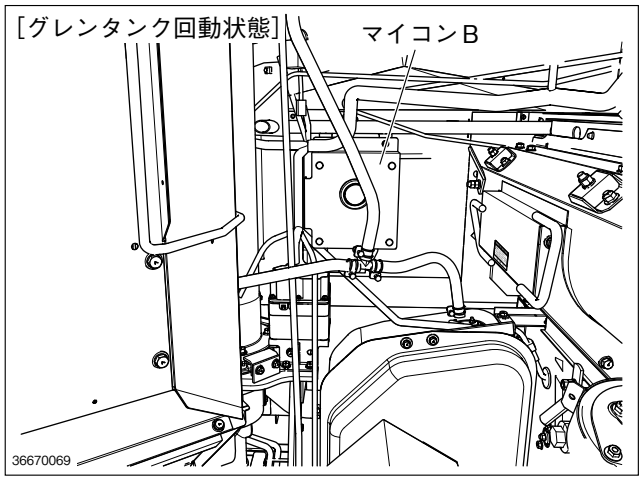
・エンジン停止制御
・エンジン回転自動停止制御
・マルチステアリングレバー
・方向自動制御［ディーラーオプション］
・水平自動制御
・リフトシャットシステム
・刈高さポジションコントロール
・こぎ深さ自動制御
・選別自動制御
・ニューツインハーモニーシステム
・排出オーガ自動旋回（旋回＋収納）
・ホーン・モミ警報・その他各種警報

マイコンユニットの設置場所

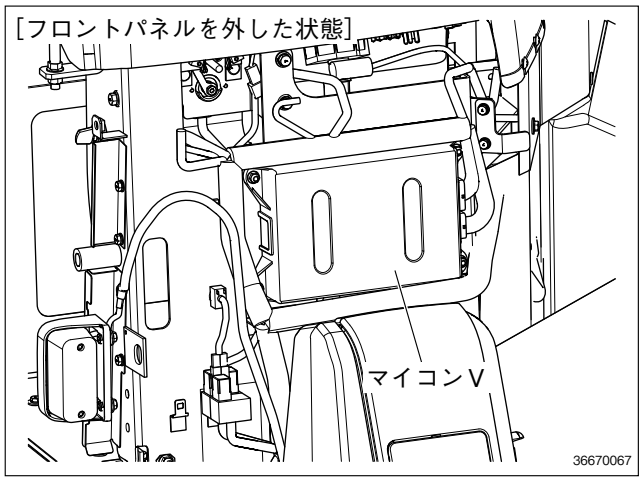




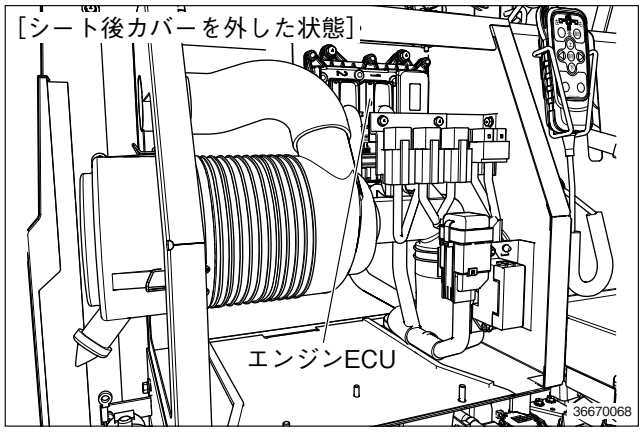
［グレンタンク回動状態］



［フロントパネルを外した状態］



［シート後カバーを外した状態］



❷ ヒューズ

「**マイコン電源**」の10Aヒューズが溶断しているときは，マイコンによる各制御機能が停止状態となります。（101～103ページ参照）

取扱いのポイント

- **マイコンユニットは，洗車時に水やスチームがかからないようにしてください。**
- **ヒューズを交換しても再発するとき，また制御不能のときは，「お買いあげ先」に相談してください。**

手入れのしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆点検・整備・掃除するときは平坦な場所に機械を置いて，駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。
◆屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をしてください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。

●機械または部品などを破棄するときは，「お買いあげ先」にご相談ください。
●使用済み廃棄物の処分について
廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
◆機械から廃液を抜く場合は，適切な容器に受けてください。
◆地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
◆廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，または焼却するときは，「お買い上げ先」，または産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理してください。

1．定期点検整備

・正常な機能を発揮し，いつでも安全な状態であるように**「定期点検整備表」**に従って，定期的に点検し，必要により掃除・調整・整備を行います。

◆使用者が行なってはいけない修理
下記部位に異常があるときは，「お買いあげ先」に必ず連絡して修理を依頼してください。
●エンジン本体　●トランスミッション　●ギヤ（ベベルギヤを含む）を内蔵したケース類
●油圧系統（HST含む）　●電気部品と電気系統　●燃料系統

取扱いのポイント

●分解・交換などを自ら行なうと機械のトラブルの原因となります。また，メーカ保証の対象外となりますのでご注意ください。
参照ページに☆印のある整備項目（交換・修理・調整）については，「お買いあげ先」で行ってください。

「定期点検整備表」（点検・補給・掃除・調整・グリスアップ○，交換●）

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）																						備考	参照ページ
			シーズン前	始業前	25	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	格納時			
エンジン関係	エンジンオイル	点検・補給・交換	○	○		●		●		●		●		●		●		●		●		●		初回50Hr以降100Hr毎か1年の早い方で交換	84～86
	エンジンオイルフィルタ	交換				●		●		●		●		●		●		●		●		●		エンジンオイルの交換と同時に交換	☆86
	燃料フィルタ	交換				●							●								●				☆98～99
	燃料ホース	点検・交換	○		○（50時間毎）　●（140時間または2年毎で早い方）																			燃料漏れ点検	☆135
	燃料セジメンタ	点検・掃除	○	○		○							○												☆98～99
	燃料セジメンタ内フィルタ	掃除・交換	○			○			●				●		○		●				●				☆98～99
	エアクリーナエレメント	点検・掃除・交換	○								●						●							掃除は50Hr毎（プライマリエレメントのみ）	97
	エアクリーナホース	点検・掃除	○						○				○				○				○			損傷の場合交換	☆135
	ホースバンド	点検	○																					漏れ，ゆるみ点検 漏れ，ゆるみ，損傷の場合交換	☆135
	ホース類（エンジン補器）	点検・交換	○										●												☆135
	エンジンファンベルト	点検・調整・交換	○												●									張り調整100Hr毎	☆142
	ラジエータ（冷却水）	点検・補給・交換		○																			●		☆86～87
	DPF差圧センサホース・パイプ	点検・交換			○（1年毎）　●（2年毎）																				☆
	EXマニホルド	点検			○（1年毎）																				☆
	EXマニホルド取付ボルト	点検・交換			○（1年毎）																				☆
	オイルセパレータラバーホース	交換			●（2年毎）																				☆
	断熱材（エキゾーストパイプ部，DPFカバー部）	点検・掃除・交換	○	○	●（300時間または3年毎で早い方）																				☆160

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時間（アワメータ表示時間）																					備考	参照ページ
			シーズン前	始業前	25	50	100	150	200	250	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	格納時			
電装関係	バッテリ液	点検・補給	○																						104～110
	電気配線(配線･接続部のゆるみ, 損傷)	点検・修理	○	○																				損傷の場合交換	☆104
	計器，スイッチ類	点検・交換	○	○																					☆7～18
走行・運転操作部	油圧作動油（オイルタンク）	点検・補給・交換	○				●						●						●						☆88～90
	油圧ホース	点検・交換	○																					油漏れ点検	☆135
	油圧オイルフィルタ	交換	○				●						●								●				☆88～90
	HSTオイルフィルタ	交換					●						●								●				☆88～90
	ソレノイドバルブのフィルタ	点検・掃除						○			○				○				○						☆100
	駐車ブレーキ	点検・調整	○																						☆139
	トランスミッションケースオイル	点検・補給・交換	○				●						●								●				☆88
	走行ベルト	点検・調整・交換	○			○					●						●								☆143
	走行クラッチペダル	点検・調整	○	○		○		○		○	○		○		○		○		○		○				☆139
	脱こく･刈取りクラッチレバーおよびワイヤ	点検・調整・交換	○		○									● ワイヤ											☆140
	クローラ	点検・調整	○	○																					☆155
	水平制御リフトアーム軸受部	グリスアップ	○																						☆93
	ローラ・アイドラ・転輪	点検	○	○		(グリスアップは50a（アール）作業毎，および格納時に行います。湿田作業をした場合は50aに満たなくても行います。)																				☆93
	ブレーキシュー	交換	●（400時間または2年毎で早い方）																						☆ー
刈取部	スターホイル駆動ケース（右）オイル	点検・補給	○																						☆90
	スターホイル駆動ケース（左）オイル	点検・補給	○																						☆90
	かき込みベルト	点検・調整・交換	○	○	○	○	○	○		○	●		○	○		○		●		○					☆148～149
	株元搬送チェン（右）	点検・調整・交換	○	○	○						●							●							☆150～151
	株元搬送チェン（左）	点検・調整・交換	○	○	○						●							●							☆150～151
	引起しチェン,爪	点検・調整・交換	○	○	○								●							●					☆172～173
	こぎ深さ搬送チェン	点検・調整・交換	○	○	○						●							●							☆152
	かき込み搬送チェン,爪	点検・調整・交換	○	○	○								●							●					☆153
	穂先搬送チェン,爪	点検・調整・交換	○	○	○								●							●					☆152
	刈刃	点検・調整・交換	○	○	○					●				●						●					☆156～157
	集中注油タンク	点検・補給	○	○																				エンジンオイル	93
	刈取ベルト	点検・調整・交換	○	○	○								●							●					☆140
脱こく部	脱こくギヤケースオイル	点検・補給	○																						☆90
	こぎ胴ギヤケースオイル	点検・補給	○																						☆91
	搬送HSTギヤケースオイル	点検・補給	○																						☆91
	脱こくベルト	点検・調整・交換	○	○	○						●							●							☆140
	こぎ胴伝動ベルト	点検・調整・交換	○	○	○						●							●							☆144
	こぎ胴ベルト	点検・調整・交換	○	○	○						●							●							☆144
	搬送HSTベルト	点検・調整・交換	○	○	○						●							●							☆144
	１番ラセンベルト	点検・調整・交換	○	○	○						●							●							☆145
	選別ベルト	点検・調整・交換	○	○	○						●							●							☆146
	脱こくフィードチェン	点検・調整・交換	○	○	○						●							●							☆154
	排ワラベルト	点検・調整・交換	○	○	○						●							●							☆147
	排ワラチェン	点検・調整・交換	○	○	○								●							●					☆154
	穂先排ワラベルト	点検・調整・交換	○	○	○								●							●					☆146
	揚こくラセンタッチ部	点検・掃除	○																						118
	こぎ歯	点検・増締め・交換	○		○													●							☆138
	ワラ切カマ	点検・交換	○											●						●					☆136～137
	脱こく受網	点検・掃除・交換	○											●											☆117～118
	脱こく底板･こぎ室揺動選別部	点検・掃除	○																						118～119
	２番ラセンタッチ部	点検・掃除	○																						118
グレンタンク部	こく粒排出レバー	点検・調整	○																						☆141
	グレン入力ギヤケース	点検・補給	○																						☆92
	グレンタンク	点検・掃除	○																						124～125
	グレンベルト	点検・調整・交換	○	○	○									●											☆147
	横ラセンベルト	点検・調整・交換	○	○	○									●											☆171
	縦ラセン筒上・下	点検・掃除	○																						124～125
カッタ部	排ワラ切替レバー	点検・調整	○																						☆141～142
	カッタ刃	点検・交換	○	(100) 時間ごと																					☆126～134
	カッタベルト	点検・調整・交換	○		○									●											☆145

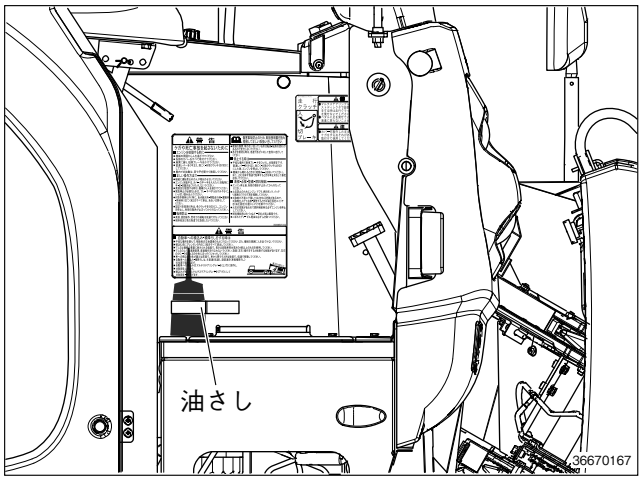
2. 給油・注油・給水のしかた

・オイルの点検・交換は，**「運転まえの点検」**（28～29ページ）および**「定期点検整備表」**（79～80ページ）に従って行います。
・オイルの点検・交換は，機械を平坦な場所に駐車して行います。

取扱いのポイント

- **各給油箇所には，指定オイルを規定量給油してください。**
- **廃油など汚れたオイルを注油すると，故障の原因となりますので使用しないでください。**
- **コンバイン運転席に油さし受けがついていますので，いつでも注油できるように，オイルを入れた油さしを常備してください。**
- **交換したオイルを，廃却するときは，「お買いあげ先」または，産業廃棄物処理業者などに相談して，所定規則に従って処理してください。**

[油さし収納場所]



⚠警告 火傷や火災防止のために

◆燃料補給時は，火気を近づけないでください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは，給油・注油しないでください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは交換してください。燃料漏れがあると，火災の原因となります。
◆こぼれた燃料は，きれいに拭き取ってください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検するときは，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行ってください。
◆回転部・摺動部から異音が発生するときは，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから注油してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆エンジンカバーを開いて点検などを行った後は，エンジンカバーを閉じて固定金具で固定してください。
◆使用オイルの詳細は「潤滑油について」を参照してください。
◆刈刃，チェンなどに注油する際は，指定の潤滑油を使用してください。

「給油・注油・給水表」

No.	給油箇所	種類	種類		容量（L）		備考
			API サービス分類	SAE 粘度番号	335型	435型	
①	燃料タンク	ディーゼル軽油	－	－	31		JIS２号（－7.5℃まで） JIS３号（－20℃まで）
②	エンジンクランクケース	ディーゼル専用エンジンオイル	CJ-4またはDH-2	10W－30	7.0		
③	ラジエータ (補助タンク0.5L含む)	冷却水	－	－	5.3		
④	トランスミッションケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	6.7		
⑤	油圧オイルタンク	油圧作動油	GL-4以上	10W－30	20.5		
⑥	スターホイル駆動ケース	ギヤオイル	GL-5以上	140	右側：1.0 右側：1.0	右側：1.7 右側：1.0	刈取，搬送部左右各１ヶ
⑦	脱こくギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	0.55		
⑧	こぎ胴ギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	0.65		
⑨	搬送HSTギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	0.55		
⑩	グレン入力ギヤケース	ギヤオイル	GL-5以上	90	0.30		
⑪	集中注油タンク	エンジンオイル	－	－	1.5		
⑫	水平リンク	グリース	－	－	－		

指定オイル

- ディーゼルエンジンオイル…… 純正油 または，使用オイル表（179ページ）の指定オイル
- 油圧作動油…… 純正油 または，使用オイル表（179ページ）の指定オイル
- ギヤオイル…… 純正油 または，使用オイル表（179ページ）の指定オイル

取扱いのポイント

●燃料タンク以外は，工場出荷時の容量です。
交換時は，残油量がありますので，レベルゲージまたは検油栓により，容量を確認してください。
ただし，レベルゲージまたは検油栓のない箇所は，全量交換してください。排油栓のない箇所は補充してください。

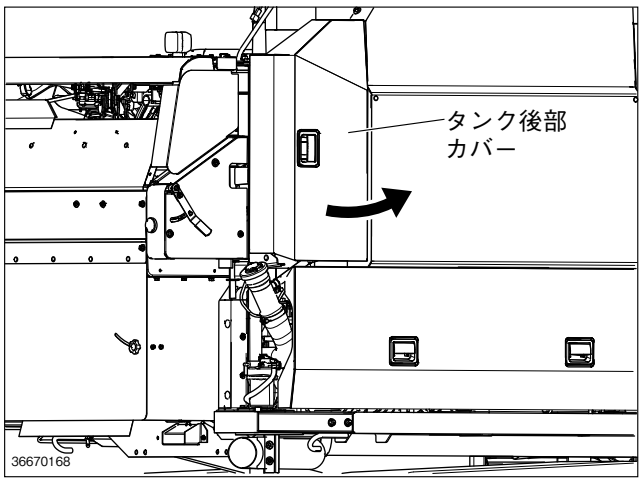
●使用オイルの詳細は，潤滑油についての項（179ページ）を参照してください。

1．燃料の補給

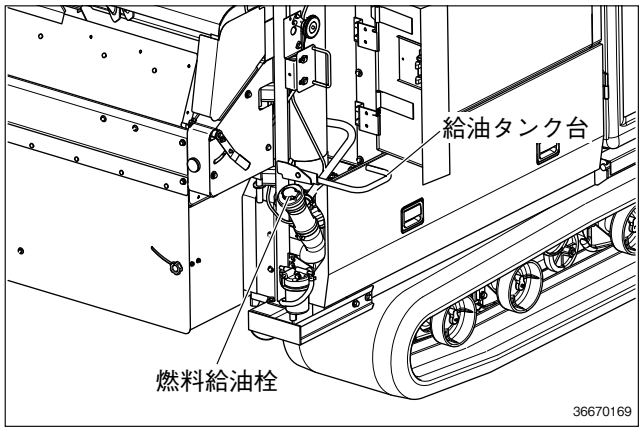
取扱いのポイント

- **燃料は必ず低硫黄ディーゼル軽油（S10）を使用してください。（低硫黄ディーゼル軽油以外の軽油やバイオ燃料を使用した場合，エンジンや排ガス後処理装置などに悪影響を与え，故障の原因となります。また，排ガス浄化基準に適合しなくなる恐れがあります。）**
- **本エンジンの燃料噴射装置などは精密な部品で構成されています。これらの部品の作動不良を防ぐため，ドラム缶やホームタンクなどから燃料を補給される場合，砂や水などの異物が混入しないよう十分に注意してください。**
  また，燃料補給時はこし網を外さないでください。
- **燃料切れでエンジンが停止すると再始動時にエンジン各部に高温状態が生じ，エンジンの早期破損につながる恐れがありますので，燃料切れにならないように注意してください。**

❶ タンク後部カバーを開けます。

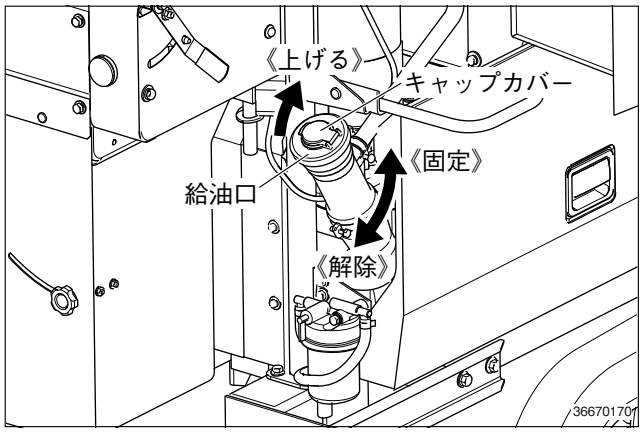


❷ 給油タンク台を引き出して，補給用タンクの置き台として使用します。



❸ 給油口専用キーはスタータスイッチキーと同じ場所にあります。

・キャップカバーを上げたあと，キーを**《固定》**位置から**《解除》**位置まで回してロックを解除してから給油口（キャップ）を外して補給します。



❹ 燃料補給後は，元どおり給油タンク台を収納し，タンク後部カバーを閉じます。

・燃料は，**「ディーゼル軽油」**を使用してください。ディーゼル軽油には下表の種類があり，地域・季節により流通している種類が異なります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種　類	ディーゼル軽油の流動点（℃）
特１号	＋５以下
１号	－２．５以下
２号	－７．５以下
３号	－２０以下
特３号	－３０以下

（JIS規格より抜粋）

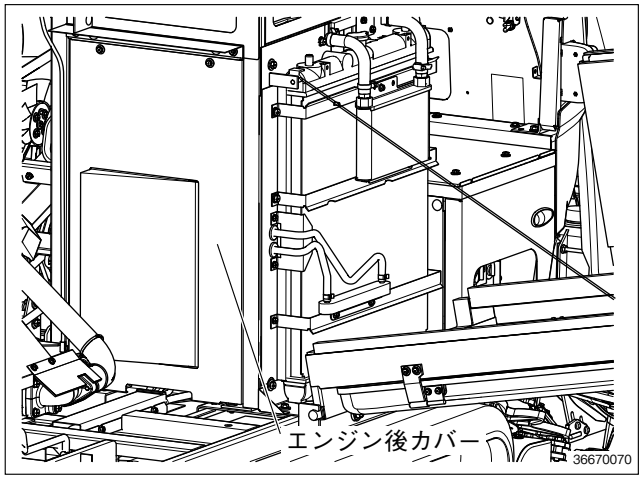
・未使用の菜種油や，使用済みの調理油などを原料としたバイオディーゼル燃料（BDF），およびその混合油の使用は止めてください。
・タンク容量……31 L

取扱いのポイント

●流動点付近以下の温度になると軽油が凍結し，エンジンの始動が困難になったり，停止したりすることがあります。
●給油が終わったあとは，必ずキーを《固定》位置にしてキーを抜取ってください。
●燃料フィルタの掃除や交換時は，燃料のエア抜きを行ってください。(98〜99ページ参照)
●燃料の中に，水やゴミなどが混入しますと，エンジンに重大な故障が発生したり，燃料ポンプが作動しなくなることがあります。
燃料タンク給油口フィルタを通して，給油してください。
●燃料補給後は，給油栓を確実にしめて，タンク後部カバーを閉じてください。

2. エンジンオイル・オイルフィルタの点検・交換

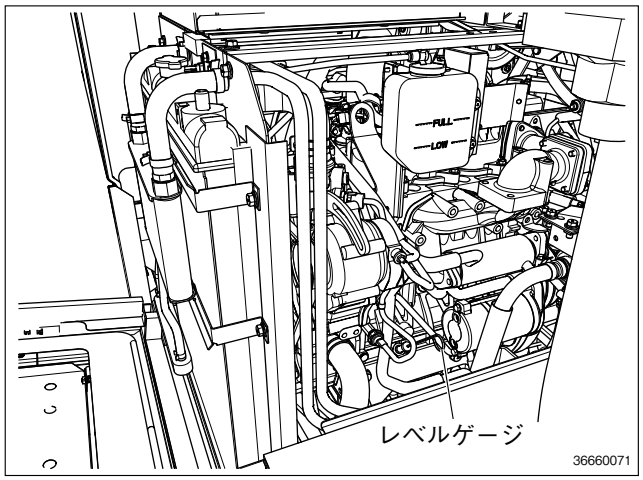
エンジンオイル・オイルフィルタの点検・交換はエンジンカバーを開き（27ページ参照）グレンタンクを回動（112〜113ページ参照）し，エンジン後カバーを取外して作業をします。

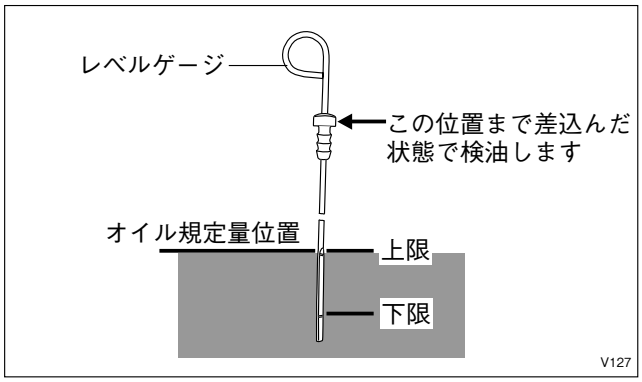


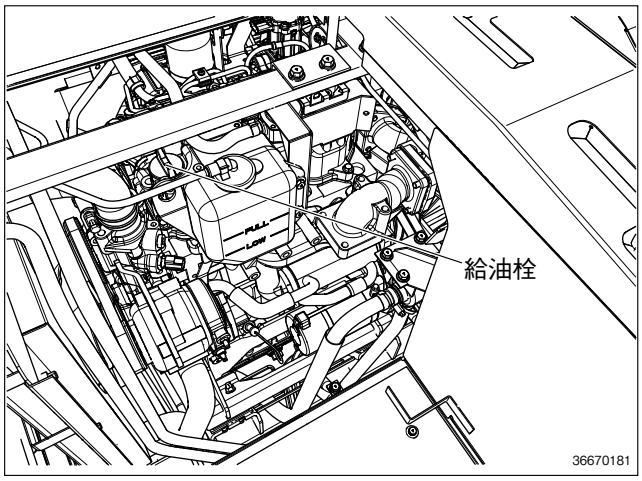
点検・交換後はエンジン後カバーを取付け，グレンタンクを閉じ（112〜113ページ参照），エンジンカバーを閉じます。

❶ エンジンオイルの点検

レベルゲージを抜いて，先端をきれいに拭き取ります。もう一度いっぱいに差込んでから抜き出し，ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは，オイルを給油栓より規定レベル位置まで入れます。さらに，油漏れのないことも確認します。





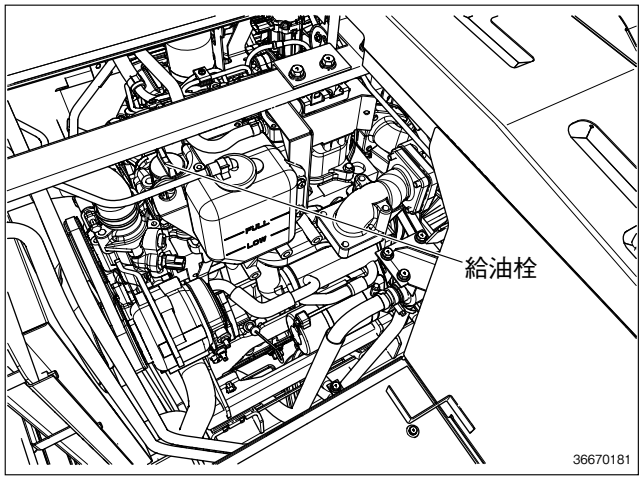


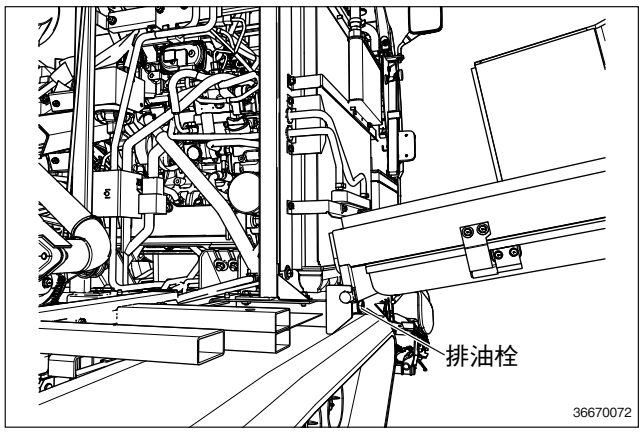
取扱いのポイント

- **オイルの量は，エンジンが冷えているときに確認してください。**
- **給油栓からワラクズなどが入らないよう事前に周囲を掃除してください。**
- **排油栓，給油栓，レベルゲージは確実に固定されていることを確認してください。**
  また，エンジンカバーの固定レバーをかけ，確実に閉じてください。

❷ エンジンオイルの交換

⑴ エンジンの給油栓を外し，排油栓を取外し，オイルを抜きます。その際，オイルは適切な容器で受けてください。





取扱いのポイント

- **オイルを抜くときは，オイルがこぼれないようになるべく開口部の大きなオイル受けを使用してください。**
- **低温時はオイルが抜けにくい場合がありますので，あらかじめエンジンを暖機運転してから行ってください。**

⑵ オイルを抜き終わったら排油栓を締め，新しい**「純正エンジンオイル」**を給油口よりオイルレベルゲージの上限（規定量位置）まで給油し，給油栓を取付けます。

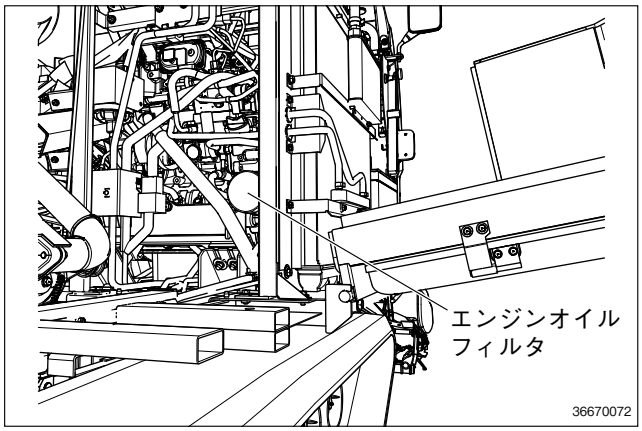
- **エンジンオイル…** **純正油** **または，使用オイル表（179ページ）の指定オイル**
- **オイル量……7.0 L**

⑶ 交換後，エンジンを始動して，オイルランプが消えるまで低回転で運転します。

❸ エンジンオイルフィルタの交換

エンジンオイルフィルタの交換は，**「お買いあげ先」**に依頼してください。

グレンタンクを回動し，エンジンカバー（後）を外した位置にあります。



⑴ エンジンオイルフィルタは，**「カートリッジタイプ」**を使用しています。

⑵ エンジンオイルフィルタを交換したときは，オイル量が多く入るので，レベルゲージでオイル量を確認し，不足のときは，規定レベル上限までオイルを補給します。

3．ラジエータ冷却水の点検・交換

⚠警告 火傷防止のために

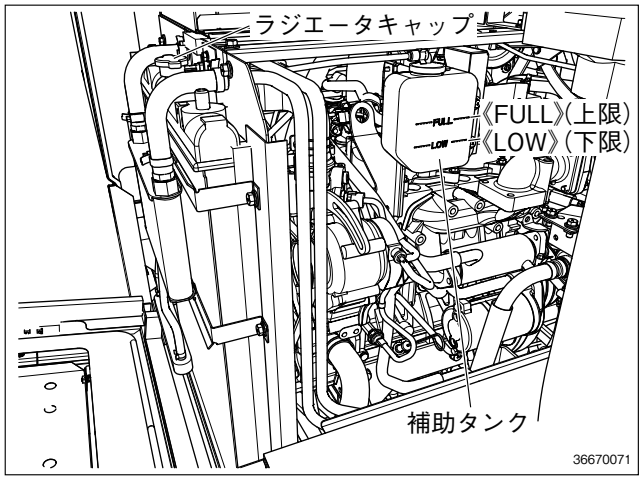
◆運転中およびエンジン停止直後は，ラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し「火傷」をすることがあります。冷えてからゆっくり開けてください。

ラジエータの取扱いを誤ると，エンジンの寿命に大きく影響を与えます。ラジエータの点検は，エンジンカバーを開けて行います。

❶ 始業前の点検

ラジエータの点検は，エンジンカバーを開けて行います。

・エンジンが冷えているとき，エンジンカバーを開き補助タンク内の冷却水が**「給水レベルの上限と下限の間」**にあるように補助タンクに冷却水を補給します。



❷ 補助タンクの水を切らしたとき

⑴ ラジエータキャップを外して，冷却水を口元まで注水し，キャップを閉めます。

⑵ 補助タンクの**「上限と下限の間」**位置まで給水します。

・冷却水……クーラント，清水（水道水）

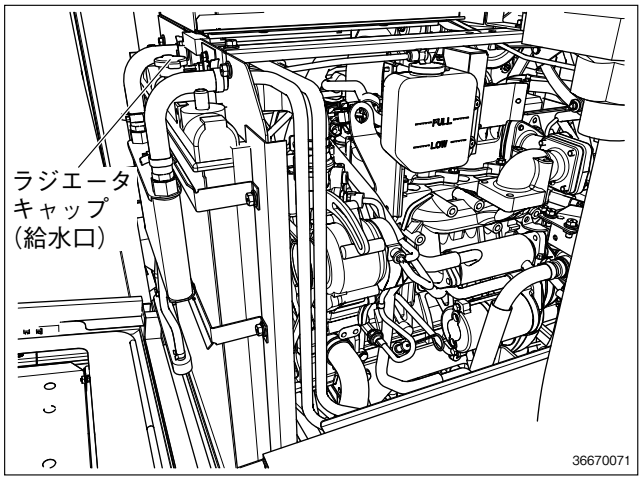
❸ 点検・交換後は元どおりラジエータキャップを閉めて，エンジンカバーを閉じます。

取扱いのポイント

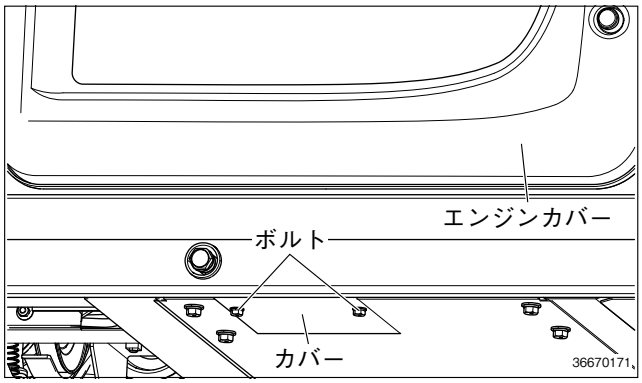
- **シーズン前には，ラジエータ内の冷却水の量を点検してください。**
- **補助タンク内の冷却水を始業前に点検し，不足しているときは補給してください。**
- **補助タンクには「上限」以上入れないでください。運転中冷却水が溢れ出すことがあります。**

❹ ラジエータ冷却水の交換

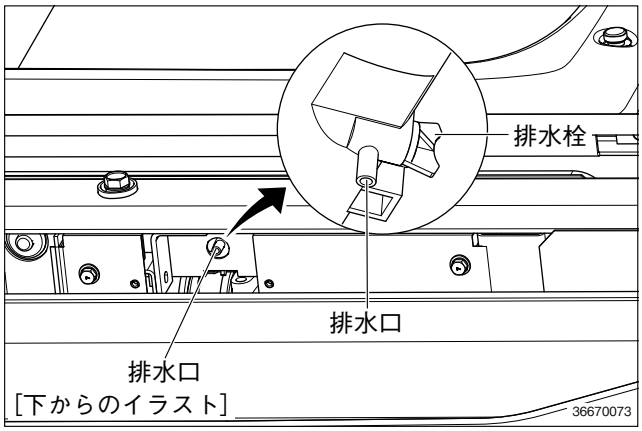
(1) エンジンカバーを開き，ラジエータキャップを外します。ラジエータ機体内側の排水栓をゆるめ排水口から排水します。その際，冷却水は適切な容器で受けてください。



(2) 排水栓は，エンジンカバー下部のカバーを取外した場所にあります。



(3) カバーを取外し，後側の排水栓をゆるめ排水口から排水します。その際，冷却水は適切な容器で受けてください。



(4) ラジエータ内の水がきれいになるまで水の入替えを繰返し，内部を洗浄します。

・市販の洗浄剤を使用すると効果的です。

(5) 排水が終わったら排水栓を閉めます。ラジエータ給油口の口元一杯まで冷却水を給水したのち，ラジエータキャップを閉めカバーを取付けます。

(6) **不凍液の注入**

工場出荷のときは不凍液が注入され**「外気温度−25℃」**の凍結を防止する濃度になっていますが，納入後２年以上経過すると効力が低下しますので，冷却水を抜き**「不凍液濃度基準」**を参考に入替えます。

「不凍液濃度基準」

外気温度 ℃	−5	−10	−15	−20	−25	−30
不凍液濃度 %	20〜25	25〜30	30〜35	35〜40	40〜45	45〜50

不凍液は**「ロングライフクーラント」**（PT）を使用します。

冷却水量（補助タンク0.5L含む）……5.3 L

取扱いのポイント

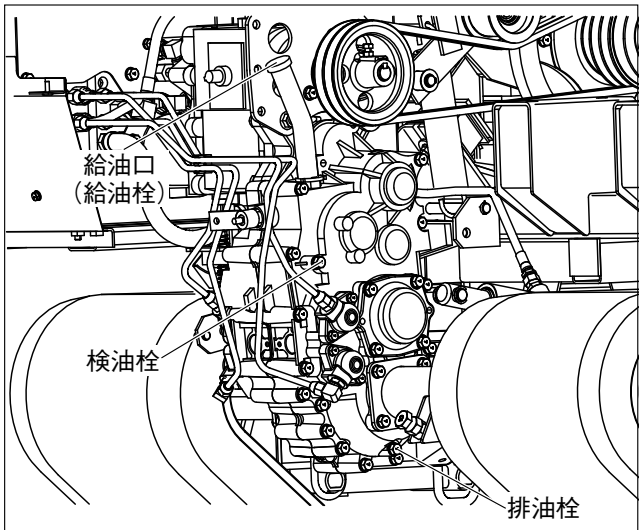
- **不凍液を入替え直後に長期保管されるときは，冷却水の循環が確認できるまでエンジンを「低速で空運転」を行ってください。**
- **冷却水には清水を使用してください。泥水や塩水を使用しないでください。**
- **冬季には冷却水が凍結し，エンジンやラジエータを破損することがあります。不凍液「ロングライフクーラント」を混合してご使用ください。**
- **ラジエータ洗浄剤を使用する際には洗浄剤の取扱説明書を熟読のうえ使用してください。**
- **２年使用ごとに，冷却水の交換と，ラジエータ内部の洗浄を行ないます。**

(7) 別容器（ポリバケツ）に不凍液を必要量（不凍液濃度基準表参照）入れます。

(8) 清水を加えよく攪拌した後にラジエータ給水口の口元一杯まで給水したのちラジエータキャップを閉めます。

(9) 交換作業が終わったら取外したカバーを取付け，エンジンカバーを元どおり閉じます。

4. トランスミッションケースのオイル点検・交換



❶ 点検

・ミッションケース左側の検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。
・不足しているときは給油栓を外して給油口より補給します。

❷ 交換

オイル交換は，**「お買いあげ先」**に依頼してください。

⑴ ミッションケース下部の排油栓を外し，オイルを抜取ります。
⑵ 給油するときは，排油栓を締め給油口より検油栓からオイルが出る程度まで給油します。

・ギヤオイル… 純正油 または，
使用オイル表（179ページ）の指定オイル
・オイル量…6.7 L

取扱いのポイント

●点検，交換後に排油栓，給油栓，検油栓が確実に取付けてあるか確認してください。

5. 油圧作動油の点検・交換および油圧オイルフィルタ・HSTオイルフィルタの交換

⚠警告 傷害事故防止のために

◆油圧作動油を抜くときは，刈取部・機体［L仕様］を下げ，排出オーガを収納状態にして行います。下げ（収納）状態にしないと刈取部が下がったりして人身事故の原因になることがあります。

この機械は，多くの油圧装置を採用しており，油圧作動油の保守管理を誤ると不調の原因となります。

・油圧作動油を交換する際に，油圧オイルフィルタとHSTオイルフィルタを同時に交換を行います。

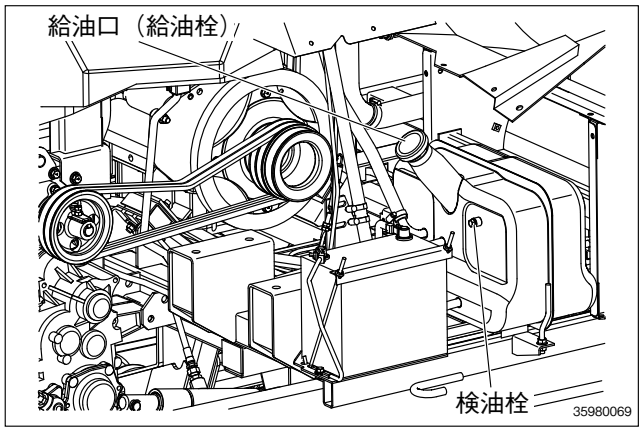
❶ 油圧作動油量の点検

・脱こく供給口の下方の油圧オイルタンクの検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。
・不足しているときは，給油口より補給します。

❷ 油圧作動油の交換

油圧作動油，フィルタの交換は，**「お買いあげ先」**に依頼してください。

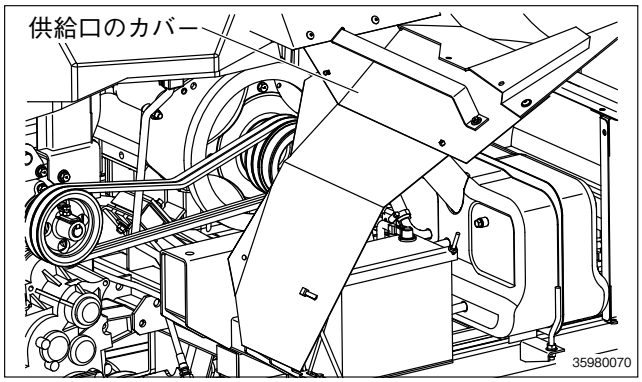
・油圧作動油… 純正油 または，
使用オイル表（179ページ）の指定オイル
・オイル量……20.5L
（10分程度運転後のオイル補充分を含む）



❸ 油圧作動油の抜取り要領

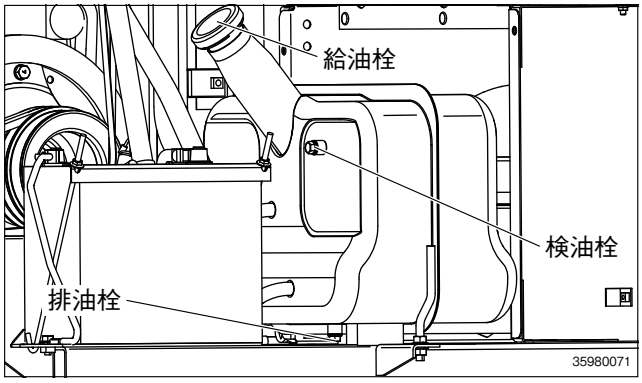
⑴ エンジンを始動し，刈取部・機体［**L仕様**］を下げ，排出オーガを収納状態にしてエンジンを停止します。

⑵ 脱こく供給口のカバーを外します。



⑶ 給油栓を外し，オイルタンク下側の排油栓を外して，油圧作動油を抜きます。

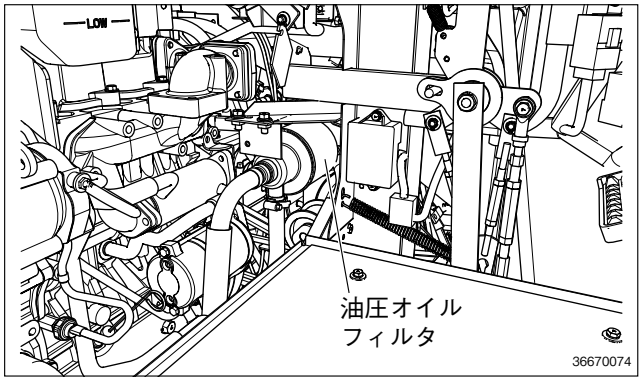
⑷ オイルを抜き終わったら，排油栓を締めます。



❹ 油圧オイルフィルタの取外し要領

⑴ 油圧作動油のオイルフィルタは，**「カートリッジタイプ」**を使用していますので，交換は**「お買いあげ先」**に依頼してください。

⑵ エンジンカバーを開き，運転席左下カバーを取外します。油圧オイルフィルタは運転席左側にあります。



取扱いのポイント

●オイルフィルタを交換するときは，オイルがこぼれないようになるべく開口部の大きなオイル受けを使用してください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆平坦な場所に機械を置いてください。傾斜地では機械が動き出し，傷害事故の原因となります。

●クローラに車止めをかけてください。

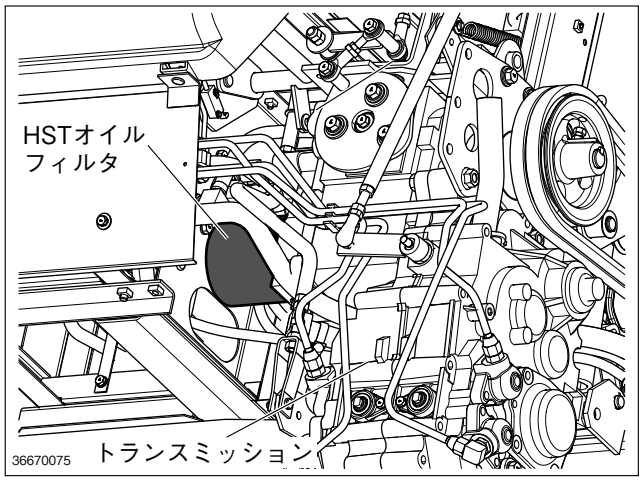
◆枕木などで刈取部の落下防止の固定をしてください。

❺ 走行HSTオイルフィルタの取外し要領

⑴ 走行HSTオイルフィルタは，**「カートリッジタイプ」**を使用していますので，交換は**「お買いあげ先」**に依頼してください。

⑵ 刈取部を上げます。

走行HSTオイルフィルタはトランスミッションの右側に装着してあります。



❻ 油圧オイルフィルタ，走行HSTオイルフィルタの取付け要領

⑴ フィルタ取付面をきれいに掃除して，フィルタのパッキン面にオイルを薄くぬり，滑りを良くして取付けます。

⑵ 締付けは手で行い，取付面にパッキンが当たってから2/3～3/4回転締付けます。

取扱いのポイント

●フィルタ取付面からオイルの漏れ，にじみがないか点検してください。

●給油口の周辺をあらかじめ掃除して，ゴミなどが入らないようにしてください。

❼ 油圧作動油の給油要領

⑴ オイルタンクの給油口より，タンク右側の検油栓からオイルが出るまで給油します。

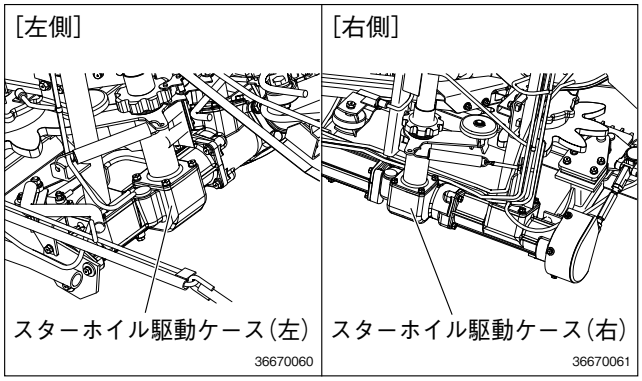
⑵ エンジンを始動し，アイドリング回転で10分間程度運転します。

エンジンを停止して，オイル量を点検し，検油栓から出るまで補給します。

さらに，油漏れのないことも調べます。

⑶ 取外したカバー類を取付け，エンジンカバーを閉じます。

6．スターホイル駆動ケース



・刈取部左右にあるスターホイル駆動ケースの給油栓を外し，給油口より給油します。

・ギヤオイル…API・GL－5以上，SAE・140

・オイル量……右側 1.0 L
左側 1.0 L ［３条型］

右側 1.7 L
左側 1.0 L ［４条型］

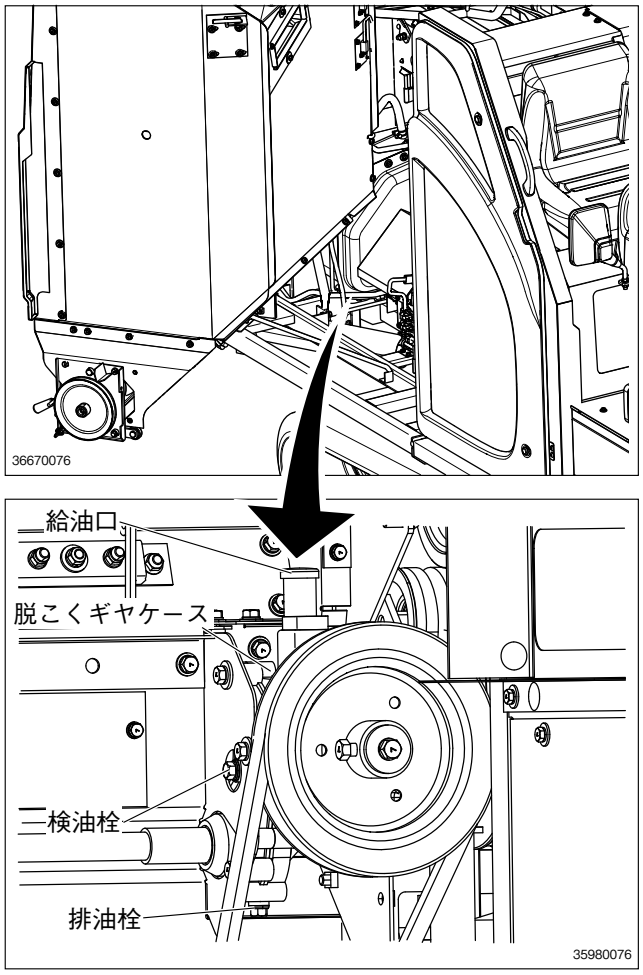
7．脱こくギヤケースのオイル点検・交換

❶ 点検

・グレンタンクを回動します。(112～113ページ参照)

・脱こくギヤケースの検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

・不足しているときは給油栓を外して給油口より補給します。



❷ 交換

オイルの交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

⑴ 排油栓を外してオイルを抜き，検油栓からオイルが出てくるまで給油口より注油します。その際，オイルは適切な容器で受けてください。

・ギヤオイル…API・GL－5以上，SAE・90

・オイル量…0.55 L

⑵ 作業後，グレンタンクを閉じます。(112～113ページ参照)

8. こぎ胴ギヤケースのオイル点検・交換

❶ 点検

・ギヤケースの検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

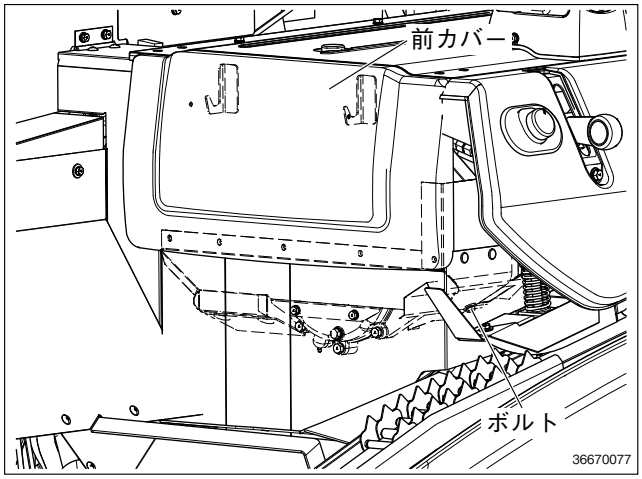
・不足しているときは給油栓を外して給油口より補給します。

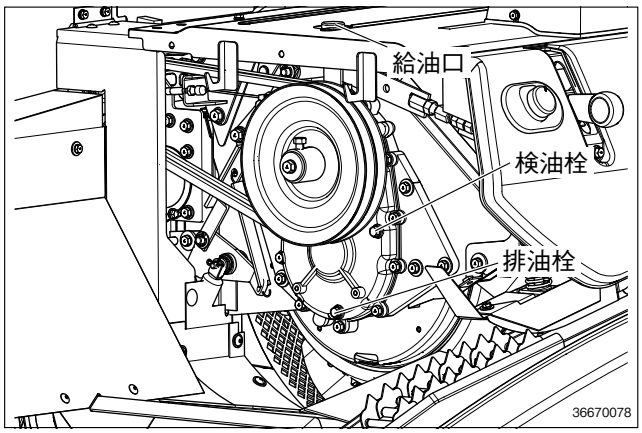
❷ 交換

オイルの交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

⑴ 防じんカバーを取外します。[**ディーラーオプション**]

⑵ こぎ胴部の前カバーを外します。





・ギヤケース下部の排油栓を外し，オイルを抜き取ります。その際，オイルは適切な容器で受けてください。

・ギヤオイル…API・GL−5以上，SAE・90

・オイル量…0.65 L

⑶ 作業後前カバーを元の位置に取付けます。

⑷ 防じんカバーを取付けます。[**ディーラーオプション**]

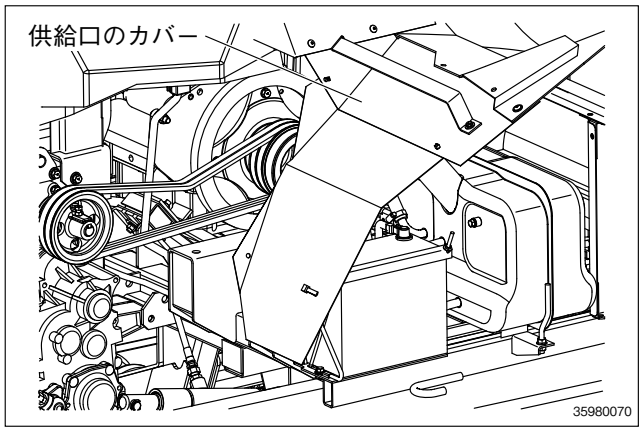
9. 搬送HSTギヤケースのオイルの点検・交換

オイルの交換は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

❶ 点検・補給・交換

⑴ 脱こく供給口のゴムカバーをめくります。

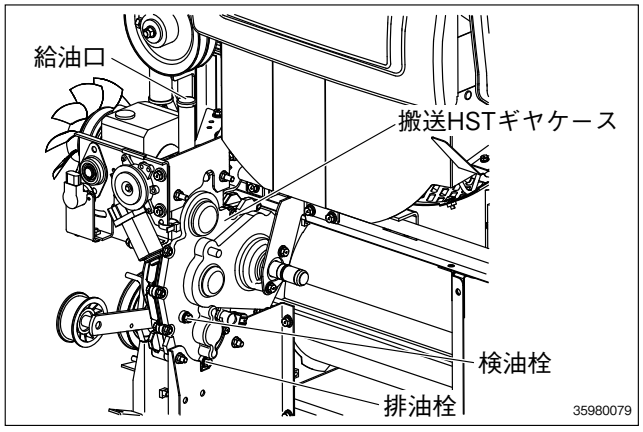
⑵ 脱こく供給口のカバーを外します。



・搬送HSTギヤケースの検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

・不足しているときは給油栓を外し給油口より補給します。

・汚れがひどいときは交換します。



・ギヤオイル…API・GL−5以上，SAE・90

・オイル量…0.55 L

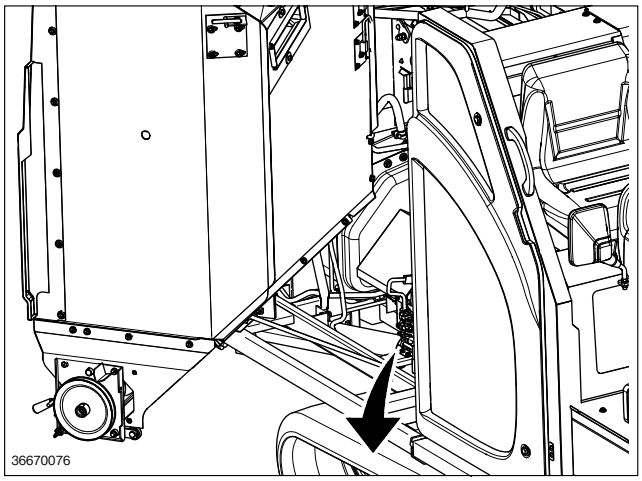
10. グレン入力ギヤケースのオイル点検

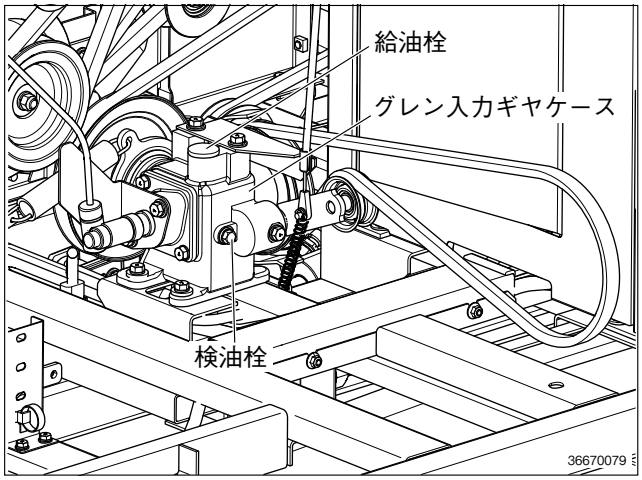
❶ 点検・補給

⑴ グレンタンクを回動します。(112～113ページ参照)

⑵ グレン入力ギヤケースの検油栓を外してオイルが出てくれば適量です。

⑶ 不足しているときは給油栓を外して検油栓からオイルが出るまで補給します。



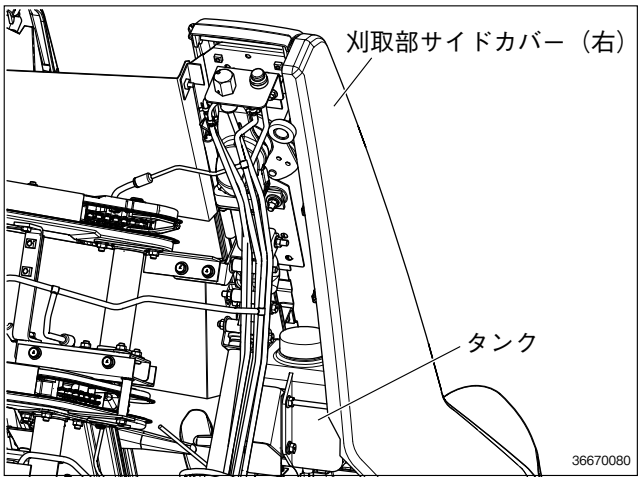


・ギヤオイル…API・GL－5以上，SAE・140

・オイル量……0.3 L

⑷ 作業後グレンタンクを閉じます。(112～113ページ参照)

11. 集中注油タンク



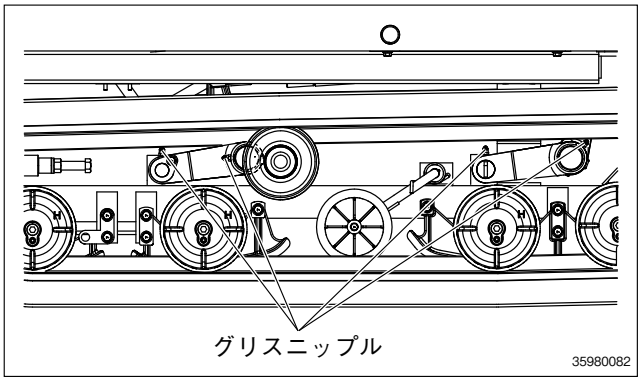
⑴ 刈取部サイドカバー（右）を外し，タンクに給油します。

⑵ 給油後，刈取部サイドカバー（右）を取付けます。

・エンジンオイル（スーパーマルチSTOUオイル使用可）

・オイル量……1.5 L

12. 機体水平制御リフトアーム軸受部の給脂［L仕様］

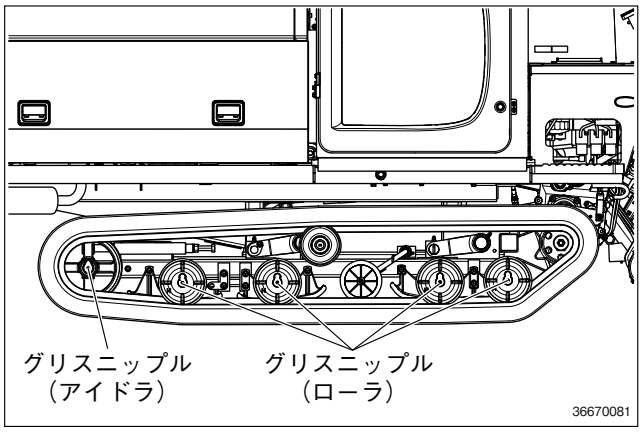


・左右８箇所グリースガンで給脂します。

・リチウムグリス

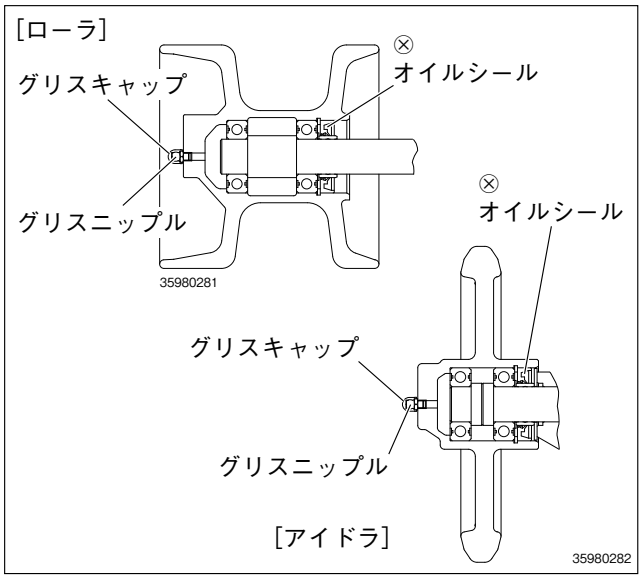
・左右…８箇所

13. ローラ・アイドラのグリスアップ



・各部のグリスアップは50ａ（アール）作業毎，湿田作業直後および格納時に行います。

・グリスアップ箇所は，［**ローラ**］８箇所と［**アイドラ**］２箇所です。

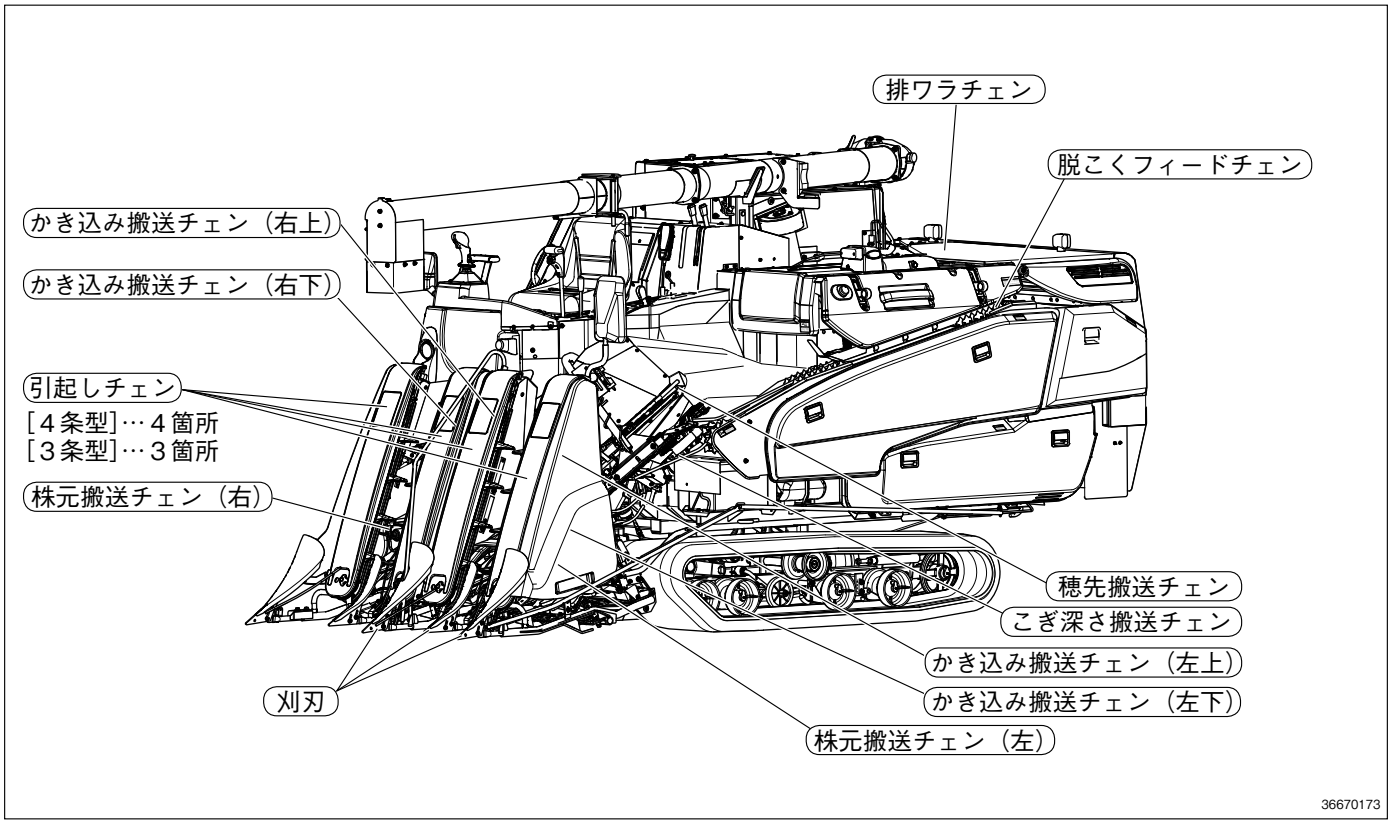


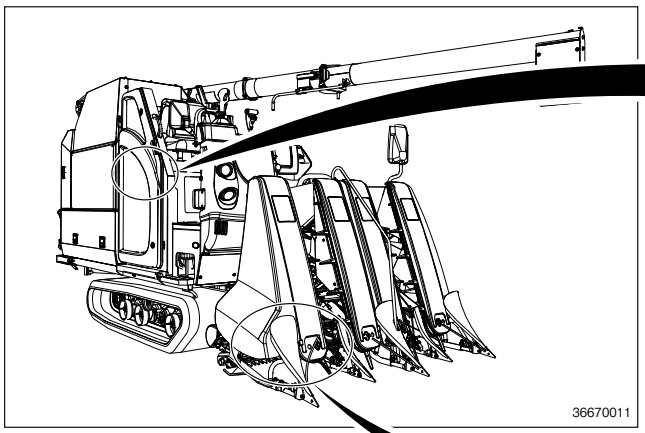
・グリスアップ箇所のグリスキャップを取外し，グリスニップルからリチウムグリスをポンプでオイルシール部（⊗部）よりわき出るまで封入してください。

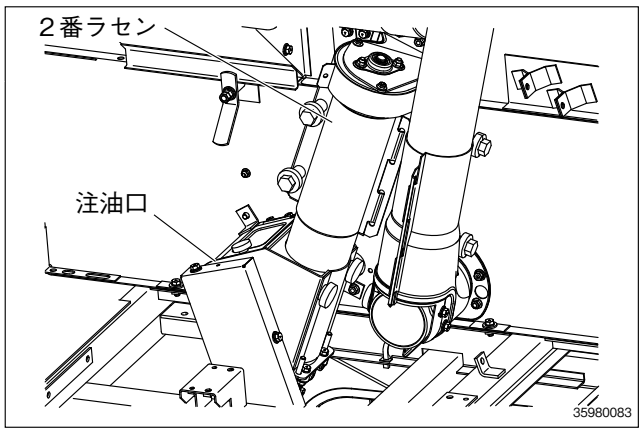
グリスアップが終わりましたらグリスキャップを取付けてください。

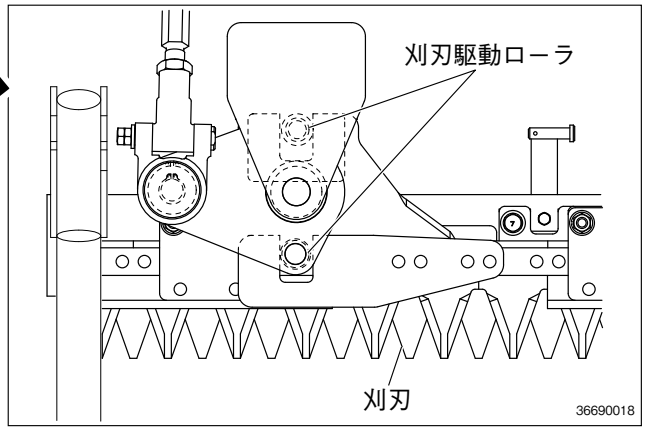
14. 各部の注油

各部の注油は，始業前および刈取面積に応じ適宜行います。刈取・脱こく部関係の注油（▭箇所）は「**集中注油装置**」で注油ができます。そのほかの箇所は「**油さし**」で注油します。









15. 集中注油装置の使いかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆平坦な場所に機械を置いてください。傾斜地では機械が動き出し，傷害事故の原因となります。
・クローラに車止めをかけてください。
◆刈取部，脱こく部を作動しますので，機械の周囲に人を近づけないでください。

❶ エンジンを始動させます。

❷ 機体，水平を下げ［**L仕様**］，刈取部を地面より約10cm程度上げます。

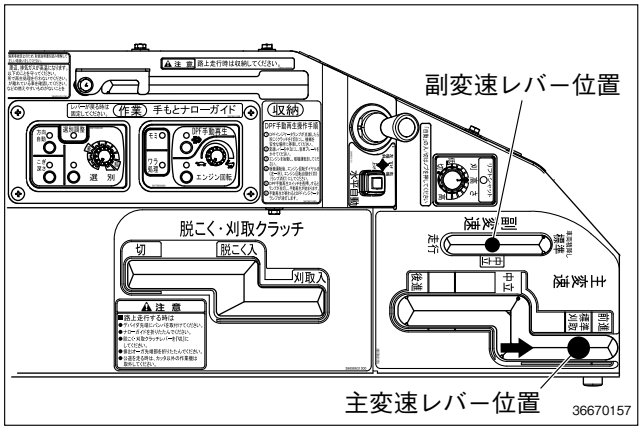
❸ こぎ深さを「**最深こぎ**」にします。

❹ 副変速レバーを《**中立**》にします。

❺ エンジン回転を低回転にします。

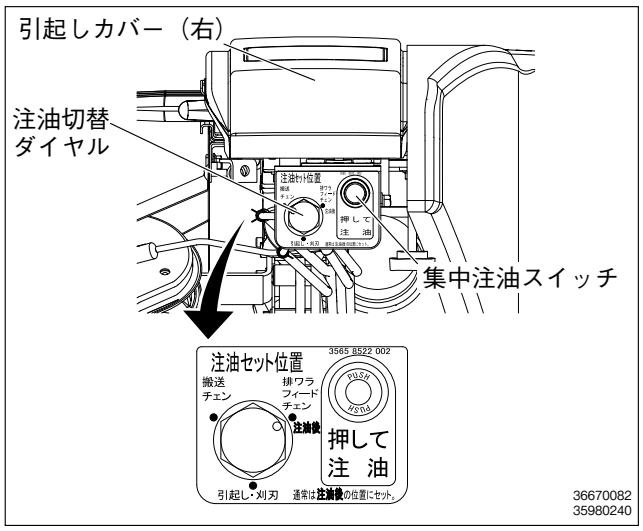
❻ 脱こく・刈取クラッチレバーを《**刈取 入**》位置にします。

❼ 主変速レバーを《**標準刈取**》位置にして，刈取部を回転させます。



❽ 集中注油スイッチを押している間，自動的に注油されます。また，注油切替ダイヤルにより以下の注油箇所の切替えができます。

・引起し・刈刃部
・搬送チェン部（株元搬送左右，かき込み搬送左右，こぎ深さ搬送，穂先搬送）
・排ワラフィードチェン（フィードチェン，排ワラ部）



❾ 注油作業終了時には，オイル漏れ防止のため注油切替ダイヤルを《**注油後**》位置にしてください。

取扱いのポイント

- **注油切替ダイヤルを切替中に，集中注油スイッチを操作すると，故障の原因となりますので，スイッチを押さないでください。**
- **《こぎ深さ・注油》ヒューズ（20A）が切れると，注油はされません。（101～103ページ参照）**
- **注油中にオイルが流れて落ちることがありますので，注油場所を選んで行い，こぼれたオイルは拭き取ってください。**
- **送油ホースの継ぎ部などからオイル漏れがないか，点検確認してください。**
- **注油切替ダイヤルは，注油位置マークの指示位置に確実に切替えてください。**
- **湿田作業で刈刃の上に溜まった土を掃除するときに，ノズル・ノズル取付プレート・注油ホースをカマなどで損傷しないようにしてください。**
- **ノズルが詰まると，注油の妨げとなりますので，針などで詰まりを除去してください。このとき，刈取部を上げて作業する場合は，油圧を固定し，刈取部を固定脚に乗せてから行ってください。また，エンジンは停止してください。**
- **注油には汚れた油を使用しないでください。ゴミなどが混じった油を使用すると，油漏れの原因となります。**
- **注油後は必ず注油切替ダイヤルを《フィードチェン・排ワラ》の位置に合わせてください。他の位置のまま放置すると，油漏れの原因になります。**

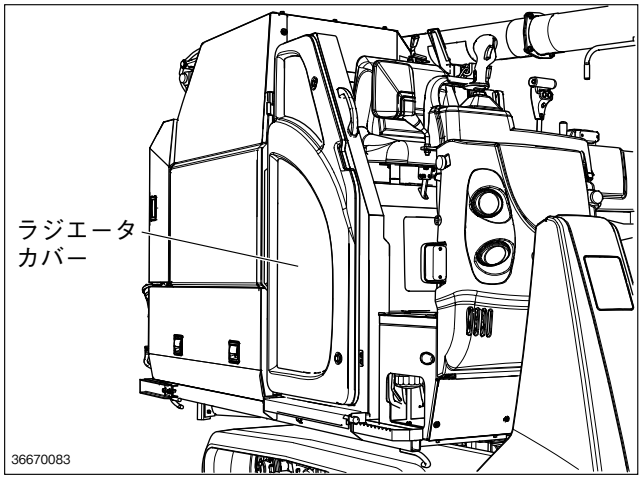
3．各部の点検と掃除のしかた

1．ラジエータ吸気部の掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

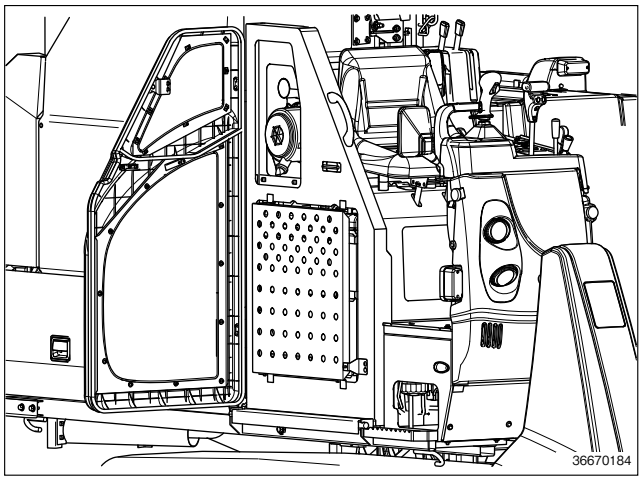
◆エンジン周辺を掃除するときは，スタータスイッチを《切》にしてエンジンを停止させ，エンジンが冷えたことを確認してから行います。

ラジエータカバー，ラジエータフィンにゴミなどが目詰まりすると，冷却風の通りが悪くなり，エンジンが「**オーバーヒート**」する原因となります。



❶ ラジエータカバーの表面のゴミを取除きます。

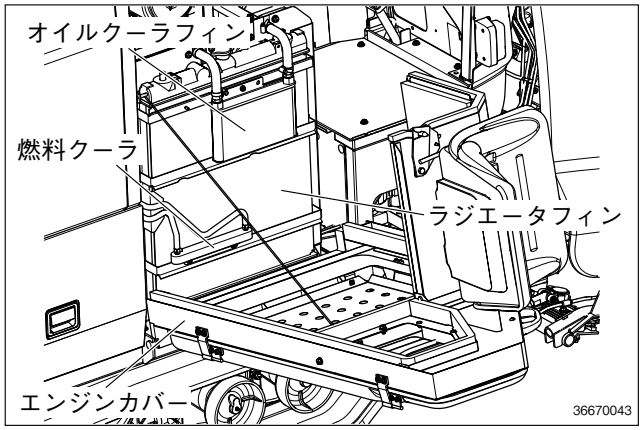
❷ ラジエータカバーを開き内側を掃除します。



❸ ラジエータカバーのゴミを，やわらかいブラシなどで掃落とすか，コンプレッサでエアを吹付けてゴミを取除きます。

❹ ラジエータフィン部，オイルクーラフィン部に「**ゴミ詰まり**」を生じたときは，次の方法で取除きます。

・エンジンカバーを開きます。電気掃除機（小口径のノズル）でゴミを吸取るか，コンプレッサの圧縮空気を吹きつけてゴミを取除きます。ノズルを強く押し当てないでください。強く押し当てるとフィンが変形する恐れがあります。



❺ 掃除後はエンジンカバーを閉じます。

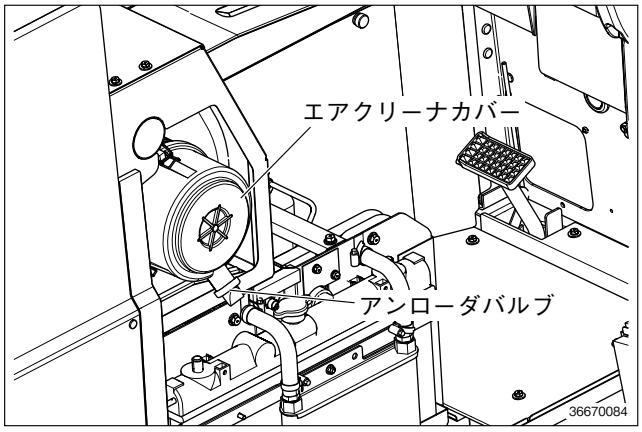
2．エアクリーナの掃除

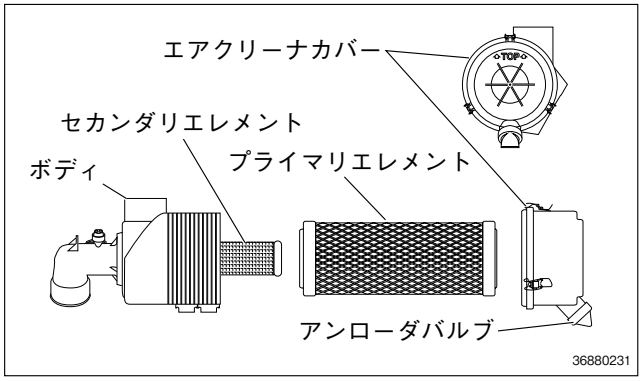
・エアクリーナエレメントを汚れたままで使用すると，エンジンの内部損耗や出力低下を招きます。

❶ エンジンカバーを開けます。

❷ エアクリーナカバーのフック（3箇所）を外し，プライマリエレメントを取出します。

❸ プライマリエレメントは軽く叩くか，コンプレッサでエレメントの内側よりエアを吹きつけて掃除をします。





❹ セカンダリエレメントは掃除して再使用することはできません。

❺ プライマリエレメントの掃除はエンジン保護のためセカンダリエレメントを外さないでください。

❻ 取付けは，アンローダバルブが下向きになるようにセットして取付けます。

❼ エンジンカバーを閉じます。

取扱いのポイント

●コンプレッサでエアを吹きつける場合は，空気圧「686kPa（7kgf/㎠）以下」で行ってください。

3．排気装置（DPF・排気管）の掃除

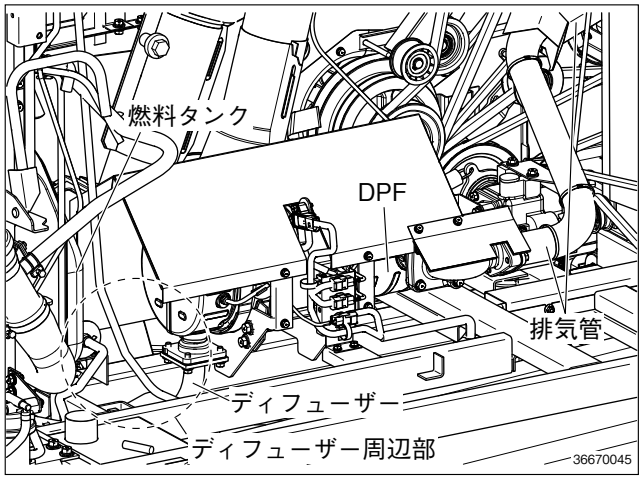
⚠警告 傷害事故防止のために

◆エンジン周辺を掃除するときは，スタータスイッチを《切》にしてエンジンを停止させ，エンジンが冷えたことを確認してから行います。

◆スチーム洗車はしないでください。

❶ グレンタンクを回動します。（112～113ページ参照）

❷ DPFや排気管および周辺部に発火する原因となる燃えやすいゴミなどがあれば取除いてください。



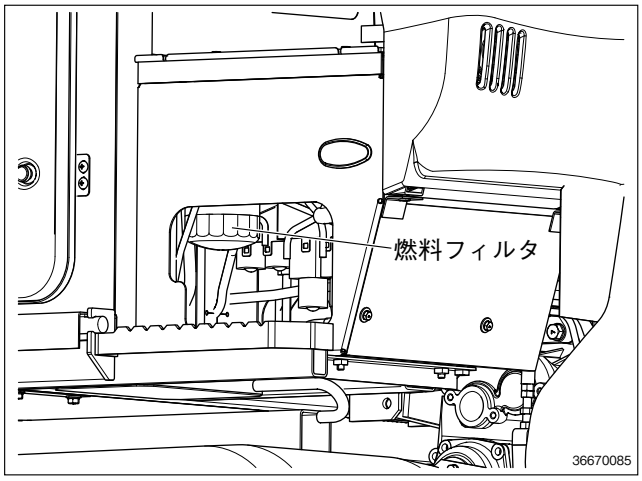
❸ グレンタンクを閉じます。（112～113ページ参照）

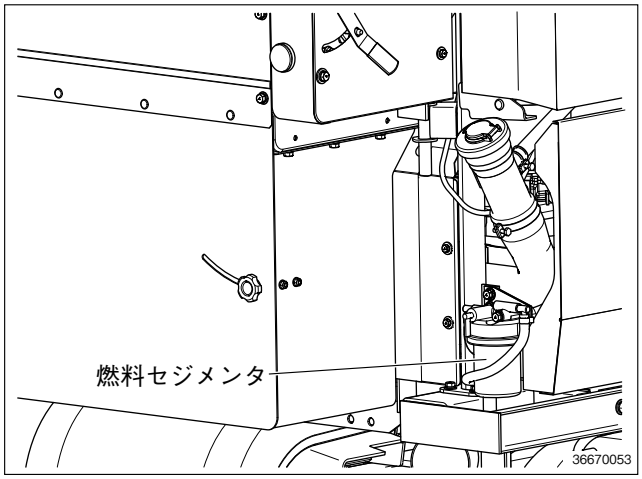
4. 燃料フィルタ・セジメンタの掃除・交換・エア抜き

⚠警告 火災防止のために

◆燃料ホースおよび継ぎ部より燃料がもれている場合は，火災の原因となることがありますので交換してください。

燃料フィルタ・セジメンタは，燃料内に含まれるゴミや水をフィルタにて取除きます。



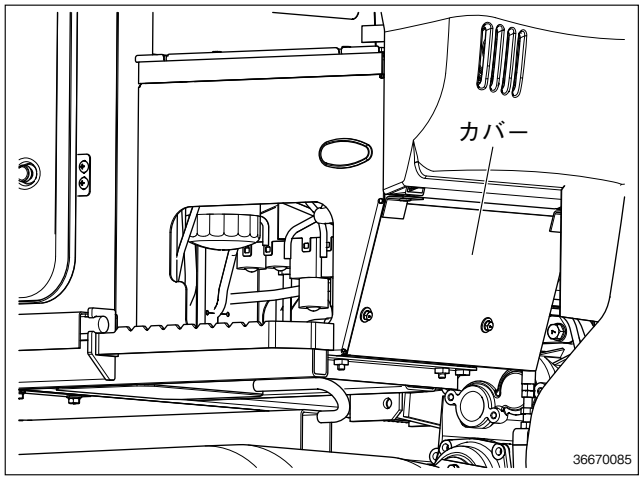


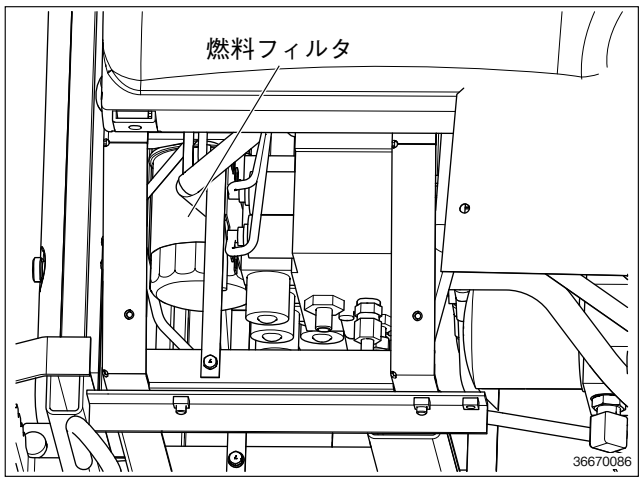
燃料フィルタは「**カートリッジタイプ**」を使用していますので「**定期点検整備表**」（79～80ページ参照）に従って「**お買いあげ先**」に依頼してください。

❶ 「**燃料フィルタの交換**」

⑴ 燃料セジメンタの燃料コックを《**閉**》位置にします。

⑵ 運転席下のカバーを取外します。





⑶ 燃料フィルタを取外します。手でゆるまない場合には，専用工具（市販品）を使用して外します。

⑷ フィルタ取付面をきれいに掃除をして，フィルタのパッキン面に燃料を薄く塗布してから手で確実に締付けてください。

⑸ 運転席下のカバーを取付けます。

⑹ 燃料セジメンタの燃料コックを《**開**》位置にします。

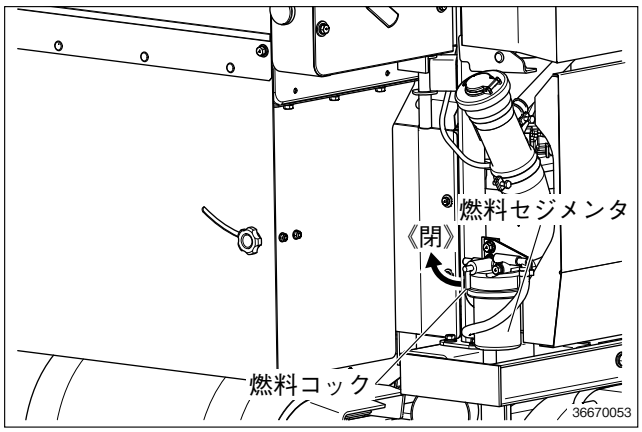
⑺ エア抜きを行います。

❷ 「燃料セジメンタの水排出」

運転前の点検時に水が溜まっている場合に水を排出します。

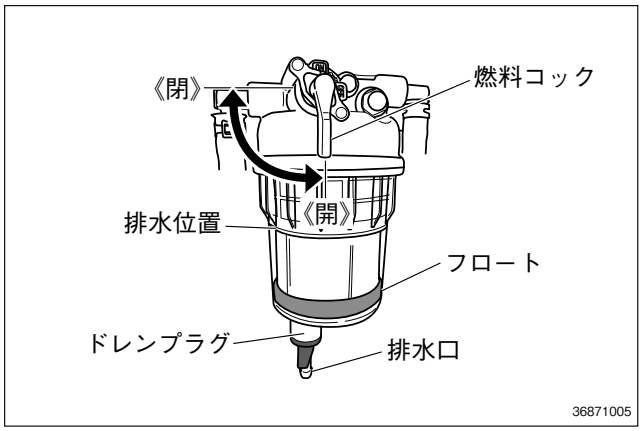
・赤いフロートが排出レベルに達するまでに排出します。

(1) 燃料セジメンタの燃料コックを《**閉**》位置にします。



(2) ドレンプラグをゆるめて水を抜いてください。その際，排水は適切な容器で受けてください。

(3) 水を抜いたらドレンプラグを締め，燃料コックを《**開**》位置にします。



(4) エア抜きを行います。

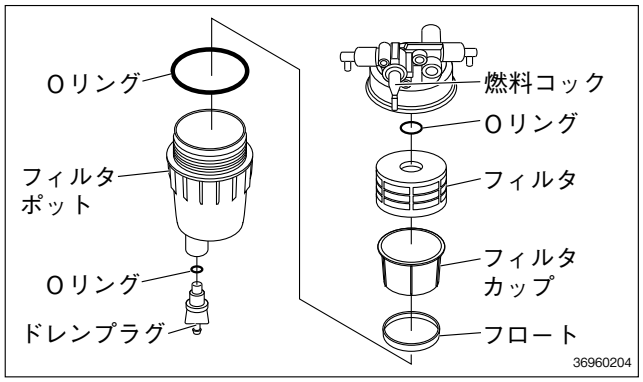
❸ 「燃料セジメンタの掃除」

(1) 後退灯横のカバーを取外します。

(2) 燃料コックを《**閉**》位置にします。

(3) ドレンプラグをゆるめて水を排出します。その際，排水は適切な容器で受けてください。

(4) ドレンプラグを締付けたあとに，フィルタポットをゆるめフィルタ，フィルタカップを取外します。



(5) 取外したフィルタ，フィルタカップを，コンプレッサで圧縮空気を吹きつけてゴミを掃き出します。

(6) フィルタポット内のゴミやよごれをきれいに掃除します。

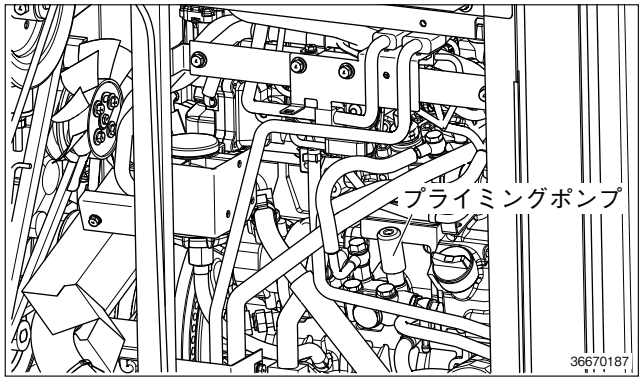
(7) 組付けは取外しと逆の手順で行います。

(8) 燃料コックを《**開**》位置にします。

(9) 後退灯横のカバーを取付けます。

❹ エア抜きの方法

燃料コックを《**開**》位置にし，スタータスイッチを《**入**》位置にして，約30～40秒待ってからエンジン後部のプライミングポンプを重たく感じるまでポンピングするとエア抜きができます。



取扱いのポイント

- **燃料の中に，水やゴミなどが混入しますとエンジンに重大な故障が発生したり，燃料ポンプが作動しなくなることがありますので，給油口のフィルタを通して給油してください。**
- **燃料は雨水などがかからない場所に保管してください。**
- **フィルタのゴミを掃除するときはコンプレッサの空気圧を686kPa(7kgf/㎠)以下にしてください。**

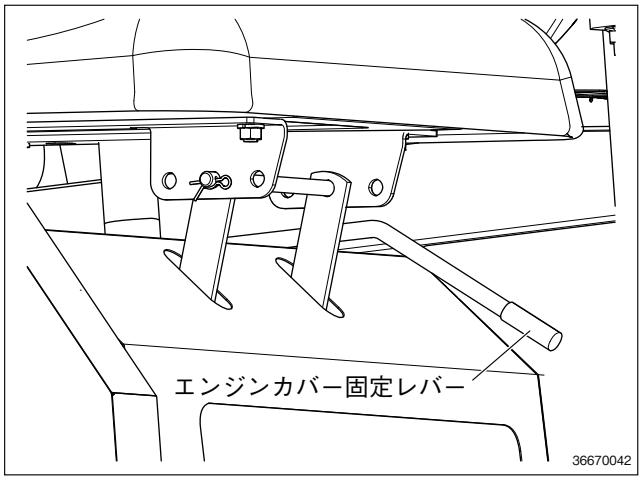
5. ソレノイドバルブのフィルタの点検と掃除

油圧作動油の劣化や，汚れによる作動不良などを防止するため，ソレノイドバルブユニット内部にフィルタが設けてあります。

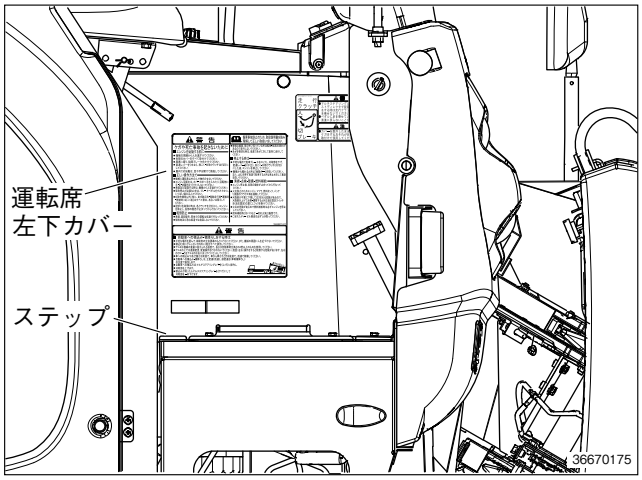
・掃除は，79～80ページの**「定期点検整備表」**に従って行います。

❶ フィルタの清掃

(1) シート左側のエンジンカバー固定レバーの操作によりエンジンカバーを開きます。



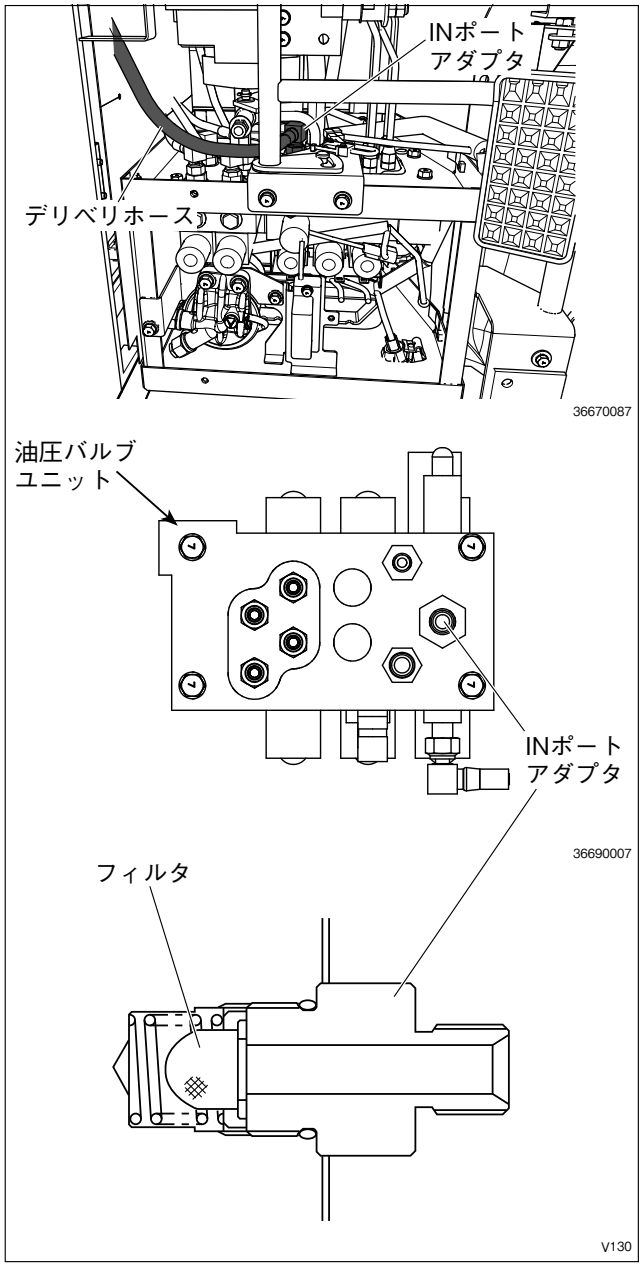
(2) 運転席左下カバーを外し，ホコリやゴミを取除きます。



(3) ステップを外します。

(4) デリベリホースを外します。

(5) INポートアダプタ（六角対辺30）を外し，フィルタを取外します。



(6) フィルタの内側よりエアを吹付けて，きれいに掃除します。

(7) 清掃したフィルタを，方向を間違えないように組込みます。

(8) INポートアダプタ（六角対辺30）を取付け，デリベリホースを組付けます。

❷ 組付け後の操作確認

(1) エンジンを始動し，マルチステアリングレバーにて刈取部を３～４回上下させて，ホースの継ぎ部の油漏れがないか確認します。

(2) エンジンを停止して，オイルタンクのオイル量を点検し，不足していれば検油栓まで補給します。

6. ヒューズの交換

⚠警告 火災防止のために

◆取付けてあるヒューズと，異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などを使用すると，配線の過熱焼損の原因になります。

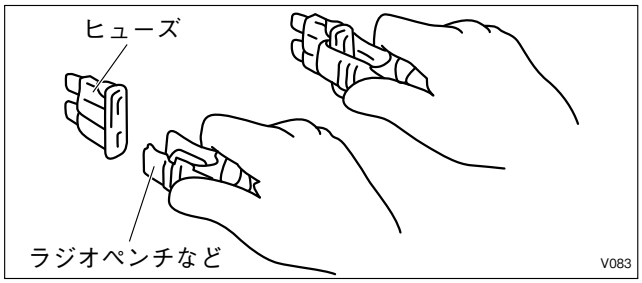
配線の回路に異常を生じたとき，事故を未然に防止するために，ヒューズボックス・燃料カットソレノイドヒューズおよびメインヒューズが設けてあります。

運転中，電気系統の異常を確認したときは，ヒューズの状態をチェックします。

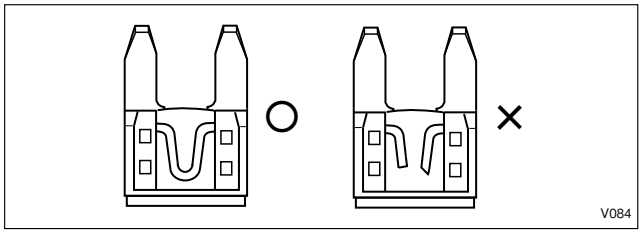
❶ ヒューズボックスのヒューズ交換

(1) スタータスイッチを《**切**》位置にします。

(2) ヒューズボックスの蓋を開き，ラジオペンチなどを使って，ヒューズを引抜きます。



(3) ヒューズが切れていれば，スペアのヒューズと交換してください。



(4) ヒューズボックス内のヒューズの点検・交換が終わったら，運転席左下カバーを取付けてください。

取扱いのポイント

●交換してもヒューズが切れるときは「お買いあげ先」で点検を受けてください。

❷ 大電流用ヒューズ

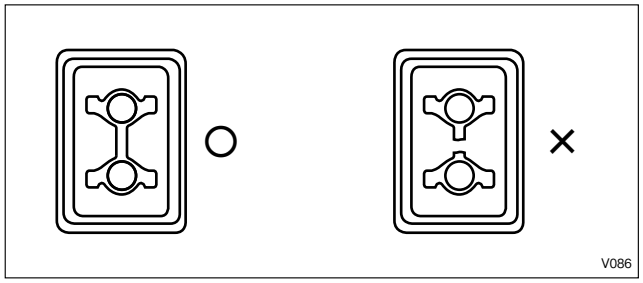
⚠警告 火傷や火災防止のために

◆取付けてあるヒューズ（大電流用）と異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などを使用すると，配線の加熱焼損の原因になります。

◆作業直後はエンジン部が高温になっています。各ヒューズの点検はエンジンが冷えてから行なってください。

(1) バッテリ（−）端子を外します。

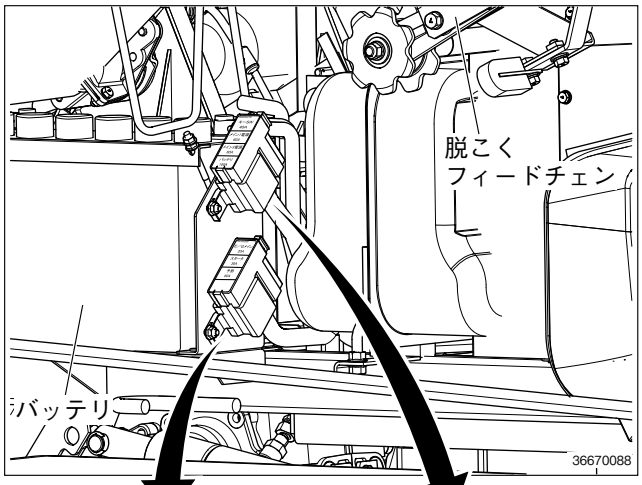
(2) メインヒューズが下図右側（×印）のようであればヒューズ切れです。指定のメインヒューズと交換します。

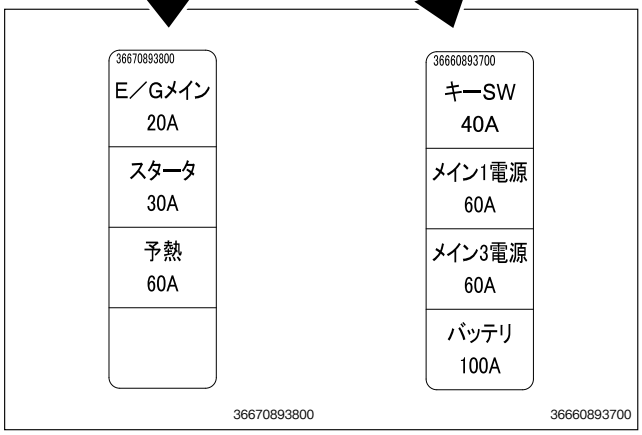


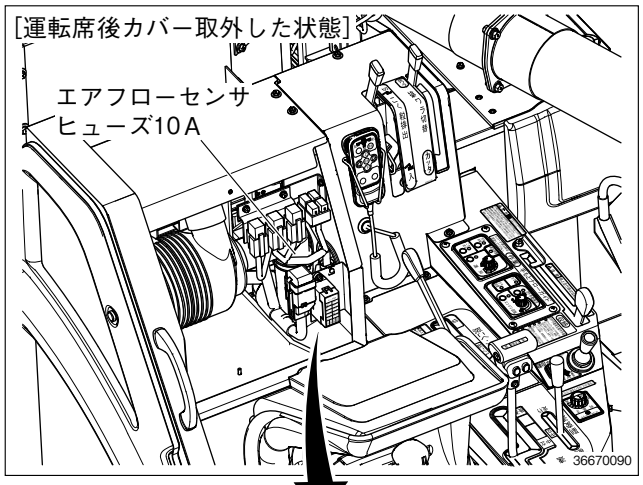
取扱いのポイント

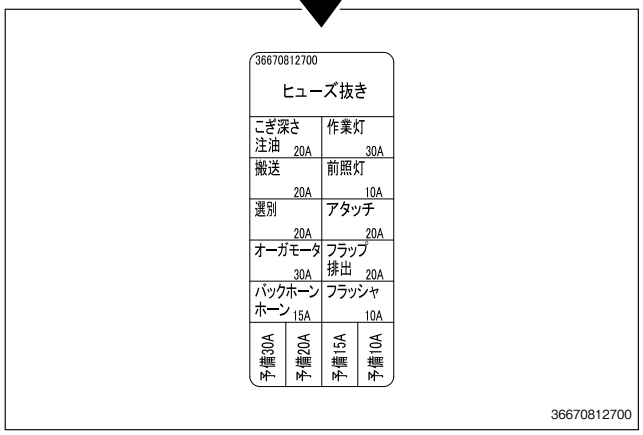
●大電流用ヒューズが切れたときは，「お買いあげ先」で点検を受けてください。

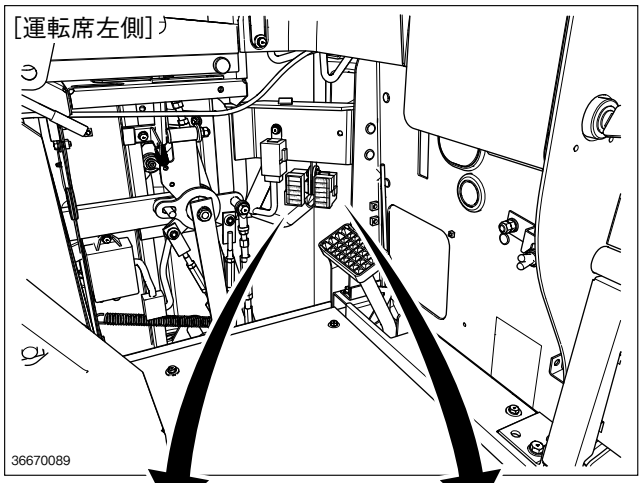
❸ ヒューズボックス位置

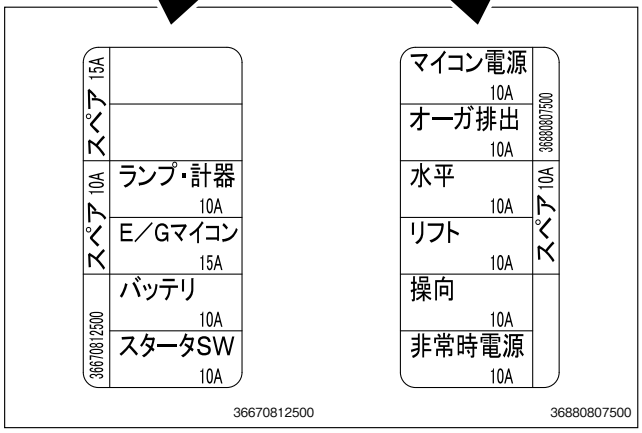












・ヒューズが溶断した場合，次の機能が作動不能になります。　　×：作動不能

■ヒューズの機能

・ヒューズが溶断した場合、下記の機能が作動不能となります。

No	ヒューズマーク名称	電流容量	1 エンジン始動	2 エンジン停止	3 燃料の供給	4 予熱	5 充電	6 エンジン制御	7 計器類のモニタランプ	8 電子ブザー	9 前照灯	10 作業灯	11 方向指示器	12 ホーン	13 バック警報	14 マルチステアリングレバー	15 ジャストディレクタ	16 方向制御	17 こぎ深さ制御	18 選別制御	19 水平制御	20 刈高さ制御	21 刈取・フィードチェン駆動	22 排出オーガ旋回	23 排出オーガ上下	24 こく粒排出	25 警報装置	26 集中注油	27 結束位置自動モータ	28 フラップ開閉
1	スタータSW	10	×																											
2	マイコン電源	10							×	×				×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			×
5	操向	10														×	×	×			×	×			×					
6	リフト	10																				×								
7	水平	10																			×									
8	オーガ排出	10																							×					
9	非常時電源	10																												
10	バッテリ	10									×	×	×	×	×				×	×			×	×		×		×	×	×
11	E/Gマイコン	15	×	×	×	×		×	×																					
12	ランプ・計器	10							×	×																				
13	前照灯	15									×																			
14	作業灯	20										×																		
15	アタッチ	30																											×	
16	排出・フラップ（OP）	20																								×				×
17	フラッシャ	15											×																	
18	選別	20																		×										
19	オーガモータ	30																						×						
20	バックホーン　ホーン	15												×	×															
21	こぎ深さ制御・注油	30																	×									×		
22	搬送	20																					×							
23	エアフローセンサ	10						×																						
24	バッテリ	100	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
25	メイン１	60												×	×				×	×			×	×				×		
26	メイン３	60									×	×	×													×			×	×
27	キー SW	40	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
28	予熱	60				×																								
29	スタータ	30	×																											
30	E/Gメイン	20	×	×	×			×																						

取扱いのポイント

●交換してもヒューズが切れるときは，「お買いあげ先」で点検を受けてください。

7．電気配線の点検と掃除

⚠警告 火傷や火災防止のために

◆電気配線の点検時には，スタータスイッチを《切》位置にし，バッテリ㊀コードをバッテリ㊀端子から外してください。
◆電気配線およびバッテリ㊀コードが損傷していると，ショートや漏電で火災や損傷の原因となりますので交換してください。
◆エンジン，バッテリ，電気配線回りのワラクズなどを取除いてください。火災の原因になることがあります。

❶ 電気配線の点検

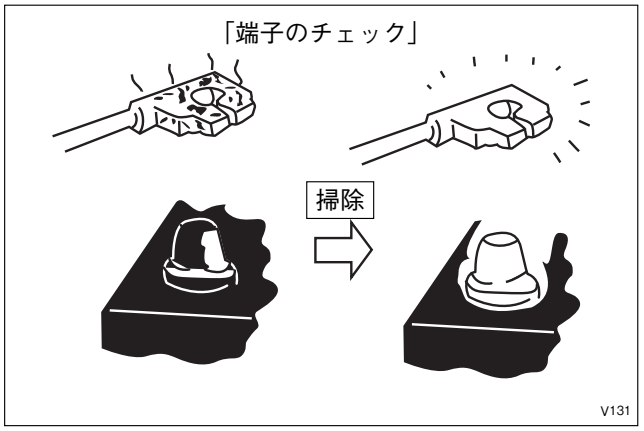
配線の端子部の「**ゆるみ**」や「**接続不良**」または配線が「**損傷**」していると電気部品の性能を損なうだけでなく，「**ショート（短絡）**」などすることがあります。

傷んだ配線は，交換，修理します。

❷ 電気配線の掃除

⑴ エンジン，バッテリ，電気配線部に溜まっている「**ワラやゴミ**」などは，「**火災**」の原因になりますので取除きます。

⑵ バッテリ端子にバッテリ液がかかると，端子が「**腐食**」することがあります。バッテリ端子が腐食すると，「**接触抵抗**」が大きくなり，電流が流れにくくなりますので，「**定期的**」に汚れや腐食を，サンドペーパやブラシで取除きます。腐食防止のために，グリースを塗ります。



8．バッテリの点検と充電

この機械は出荷時には補水必要なバッテリが装備されています。

バッテリの残存量の確認は106ページの❸を参照してください。

指定バッテリ…95D31R

⚠危険 火災や傷害事故防止のために

共通（補水不要なバッテリ，補水が必要なバッテリ）

◆ブースタケーブルを使用するときは，接続前にエンジンを停止してください。
◆ブースタケーブルは，100A以上の仕様のものを使用してください。
容量の小さいケーブルを使用すると，ケーブルが焼損し，火災の原因となることがあります。
◆バッテリを「着脱」したり充電器で「充電」するときは，エンジンを停止し，始動キーを抜取ってください。
◆㊉端子と㊀端子を間違えないようにしてください。逆接すると，電装品が焼損します。また，「スパーク（短絡）」による電気火花で負傷をすることがあります。
◆㊉端子が機械に接触しないようにしてください。
◆㊀端子を取付けたままで充電すると，発電器や電気配線を焼損することがあります。
◆バッテリを化学繊維製布などで掃除しないでください。静電気による引火爆発のおそれがあります。
◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。
◆衣服についたときは，水洗いし，弱アルカリ性石けんで，硫酸分を洗い流してください。

補水不要なバッテリ

◆密封タイプなので，急速充電や開封は厳禁です。

補水が必要なバッテリ

◆バッテリは，充電するとき引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し，「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」に近づけたり，「スパーク」による電気火花が発生しないようにしてください。

◆「水素ガス」が滞留しないよう，風通しのよい場所で充電をしてください。
失明や火傷をすることがあります。

◆バッテリ液（電解液）は，希硫酸で劇毒物ですので，こぼさないようにしてください。

◆バッテリを充電するときは，液口栓をすべて取外してください。

◆バッテリの液量が，側面に表示されている「下限」（LOWER LEVEL）以下になった状態で使用したり充電すると，バッテリの破裂（爆発）の原因となることがあります。

◆充電のとき，「バッテリ液」が飛散することがありますので，眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないようにしてください。

⚠警告 火傷や火災防止のために

共通（補水不要なバッテリ，補水が必要なバッテリ）

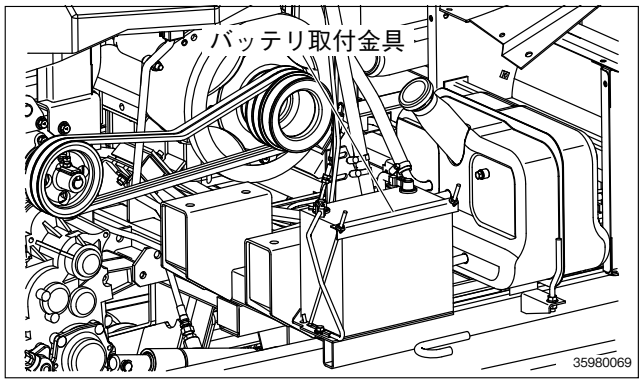
◆バッテリを取外すときはバッテリ⊖コードを先にバッテリの⊖端子（アース側）から外し，次にバッテリ⊕コードを⊕端子（プラス側）から外してください。取付けるときはバッテリ⊕コードを先にバッテリ⊕端子（プラス側）に取付けてください。逆の手順で作業するとショートや漏電を起こす原因となります。

❶ バッテリ取付金具の点検

バッテリの取付けがゆるいと，バッテリが上下左右に動き，振動で電解槽やフタなどが摩耗したり亀裂を起こすことがあります。

取付金具で，しっかり固定します。

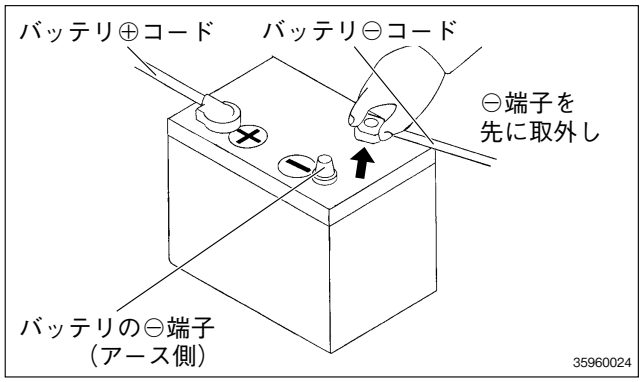
取付金具などが腐食していれば取替えます。



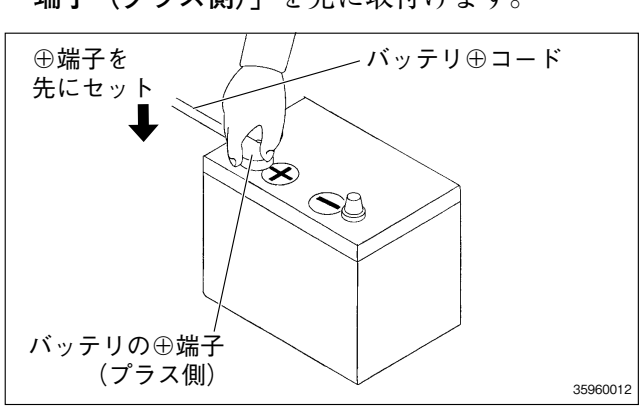
❷ バッテリ着脱時の注意

(1) バッテリを「**着脱**」したり充電器で「**充電**」するときは，エンジン停止し，スタータスイッチから「**キー**」を抜取ります。

(2) バッテリコードを端子から取外すときは「⊖**端子（アース側）**」を先に外します。



(3) バッテリコードを端子にセットするときは「⊕**端子（プラス側）**」を先に取付けます。



(4) バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。

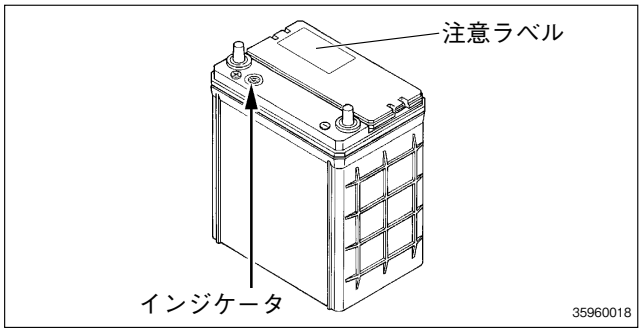
❸ バッテリの状態点検と，異常時の処理

⑴ バッテリ上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し，処置を行ってください。

表示の色	充電状態	処　　置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換

取扱いのポイント

●インジケータは真上から確認してください。



⑵ バッテリが破損して液もれが発生しているときは,交換してください。

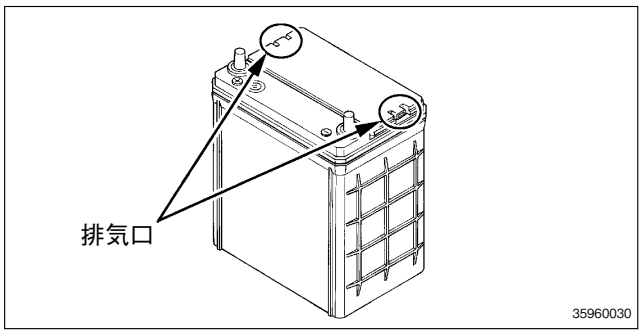
取扱いのポイント

●液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。

⑶ ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

取扱いのポイント

●排気口をふさぐと，バッテリ内部で発生するガスによりバッテリ内圧が上がり，破損する原因になります。



❹ 補充電・交換

⚠危険 傷害事故防止のために

◆バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより,失明や火傷をするおそれがあります。

◆バッテリを機体に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。

◆バッテリを投げたり,落としたり,斜めにしたり,衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液(希硫酸)により,失明や火傷の原因となることがあります。

⚠警告 火傷や火災防止のために

◆バッテリは，以下の順序で取換えてください。順序を誤ると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
・取外し…（−)端子側(アース側)から外す。
・取付け…（＋)端子側を最初に接続する。

◆バッテリの取付け方向を間違えないでください。（＋）と（−）が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。

取扱いのポイント

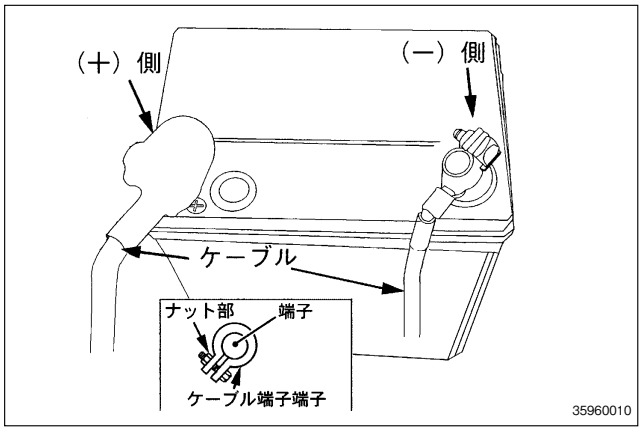
●バッテリが完全に放電し，スタータスイッチを《入》にしても充電・オイルランプが点灯しない状態になった場合は，バッテリを交換してください。他のバッテリでブースターケーブルを使用してエンジンを始動すると高電圧が発生し，電装品を破損することがあります。

次のような状態が発生したときは補充電を行ってください。また，補充電を行っても短期間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行ってください。
・スタータモータの回転が，いつもより弱い。
・アクセルの加減で，ヘッドランプの明るさが変わる。
・ホーンの音が，いつもより低い。

1．バッテリを機体から取外します。

⑴ ナットをゆるめてフックを外します。

⑵ ケーブル端子のナットをゆるめて，端子からケーブル端子を取外します。取外すときは，必ず（−）側から取外してください。



2．補充電を行うときは，平坦な風通しの良い場所を選んで行います。また，充電は，バッテリの（+）を充電器の（+）側に，バッテリの（−）を充電器の（−）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で（急速充電は厳禁です）行ってください。

3．補充電が終わると取外したときと逆の手順で取付けます。

取扱いのポイント

- **バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。**
  バッテリ形式：95D31R
- **バッテリはエンジン始動用ですから，ほかの用途には使用しないでください。**
- **バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。**

補水が必要なバッテリの場合
（補水が不要なバッテリの説明と異なる部分の説明です。）

❺ 点検・補水

⚠危険 傷害事故防止のために

◆バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下のことを守ってください。

◆バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVELとLOWER LEVEL間に補水してください。

◆バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。電解液（希硫酸）によって火傷することがあります。

◆充電のとき，「バッテリ液」が飛散することがあるので，保護眼鏡などで目を守り，ゴム手袋を着用ください。

◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。

◆衣服についたときは水洗いし，弱アルカリ性石けんで，硫酸分を洗い流してください。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

1．残存容量の確認（補水が必要なバッテリ）

⑴ バッテリ液の「**比重**」を測定する方法と，「**バッテリテスタ**」で測定する方法があります。

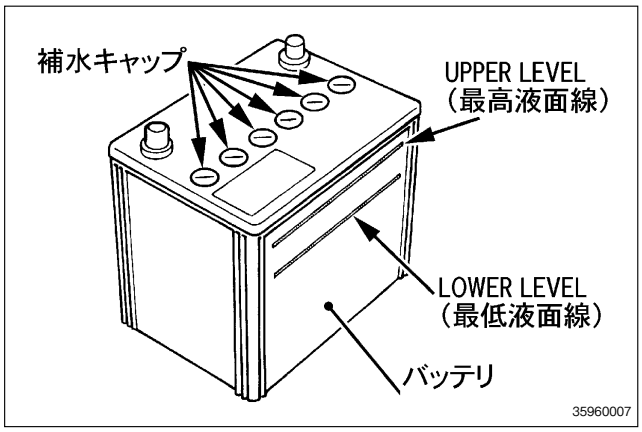
⑵ 残存容量が低下していれば，ただちに補充電をします。

⑶ バッテリ液の比重が「1.220（20℃）」以下であれば補充電をします。

比重（20℃）	放電電気量（%）	残存容量（%）
1.280	0	100
1.240	25	75
1.200	50	50
1.160	75	25
1.120	100	0

⑷ バッテリテスタで測定するときは，バッテリテスタの取扱説明書に従って測定と補充電を行ってください。

2．バッテリ液の量を点検し，「UPPER LEVEL」（最高液面線）と「LOWER LEVEL」（最低液面線）の間の液量があるか確認し，不足しているときは補水キャップを外して補水します。



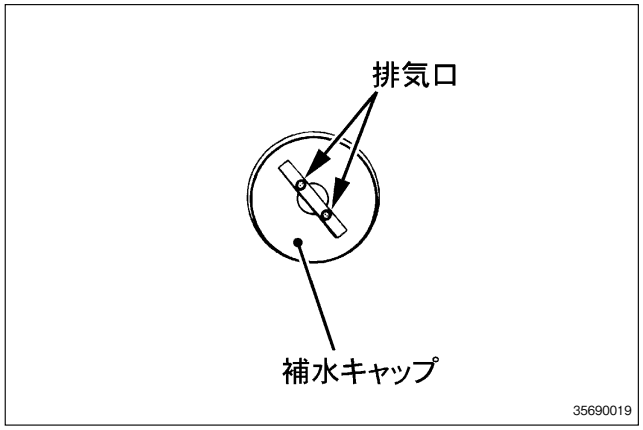
取扱いのポイント

- バッテリ液が不足している極板が空気中に露出すると，バッテリ寿命は著しく短くなります。
- バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。
- バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

3．補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

取扱いのポイント

- 排気口をふさぎますと，バッテリ内部で発生するガスよりバッテリの内圧が上がり，破損する原因となります。



❻ 補充電

⚠危険 傷害事故防止のために

◆補充電中は補水キャップを全て取外しますので火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

1．補充電を行うときは，平坦で風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取外した状態で行います。

また，充電は，バッテリの（+）を充電器の（+）側に，バッテリの（−）を充電器の（−）側にそれぞれ接続して，普通の充電方法で行ってください。

取扱いのポイント

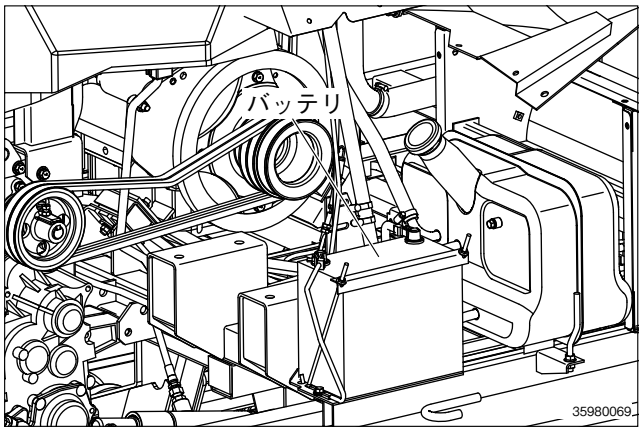
●急速充電を行ったときは，作業後必ず補充電を行ってください。

2．補充電が終わったら補水キャップを全て取付けてください。

❼ ブースタケーブルによるエンジン始動

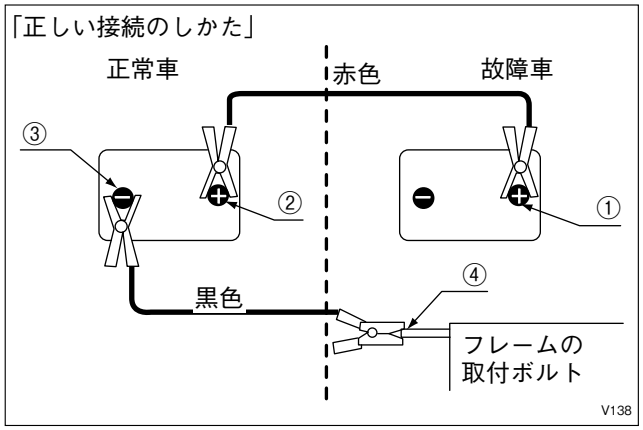
バッテリが放電し，エンジンが始動できないとき，他車（12V仕様車）の良好なバッテリを電源として始動する場合，ブースタケーブルを使用します。

このときは，次の手順を守って行います。



「ブースタケーブルの接続のしかた」

⑴ 正常車のエンジンを停止して，①〜④の順序でブースタケーブルを確実に接続します。

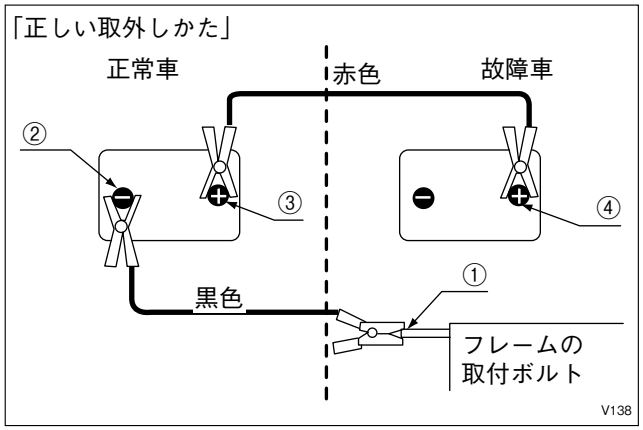


接続順序④は，ブースタケーブル（黒色）のクリップを機械のフレームの取付けボルトに接続します。

⑵ 放電バッテリ搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくいときには，正常車のエンジンをスタートしてから，放電バッテリ搭載車のエンジンをスタートさせます。

「ブースタケーブルの取外し」

・エンジン始動後のブースタケーブルの取外しは，**接続の場合と逆の順序**で行います。



❽ バッテリ単体での充電

共通(補水不要なバッテリ,補水が必要なバッテリ)

⑴ 充電作業にとりかかる前にエンジンを停止し，スタータスイッチ（始動キー）を抜取ります。

⑵ 機体からバッテリを取外します。

⑶ 「**水素ガス**」が滞留しないよう，風通しのよい場所で充電をします。

⑷ 「**火気**」を近づけたり「**スパーク（短絡）**」による電気火花が発生しないようにします。

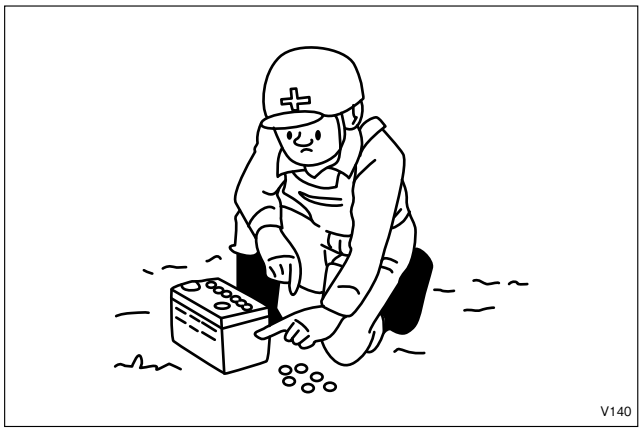
⑸ 充電器のクリップを着脱するときは，充電器のスイッチを「**切**」にし，⊕端子（赤色）・⊖端子（黒色）を正しく取付けます。

補水不要なバッテリ

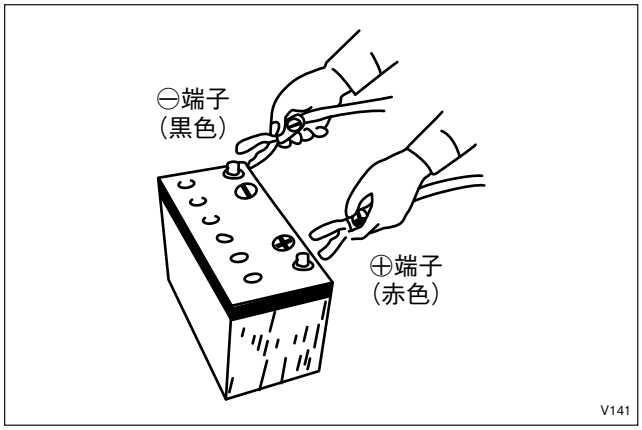
⑴ 急速充電は厳禁です。

補水が必要なバッテリ

⑴ 充電前に「**液口栓**」をすべて取外します。



⑵ 急速充電はできるだけ避け，普通充電をし，液温が「45℃」を超えないようにします。



取扱いのポイント

- **各端子は，「ゆるみ」がないように締付けてください。**
- **取付けのとき，バッテリ端子部は布で油などを拭き取っておきます。取付け後バッテリ端子部には，腐蝕防止のためグリースを塗布してください。**
- **バッテリ⊕端子のゴムブーツを，取付けておきます。**
- **厳寒時は，機械を格納するときに，バッテリを取外して暖かい所に保管してください。**
- **亀裂や変形のあるバッテリは，新品と取替えてください。汚れていれば，清水で洗浄してください。洗浄後は，水分を拭き取ってください。**

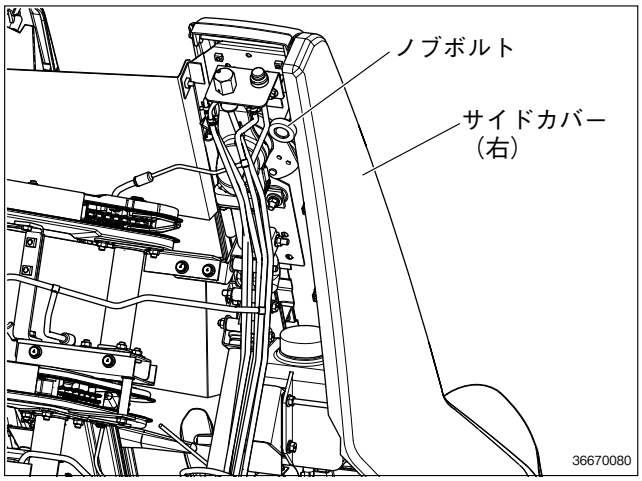
9. 刈取部サイドカバー右・左の外しかた

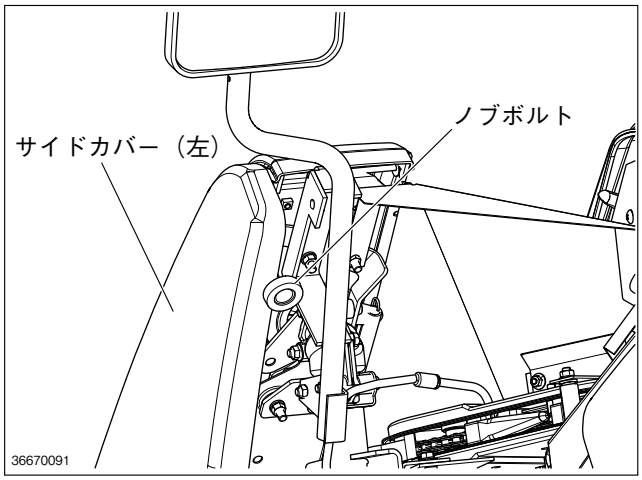
刈取部を地面に接地させて行なってください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆取外したカバーは作業後取付けてください。

❶ 刈取部サイドカバーのノブボルトを引いて取外します。





❷ 掃除などの作業後，刈取部サイドカバーを取付けてください。

取扱いのポイント

●刈取部サイドカバーを取付けるとき，爪がカバーに食い込まないようにしてください。

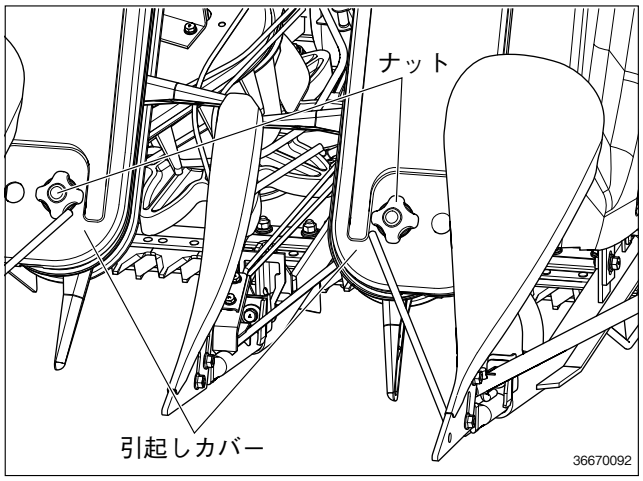
10. 引起しカバーの外しかた

刈取部を地面に接地させて行なってください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆取外したカバーは作業後取付けてください。

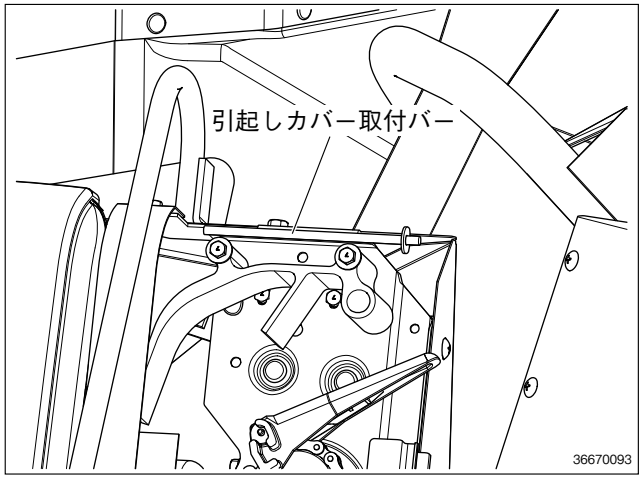
❶ 引起しカバー下側の取付ナットを外します。引起しカバーを少し持ち上げて取外します。



❷ 掃除などの作業後，引起しカバーを取付けて取付ボルトで締付けます。

取扱いのポイント

●引起しカバーを取付けるとき，上部の取付バーに引掛けてください。



11．グレンタンクの回動のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆グレンタンクを回動するときは，平坦な場所で行い，各クラッチを切り，エンジンを停止して，各部の回転が止まってから行ってください。
◆グレンタンクを回動したら，ストッパをかけて，作業を行ってください。
◆グレンタンクを収納したら，固定レバーでタンクを固定してください。

⚠注意　傷害事故防止のために

◆作業後カバーを取付けてください。

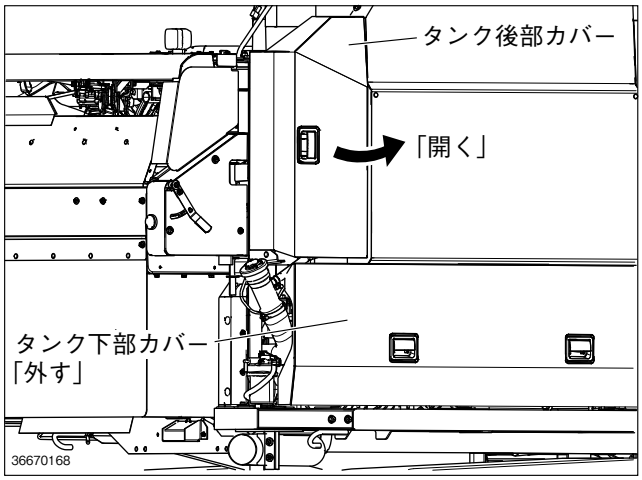
取扱いのポイント

●グレンタンク内にこく粒が入っていないことを，確認してから行います。
タンク内にこく粒が入った状態で回動させると，故障の原因となります。

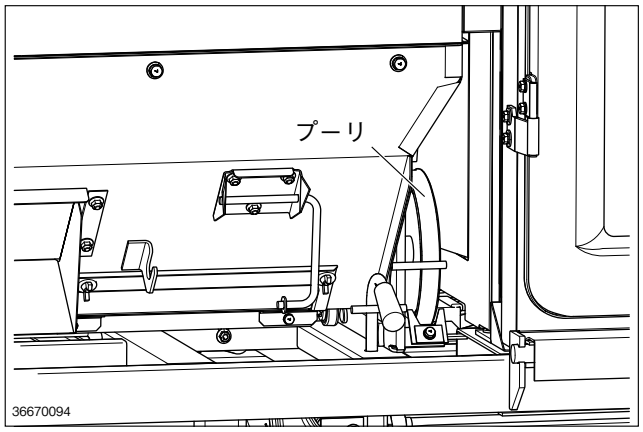
エンジンおよびベルトの点検・整備や脱こく部の掃除・点検をするときは，グレンタンクを回動して行います。

❶　タンク下部のカバーを取外します。

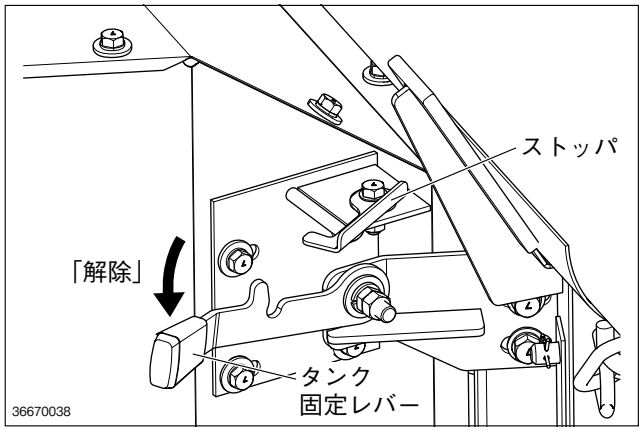
❷　タンク後部のカバーを開きます。



❸　グレン駆動ベルトをプーリより外します。



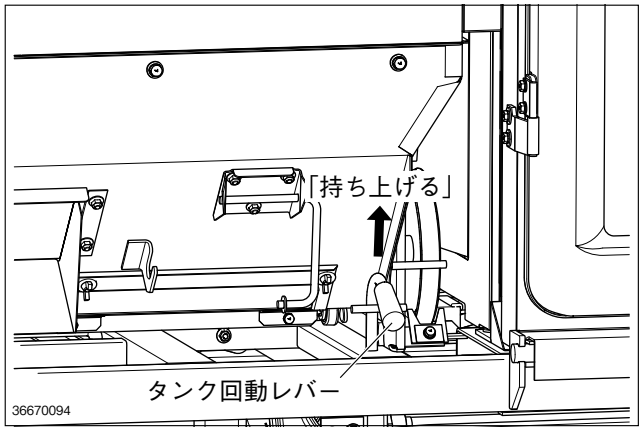
❹　タンク固定レバーのストッパを上げて，タンク固定レバーを解除します。



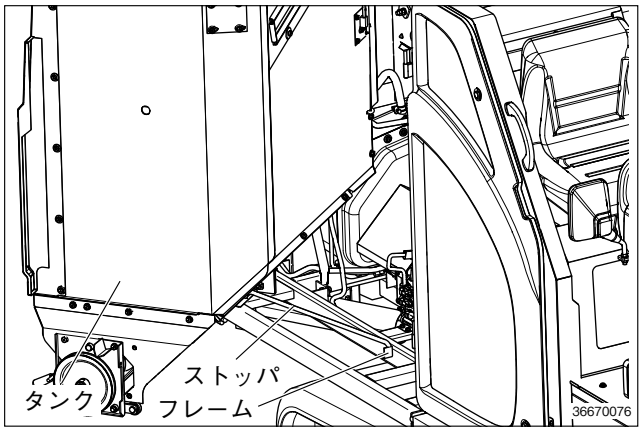
取扱いのポイント

●グレンタンクを回動するときは，取説の順序通りに行ってください。順序通り行わないとタンク後部カバーが，破損，変形する恐れがあります。

❺　タンク回動レバーを持上げながら，手前に引きタンクを回動します。

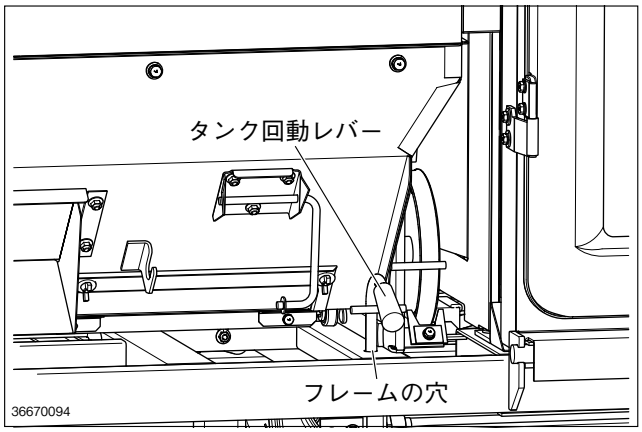


❻　タンクのストッパをフレームにかけます。



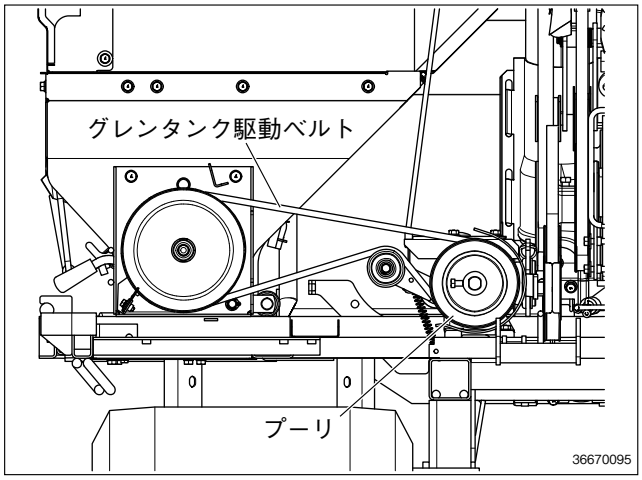
❼　収納は逆の順序で行います。

❽　タンク収納は，タンクを戻すと，途中でタンク回動レバーのピンがフレームに当たり回動しなくなりますので，タンク回動レバーを持上げながらタンク回動レバーのピンがフレームの穴に入るまでタンクを押込みます。



取扱いのポイント

●タンク収納後はベルトの掛け方が間違っていないか，再度確認してください。



12．こぎ胴部の開閉のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

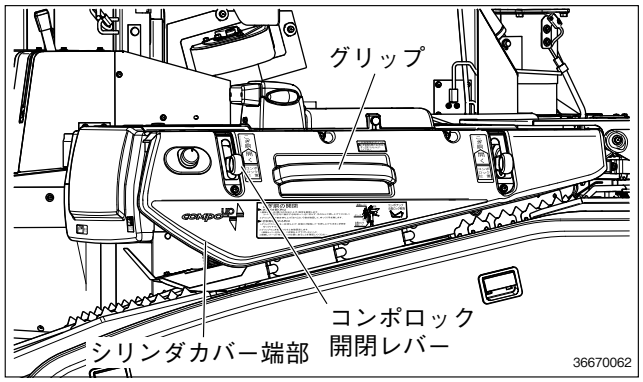
◆こぎ胴部を開くときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。

◆こぎ胴部を開くときは，グリップでこぎ胴を持上げ，ゆっくりと手を離しロックが掛かったことを確認してください。

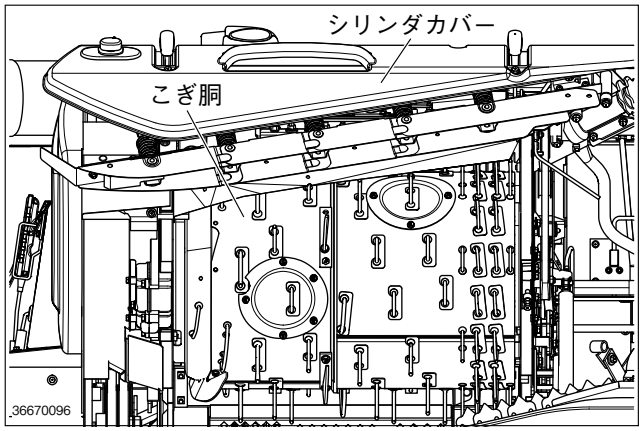
◆《自動ロック解除レバー》を操作するときは，グリップまたはシリンダカバー端部を支えて行ってください。このときは，回動範囲内には手や体を入れないでください。

・こぎ胴を開くときは，オーガを「**上セット**」にし防じんカバーを閉じます。

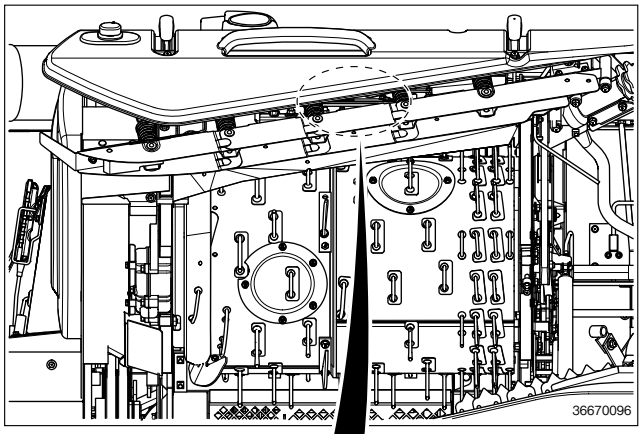
❶　２本のコンポロック開閉レバーを持上げ「**固定**」を解除します。（前方のレバー操作だけでも解除できます）

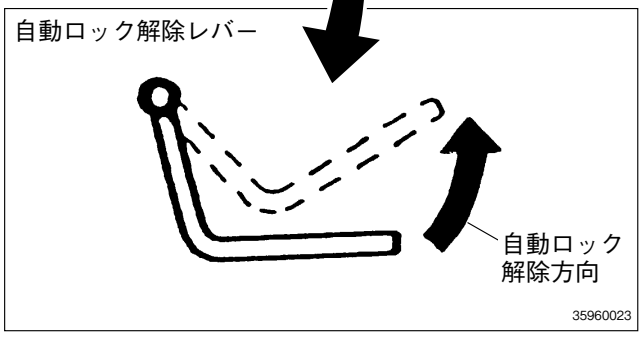


❷　グリップでこぎ胴部を持上げゆっくり手を離しロックが掛かったことを確認します。



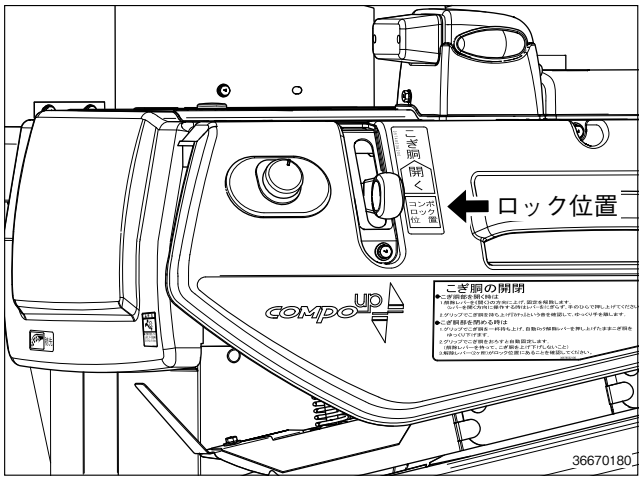
❸ こぎ胴部を閉めるときは，シリンダカバー端部を持って，こぎ胴を一杯に持上げ，自動ロック解除レバーを矢印の方向に回動させてロックを解除してから，こぎ胴部をゆっくり下げます。





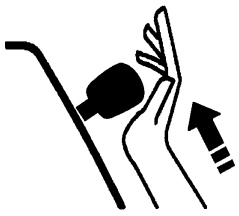
❹ アームを持ってこぎ胴部を一杯下げると自動固定します。(コンポロック開閉レバーを持って，こぎ胴を上げ下げしないでください)

こぎ胴を閉めたときは，コンポロック開閉レバー（2箇所）を必ず下にさげて**《コンポロック位置》**にあることを確認します。



取扱いのポイント

- **オーガ「下セット」のままでこぎ胴部を開けると，シリンダカバーが破損するおそれがありますので，オーガを「上セット」にしてください。**
- **防じんカバーを開いたままでこぎ胴部を開けると防じんカバーが破損するおそれがありますので防じんカバーを閉じてください。[ディーラーオプション]**
- **レバーを開く方向に操作するときはレバーをにぎらず，手のひらで押し上げてください。**

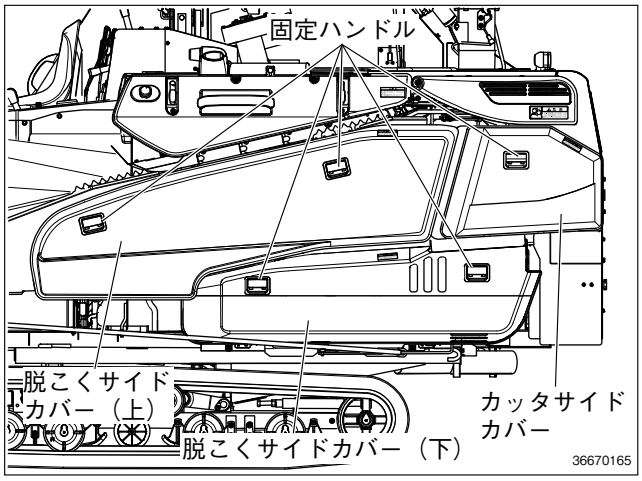


13. カッタ部の開閉のしかた

⚠注意 傷害事故防止のために

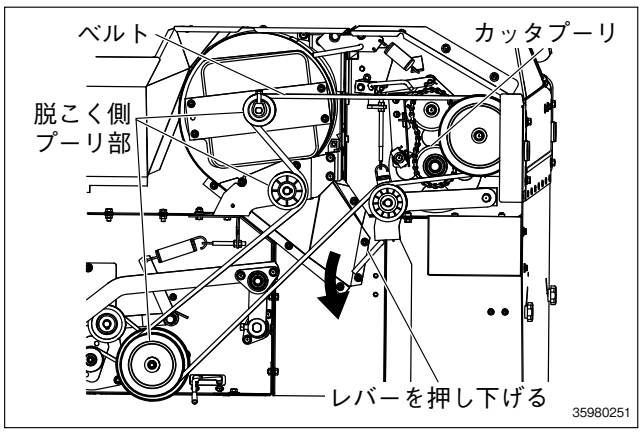
◆カッタをオープンするときは，機械を平坦な場所に置いて駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行ってください。
◆カッタを開いて点検作業などをするときは，ストッパをかけ，固定状態にしてください。ストッパを固定状態にしないとカッタが回動して障害事故を起こすことがあります。
◆カッタを開いたときはカッタ刃に触れないようにしてください。

❶ 固定ハンドルを持上げて脱こくサイドカバー（上）・（下）およびカッタサイドカバーを取外します。



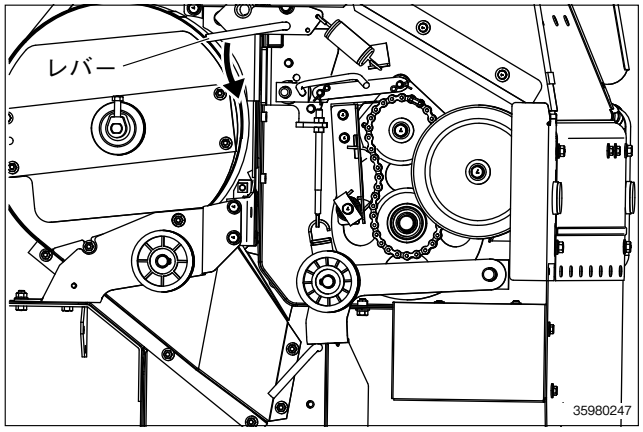
❷ レバーを押し下げ，ベルトの張りを解除します。

❸ ベルトを脱こく側プーリ部より外します。

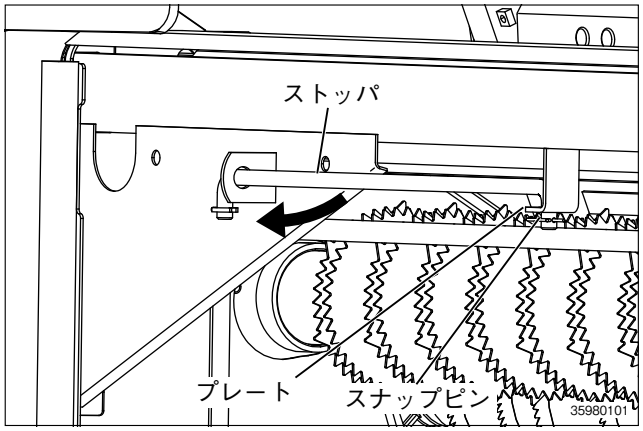


❹ レバーを引き下げ固定（ロック）を解除します。

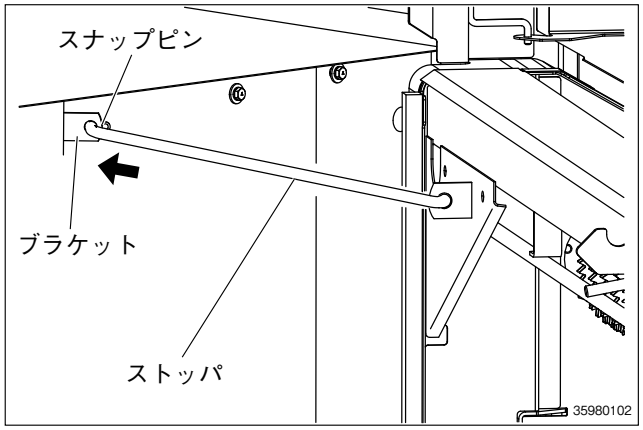
❺ カッタフレームを少し上方へ持上げながら，後方へ開きます。



❻ カッタについているストッパのスナップピンを外し，プレートから外して矢印の方向に回動させます。



❼ ストッパ先端をブラケットの穴に入れ，スナップピンを差込み固定状態にします。



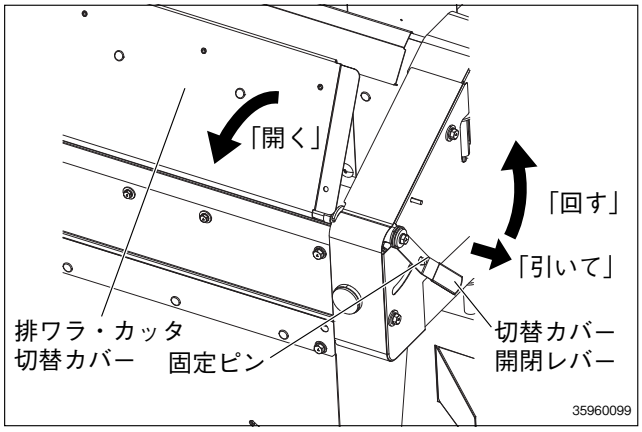
❽ カッタを閉じるときは，逆の手順で行います。（❼→❶の手順）

14．切替カバーの開閉のしかた

⚠危険 傷害事故防止のために

◆切替カバー開閉レバーを操作するときは必ずエンジンを停止してください。

カッタ作業のとき切替カバー開閉レバーを手前に引いて固定ピンから外し，切替カバーを倒すことができます。カッタ刃部，排ワラチェン終端部を後面から確認します。



・確認後は逆の手順で元どおりにします。

取扱いのポイント

●切替カバーが開いていると，排ワラランプが点灯しています。エンジン始動はできますが，脱こく・刈取クラッチを脱こく《入》にするとエンジンが停止しますので必ず切替カバーは作業後は閉じてください。

15．脱こく部の掃除のしかた

脱こく部を掃除するときは，ワラクズや残粒を落すために上から下へと作業を行なうことをお奨めします。

1．グレンタンク部の掃除
2．脱こくこぎ室の掃除
3．こぎ胴ギヤケース部の掃除
4．ワラ切カマの掃除
5．脱こく受網の掃除
6．第２こぎ室の掃除
7．排じん室の掃除
8．揺動流板の掃除
9．揚こくラセン部の掃除
10．２番ラセン部の掃除
11．１番ラセン底板・２番ラセン底板の掃除

16. 脱こく内部の掃除

⚠警告 傷害事故防止のために

◆脱こく部の各部を掃除するときは，エンジンを停止して，各部の回転が止まってから行ってください。
◆２人以上で作業する場合，特に回転部を動かすときは互いに声をかけあい，安全を確認してから行ってください。
◆こぎ胴部を開くときは，グリップでこぎ胴を持ち上げ，ゆっくりと手を離しロックが掛かったことを確認してください。
◆《自動ロック解除レバー》を操作するときは，グリップまたはシリンダカバー端部を支えて行ってください。このときは，回動範囲内には手や体をいれないでください。

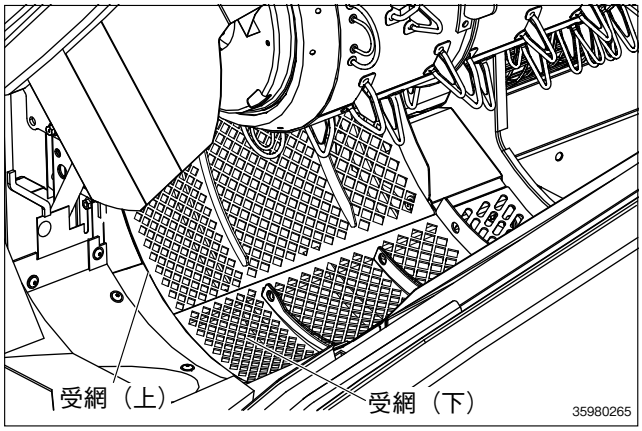
⚠注意 傷害事故防止のために

◆作業後は，取外したカバー類は取付けてください。

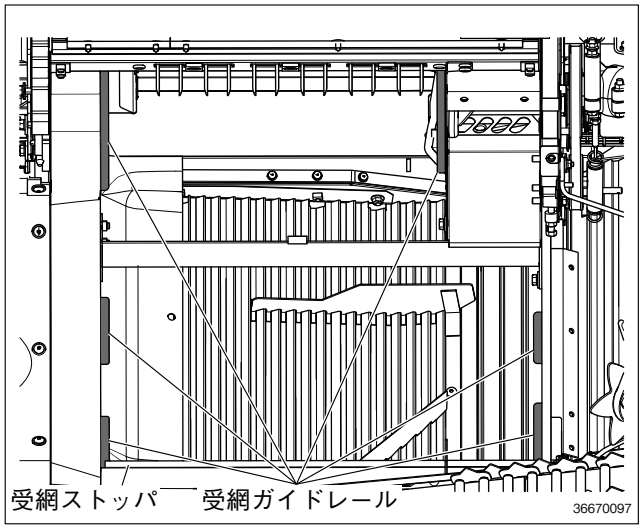
品種の混合や稲・麦の混合を防ぐため，また長期格納の際の脱こく内部のワラクズや残粒を取除くために，各掃除口を開けてきれいに掃除します。

❶ 「脱こく受網（上）・（下）の着脱」

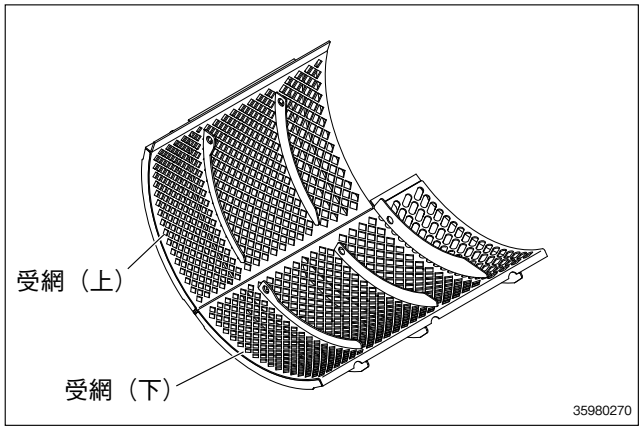
⑴ こぎ胴部をいっぱい持ち上げると受網を固定しているロック装置は自動的に解除されます。
⑵ 受網（上）を外します。
⑶ 受網（下）を外します。



⑷ 受網（上）・（下）を取付けるときは受網ガイドレール（５箇所），受網ストッパのクズを取除きます。



⑸ 脱こく受網の取付けは逆の順序で取付けます。



⑹ こぎ胴を閉めると受網は自動的にロックされますが，受網が完全に入っていないときはロックできませんので受網が完全に入っていることを確認します。

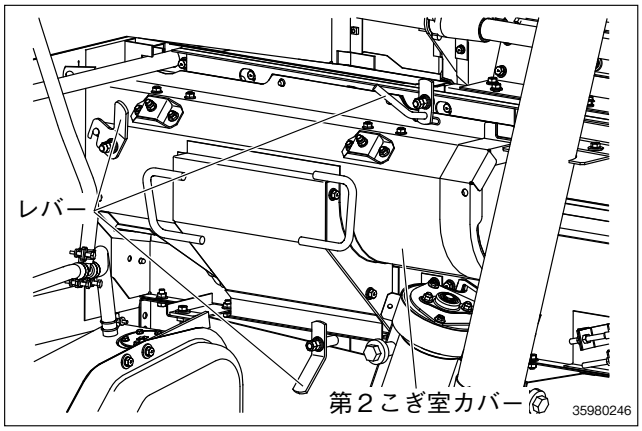
取扱いのポイント

- **長期格納前には，受網（上），（下）は取外して掃除をしてください。**
- **受網ストッパおよび受網ガイドレール（６箇所）にこく粒やワラクズが溜まったまま受網をセットするとこぎ歯に接当する場合がありますので掃除してください。**

❷ 第２こぎ室の掃除

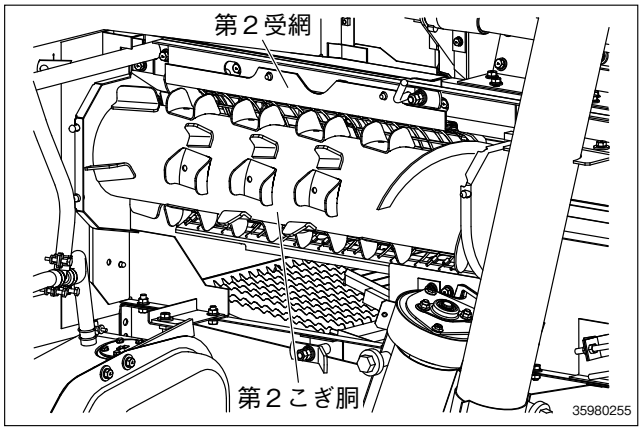
⑴ グレンタンクを回動します。(112～113ページ参照)

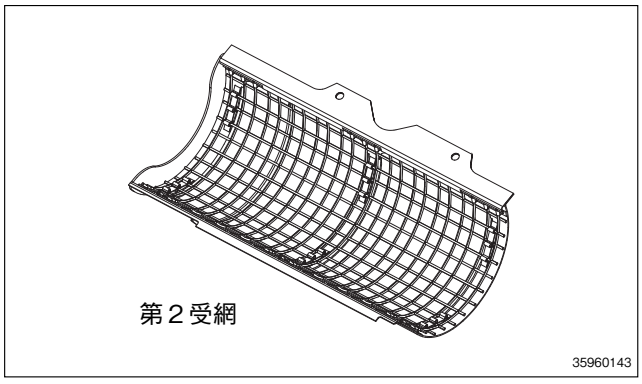
⑵ ３個のレバーを回し，第２こぎ室カバーを取外し，内部に残ったクズを掃除します。



⑶ 第２受網は，受網の上側から第２こぎ胴を回すようにして，取外します。

⑷ 第２受網取付けは，逆の手順で取付けます。





⑸ 第２こぎ室カバーを取付けます。

取扱いのポイント

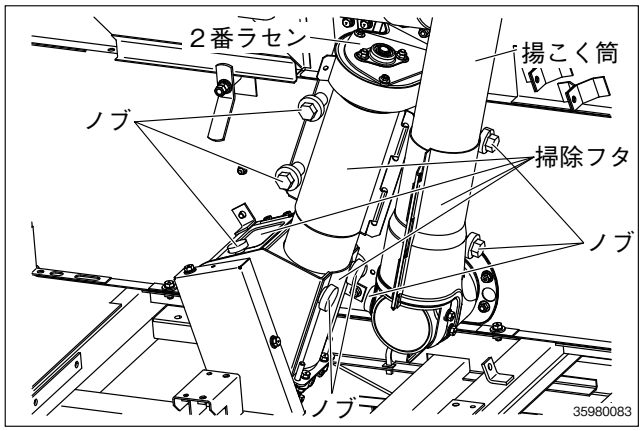
●長期格納前には，第２受網を取外して掃除をしてください。

⑹ グレンタンクを閉じます。
(112～113ページ参照)

❸ 揚こくラセン部・２番ラセン部の掃除

⑴ グレンタンクを回動してください。
(112～113ページ参照)

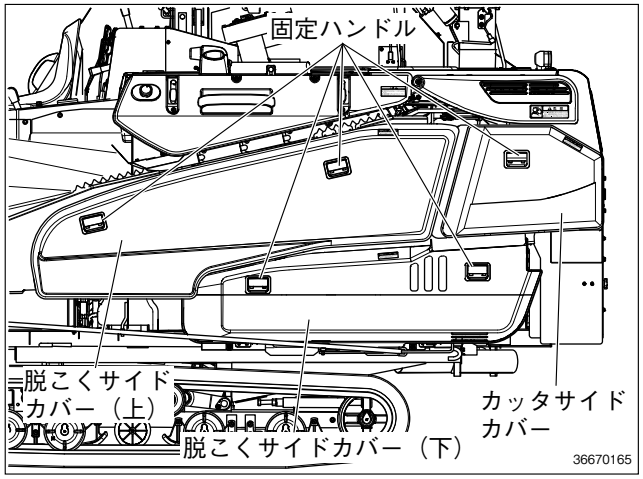
⑵ ノブを外し，掃除フタを取外し，内部にたまっているこく粒を掃除します。



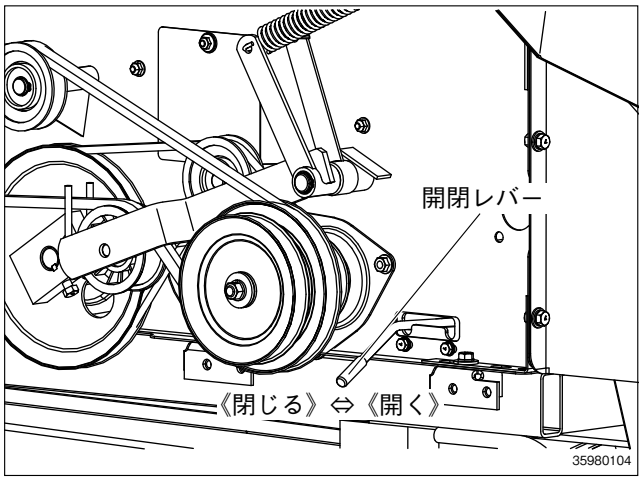
⑶ 掃除後は，掃除フタを取付け，ノブで締付けます。
グレンタンクを閉じます。
(112～113ページ参照)

❹ １番ラセン底板，２番ラセン底板の掃除

⑴ 脱こくサイドカバー（上），（下），カッタサイドカバーの固定ハンドルを引いて取外します。



⑵ 開閉レバーを《**開く**》方向に操作すると底板が開き，機械の後方下側から掃除ができます。



⑶ 掃除後は開閉レバーを《**閉じる**》位置に戻します。

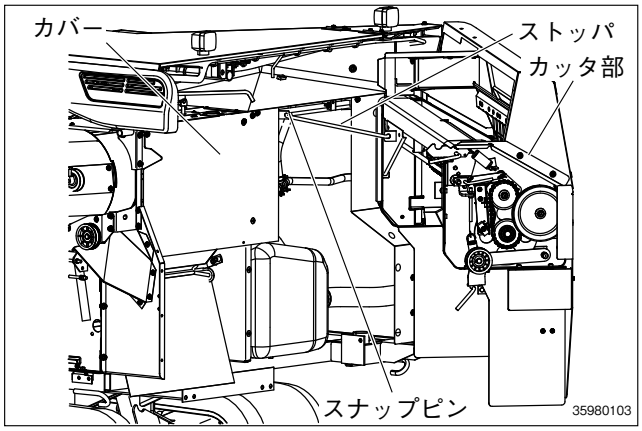
⑷ 脱こくサイドカバー（上），（下），カッタサイドカバーを取付けます。

取扱いのポイント

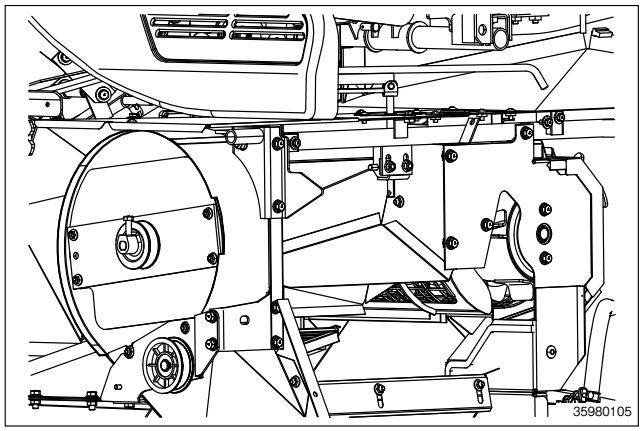
●掃除後は底板が確実に閉じていることを確認してください。開いているとこく粒が漏れます。

❺ 排じん室の掃除

⑴ カッタを開きストッパをかけ，スナップピンで固定します。（115ページ参照）



⑵ カバーをめくり排じん室のワラクズなどを掃除します。



⑶ カッタを閉じます。（115ページ参照）

❻ ワラ切カマの掃除

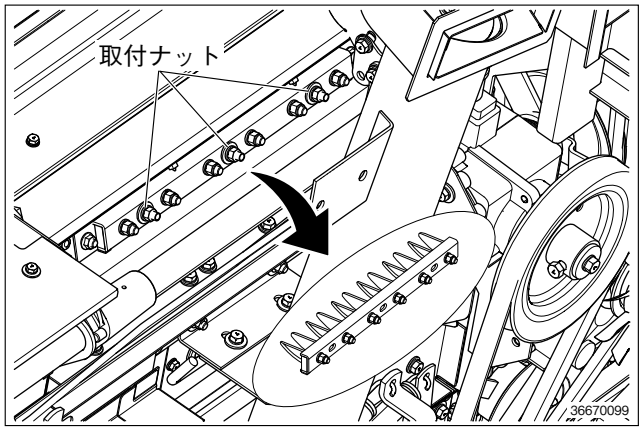
⚠警告 傷害事故防止のために

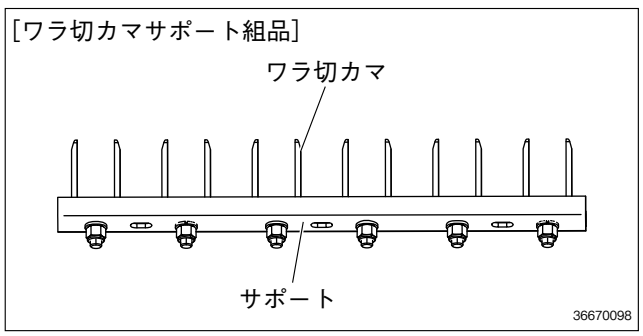
◆ワラ切カマの脱着作業は，手袋をして行ってください。

◆刃部に手をかけないでください。

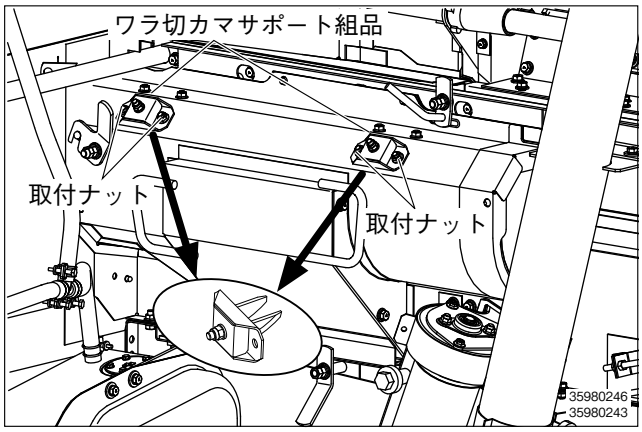
３箇所のワラ切カマサポート組品を取外し，ワラ切カマに付着しているワラクズなどを掃除します。（ワラ切カマの取外し136～137ページを参照）

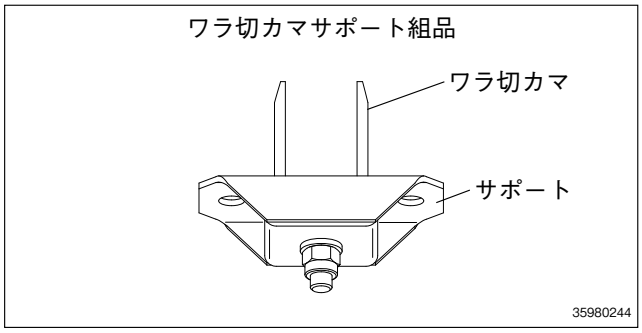
⑴ １箇所は脱こく右側のこぎ胴部と揚こく筒の間にあります。



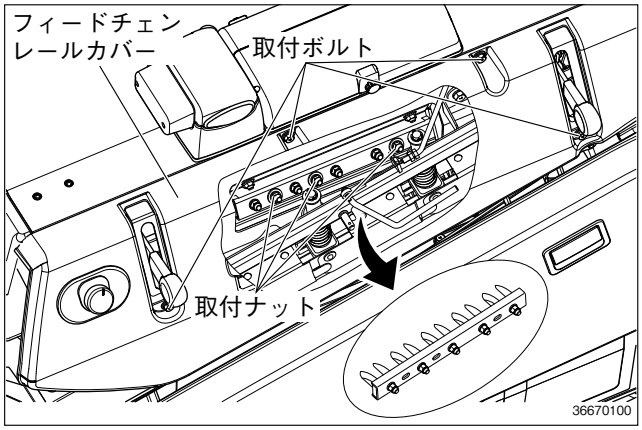


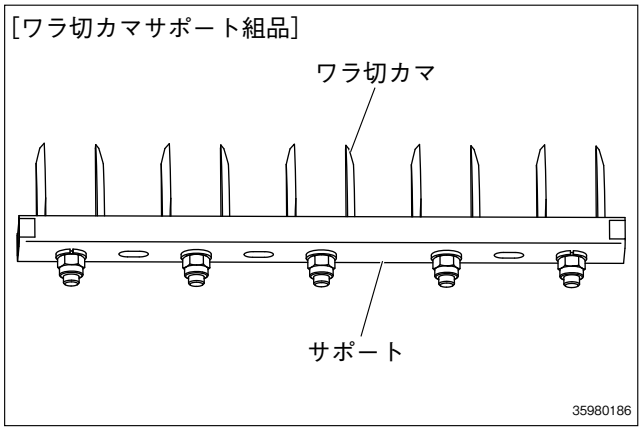
⑵　２箇所目はグレンタンクを回動し，作業を行います。第２こぎ室カバーにあります。





⑶　３箇所目は脱こく左側のフィードチェンレールカバーの取付ボルト（４箇所）を外してカバーを外すと見ることができます。



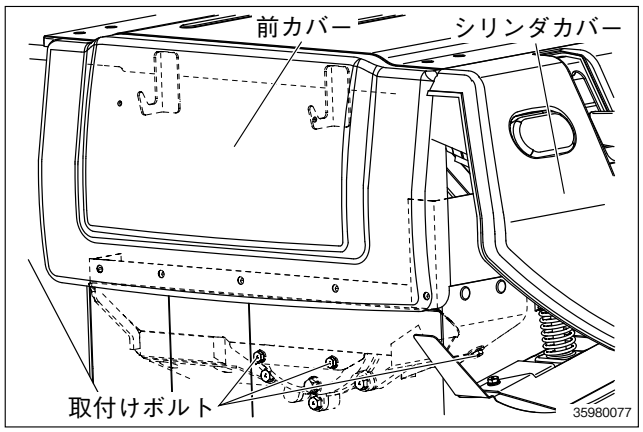


❼　こぎ胴ギヤケースの掃除

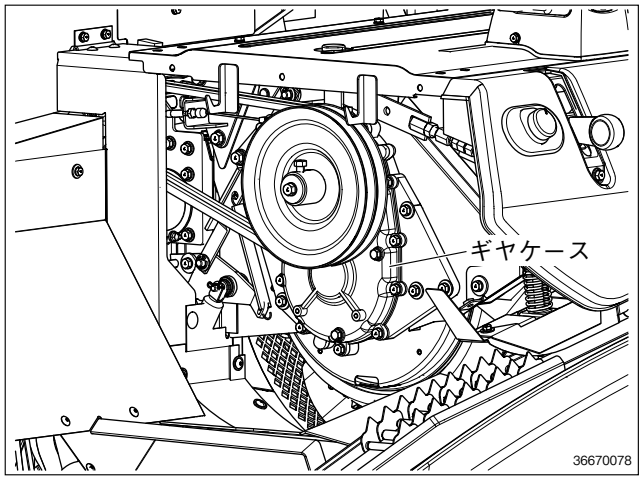
⑴　防じんカバーを取外します。[ディーラーオプション]

⑵　前カバーを取付けているボルトを外します。

⑶　シリンダカバーを開き，ボルトを外します。（113～114ページ参照）



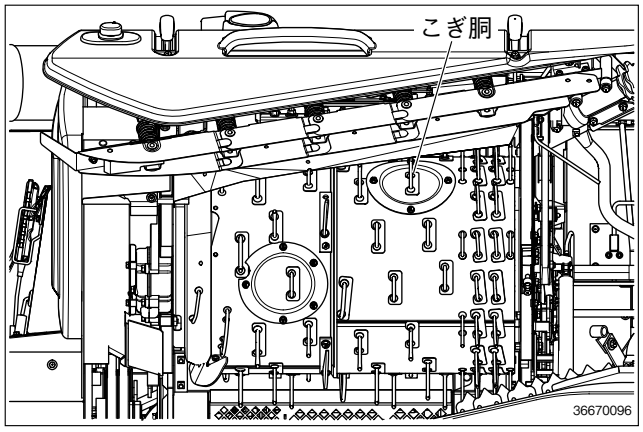
⑷　カバー内の掃除を行い，カバー類を取付けシリンダカバーを閉じます。



❽　脱こくこぎ室の掃除

コンポ（こぎ胴）を開きます。

こぎ室を掃除し，こぎ胴を閉じます。



17．揺動流板の掃除

⚠注意　傷害事故防止のために

◆揺動流板の脱着作業は，２人作業で合図を掛け合って行ってください。

❶　揺動流板の取外しかた

⑴　脱こくサイドカバー（上），（下），カッタサイドカバーの固定ハンドルを引いて取外します。（115ページ参照）

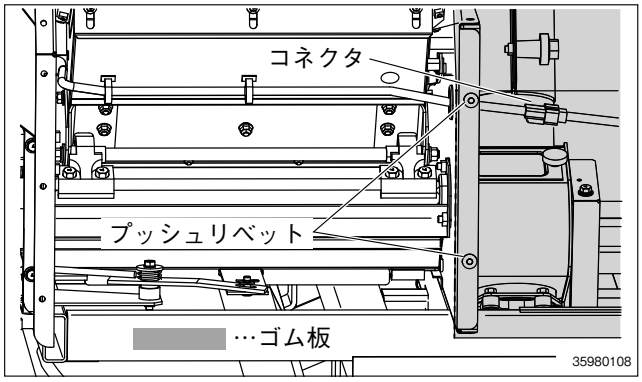
⑵　カッタをいっぱい開きストッパをかけ，スナップピンで固定します。（115ページ参照）

⑶　揺動流板を取り外します。

①　受網（上），（下）を外しておきます。（117ページ参照）

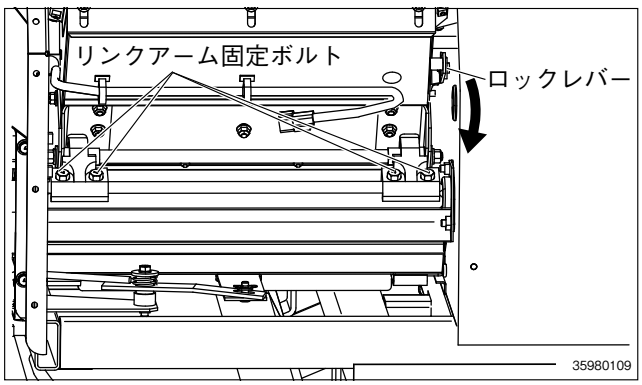
②　ゴム板を取付けているプッシュリベット（２個）を外し，ゴム板をめくり配線のコネクタを外します。

・プッシュリベットは中央のPUSHを押して外します。



③　配線を揺動流板側へ引出します。

④　揺動流板後部のリンクアーム固定ボルト左右各２本を外します。

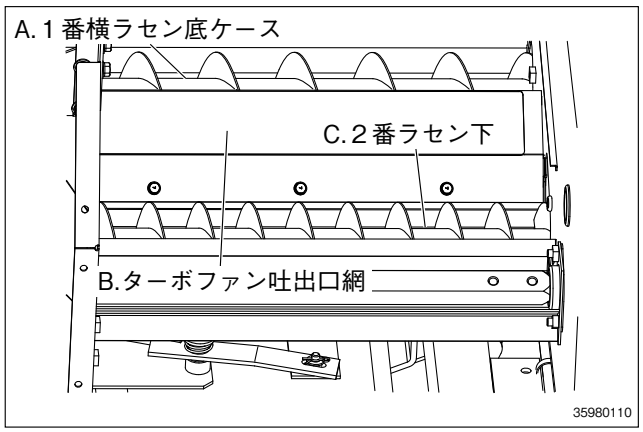


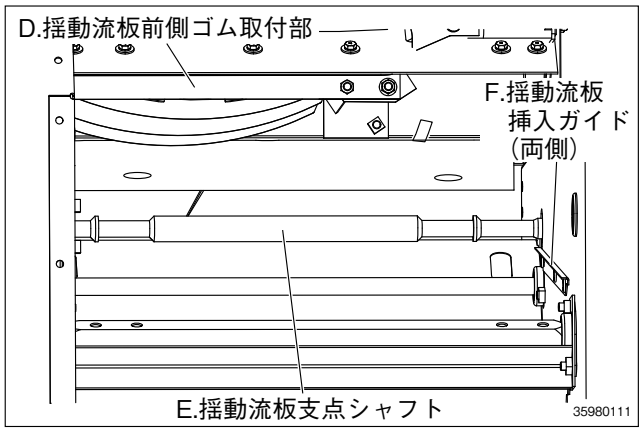
⑤　揺動流板後部右側のロックレバーを矢印の方向に回動させます。

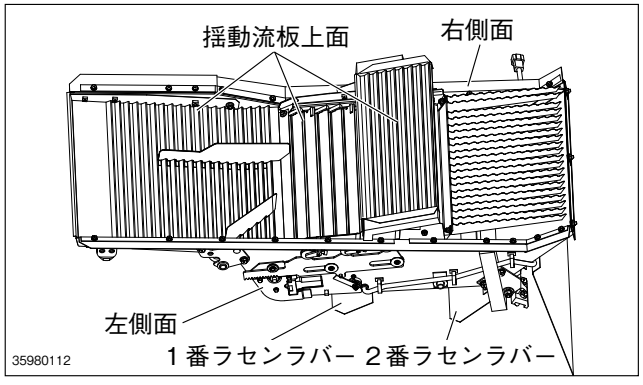
⑥　揺動流板の左右を支えながら少し浮かせた状態で後方へゆっくりと抜出します。

❷　揺動流板の掃除のしかた

揺動流板を取外した後の脱こく内部Ａ～Ｆと揺動流板上面および左右側面を掃除します。

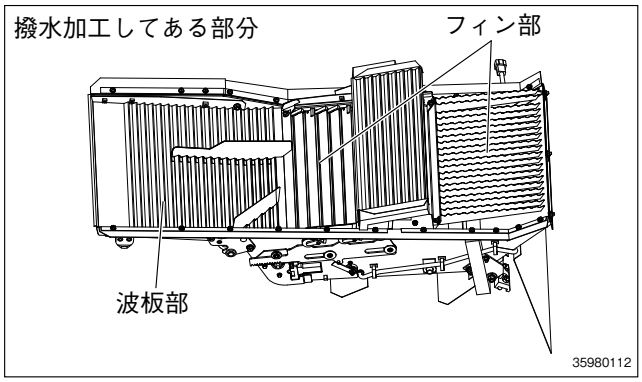






取扱いのポイント

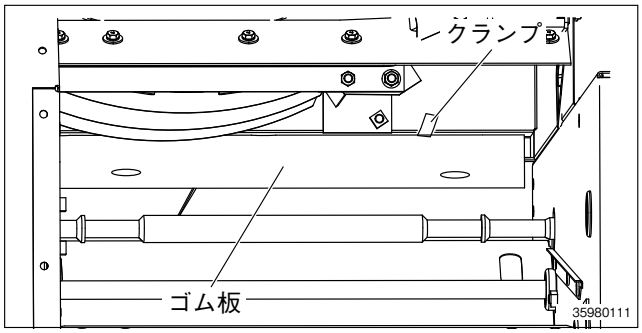
●使用条件により部分的に撥水塗料がはがれる場合がありますが，極端な機能低下とはなりませんので継続してご使用ください。
尚，撥水塗料が全体的にはがれた場合が交換の目安となります。



●揺動流板の波板部とフィン部には，撥水塗装が施されています。こまめに掃除することで撥水効果を持続することができます。鋭利なものなどで掃除すると撥水塗装が剥離します。毛先のやわらかいブラシなどで掃除します。

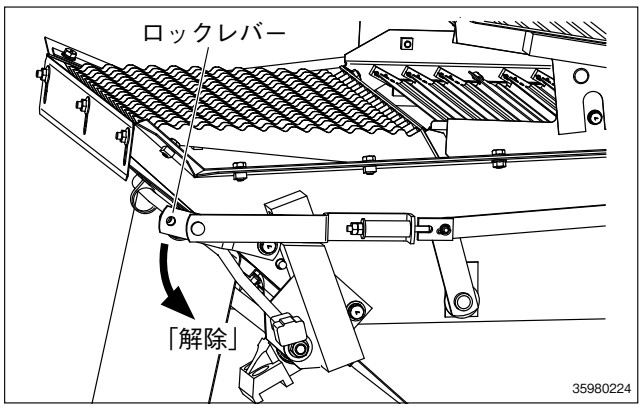
❸ 揺動流板の取付けかた（２人作業）

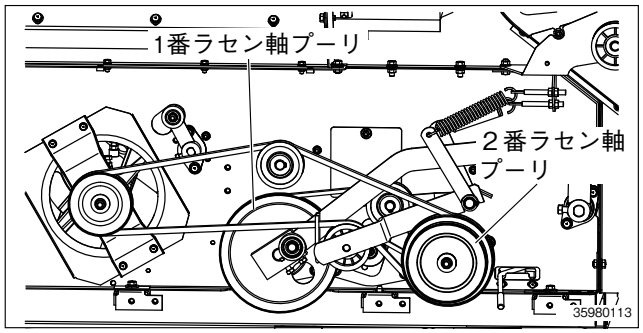
⑴ 揺動流板前方のゴム板を持上げて，ゴム板の穴にクランプを通して固定します。（揺動流板の噛込みを防ぐため）



⑵ 揺動流板を組付けます。

① 揺動流板後方右側のロックレバーを**「解除」**位置にし，１番ラセン軸（１番軸）のプーリを図の位置になるように回します。

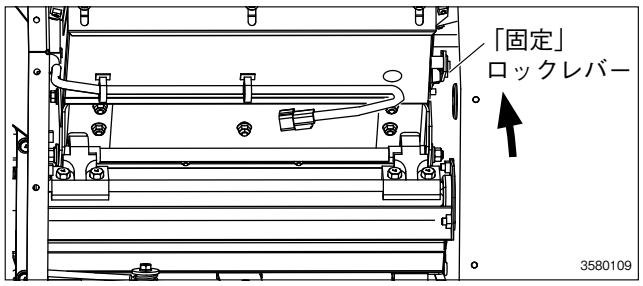




② 脱こく内部側面の左右のガイドレールに揺動流板先端をのせ，少しずつ押込んでいきます。

取扱いのポイント

●揺動流板はロックレバーを「解除」方向に押さえながら押し込んでください。（ロックレバーは揺動流板側面のストッパに当たるまで押し付けてください）



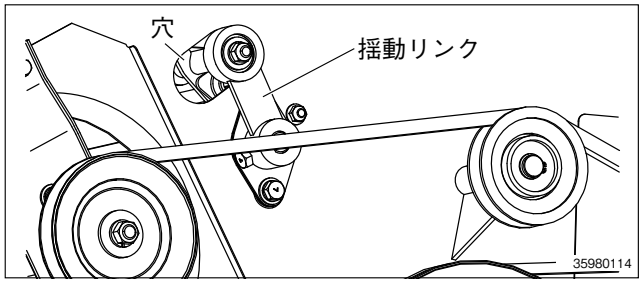
③ １番ラセン軸のプーリを回し揺動流板を奥（セット位置）まで送ります。

④ ロックレバーを**「固定」**位置にします。

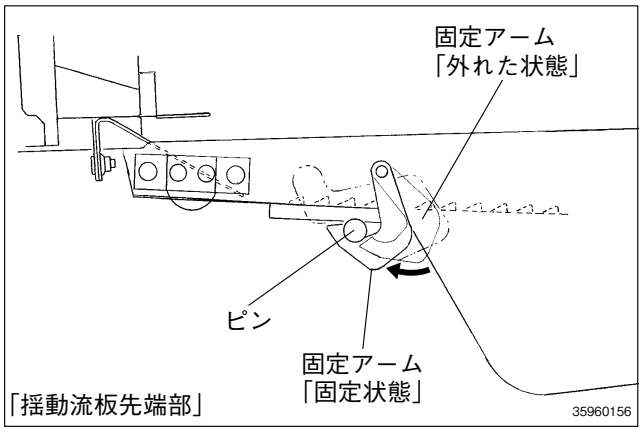
取扱いのポイント

●揺動流板がセット（固定）されていないときは，ロックレバーを「固定」位置にしても，レバーにあそびがありロック（固定）しません。この状態のときは再度セットし直してください。（①から）

⑤ 揺動リンクの穴から内部をのぞきます。（揺動流板の固定アームが見えます）



⑥　固定アームがピンにかかっていること（固定状態）を確認します。

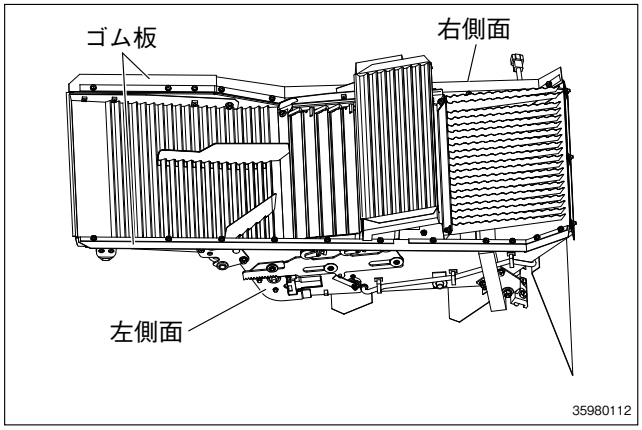


⑦　右側も同様に固定アームがピンにかかっていることを確認します。（タンクオープンして確認します）

取扱いのポイント

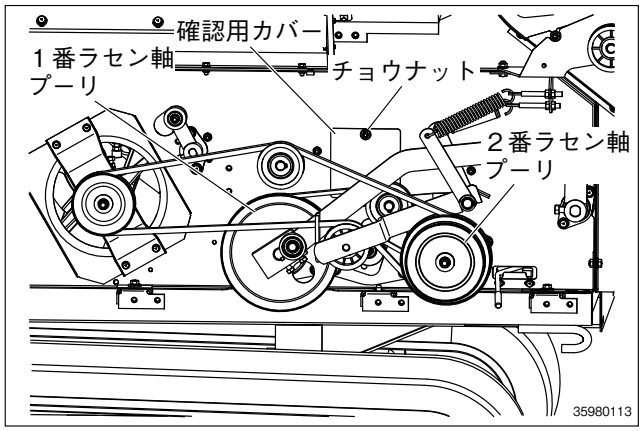
- **固定アームがピンから外れている場合は再度セットし直してください。（①から）**
- **揺動流板が正常にセットされていないと機械の破損の原因となります。揺動流板は確実に奥まで押込んでロックレバーを確実に「固定」してください。**

⑧　揺動粒板両面のゴム板がかみこんで折曲がっていないことを確認します。



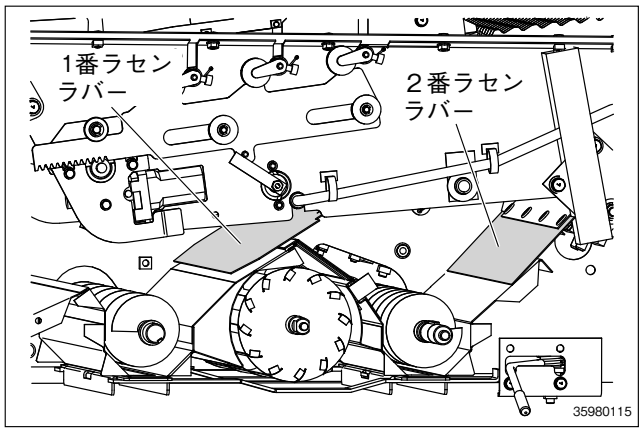
⑨　揺動流板下部の１番ラセンラバーが折曲がっていないことを確認します。

１）チョウナットを外し，確認用のカバーを外します。



２）目視でラバーが曲がっていないか確認し，曲がっていた場合は，ドライバなどを使用し曲がりを直します。（１番ラセンの斜面部に収まっているか確認する。）

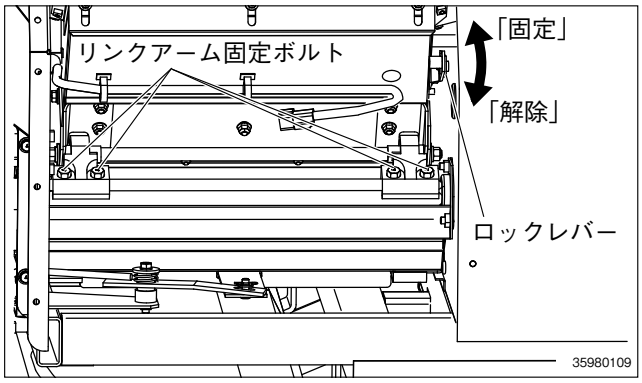
３）揺動流板後部からみて２番ラセンラバーが２番ラセンの斜面部に収まっているか確認し，収まっていない場合は，手で押し込んでください。



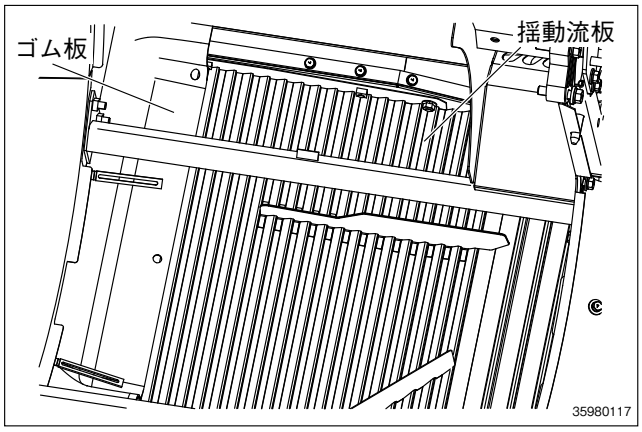
取扱いのポイント

- **ゴム板，ラバーは正常に組まないとこく粒漏れの原因となります。**

⑩　揺動後部のリンク部の固定ボルト左右各２個を締付けます。

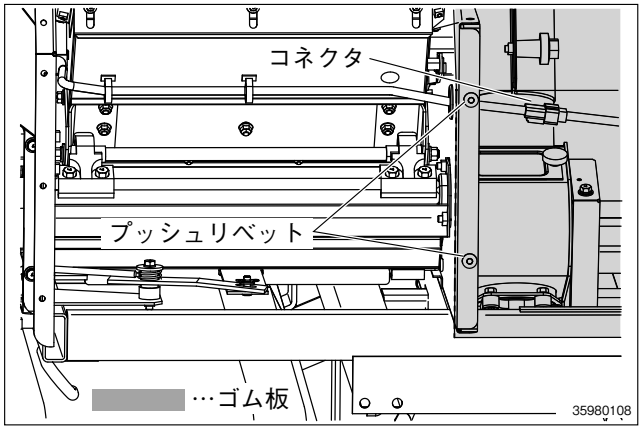


⑪　❸(1)で固定したゴム板をクランプから外し，揺動流板の上にのせます。



⑫　配線をゴムの付いた穴部（グロメット）を通してコネクタを接続します。

ゴム板をプッシュリベット（２個）で取付けます。



⑬　カッタを収納します。(閉じます)

⑭　受網（上），（下）を取付けます。

⑮　外したベルトを取付け，脱こくサイドカバー（上），（下），カッタサイドカバーを取付けます。

⑯　こぎ胴部を閉じます。

18．グレンタンク部の掃除

⚠警告　傷害事故防止のために

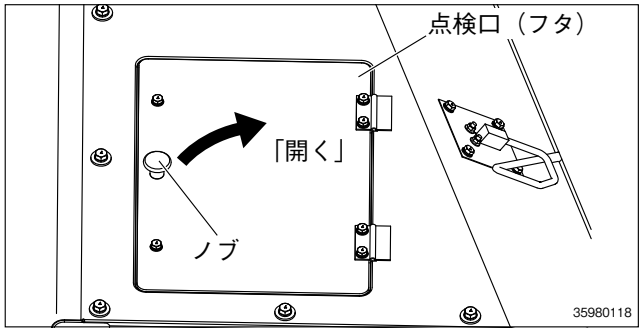
◆グレンタンクの掃除をするときは平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し各部の動きが止まってから行ってください。

⚠注意　傷害事故防止のために

◆作業後カバーを取付けてください。

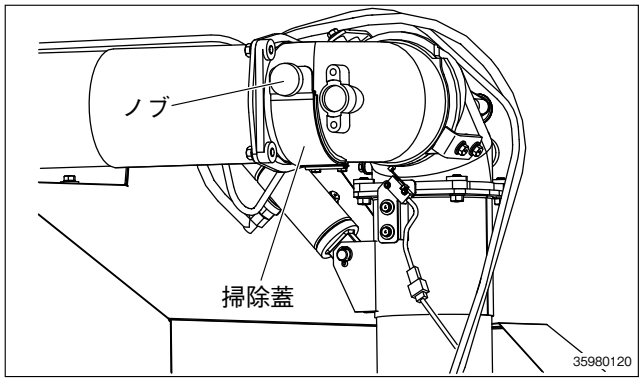
❶　グレンタンク内の掃除

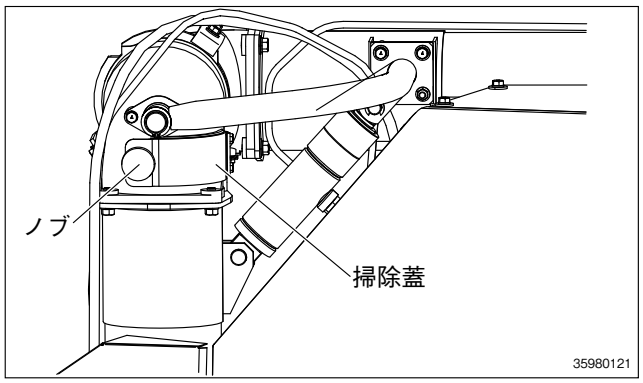
グレンタンク上部の点検口を開き内部を確認し，必要によりホウキなどでホコリを払います。



❷　縦ラセン筒上部の掃除

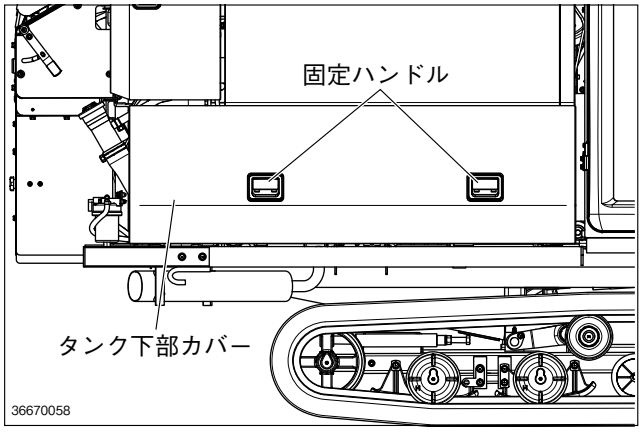
排出オーガを上げ，上部ラセン掃除蓋を開いて掃除をします。





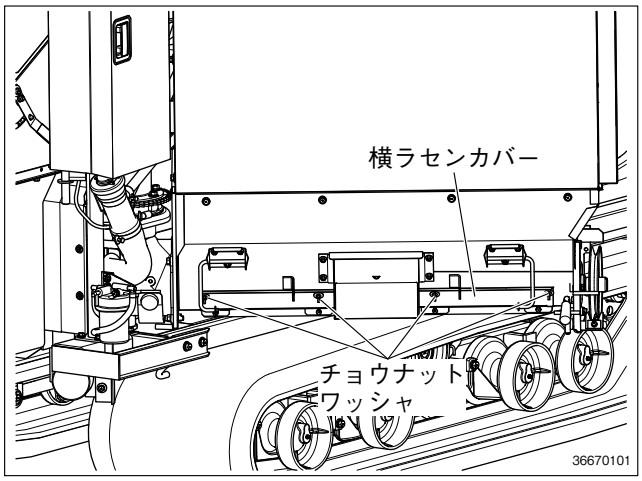
❸ 横ラセン部の掃除

⑴ グレンタンクの下部カバーの固定ハンドルを引き，カバーを取外します。



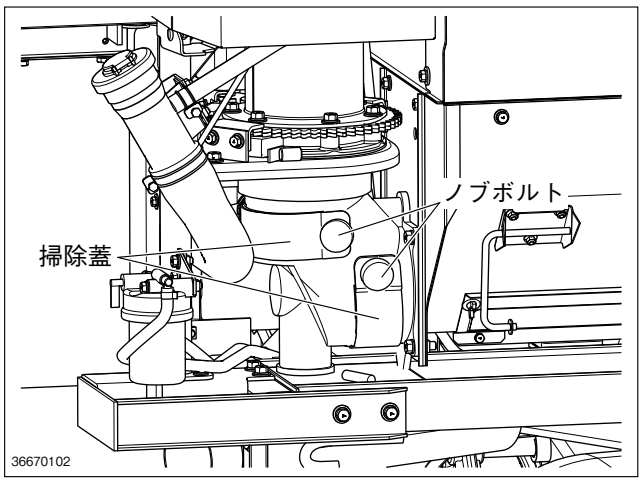
⑵ グレンタンクを回動します。(112〜113ページ参照)

チョウナット，ワッシャ（各４個）を外し，横ラセンカバーを開いて掃除します。



❹ 縦ラセン筒下部の掃除

⑴ ノブボルト（２箇所）をゆるめ縦ラセン下部の掃除蓋（２箇所）を開いて，掃除します。



⑵ 掃除後は，掃除蓋を閉め，横ラセンカバー，グレンタンク下部カバーを取付けます。

⑶ グレンタンクを閉じます。

取扱いのポイント

●各掃除蓋（カバー）はこく粒のかみ込みなどによるスキマがないことを確認して，確実に締めてください。

4. 各部の点検と部品交換のしかた

1. カッタ刃組品の取外しと分解

⚠危険 傷害事故防止のために

◆カッタを開いて，カッタ刃組品の取外し分解をするときは，エンジンを停止し，平坦な場所に機械を置いて行ってください。
◆カッタはストッパをかけ固定状態にしてください。
◆刃の交換作業は，厚手の手袋を着用し，２人作業で合図をし合って行ってください。
◆ノコ刃を交換するときは，刃に「あて布」を被せてください。
◆ノコ刃軸，カキコミ軸のナットをゆるめるときは，メガネレンチなどで確実に固定してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆各部の点検と調整で外したカバー類は，全て元の位置に取付けてください。
本取扱説明書は「D333-17・D433-17」を基本として説明します。マルチカッタ「DMS333・DMY433」と手順が異なる場合は，都度「DMS333・DMY433」の手順として記載します。

❶ ノコ刃軸組品の取外し

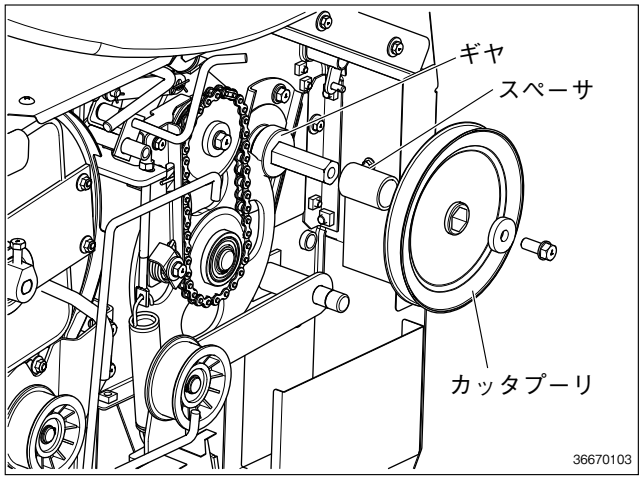
ノコ刃組品の取外しを行う場合，ⒶとⒷの二通りの方法があります。

Ⓐ「カッタ前面より行う方法」(カッタを開いた状態)
…カッタ後方に作業機が着いている場合

Ⓑ「カッタ後方より行う方法」
…カッタ後方に作業機がない場合

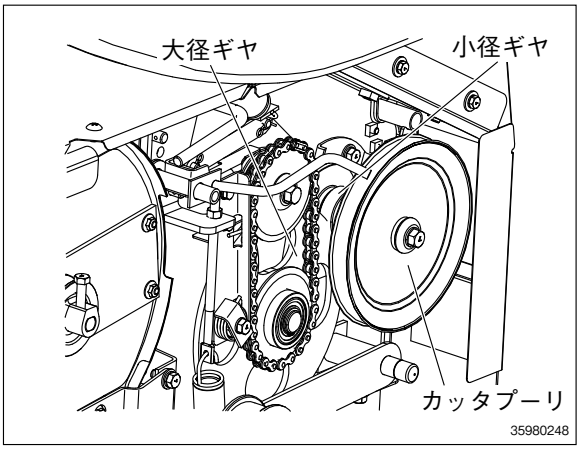
Ⓐ「カッタ前面よりノコ刃軸組品の取外しを行う方法」

① スペーサとギヤを外します。

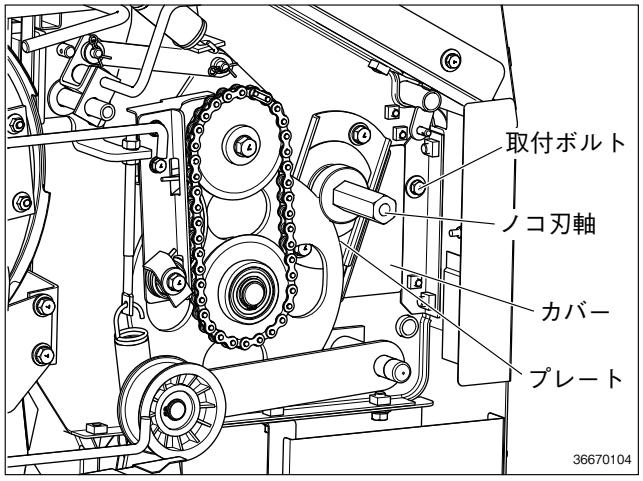


「DMS333」の場合

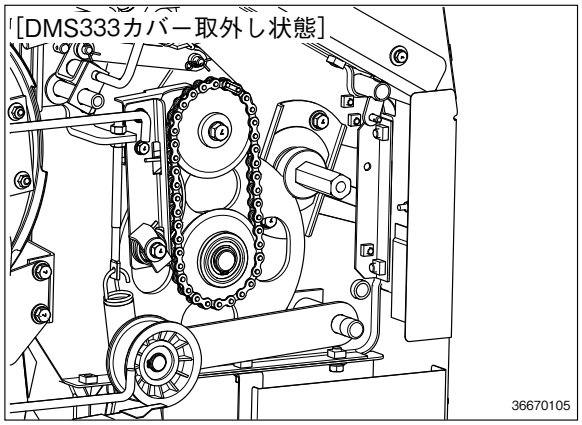
※大径ギヤ，小型ギヤをロックさせ，軸を固定し，カッタプーリを外します。



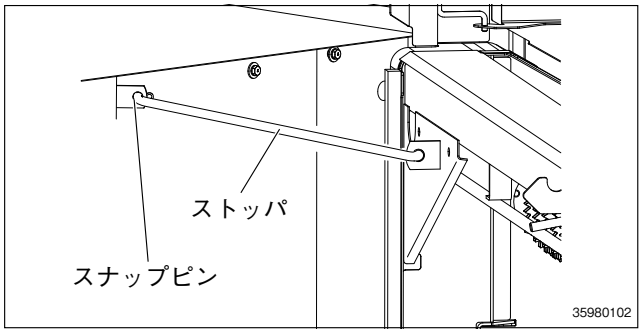
② カバー取付けボルト（１個）を外し，ノコ刃軸後方のカバーを外します。



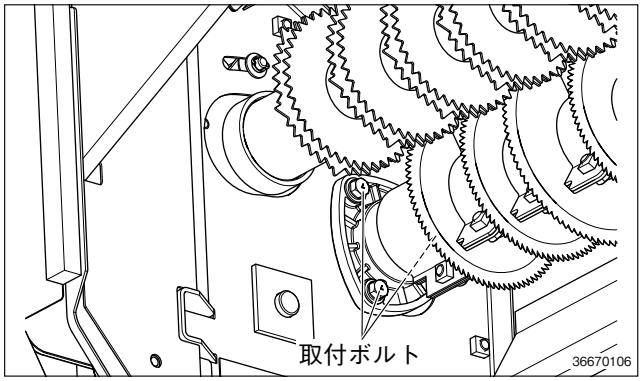
「DMS333」の場合



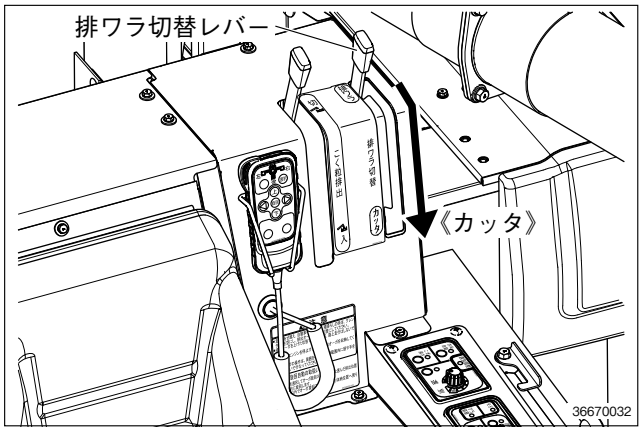
③　カッタを開き，ストッパをかけ，スナップピンで固定します。



④　メタルの取付ボルト（３箇所）を外します。



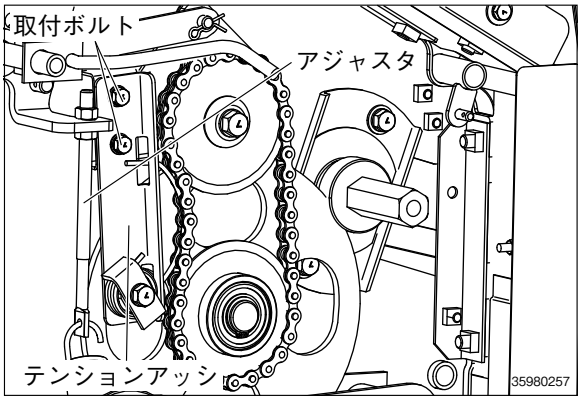
⑤　排ワラ切替レバーを《**カッタ**》位置にし，カッタ部カバーを開きます。

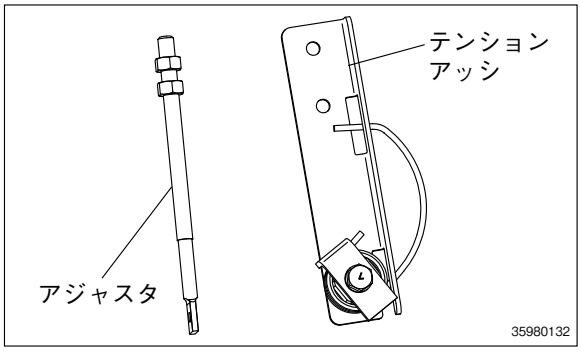


⑥「DMS333型・DMY433型 マルチカッタ」の場合

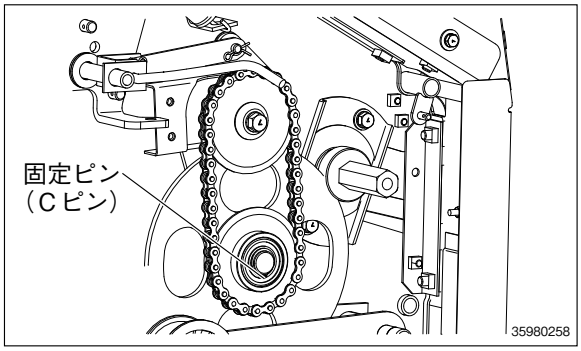
(1)　テンションのアジャスタを外します。

(2)　テンションアッシを外します。

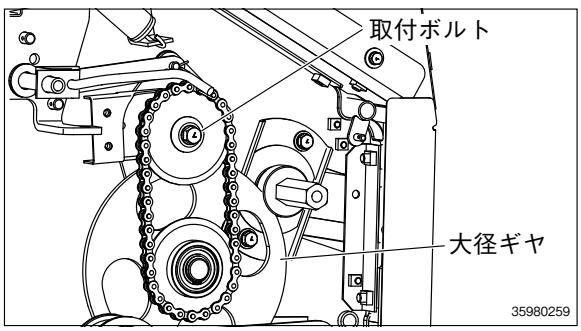




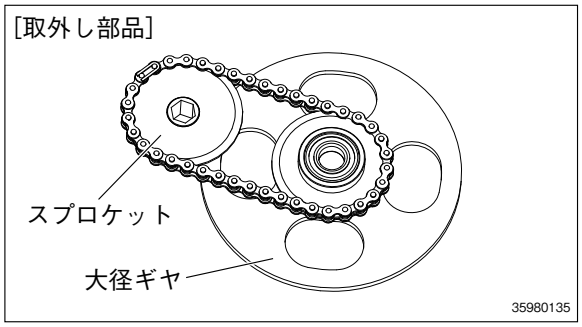
(3)　ギヤの固定ピン（Ｃピン）を外します。



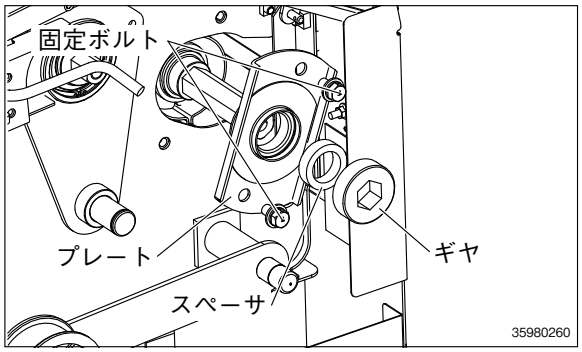
(4)　大径ギヤが回らないように，ボックスレンチで固定しながら，スプロケットの取付ボルトを外し，スプロケット，ギヤを一緒に引きぬきます。



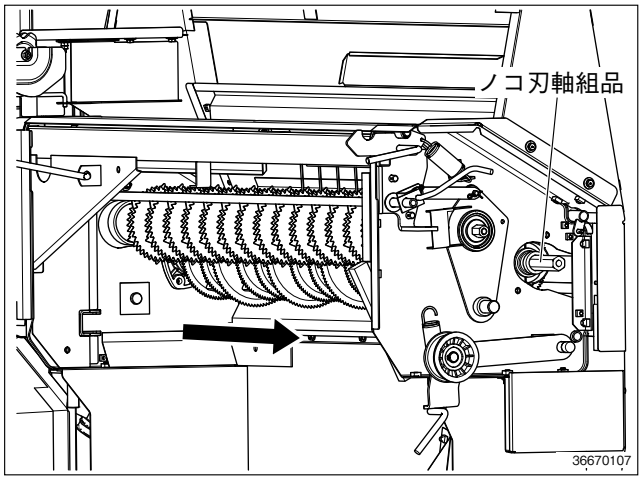
「DMS333型・DMY433型 マルチカッタ」の場合（つづき）



(5) 固定ボルトを外してプレート，ギヤ，スペーサを外します。

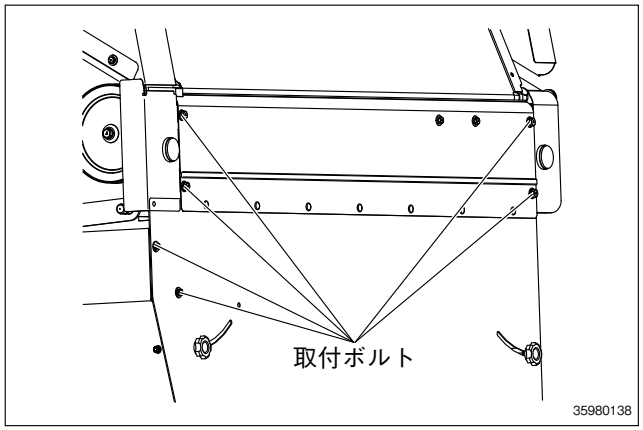


⑦ ノコ刃軸組品を矢印方向へずらしながら取外します。

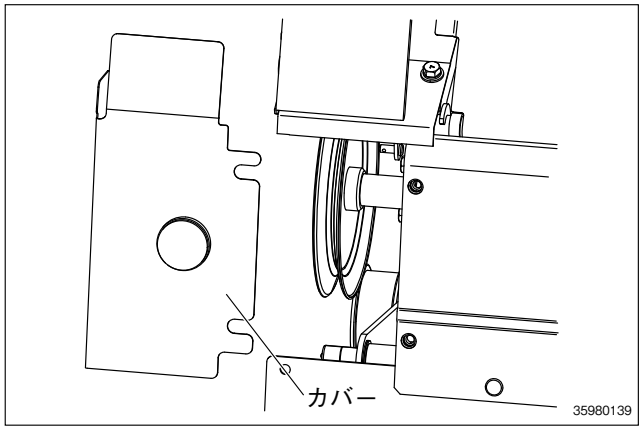


Ⓑ「カッタ後方よりノコ刃軸組品の取外しを行う方法」

① カッタ背面のカバーの取付ボルト（6個）を外します。

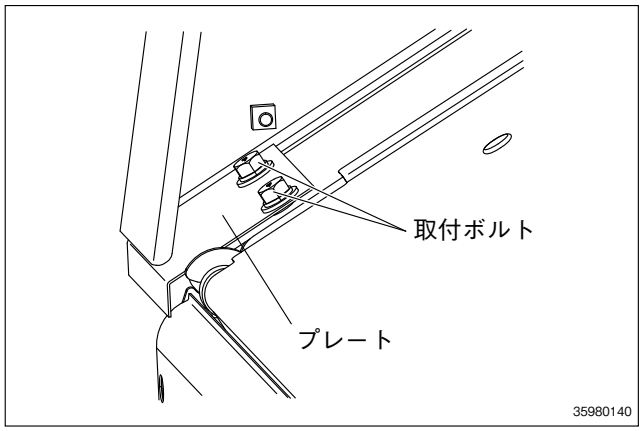


② 背面カバー左下のカバーを取り外します。

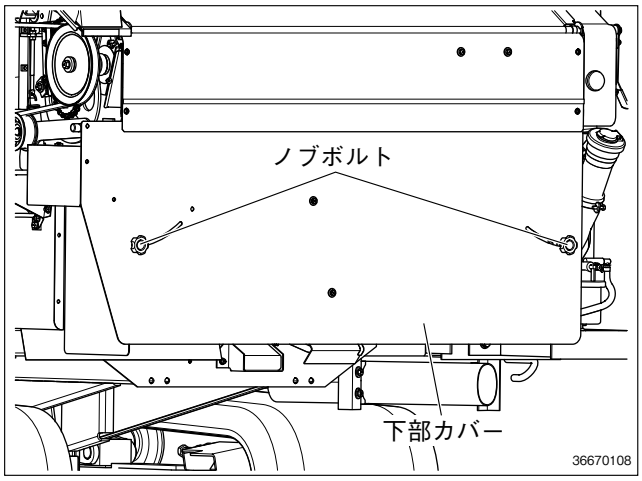


③ カッタ・排ワラ切替レバーを《**排ワラ**》位置にします。

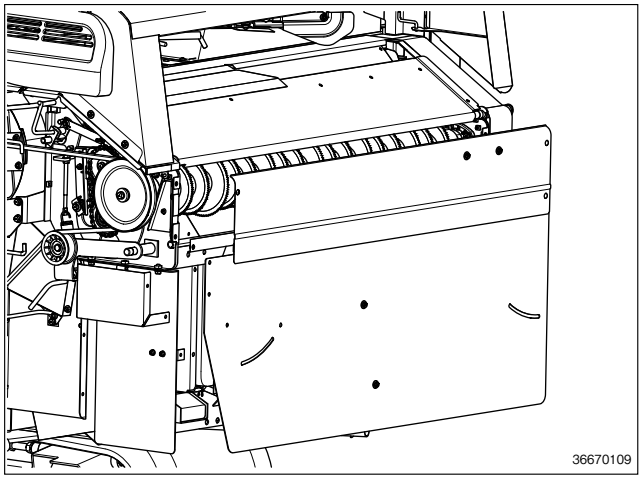
④ プレートを取外します。



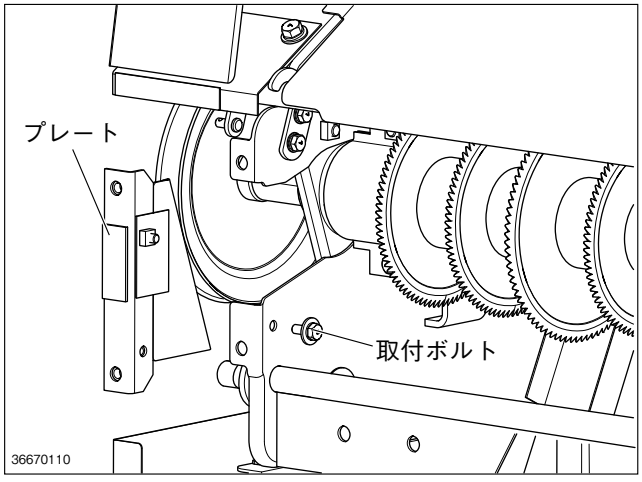
⑤　下部カバーのノブボルトを外します。



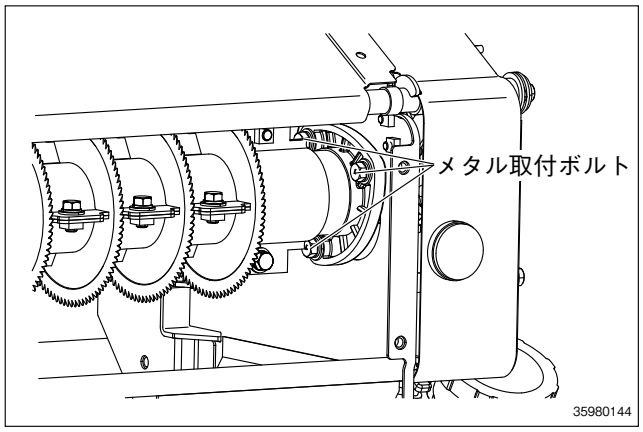
⑥　背面カバーと下部カバーを上に持上げるようにすると，一体で取外すことができます。



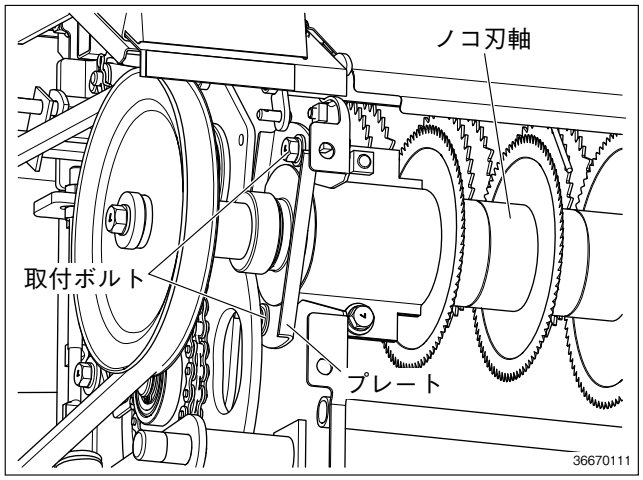
⑦　取付けボルト（1個）を外し，プレートを外します。



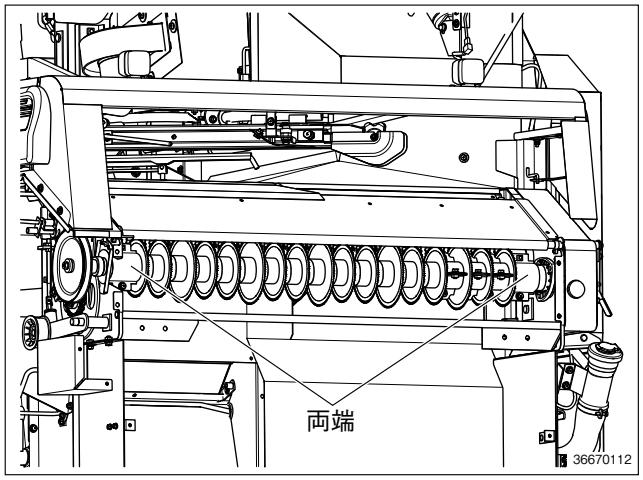
⑧　ノコ刃軸右端のメタル取付ボルト（3個）を外します。



⑨　プレート取付ボルト（2個）を外します。

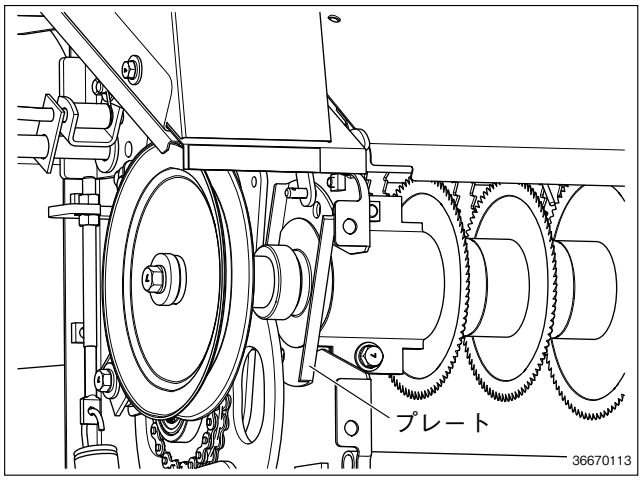


⑩　ノコ刃軸の両端を持って後方から取外します。



取扱いのポイント

●ノコ刃軸組品を外すときは，プレートを回しながら外すと，容易に外すことができます。



❷　かきこみ軸組品の取外し

・かき込み軸組品を取外すときは，まず，ノコ刃軸組品を取外してから作業を行います。ノコ刃軸組品が組付けてある状態では，かき込み軸組品を取外すことができません。

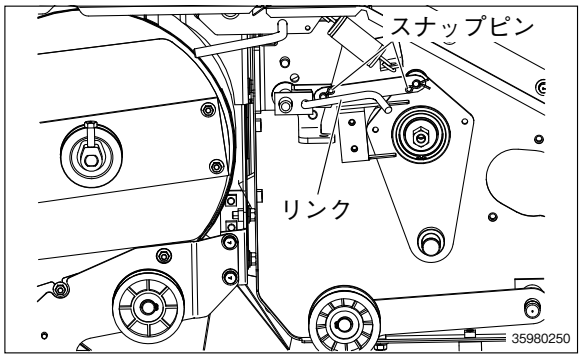
・かき込み軸組品は，カッタの前方，後方，どちらからでも取外すことができます。この取扱説明書では，**「カッタ後方よりの取外し方」**を記載しています。

「DMS333型・DMY433型 マルチカッタ」の場合

①　ノコ刃軸組品を取外します。（❶ノコ刃軸組品の取外し参照）

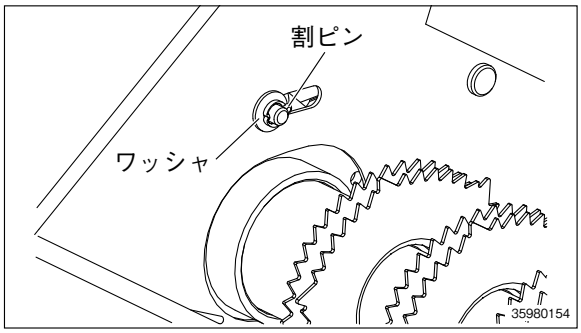
②　切替カバーを後方に開いた状態にします。

③　スナップピンを外して，リンクを外します。

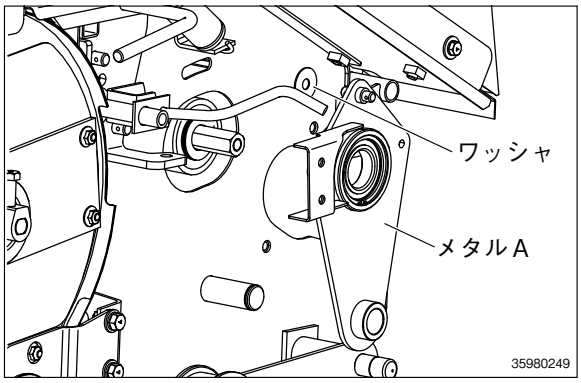


④　かき込み軸左端の割ピンを外し，ワッシャを外します。

「DMS333型・DMY433型 マルチカッタ」の場合（つづき）

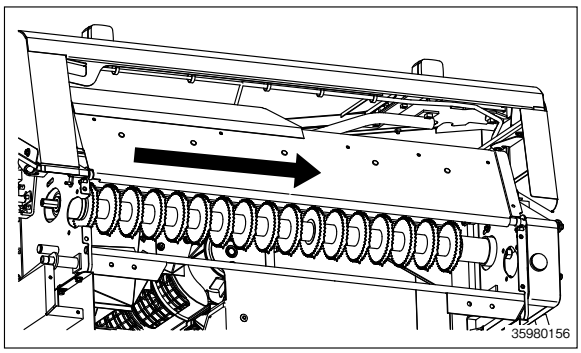


⑤　メタルAを抜き出します。



⑥　かき込み軸組品を両手で支えながら，矢印方向へスライドさせながら外します。

作業機が着いている場合は前面より取外します。



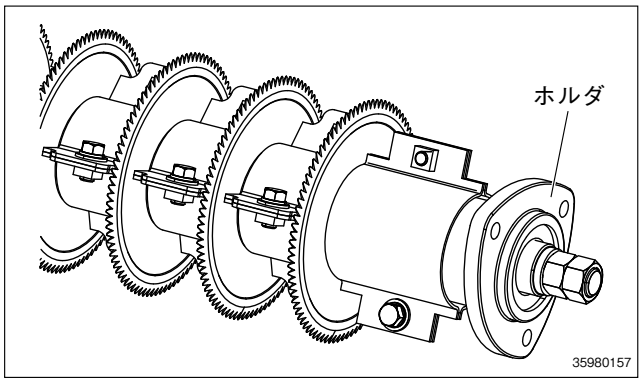
❸ ノコ刃の交換のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

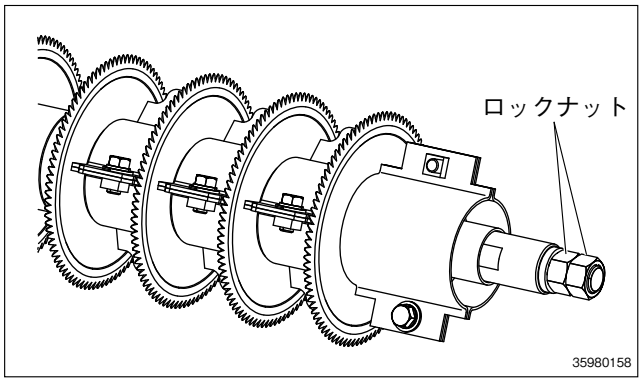
◆刃の交換作業は２人作業で行ってください。
◆刃の交換のときは厚手の手袋を着用し，刃先に手が触れないようにしてください。

(1) 刃先を傷付けないよう，板または布を下に敷いてください。

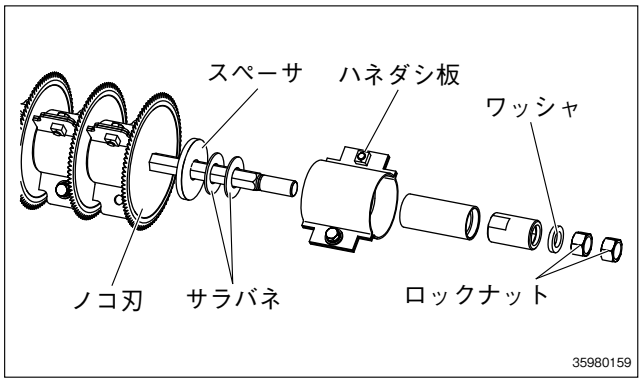
(2) ホルダを抜き出します。



(3) ロックナットをゆるめて外します。



(4) 順番に抜き出してください。



取扱いのポイント

- **カッタは，ギヤ側が組立て基準になっています。刃の交換後，かき込みバンとノコ刃の接触がないことを，確かめてください。ノコ刃がかき込みバンのほぼ中央にあるのが最適です。**
- **ノコ刃，かき込みバンの取付けのときは，刃の方向を間違えないように，元通りに組付けます。**

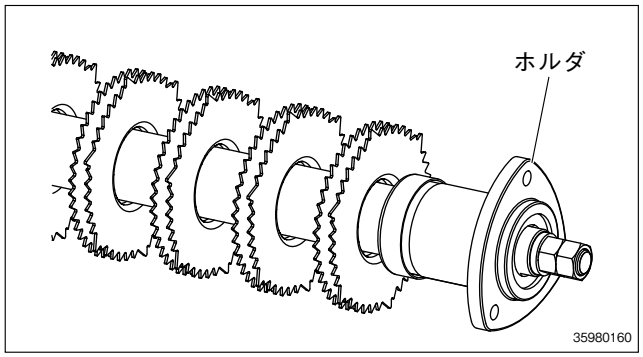
❹ かき込みバンの交換のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆刃の交換作業は２人作業で行ってください。
◆刃の交換作業は，厚手の手袋を着用し，刃先に手が触れないようにしてください。

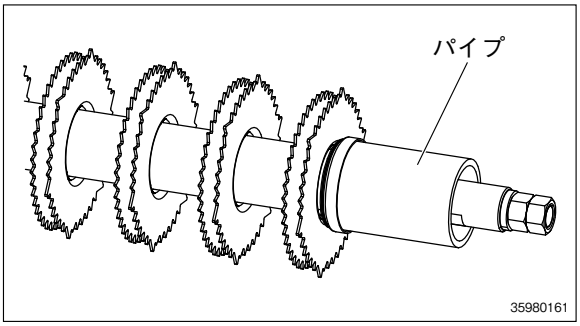
(1) 刃先を傷付けないよう，板または布を下に敷いてください。

(2) ホルダを抜き出します。

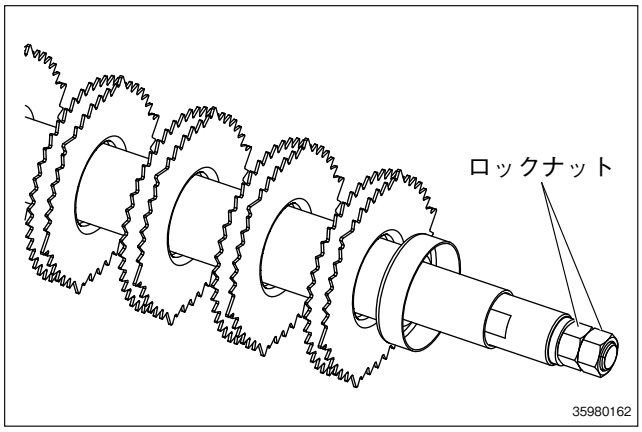


「DMS333型・DMY433型 マルチカッタ」の場合

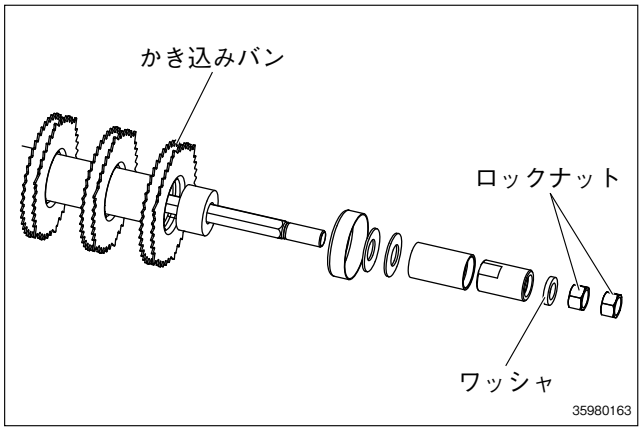
・DMS333はホルダのかわりにパイプが付いています。それ以外はD333型と交換手順は同一です。



(3) ロックナットをゆるめて外します。



(4) 順番に抜き出してください。



取扱いのポイント

- カッタはギヤ側が，組立て基準になっています。刃の交換後，かき込みバン・押えバンとノコ刃の接触がないことを，確かめてください。ノコ刃がかき込みバン・押えバンのほぼ中央にあるのが最適です。
- ノコ刃，かき込みバンの取付けのときは，刃の方向を間違えないように，元通りに組付けます。
- ［DMS333型・DMY433型マルチカッタ］のかき込み軸は，両端にパイプが付いています。簡単に外れますので，なくさないよう注意してください。また取付時には，パイプを組込んでください。

マルチカッタ60/180㎜組付要領図

（部品表）

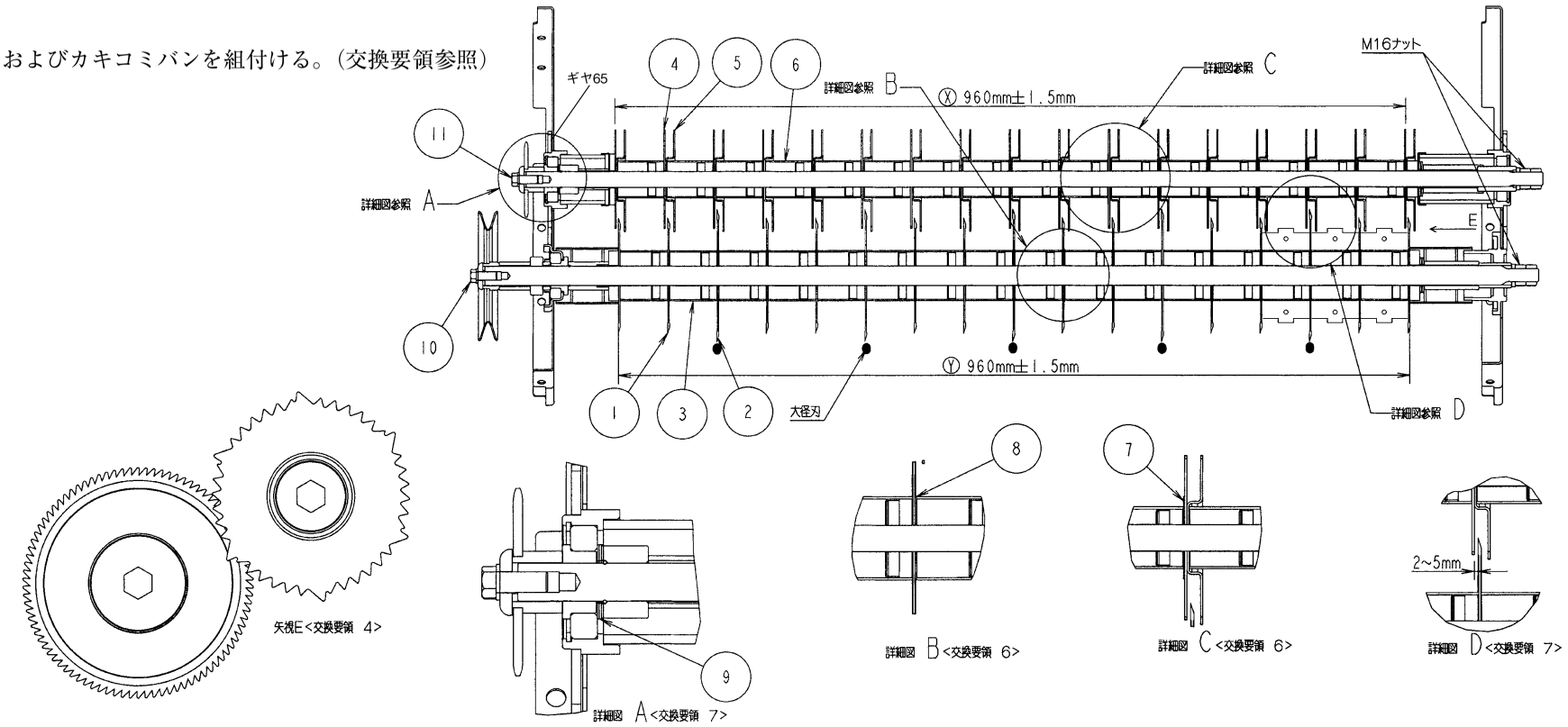
番号	部品名称	部品番号	個　数
1	ノコ刃	3830 0409 000	12
2	ノコ刃	3830 0415 000	5
3	パイプA　アッシ	3574 8786 000	16
4	カキコミバン	3578 8834 000	17
5	オサエバン	3578 8836 000	17
6	パイプB　アッシ	3578 8838 000	16
7	ライナ	3572 8841 000	必要に応じて使用
8	ライナ	3829 0518 000	必要に応じて使用
9	ライナ	3517 1159 000	必要に応じて使用

作業要領

1．ノコ刃およびカキコミバンを組付ける。（交換要領参照）

＜交換要領＞

1．本機の取説，カッタオープンのしかたを参照してください。
2．ノコ刃および，カキコミバンの組付けは，本機取説のカッタ刃組品の取外しと分解を参照します。
3．ノコ刃，カキコミバンを組み立てる際はシャフトを地面に対して垂直に立てて組み立て，ノコ刃，カキコミバンが，シャフトに対して垂直になるようにします。
4．⑷カキコミバンは⑸オサエバンと歯筋が揃うように方向に注意して組み，ノコ刃の向きにも注意してください。
5．ノコ刃側に入れるパイプは，外周に筋状の溝がある部品を使用し，挿入方向は下図のように組み込んでください。
6．⑺⑻ライナは，ⓍⓎ寸法が960㎜±1.5㎜になるように適切な位置に入れて組付けます。
7．⑴ノコ刃と⑷カキコミバン，⑸オサエバンのスキマが２～５㎜（ほぼ中央）になるように，⑼ライナを使用して調整します。
8．M16ナットの締め付けトルクは39～44N・m｛400～450kgf/cm｝に管理し，M16ナットでロックしてください。
9．⑽ボルト，⑾ボルトの締め付けは，ギヤ65の穴にボックスなどを入れて固定して締め，締め付けトルクは39～44N・m｛400～450kgf/cm｝に管理してください。
10．組付け終了後正規回転し，ノコ刃とカキコミバンが接触していないか，確認修正願います。



マルチカッタ40/160㎜組付要領図

（部品表）

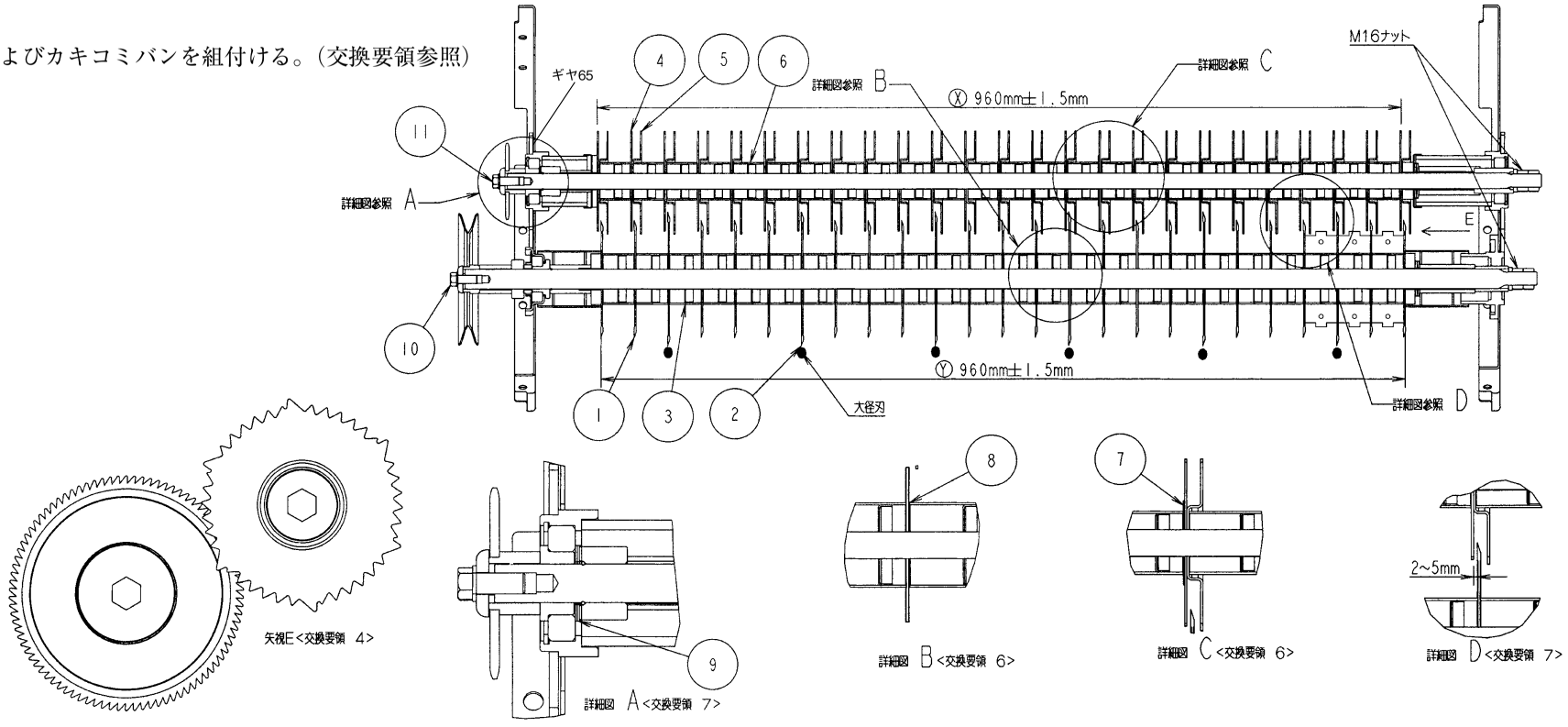
番号	部品名称	部品番号	個　数
1	ノコ刃	3830 0409 000	19
2	ノコ刃	3830 0415 000	6
3	パイプC　アッシ	3574 8784 000	24
4	カキコミバン	3578 8834 000	25
5	オサエバン	3578 8836 000	25
6	パイプD　アッシ	3578 8839 000	24
7	ライナ	3572 8841 000	必要に応じて使用
8	ライナ	3829 0518 000	必要に応じて使用
9	ライナ	3517 1159 000	必要に応じて使用

作業要領

1．ノコ刃およびカキコミバンを組付ける。（交換要領参照）

＜交換要領＞

1．本機の取説，カッタオープンのしかたを参照してください。
2．ノコ刃および，カキコミバンの組付けは，本機取説のカッタ刃組品の取外しと分解を参照します。
3．ノコ刃，カキコミバンを組み立てる際はシャフトを地面に対して垂直に立てて組み立て，ノコ刃，カキコミバンが，シャフトに対して垂直になるようにします。
4．(4)カキコミバンは(5)オサエバンと歯筋が揃うように方向に注意して組み，ノコ刃の向きにも注意してください。
5．ノコ刃側に入れるパイプは，外周に筋状の溝がある部品を使用し，挿入方向は下図のように組み込んでください。
6．(7)(8)ライナは，ⓍⓎ寸法が960mm±1.5mmになるように適切な位置に入れて組付けます。
7．(1)ノコ刃と(4)カキコミバン，(5)オサエバンのスキマが２～５㎜（ほぼ中央）になるように，(9)ライナを使用して調整します。
8．M16ナットの締め付けトルクは39～44N・m｛400～450kgf/cm｝に管理し，M16ナットでロックしてください。
9．(10)ボルト，(11)ボルトの締め付けは，ギヤ65の穴にボックスなどを入れて固定して締め，締め付けトルクは39～44N・m｛400～450kgf/cm｝に管理してください。
10．組付け終了後正規回転し，ノコ刃とカキコミバンが接触していないか，確認修正願います。



2．爪の交換のしかた

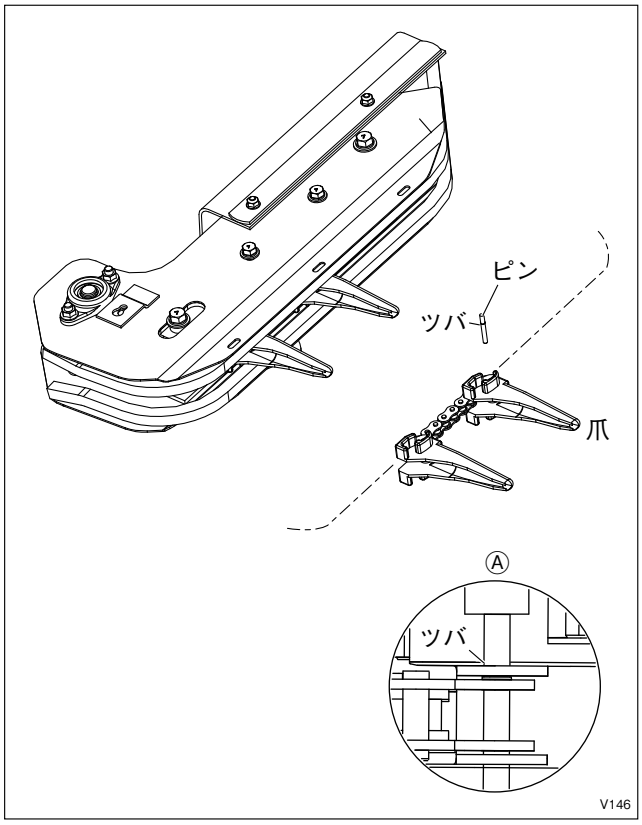
（引起し爪，穂先搬送爪．かき込み爪）

❶ 爪の取外し

爪を取付けているピンを突き出ている側から叩いて抜取り，爪を取外します。（ピンは強く叩かなくても抜けます）

❷ 爪の組込み

ピンは，ツバがある側を搬送上面側にし，ピンの端面と爪が同じ高さになるまで打込みます。（図示Ａ部参照）



3．ホース類の点検と交換

⚠警告 火傷や火災防止，傷害事故防止のために

◆燃料ホースの損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ），外皮の剥れおよび継ぎ部より燃料が漏れてないか確認し，損傷したり漏れている場合は，火災の原因となりますので交換してください。

◆ラジエータホースの継ぎ部のゆるみを確認してください。運転中ラジエータホースが外れると，熱湯が吹き出し火傷をする場合があります。

◆油圧ホースの損傷（割れ，破れ，継ぎ部のゆるみ），保護材の外れおよび継ぎ部よりオイルが漏れていないか確認し，損傷したり漏れている場合は走行停止，刈取部の落下など事故の原因となりますので交換してください。

燃料ホース，ラジエータホース，油圧ホースなどの燃料漏れ，水漏れ，油漏れがないかを点検します。また，締付けているバンドやホースの継ぎ部が，ゆるんでいないか点検をします。

漏れ，ゆるみ，損傷のある場合は交換が必要ですので「**お買いあげ先**」に依頼してください。

取扱いのポイント

- **燃料ホースは，定期交換部品ですので，２年毎に交換してください。**
- **燃料ホースを交換したときは，燃料のエア抜きをしてください。（98～99ページ参照）**
- **油圧ホースは定期交換部品ですので２年毎または，300時間の早い方で交換してください。**

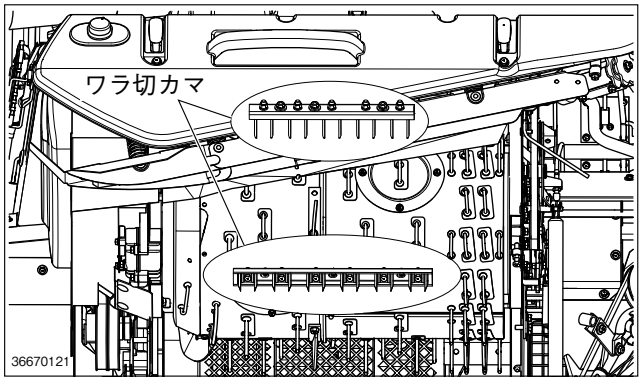
4．ワラ切カマの手入れ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆こぎ胴部を開くときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。
◆こぎ胴部を開くときは，グリップでこぎ胴を持ち上げ，ゆっくりと手を離しロックが掛かったことを確認してください。
◆《自動ロック解除レバー》を操作するときは，グリップまたはシリンダカバー端部を支えて行なってください。このときは，回動範囲内には手や体を入れないでください。
◆ワラ切カマの着脱作業は，手袋をして行ってください。
◆刃部に手をかけないでください。

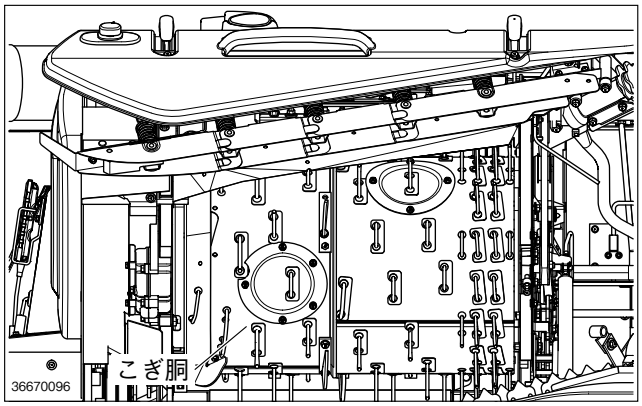
ワラ切カマは受網（上）の上部とフィードチェンレールカバーの裏部および第２こぎ室部の３箇所にあります。

・こぎ胴を開くときは，防じんカバーを閉じます。

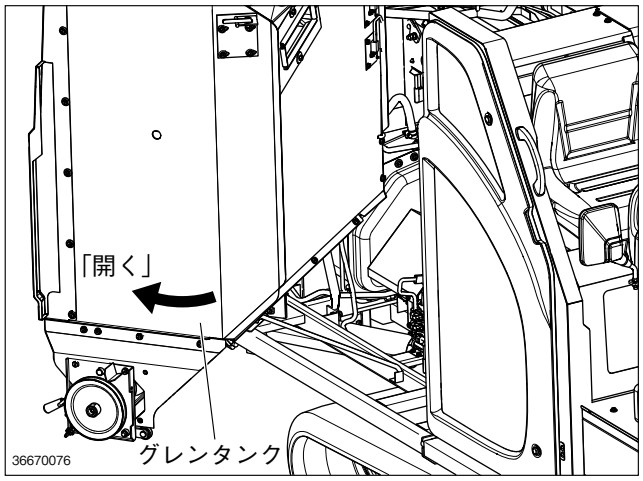


❶ ワラ切カマの取外し

⑴ こぎ胴部を開きます。



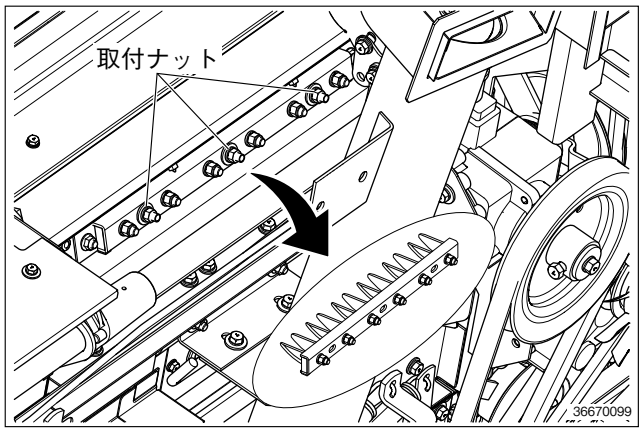
⑵ グレンタンクを開きます。

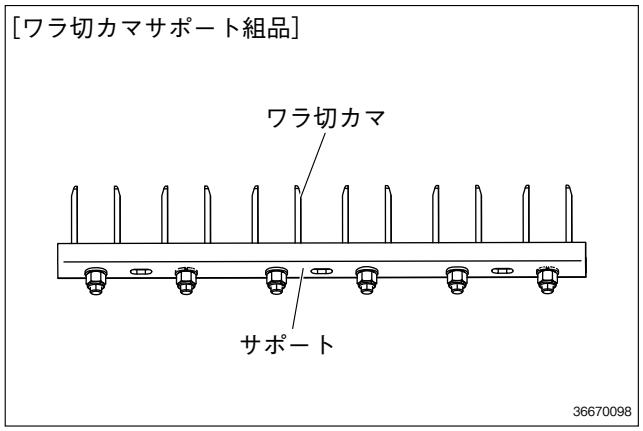


⑶ ワラ切カマサポート組品を取外します。

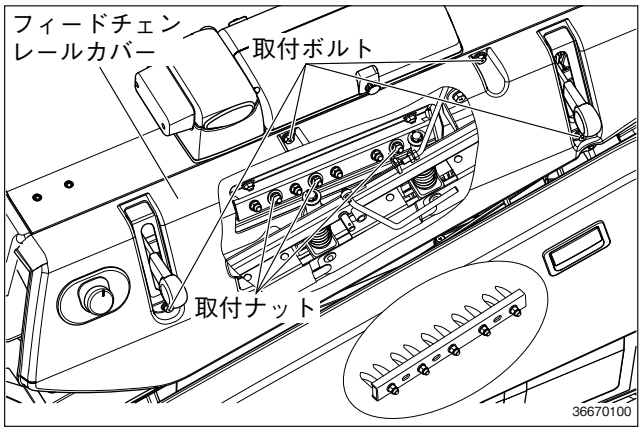
１．受網（上）の上部にあるワラ切カマの場合

① グレンタンクおよびホッパ側から揚こく筒の奥にあるナット（３ヶ）を外してワラ切カマサポート組品を外します。





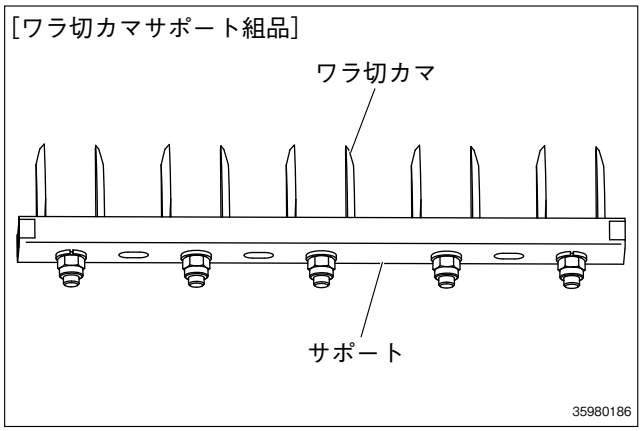
2．フィードチェンレールカバー裏部にあるワラ切カマの場合



① 取付ボルト（４本）を外してフィードチェンレールカバーを外します。

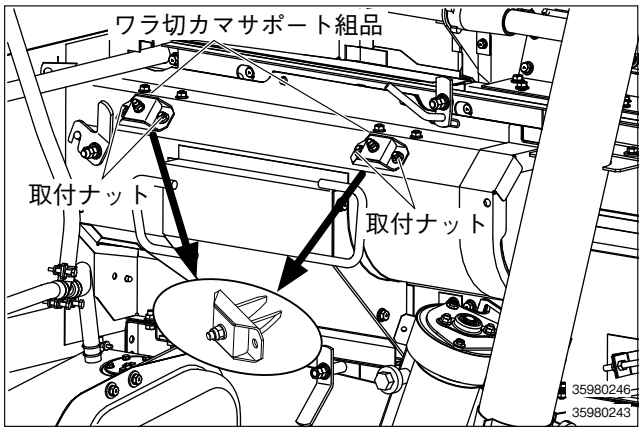
② ワラ切りカマサポート組立の取付ナット（３ヶ）を外してサポート組品を取外します。

③ サポートとワラ切りカマを分離します。

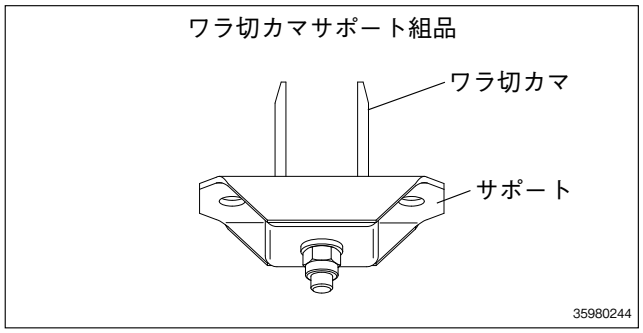


3．第２こぎ室部にあるワラ切カマの場合

① ワラ切カマサポート組品を取外します。

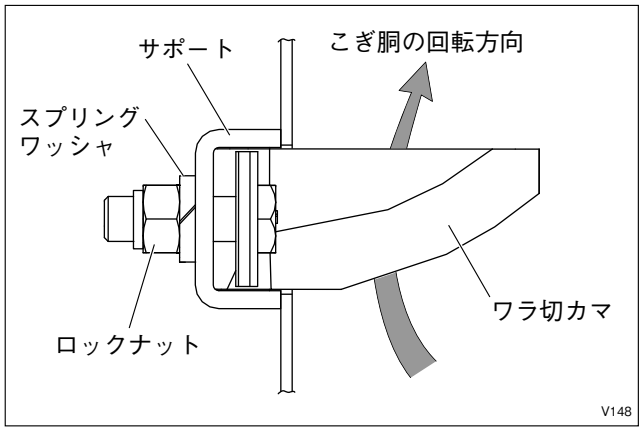


② ワラ切カマをサポートから取外します。



❷ ワラ切カマの取付け

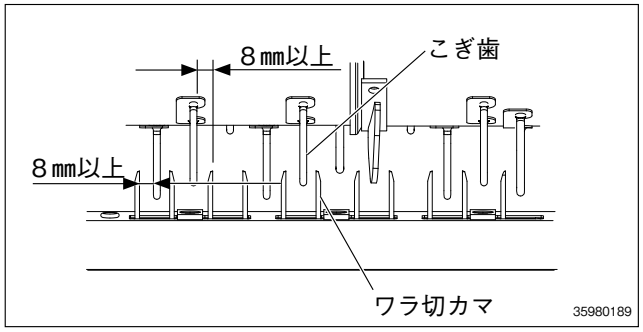
① ワラ切カマの組付け方向を確認して真っ直ぐ取付けます。



② 取外しと逆の手順で取付けます。外したカバー類は元どおり取付けてください。

取扱いのポイント

- **ワラ切カマが摩耗するとワラクズの切断性能が低下し脱こく能率が低下し，また，性能も悪くなります。ワラ切カマを交換してください。**
- **こぎ歯の中央にワラ切カマがくるように取付けてください。**
- **組付けるときは，こぎ歯とワラ切カマのスキマを８㎜以上空けてください。**

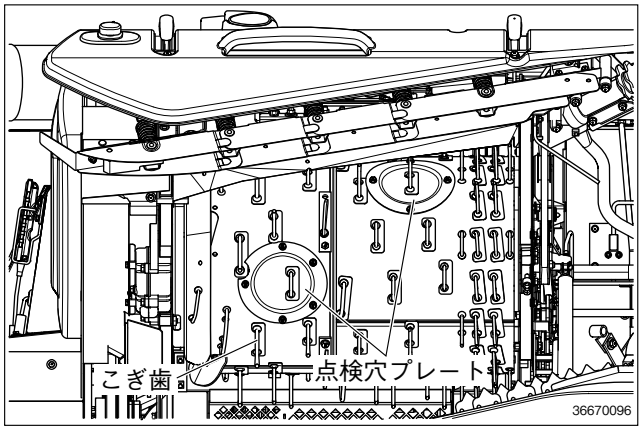


5．こぎ歯の点検と交換

⚠警告　傷害事故防止のために

◆こぎ胴部を開くときは，エンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。
◆こぎ胴部を開くときは，グリップでこぎ胴を持ち上げ，ゆっくりと手を離しロックが掛かったことを確認してください。
◆《自動ロック解除レバー》を操作するときは，グリップまたはシリンダカバー端部を支えて行ってください。このときは，回動範囲内には手や体をいれないでください。

❶　こぎ胴部を開きます。



❷　こぎ歯を点検します。

摩耗のはげしいものは交換します。こぎ歯の締付けが緩んでいるものは，取付ナットを締込みます。

こぎ歯の交換および取付ナットの締込みは，点検穴プレートを外して行います。

❸　作業後は，点検穴プレートを取付け，脱こくこぎ胴部を閉めます。

取扱いのポイント

- **歯の太さが３㎜以下が交換の目安です。**
- **こぎ胴の点検穴プレートのボルトの頭が摩耗すると外せなくなりますのでボルトが摩耗し始めたときは，交換が必要です。**

5．各部の点検と調整のしかた

各部は出荷のときに正しく調整されていますが，使用による摩耗や伸びが生じてくることがありますので再調整を行い，損耗の限度をこえた部品は交換し正しく使用できる状態にしておきます。

⚠警告　傷害事故防止のために

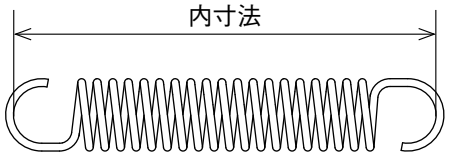
◆掃除・点検・調整は機械を平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行ってください。
◆調整後は，異常なく作動することを試運転で確認してください。

⚠注意　傷害事故防止のために

◆各部の点検と調整で外したカバー類は全て，元の位置に取付けてください。

取扱いのポイント

- **スプリングの取付長さは，フックの内寸法を測定してください。**



V149

1．走行クラッチペダル・駐車ブレーキ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行クラッチペダルやブレーキロッドの遊びが大きいと，クラッチの切れやブレーキの効きが悪くなり，事故を引起こす原因となることがあります。

❶ 点検

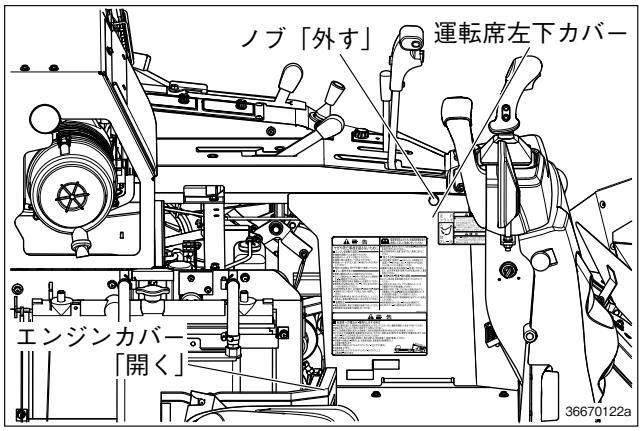
(1) 走行クラッチペダルフリー状態でスプリングⒻ長さが 39.5～40.5㎜ ですか。

(2) 走行クラッチペダルをいっぱい踏込んだ状態でⒼスキマが 3～3.5㎜ ですか。

(3) 坂道（17°以内）で駐車ブレーキをかけたときに，機械が停止していますか。

❷ 調整

(1) エンジンカバーを開いて，運転席左下カバーを外します。



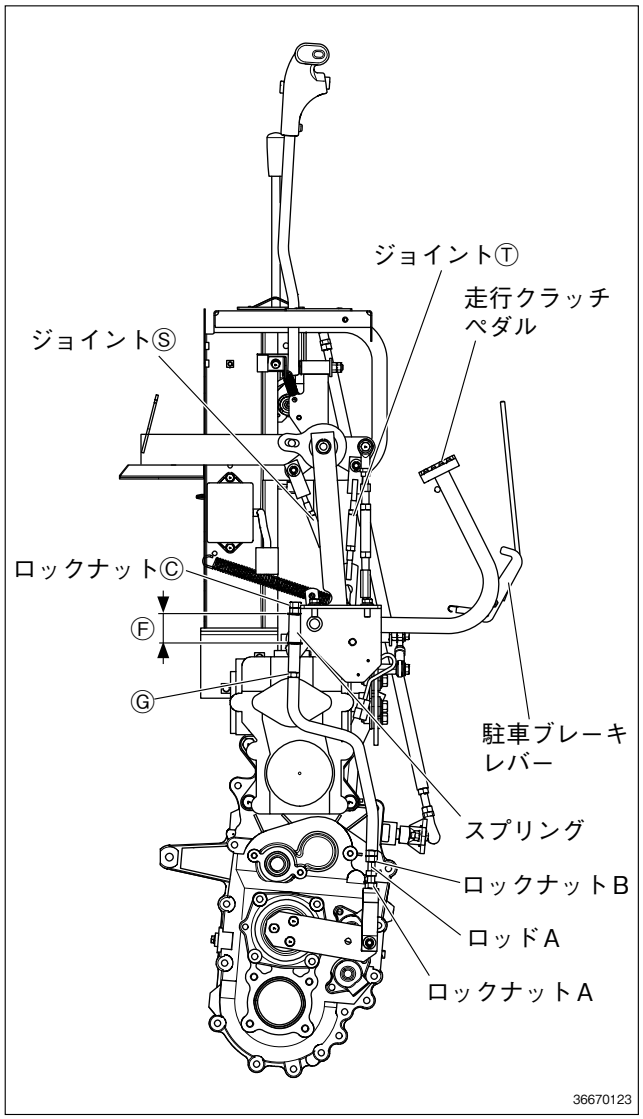
(2) 走行クラッチペダルがフリーの状態でスプリングⒻ長さを 39.5～40.5㎜ になるようにロックナットCで調整します。

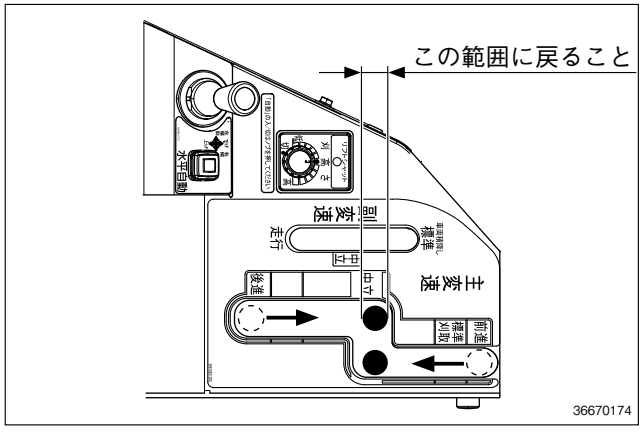
(3) 次に，駐車ブレーキをかけた状態でⒼスキマを 3～3.5㎜ になるようにロッドAを調整します。

(4) 調整後，ロックナットA，Bを締付けます。

(5) 主変速レバーが前進・後進から中立位置に確実に戻るようジョイントⓈ（前進から戻す）とジョイントⓉ（後進から戻す）を調整してナットを締め付けます。

(6) 運転席左下カバーを取付けエンジンカバーを閉じます。





2. 脱こく・刈取クラッチレバー

❶ 点検

「脱こくクラッチ」

脱こく・刈取クラッチレバーが脱こく《入》位置のとき，スプリングAのⒸ寸法が 124～126㎜ になっていますか。

「刈取クラッチ」

脱こく刈取クラッチレバー刈取《入》位置のとき，スプリングBのⒹ寸法が 65～69㎜ になっていますか。

❷ 調整

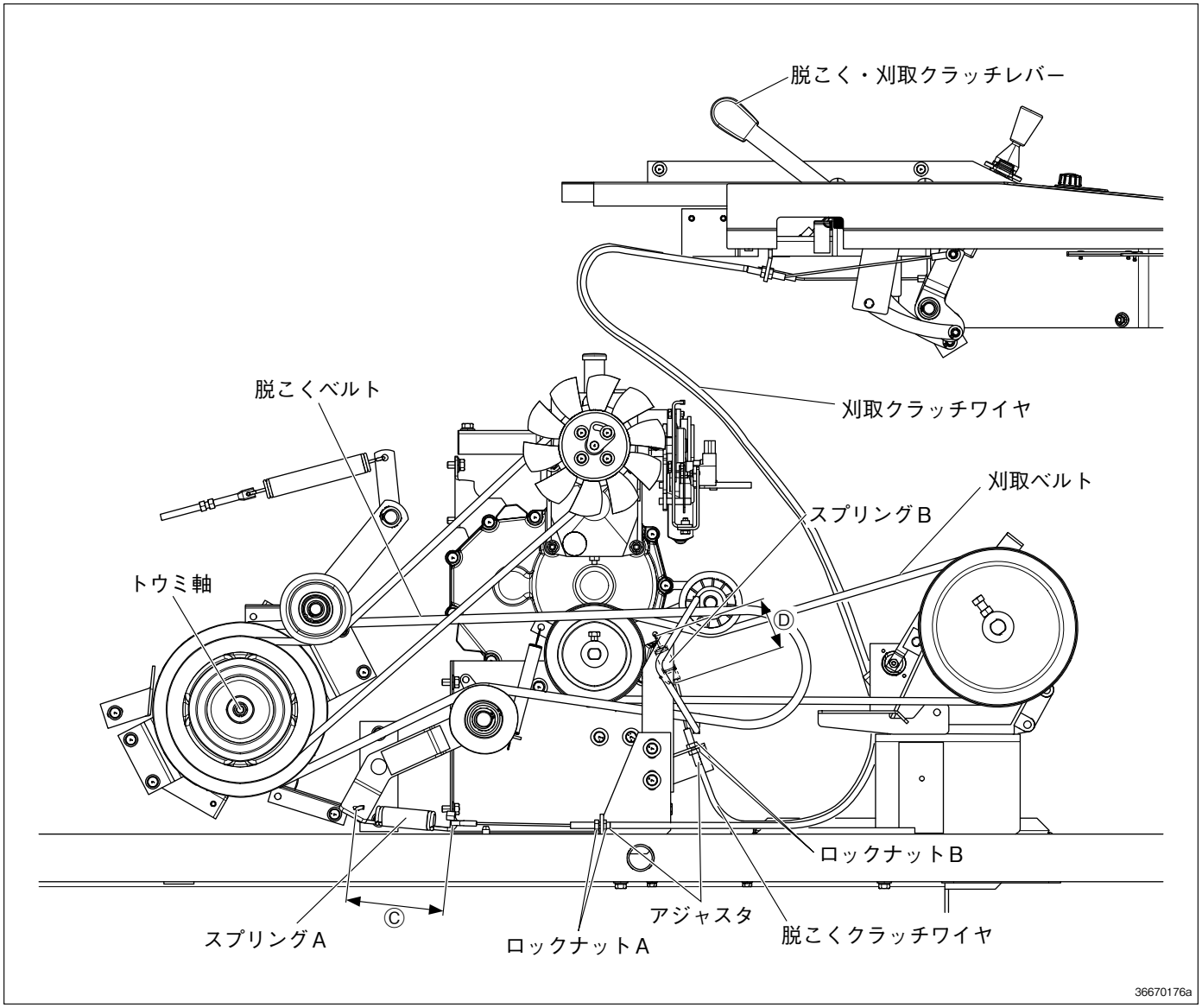
⑴ エンジンカバーを開き，運転席左下カバーを外します。

⑵ ロックナットAをゆるめて脱こくクラッチワイヤのアジャスタ部で調整します。

「刈取クラッチ」

⑶ ロックナットBをゆるめて，刈取クラッチワイヤのアジャスタ部で調整します。

⑷ 調整後は，運転席左下カバーを取付け，エンジンカバーを閉じます。



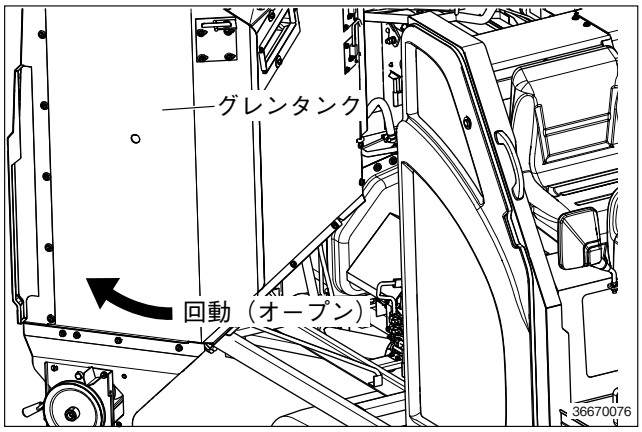
3. こく粒排出レバー

❶ 点検

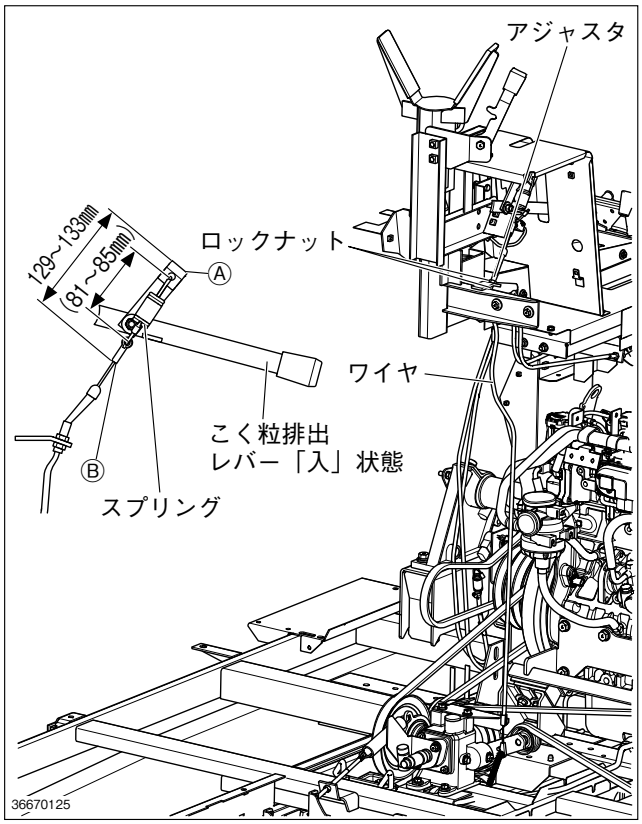
こく粒排出レバー「**入**」のとき，Ⓐ端面からⒷ端面までの長さが 129～133㎜ になっていますか。（スプリング長さ参考値81～85㎜）

❷ 調整

⑴ グレンタンクを回動します。（112～113ページ参照）



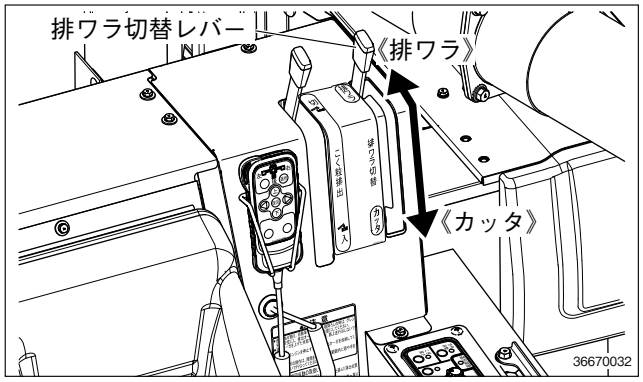
⑵ ワイヤのアジャスタのロックナットをゆるめて，ワイヤのアジャスタ部で調整します。



⑶ 調整後はグレンタンクを元どおり閉じます。（112～113ページ参照）

4. 排ワラ切替レバー

切替レバーを《**排ワラ**》位置にします。



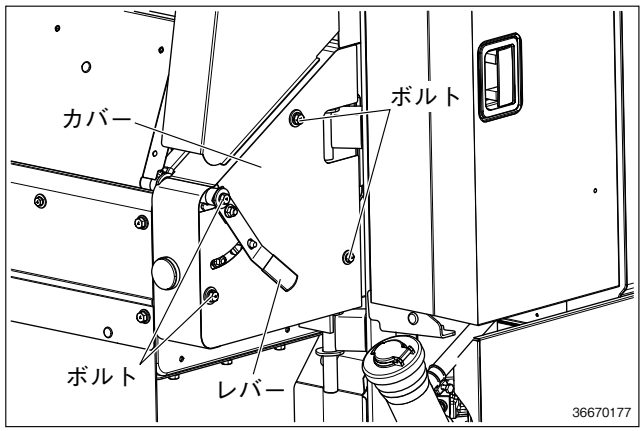
「カッタ部の点検・調整」

❶ 点検

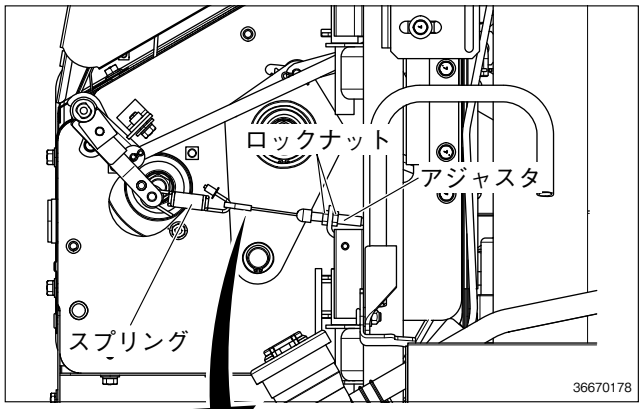
カッタ切替板の先端が浮いていませんか。

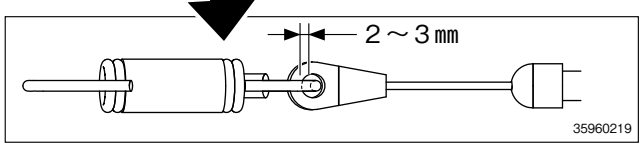
❷ 調整

⑴ ボルト（4個）を外し，カバーとレバーを取外します。



⑵ ワイヤのロックナットをゆるめて，アジャスタでスプリングの遊びを 2㎜～3㎜ もたせます。





⑶ 調整後は，カバーとレバーを取付けボルト（４個）で締め付けます。

「レバー部の点検・調整」

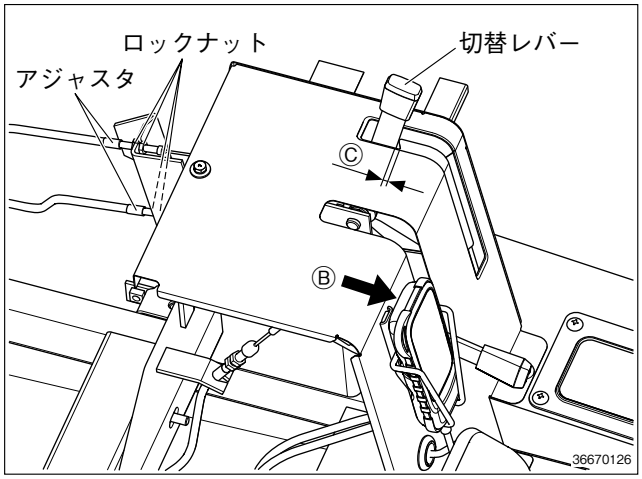
❶ 点検

切替レバーをⒷ方向にいっぱい倒したときガイドと切替レバーのスキマⒸが広くなっていませんか。

❷ 調整

⑴ グレンタンクを回動します。(112～113ページ参照)

⑵ ロックナットをゆるめて，アジャスタ部でスキマⒸを 1㎜～3㎜ に調整してください。



⑶ 調整後は，グレンタンクを元どおり閉じます。(112～113ページ参照)

「ベルトの点検・調整」

取扱いのポイント

●調整ができなくなったら，新しいベルトと交換してください。ベルトを新しいものに交換したときは，各スプリングの寸法や，ベルトガイドなどを正規の寸法に調整してください。

5. エンジンファンベルト

⚠警告 火傷防止のために

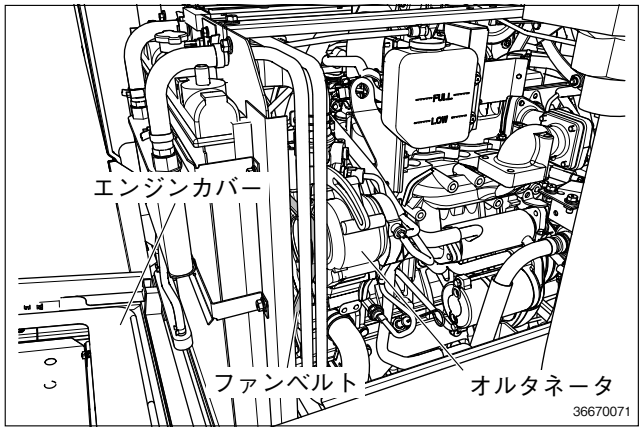
◆ファンベルトの点検・調節は，エンジンが冷えてから行ってください。

❶ 点検

ファンベルト長い部分の中央部を指で押し［10 kgf］，タワミ量が 10～12㎜ となっていますか。

❷ 調整

⑴ エンジンカバーを開きます。

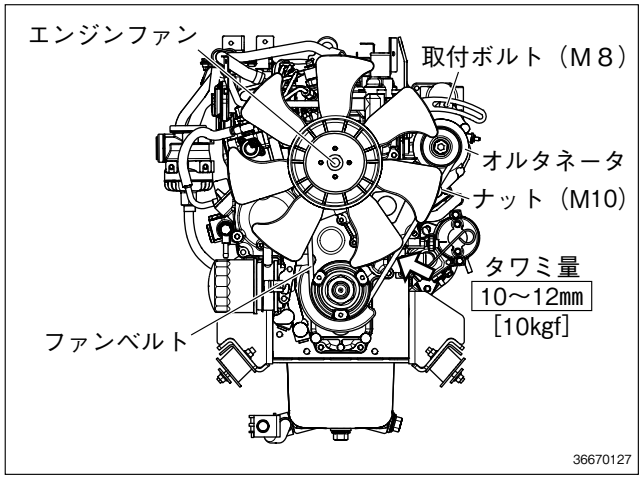


⑵ オルタネータ取付ボルト，ナット（各１個）をゆるめます。

・オルタネータを矢印（⇨）側に倒すとベルトが張れます。

⑶ 調整後，取付ボルトナットを締付けます。

⑷ エンジンカバーを閉じます。



6. 走行ベルト

❶ 点検

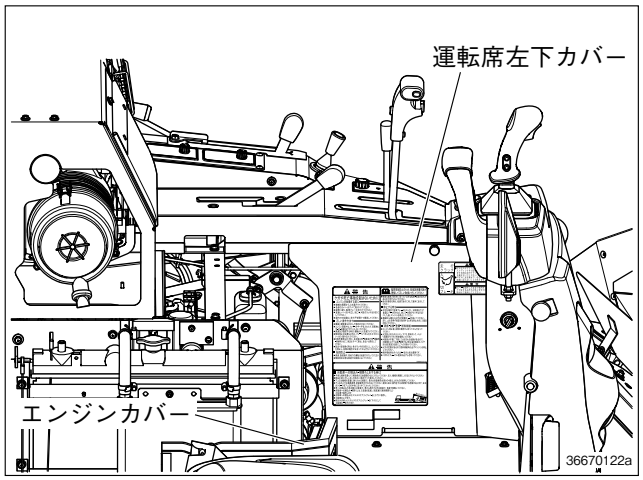
スプリング長さが 228～232㎜ になっていますか。

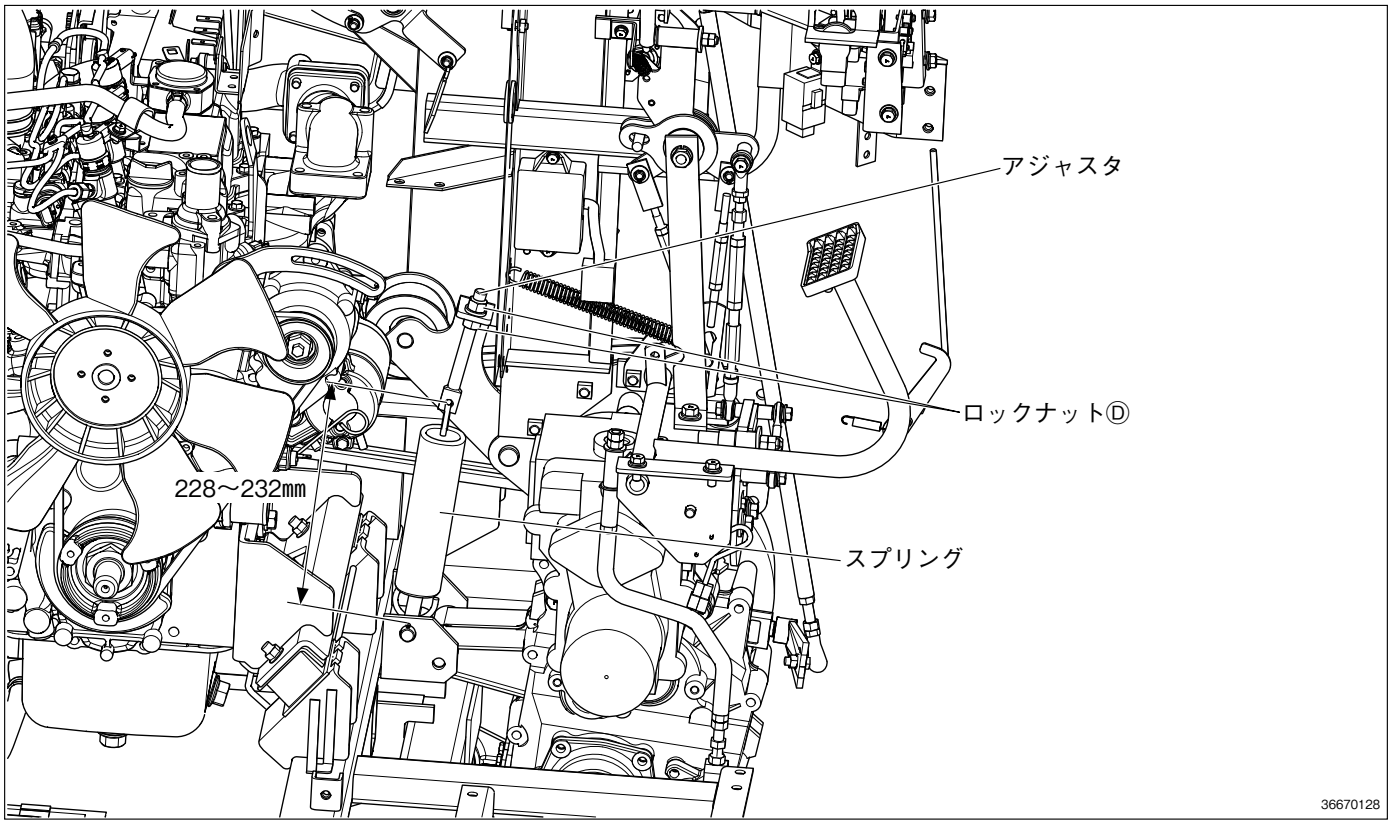
❷ 調整

⑴ エンジンカバーを開き，運転席左下カバーを外します。

⑵ アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

⑶ 調整後，運転席左下カバーを取付け，エンジンカバーを閉じます。





7. こぎ胴伝動ベルト

❶ 点検

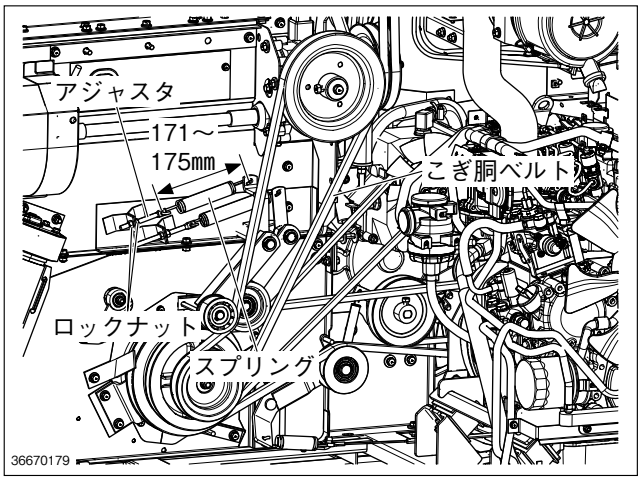
スプリングのセット寸法が 171～175㎜ になっていますか。

❷ 調整

(1) グレンタンクを回動します。(112～113ページ参照)

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリングのセット長さを調整します。

(3) 調整後グレンタンクを閉じます。



8. 搬送HSTベルト

❶ 点検

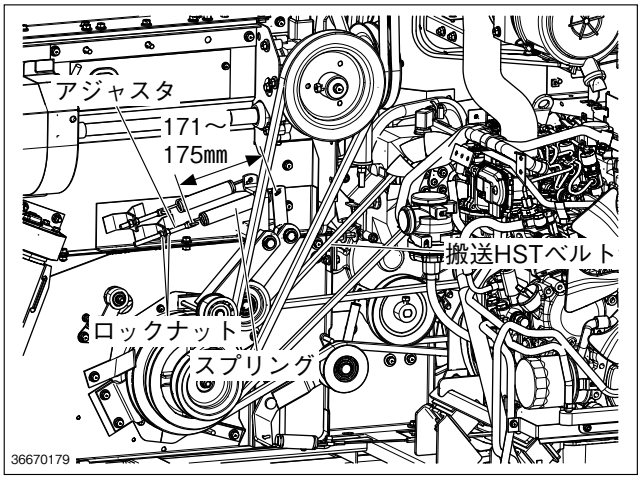
スプリングの長さが 171～175㎜ になっていますか。

❷ 調整

(1) グレンタンクを回動します。(112～113ページ参照)

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリングのセット長さを調整します。

(3) 調整後グレンタンクを閉じます。



9. こぎ胴ベルト

❶ 点検

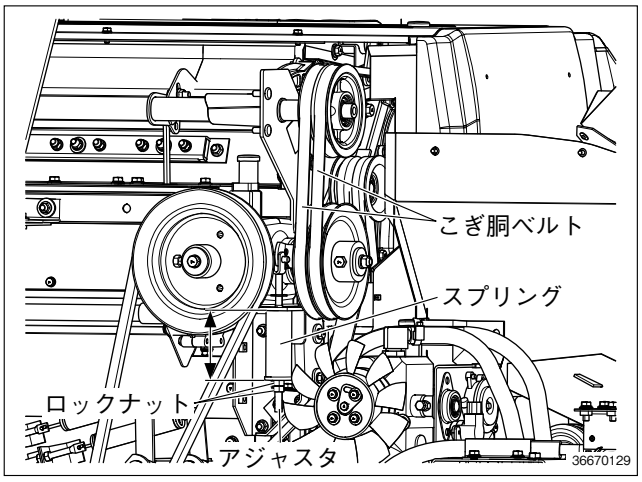
スプリングのセット寸法が 88～92㎜ になっていますか。

❷ 調整

(1) グレンタンクを回動します。(112～113ページ参照)

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリングのセット長さを調整します。

(3) 調整後グレンタンクを閉じます。



10. 1番ラセンベルト

❶ 点検

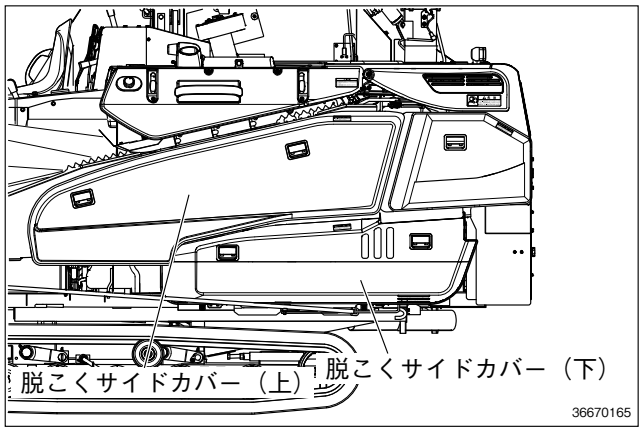
スプリング長さが 122～126㎜ になっていますか。

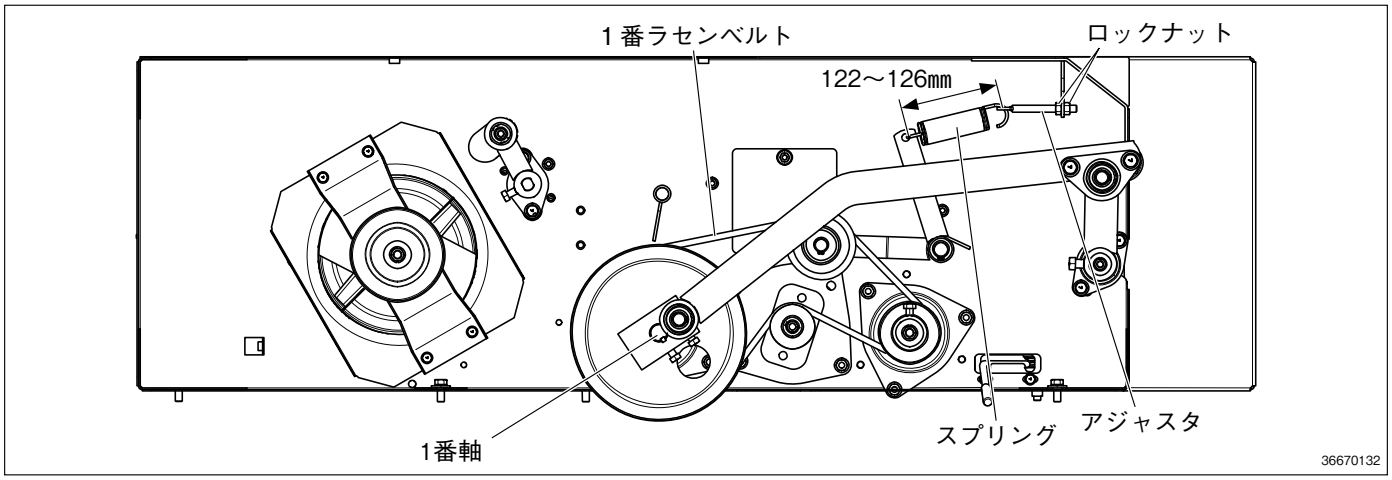
❷ 調整

(1) 脱こくサイドカバー（上），（下）を外します。

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

(3) 調整後，脱こくサイドカバー（上），（下）を取付けます。





11. カッタベルト

❶ 点検

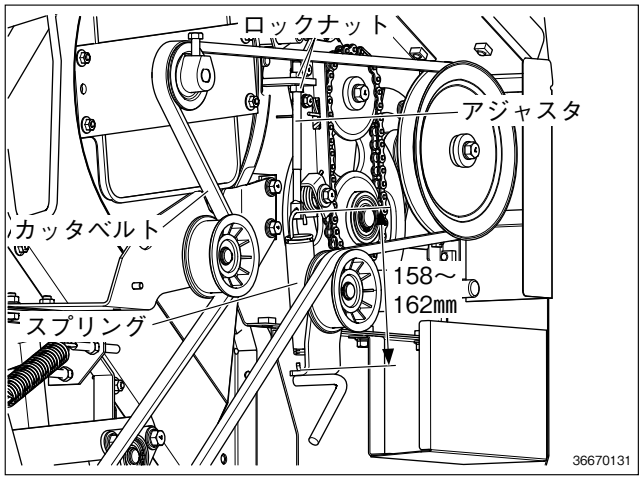
カッタベルトをセットしたとき，スプリングの寸法が 158～162㎜ になっていますか。

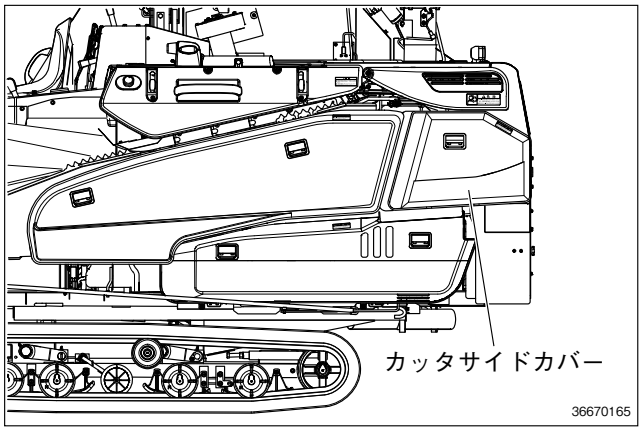
❷ 調整

(1) カッタサイドカバーを外します。

(2) ロックナットをゆるめ，アジャスタで調整します。

(3) 調整後，カッタサイドカバーを取付けます。





12. 選別ベルト

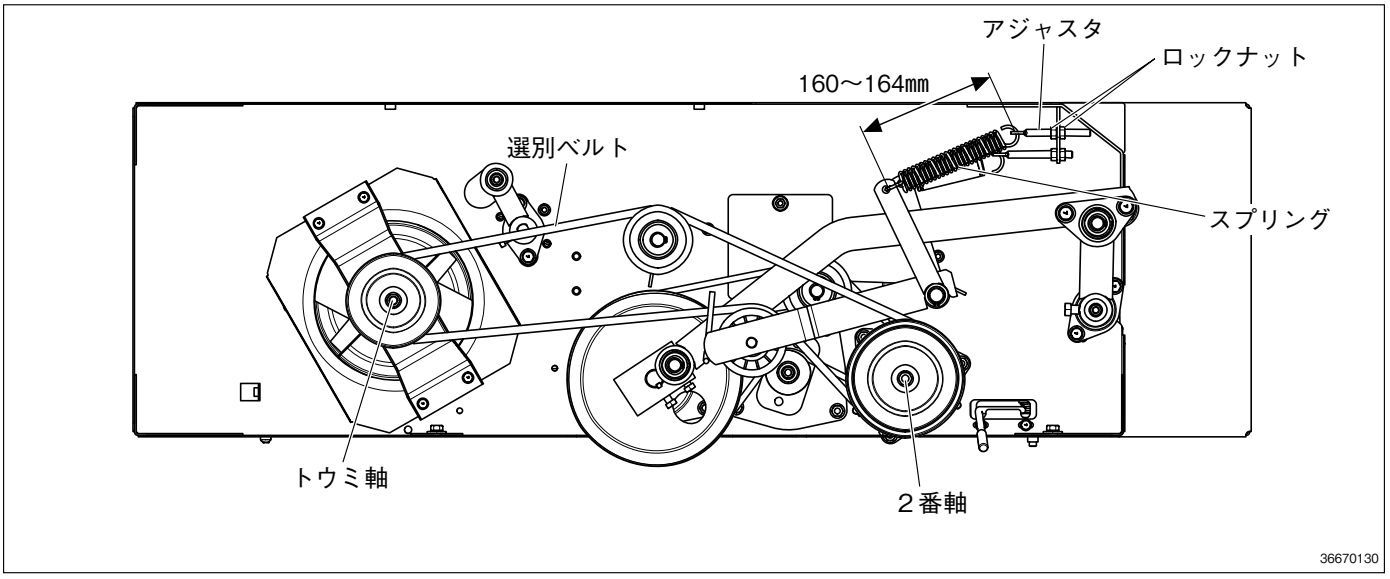
❶ 点検

スプリング長さが 160～164㎜ になっていますか。

❷ 調整

(1) 脱こくサイドカバー（上），（下）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめてスプリング長さを調整します。

(2) 調整後，脱こくサイドカバー（上），（下）を取付けます。



13. 穂先排ワラベルト

❶ 点検

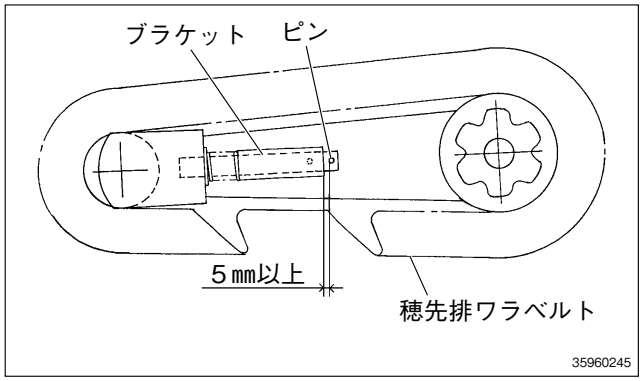
ブラケットとピンのスキマが 5㎜以上 になっていますか。

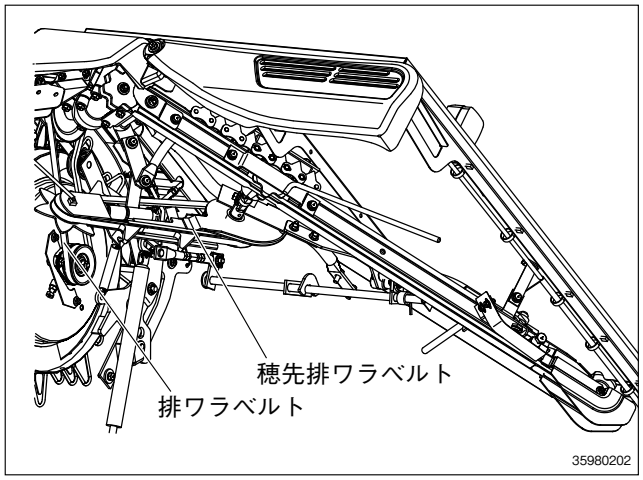
❷ 調整

(1) こぎ胴部を開きます。

(2) 5㎜以下 になっていたら排ワラベルトを交換します。

(3) こぎ胴部を閉じます。





14. 排ワラベルト

❶ 点検

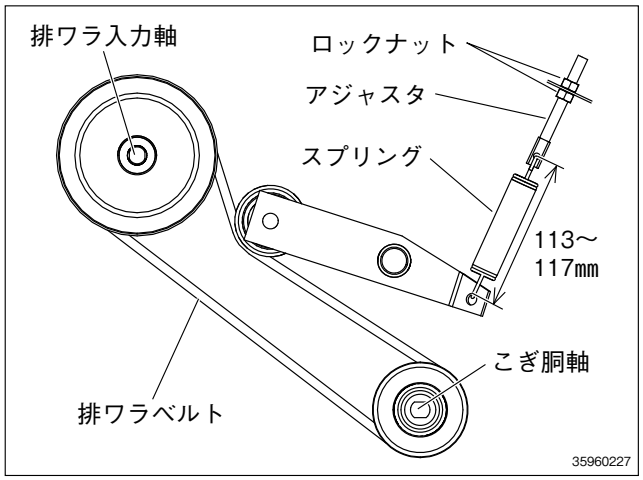
スプリング長さが 113～117㎜ になっていますか。

❷ 調整

(1) こぎ胴部を開きます。

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

(3) 調整後，こぎ胴部を閉じます。



15. グレンベルト

❶ 点検

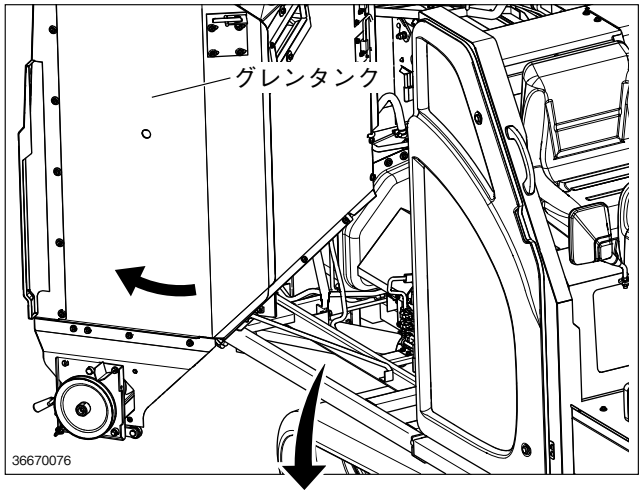
スプリングの長さが 148～152㎜ になっていますか。

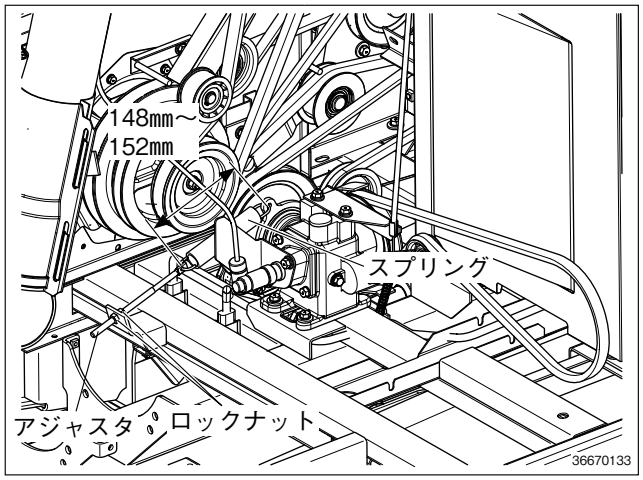
❷ 調整

(1) グレンタンクを回動します。(112～113ページ参照)

(2) アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

(3) 調整後，グレンタンクを元どおり閉じます。





16. かき込みベルト（刈取部）

［4条型］

❶ 点検

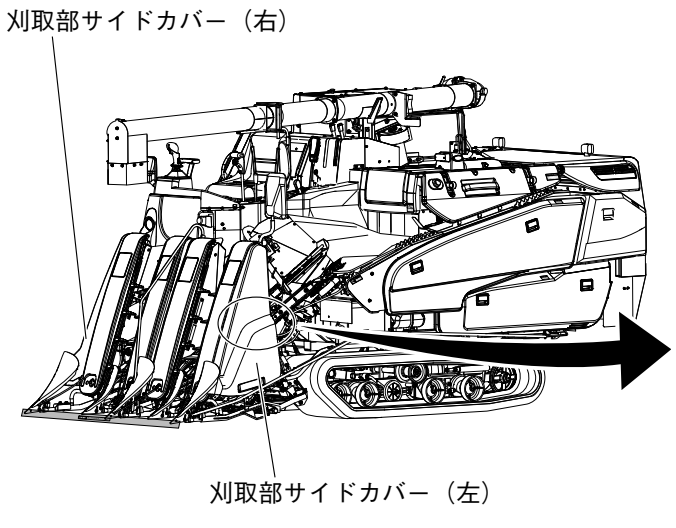
ベルトの搬送側中央部を押さえ，ベルトのタワミ量が 5～10㎜ になっていますか。（右，中，左）

❷ 調整

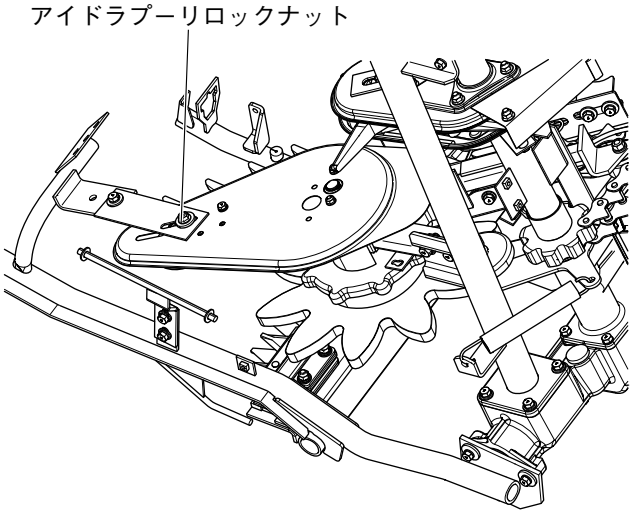
(1) 刈取部サイドカバー（右），（左）を外します。

(2) アイドラプーリのロックナットをゆるめてアイドラプーリで調整します。

(3) 調整後，刈取部サイドカバー（右），（左）を取付けます。

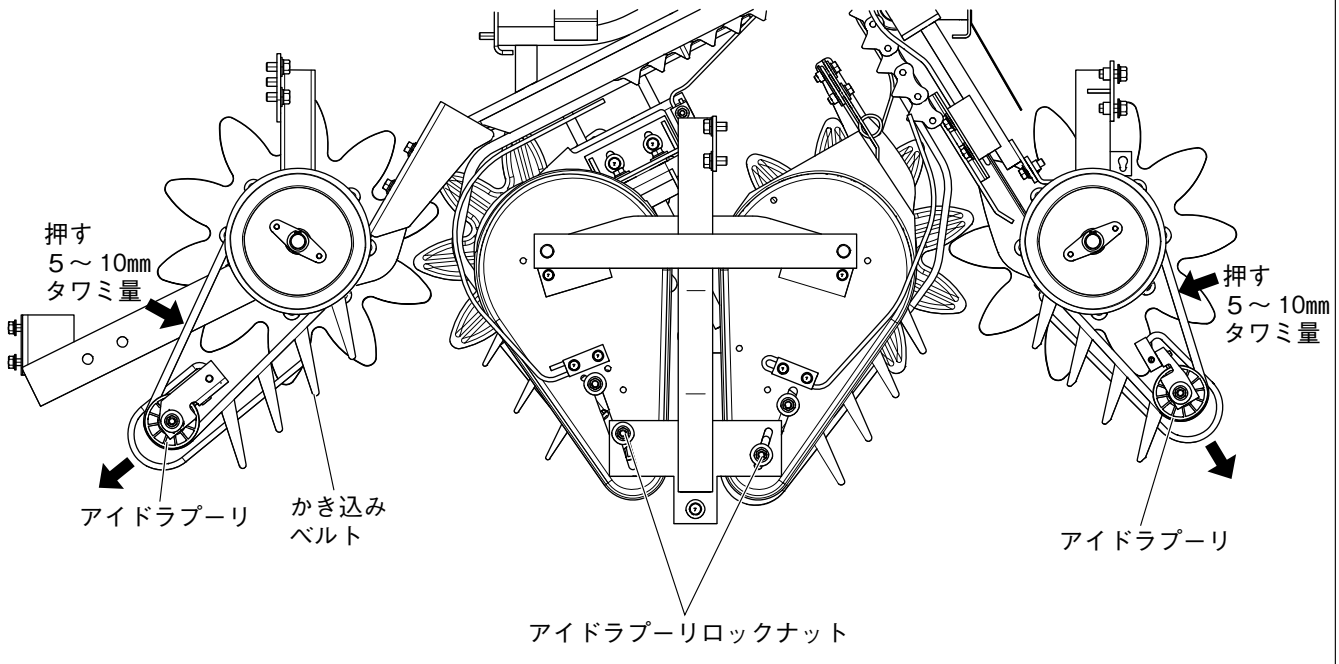


36670009



36670134

ベルトタワミ量が10㎜以上ある場合，アイドラプーリロックナットをゆるめ
矢印の方向にアイドラプーリを引っ張りながらロックしてください。



36670135

［3条型］

❶ 点検

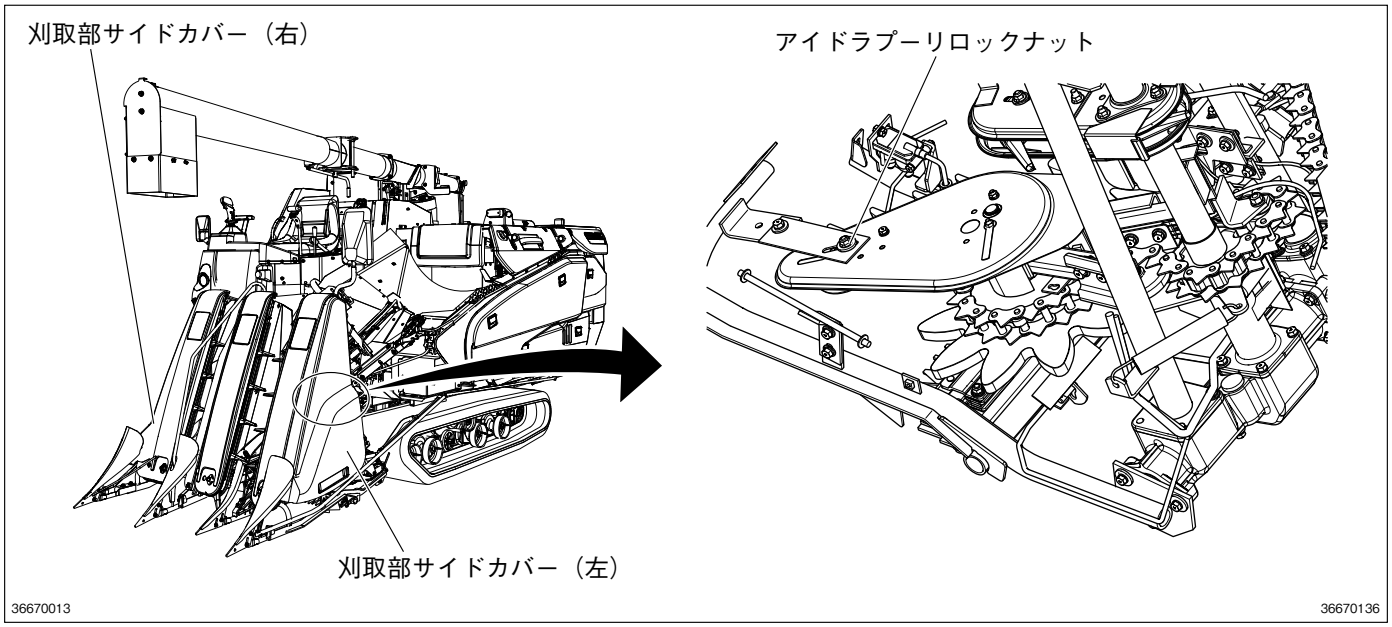
ベルトの搬送側中央部を押さえ，ベルトのタワミ量が 5～10㎜ になっていますか。(右，中，左)

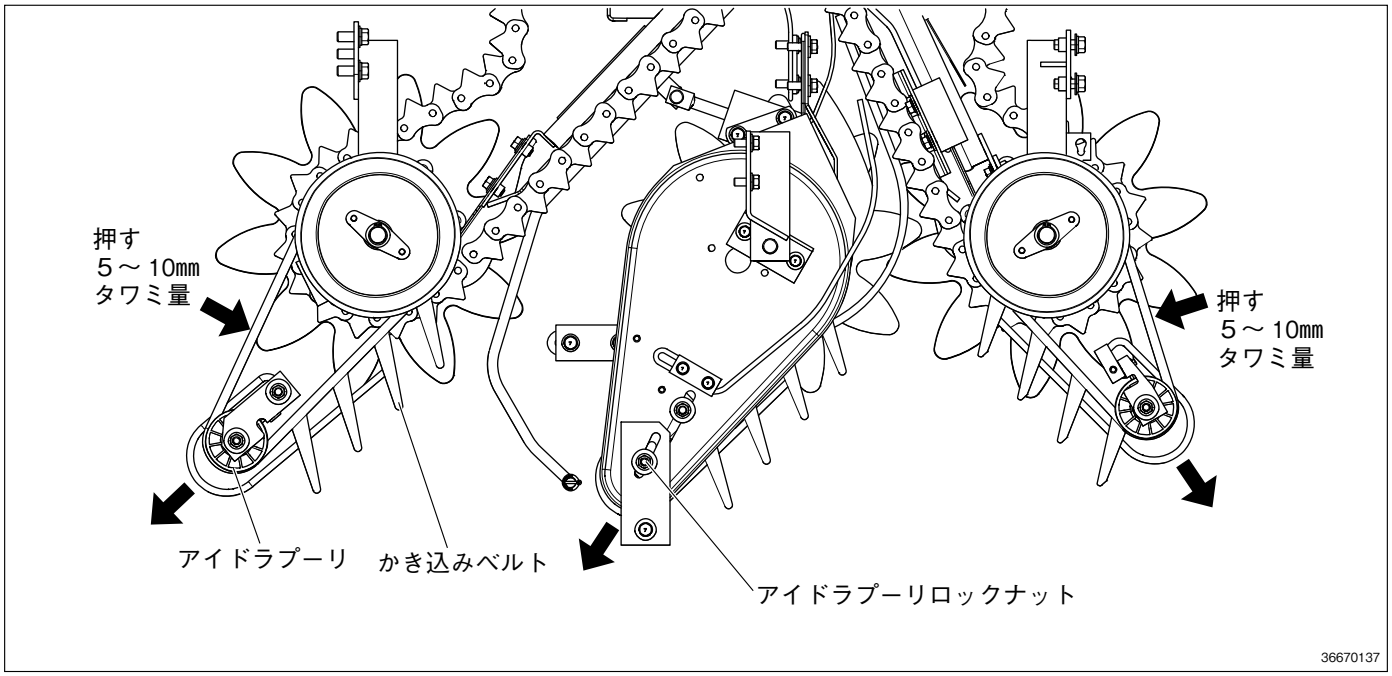
❷ 調整

⑴ 刈取部サイドカバー（右)，(左）を外します。

⑵ アイドラプーリのロックナットをゆるめてアイドラプーリで調整します。

⑶ 調整後，刈取部サイドカバー（右)，(左）を取付けます。





「チェンの点検・調整」

取扱いのポイント

●調整ができなくなったら，新しいチェンに交換してください。チェンを新しいものに交換した場合は，スプリングの寸法を，正規な寸法に調整してください。

17. 株元搬送チェン

［4条型］

株元搬送チェン（右）

❶ 点検

スプリングA長さが 167～173㎜ になっていますか。

❷ 調整

ロックナットをゆるめ，アジャスタでスプリングAの長さを調整します。

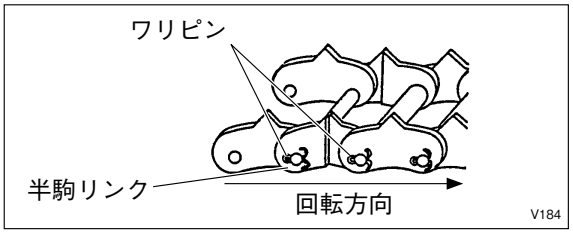
株元搬送チェン（左）

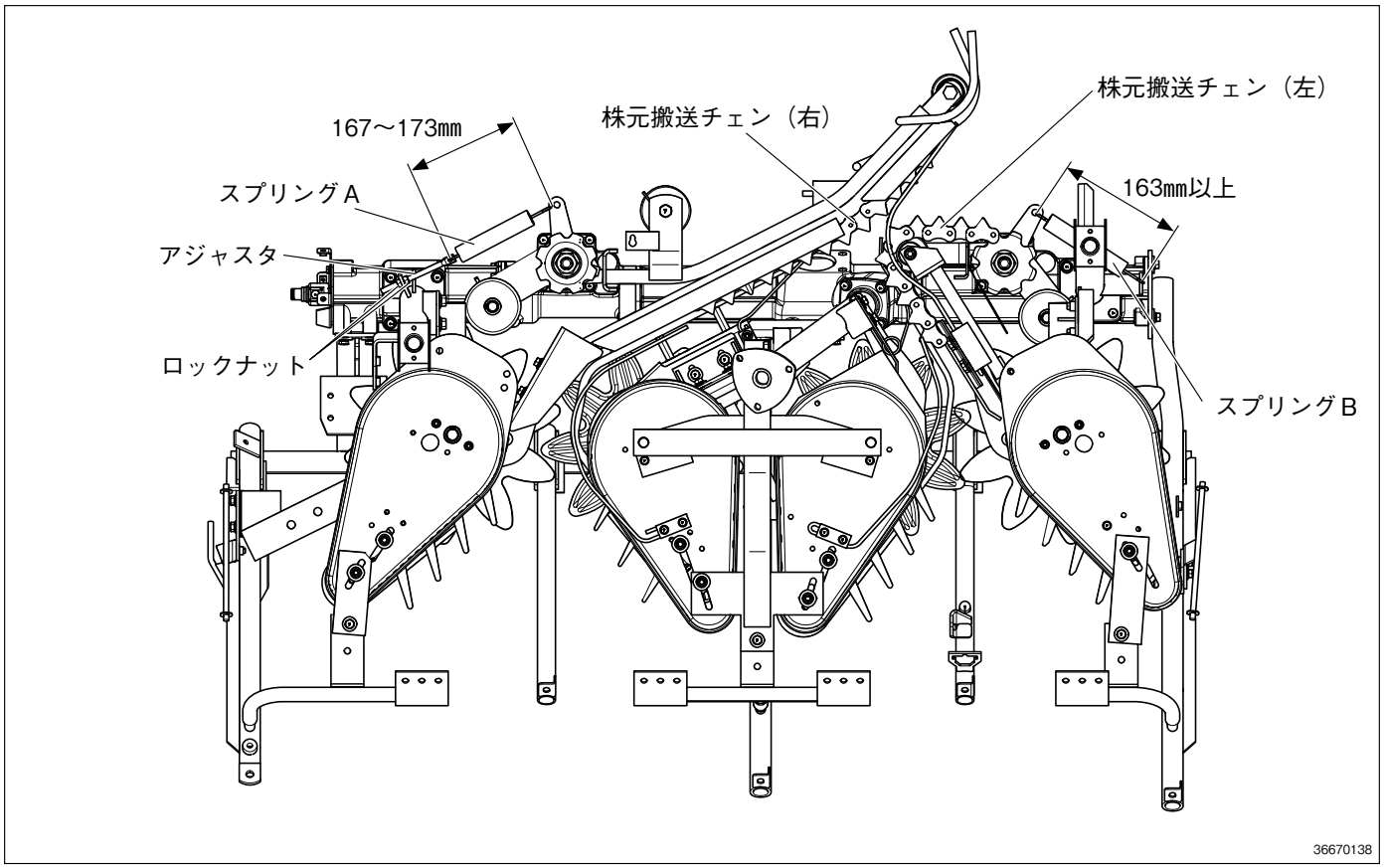
❶ 点検

スプリングBの長さが 163㎜以上 になっていますか。

❷ 調整

チェンの半駒リンクを外し，チェンをつなぎ直します。





［3条型］

株元搬送チェン（右）

❶ 点検

スプリングA長さが 177～183㎜ になっていますか。

❷ 調整

ロックナットをゆるめ，アジャスタでスプリングAの長さを調整します。

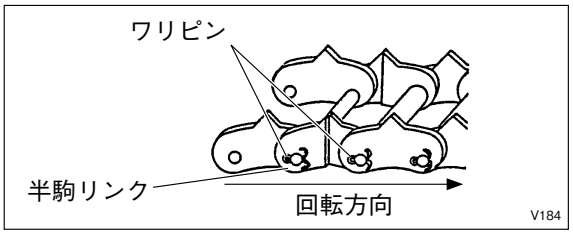
株元搬送チェン（左）

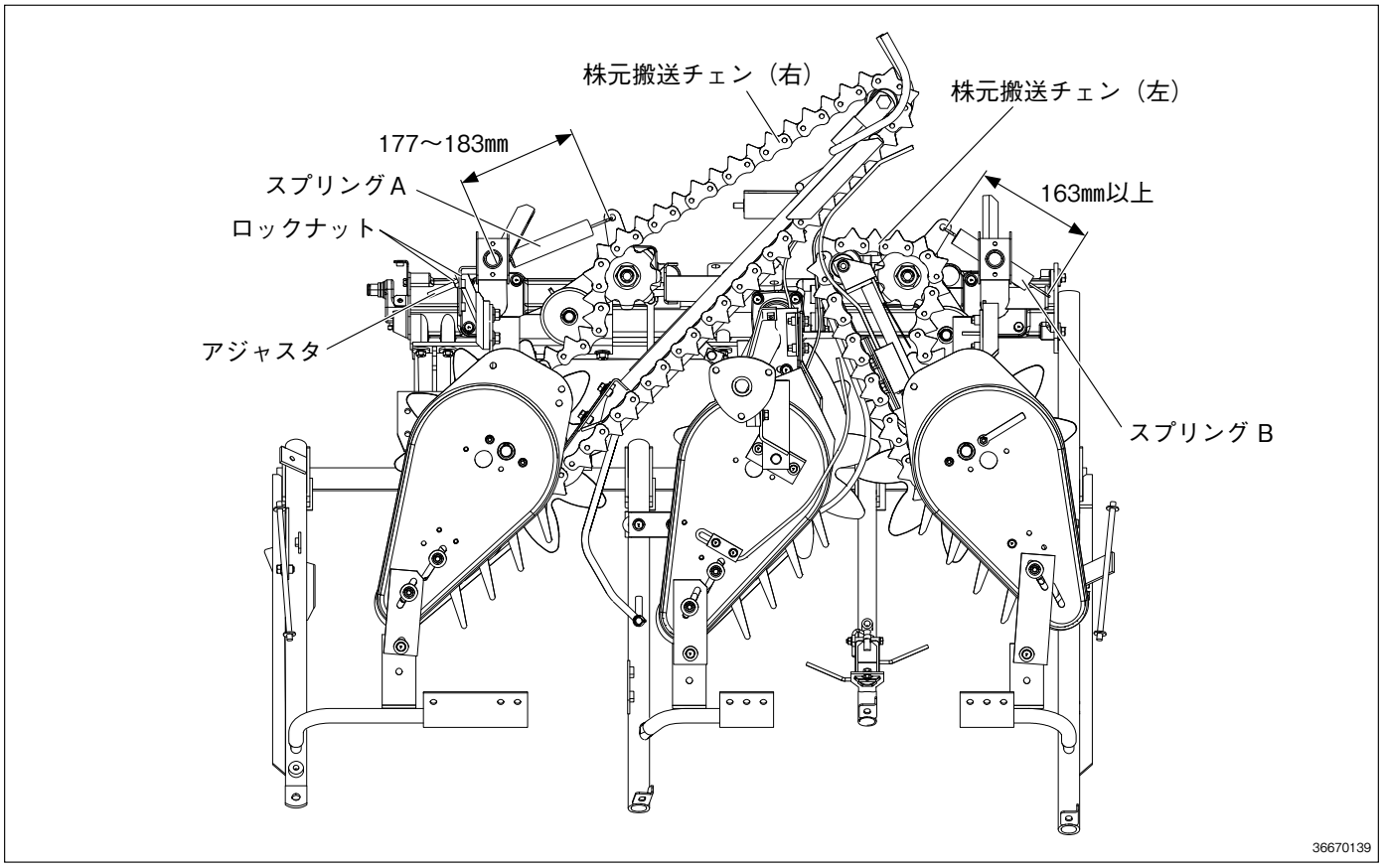
❶ 点検

スプリングBの長さが 163㎜以上 になっていますか。

❷ 調整

チェンの半駒リンクを外し，チェンをつなぎ直します。





18. こぎ深さ搬送チェン

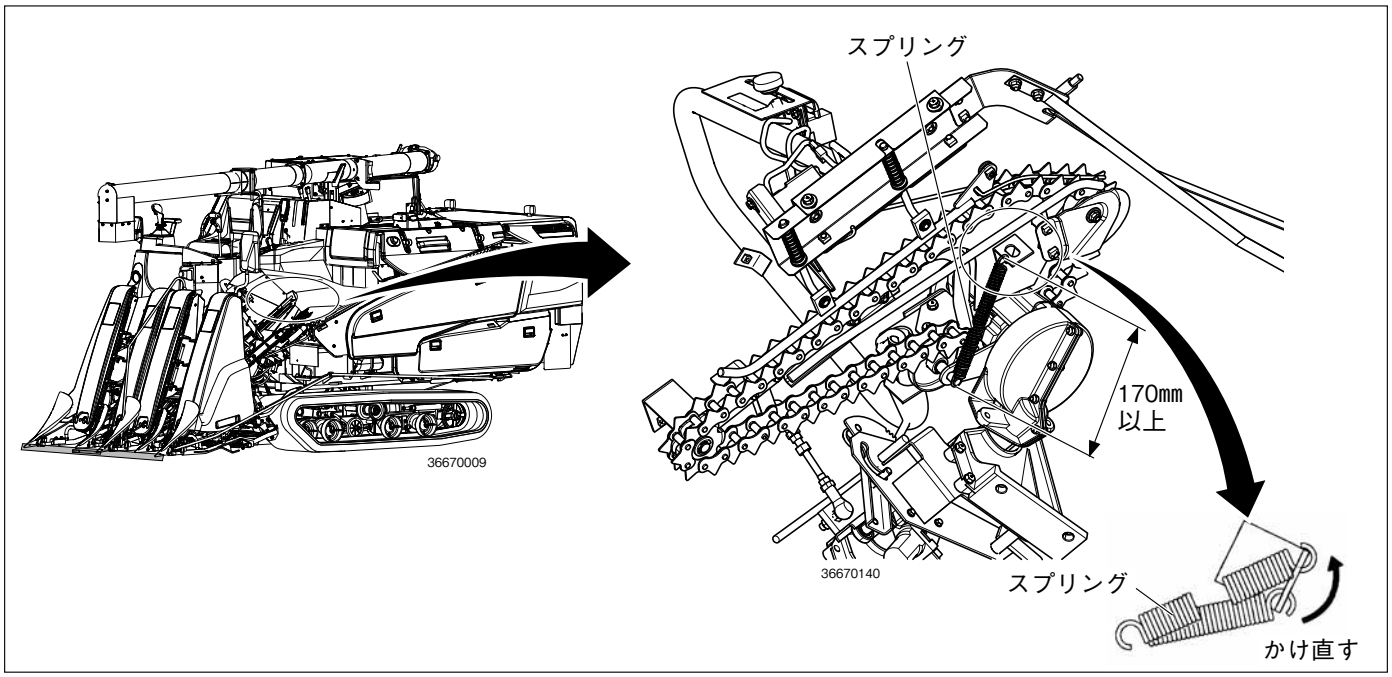
❶ 点検

スプリング長さが 170㎜以上 になっていますか。

❷ 調整

(1) 刈取部は下げた状態でこぎ深さ搬送部をいっぱいあげます。(浅こぎ側)

(2) スプリング長さが 170㎜以下 のときは，スプリングをかけ直します。それでもスプリングが170㎜以下のときは，チェンの半駒リンクを外し，チェンをつなぎ直します。



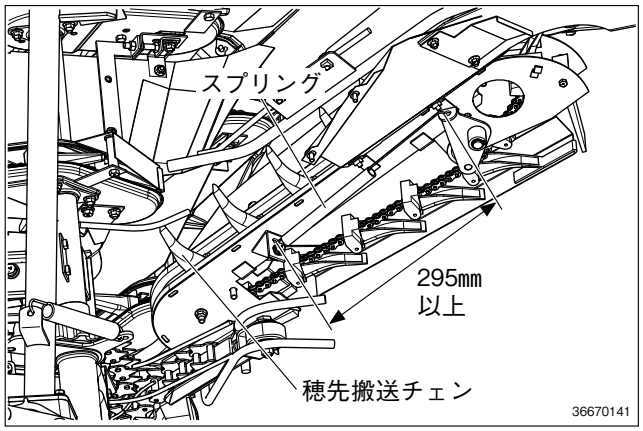
19. 穂先搬送チェン

❶ 点検

スプリング長さが 295㎜以上 になっていますか。

❷ 調整

搬送上カバーを外し，チェンを交換します。交換後は，搬送上カバーを取付けます。



20. かき込み搬送チェン（右，左）

［4条型］

❶ 点検

「右上，左上」

各々のⒶ部を手で軽く引いたとき，タワミ量が 3～5㎜ になっていますか。

「右下，左下」

テンション軸が長穴端部に当っていませんか。

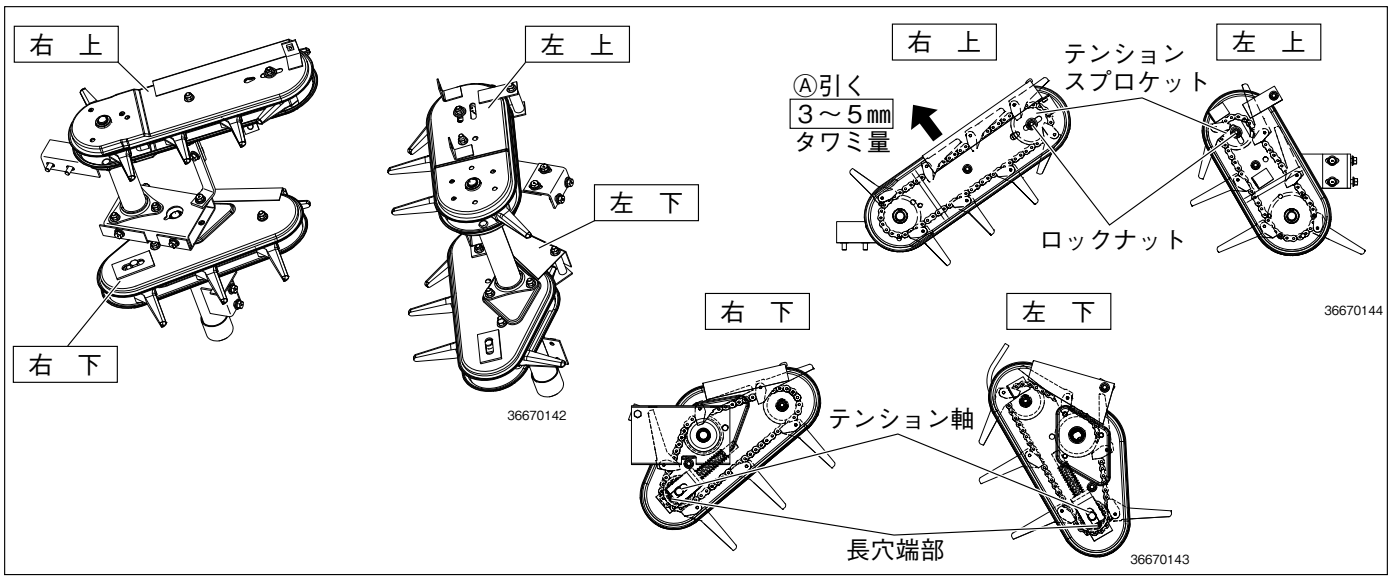
❷ 調整

「右上，左上」

テンションスプロケットのロックナット（表，裏）をゆるめて，アジャスタで調整し，ロックナット（表，裏）を締付けます。

「右下，左下」

テンションが長穴端部に当っていればチェンを交換します。



［3条型］

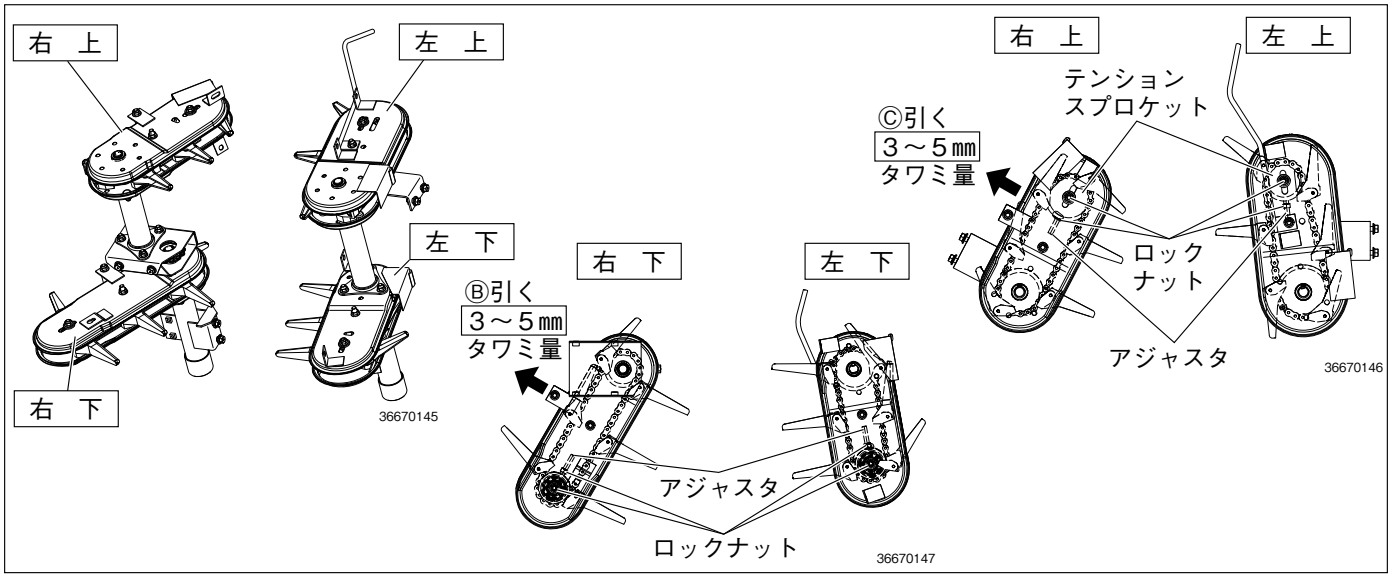
❶ 点検

「右上，右下，左上，左下」

各々のⒷⒸ部を手で軽く引いたとき，タワミ量が 3～5㎜ になっていますか。

❷ 調整

テンションスプロケットのロックナット（表裏）をゆるめて，アジャスタで調整し，ロックナット（表，裏）を締付けます。



21. 脱こくフィードチェン

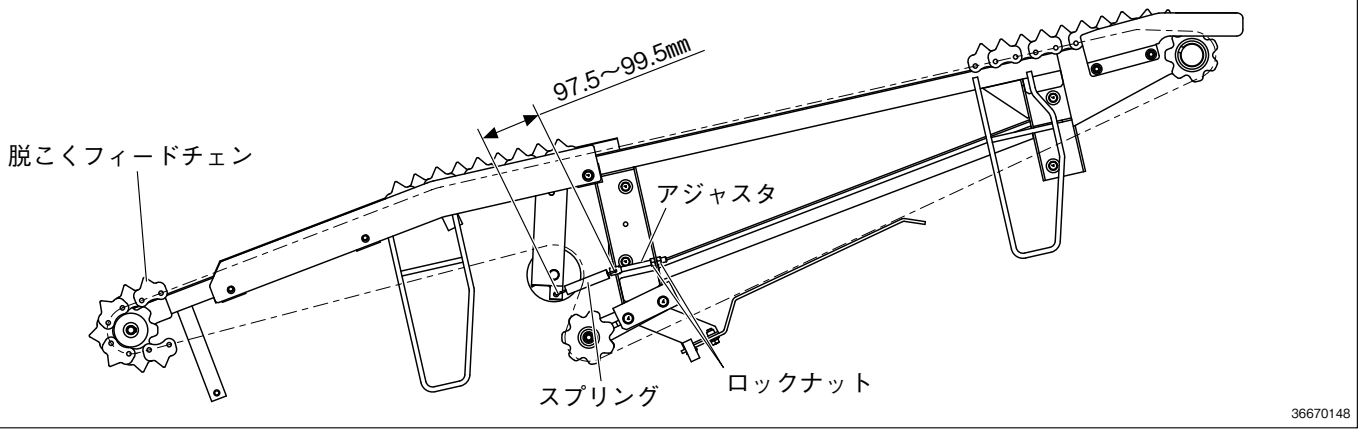
❶ 点検

スプリングの長さが 97.5～99.5㎜ になっていますか。

❷ 調整

(1) 脱こくサイドカバー（上），（下）を外し，アジャスタのロックナットをゆるめて，スプリング長さを調整します。

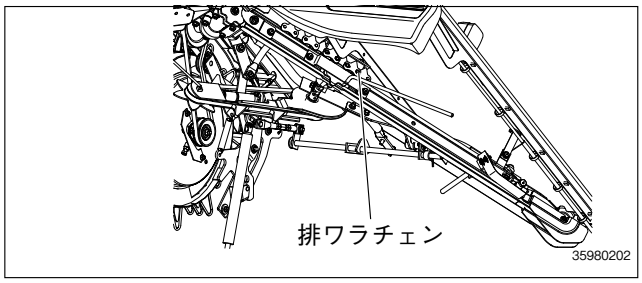
(2) 調整後は脱こくサイドカバー（上），（下）を取付けます。



22. 排ワラチェン

❶ 点検

排ワラチェンの中央部を軽く引きタワミ量が 10～15㎜ になっていますか。



❷ 調整

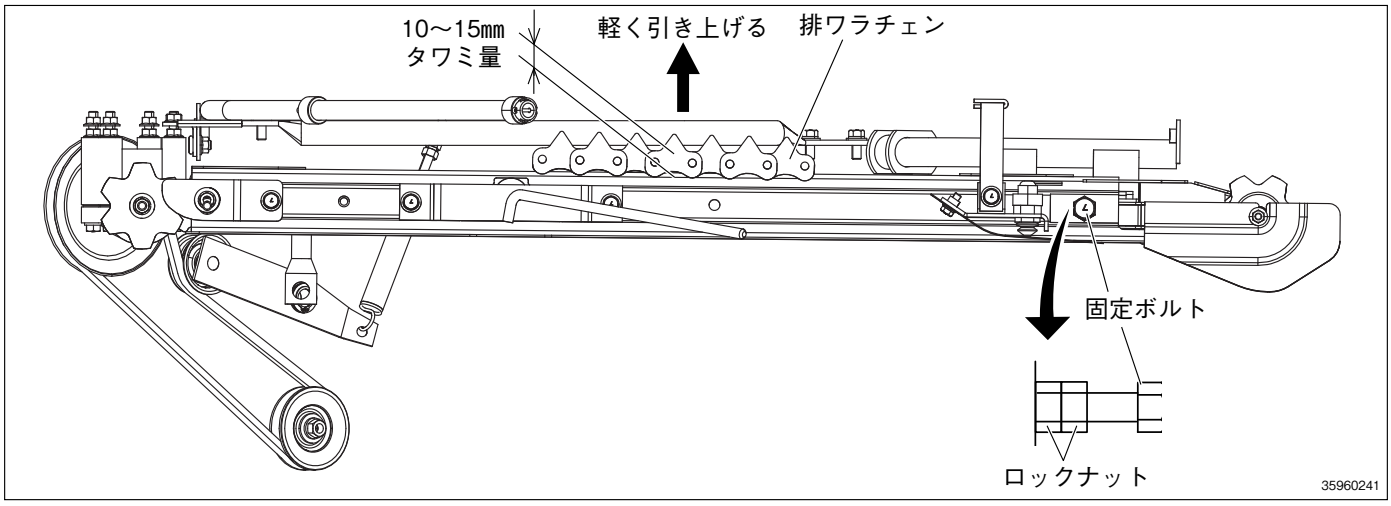
(1) こぎ胴部を開けます。

(2) ロックナット固定ボルトをゆるめると自動的にチェンの張り調整ができます。

調整後固定ボルトがゆるまないようロックナットで締付けます。

なお，調整できなくなったときはチェンの半駒リンクを外し，チェンの長さを修正します。

(3) 調整後，こぎ胴部を閉じます。



「クローラの点検・調整」

クローラの点検・調整は「**お買いあげ先**」に依頼してください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ガレージジャッキがめり込んだり，移動したりしない，平坦な場所で行なってください。
◆ガレージジャッキは，２ｔ以上の仕様のものを使用してください。
◆ジャッキアップ（上げ・下げ）は，機体のバランスを確認しながらゆっくり行い，必要以上の高さに上げないでください。
◆ジャッキアップしたら，固定脚または安全ブロックを走行フレームに噛ませて，落下・転倒防止をしてください。
◆ジャッキアップされた機械の下に，入らないでください。

23. クローラ

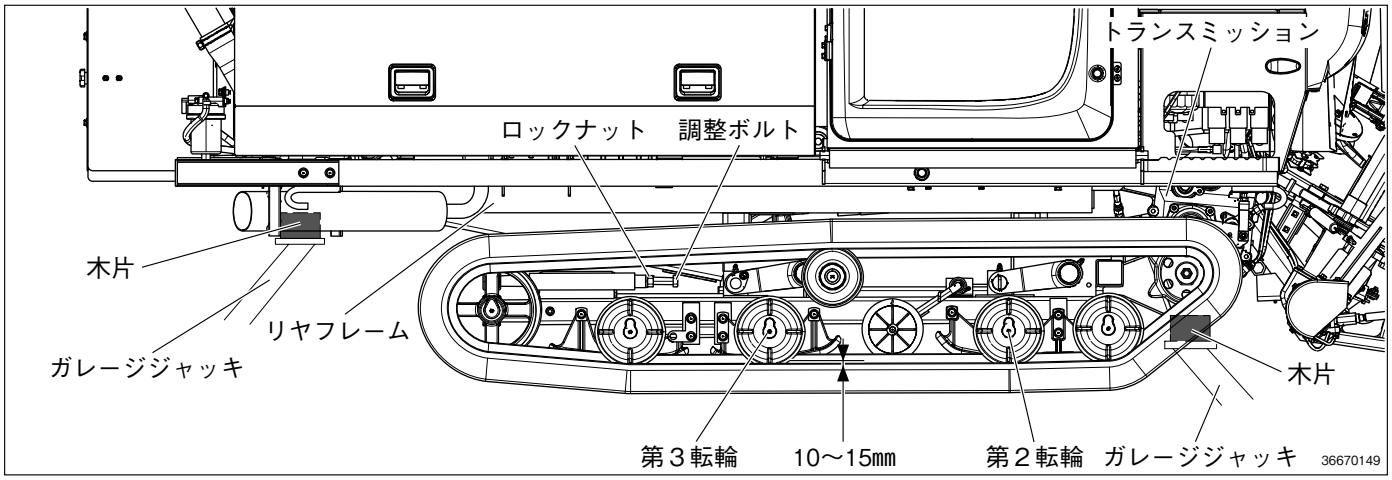
❶ 点検

⑴ 図示のように，トランスミッションとリヤフレーム部の右または左側に木片を介し，ガレージジャッキでジャッキアップし，片方のクローラを浮かせ，固定脚または安全ブロックを走行フレームに噛ませ固定します。

⑵ フレームをジャッキアップした状態で第３転輪とクローラのスキマが 10〜15㎜ になっていますか。

❷ 調整

⑴ 調整ボルトのロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込んで，第３転輪および第４転輪とクローラの隙間が 10〜15㎜ になるまで張ります。



取扱いのポイント

- **クローラの張り調整を行う前に，ガレージジャッキを掛ける部分や，クローラ回りに付着しているワラ泥などを取除いてください。**
- **トランスミッションケースに直接ガレージジャッキを掛けると，ケースが破損するおそれがありますので，行なわないでください。**

24. 刈　　刃

⚠警告　傷害事故防止のために

◆刈刃の着脱作業をするときは，厚手の手袋をして行ってください。刈刃は内側のボルトを外してください。

◆刃部に手をかけないでください。刈刃が動いて怪我することがあります。

◆刈刃の点検調整するときは，刈取部を上げ，油圧固定スイッチを《油圧固定》位置にして，フックをかけ，刈取部の下に固定脚などを入れて作業してください。

⚠注意　傷害事故防止のために

刈刃の着脱作業をするときは，２人作業で合図を掛け合って行ってください。

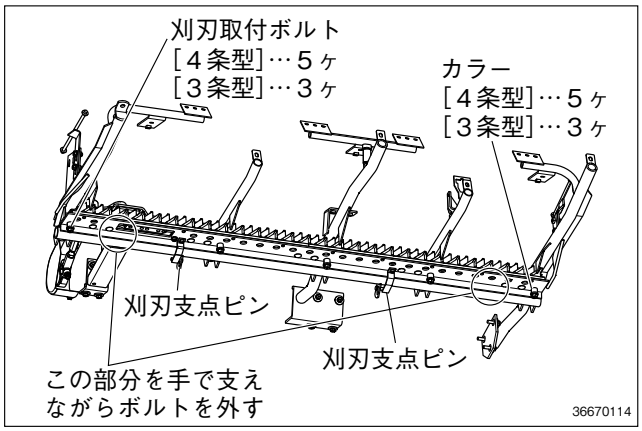
❶　刈刃の回動

・刈刃は，手入れをしやすくするため，刈刃支点ピンを軸にして，回動します。

⑴　エンジンを始動し，マルチステアリングレバーを操作して刈取部を上げます。

⑵　エンジンを停止し，油圧固定スイッチを《**油圧固定**》位置にして，刈取部の下に固定脚などを入れます。

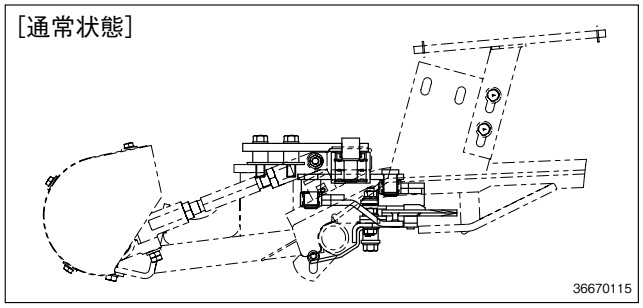
⑶　刈取部の下方から刈取部を見ると，下図のような取付け状態になっています。

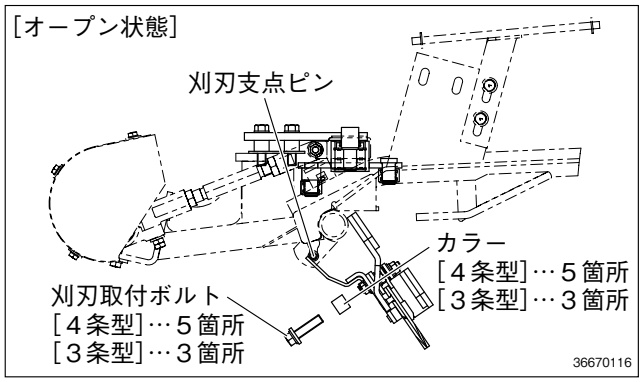


⑷　内側の刈刃取付ボルトを取外します。

⑸　刈刃組品を手で支えながら，外側の刈刃取付ボルトを取外します。（２人作業）

※刈刃取付ボルトには，それぞれカラーがついています。そのカラーも取外します。

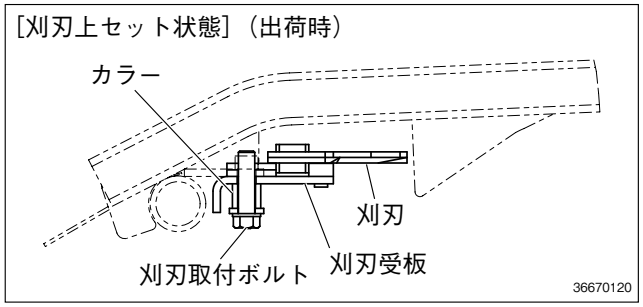


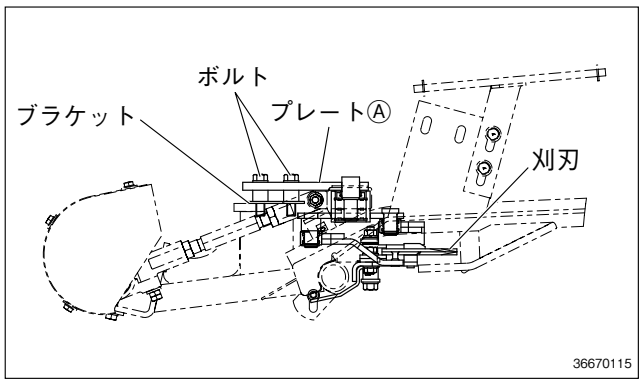


⑹　刈刃組品を支えながら，ゆっくり降ろし刈刃を回動します。

❷　刈刃の上下調節

・出荷のとき，刈刃は「**上セット**」になっています。



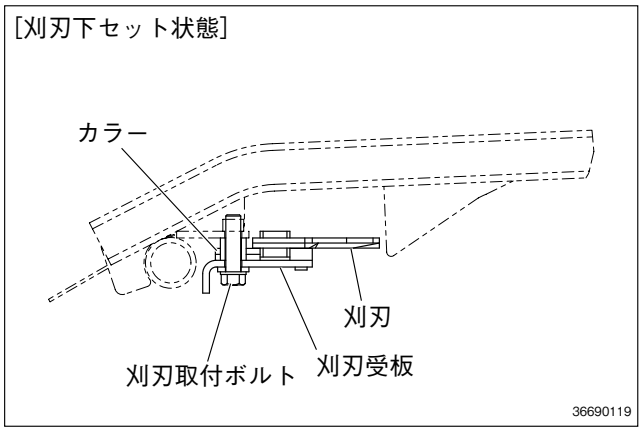


裏作などのために刈株を低くしたいときは，刈刃を「**下セット**」にします。

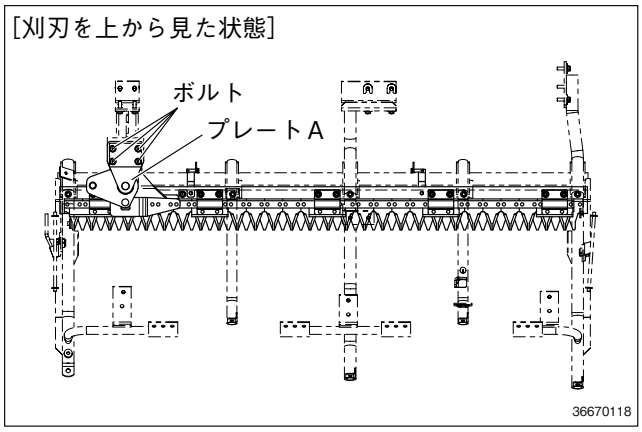
「**下セット**」にする場合，カラー・ブラケットの２箇所の組替えを行います。

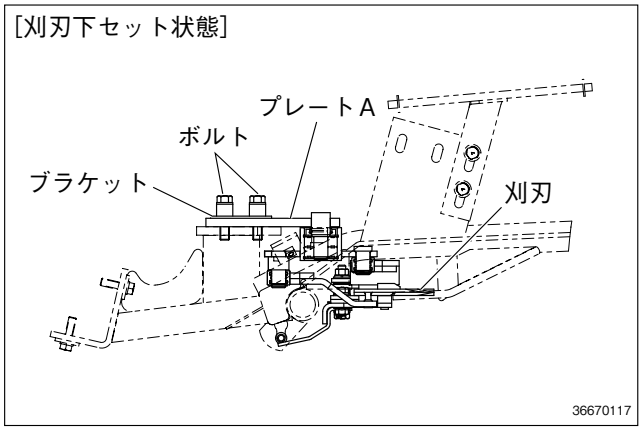
⑴ 刈刃をオープンします。

⑵ 刈刃取付ボルトのカラーを，刈刃受板の「**下側**」から「**上側**」に入れ替えて，ボルトを締付けます。



⑶ ボルト４本を外し，ブラケットをプレートAの下方から上方へ入れ替えて，ボルトを締付けます。

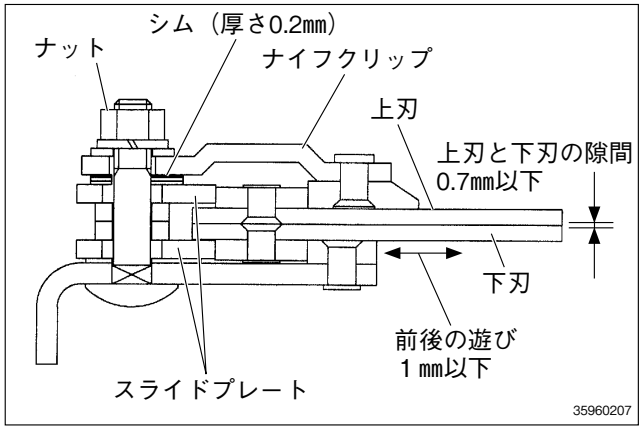




❸ 刈刃の調整

⑴ 刈刃に付着している泥やワラクズを，取除きます。

⑵ ナットをゆるめ，ナイフクリップの下側のシム（厚さ0.2㎜）で，上刃と下刃のスキマが0.7㎜以下になるように調整します。



	ナット	ナイフクリップ	スライドプレート
４条型	10個	５個	10個
３条型	８個	４個	８個

⑶ 上刃と下刃の前後の遊びが１㎜以下になるように，ナイフクリップとスライドプレートの位置を調整し，ナットを締付けます。

⑷ 上刃，下刃共スムーズ（15kg程度）に作動することを確認します。

取扱いのポイント

- **１日の作業終了後には，刈刃に付着している泥やワラクズなどを取除き，注油をしてください。**
- **刈跡が揃わなくなったりした場合は，刈刃に注油をし，刈刃の調整または交換してください。**

長期格納のしかた

・シーズンが終わったら，次の作業をして格納します。

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆回転部・刈取部（刈刃）などに付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除くときは，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行ってください。

◆電気配線およびバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートや漏電で火傷や損傷することがあります。点検し，傷んだ配線は交換，修理してください。

◆燃料ホース，油圧ホースの劣化や，傷による燃料もれがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し，傷や漏れがあれば，交換してください。

◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズを取除いてください。火災の原因となることがあります。

◆高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

◆機械にシートカバーをかけるときは，エンジンが冷えてから行ってください。エンジンが熱いときにシートカバーをかけると火災の原因になることがあります。

1．機械の掃除と洗浄

❶ 泥・ワラクズ・雑草などを取除き，汚れをきれいに水洗いし，乾いた布でふき取ります。

❷ 脱こく内部およびグレンタンクのゴミ・残溜こく粒などを掃除口よりきれいに取除きます。

（116～120ページ脱こく内部の掃除の項を参照）
（121～124ページ揺動流板の掃除の項を参照）
（124～125ページグレンタンク部の掃除の項を参照）

2．錆止めと注油

❶ 刈刃は掃除したのち，全面にグリースを塗布し錆止めをします。

❷ チェン・ワイヤ類にも注油をし，錆びないようにします。

❸ 塗装がはげた箇所は補修塗装を行います。

3．エンジンの手入れ

エンジンの手入れを行うときは平坦な格納場所で駐車ブレーキをかけ，各クラッチレバーを《**切**》にしエンジンが冷えてから行います。

❶ エンジン回転ダイヤルを《🐢》(**低速**）にします。

❷ 新しい燃料を入れ，タンクの燃料を満量にしておきます。

❸ 冬期気温が0℃以下になるときは，エンジンの凍結割れを防ぐため，冷却水を交換し，不凍液を入れます。（86～87ページ参照）

4．点検・整備

「**定期点検整備表**」の項を参考に，該当する項目について点検・整備します。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，2m以上離して洗車してください。もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，

1．電気配線部被覆の損傷・断線により火災を引き起こすおそれがあります。

2．ホースの破損により，油・燃料が噴出して傷害を負うおそれがあります。

取扱いのポイント

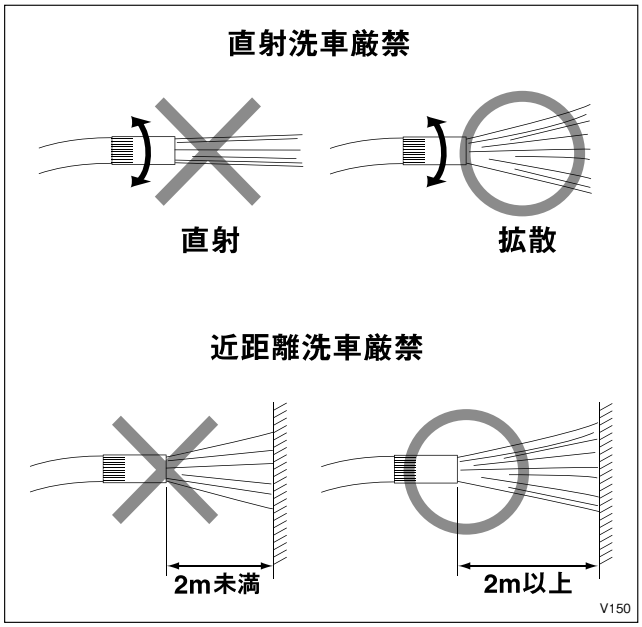
- **エンジン部・脱こく部・運転操作部・電装部には水をかけないでください。誤って水がかかりぬれた場合は，ただちに水分を除去してください。**
- **機械の破損・損傷・故障の原因になります。**

例）(1) シール・ラベルの剥がれ

(2) 電装部品，エンジン，ラジエータ，キャビン内などへの侵入による故障

(3) クローラ，オイルシールなどのゴム類，樹脂類，ガラスなどの破損

(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ



5. 格　納

機体の掃除・点検・整備を終えたら，風通しのよい乾燥した屋内を選び，シートをかけて保管します。

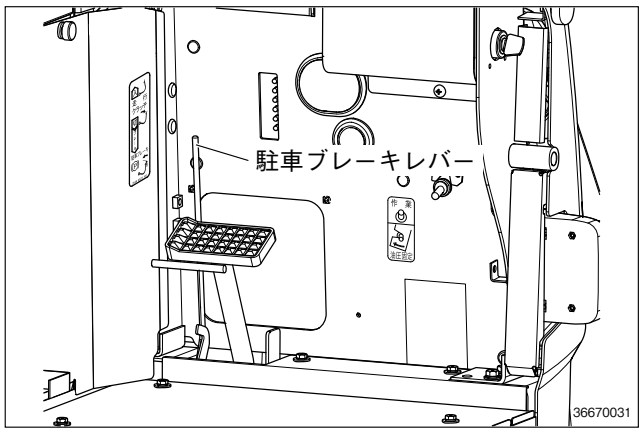
❶ 「**クローラ**」の下には板などを敷いておきます。

❷ 各レバーは《**切**》（**中立**）の位置にします。

❸ 「**ナローガイド（左）**」，「**排出オーガ**」を収納し，デバイダ先端に「**バンパ**」を取付けておきます。

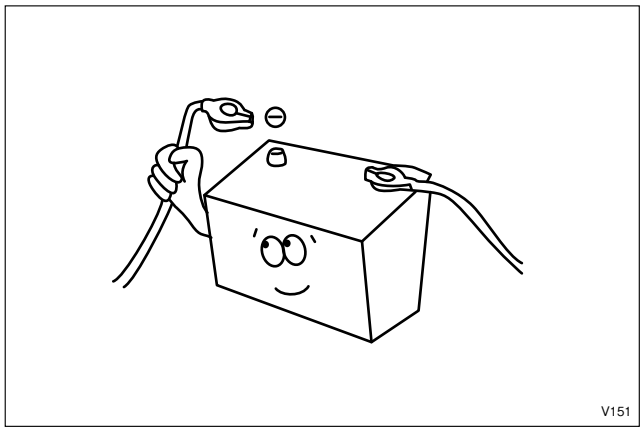
❹ 刈取部を下げて，スタータスイッチの「**キー**」を抜取ります。

❺ 駐車ブレーキレバーをかけます。



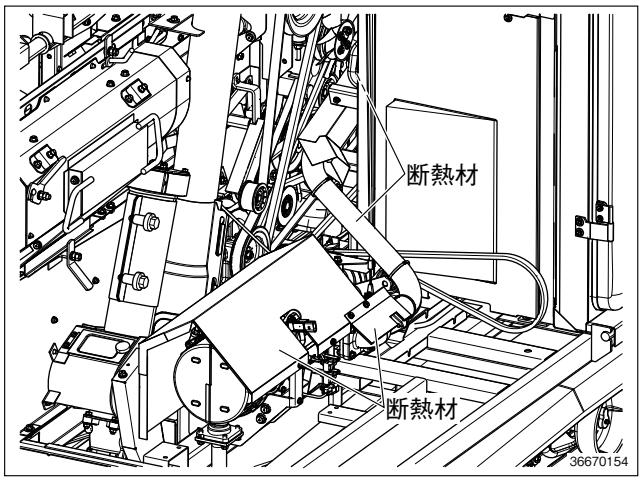
❻ クローラに「**車止め**」をします。

❼ 「**バッテリ**」は取外して，日陰の乾燥した場所に保管するか，⊖側のコードを外しておきます。1ケ月に1回，バッテリ補充電のため，エンジンを約10分間回します。



取扱いのポイント

- **錆の発生を防止するため，塩分の強い貯蔵物や肥料と同じ場所に格納するのは避けてください。**
- **エンジンを始動する前に，バッテリーターミナルなど保管するときに処置した項目を復元してください。**
- **マフラ部断熱材の損傷（破れ，剥れ）を確認し，損傷の場合は火災の原因となりますので「お買いあげ先」にて交換してください。**



6．再使用にあたって

格納後，初めて使用するときには，各部の点検を入念に行った後に運転します。

❶ エンジンを回す前に，バッテリーターミナルなど，保管するときに処置した項目を正しく復元します。

❷ **「運転まえの点検」**を確実に行います。

不調時の処置

・不調が発生したら，すぐにその原因を調べて処置をし故障を大きくしないようにします。
・原因がわからないときや修理調整しても再発するときは，「**お買いあげ先**」に相談し点検を受けます。
・そのときは「**型式名**」，「**機械番号（製造番号）**」，「**エンジン番号**」をあわせてお知らせください。

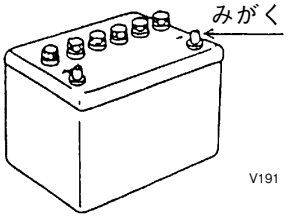
⚠警告 傷害事故防止のために

◆掃除・点検・調整は，機械を平坦な場所に置いて，駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止して，各部の動きが止まってから行なってください。点検処置は，参照ページの安全上の項目をよく読んでから行なってください。
◆ソレノイドバルブの操作をするときは，機械の周囲に人がいないことを確認してから行なってください。
◆調整を必要とするバルブ以外は，操作しないでください。他のバルブを操作すると，不意に他の装置が動いて事故になることがあります。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆外したカバー類は全て元の位置に取付けてください。

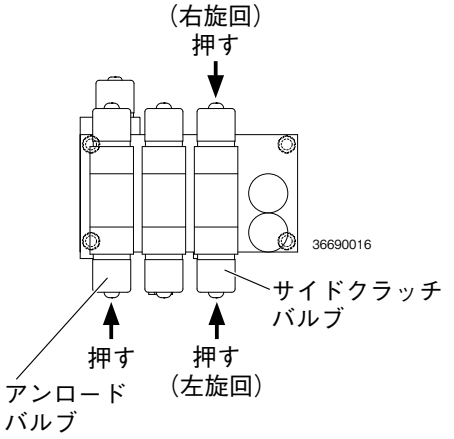
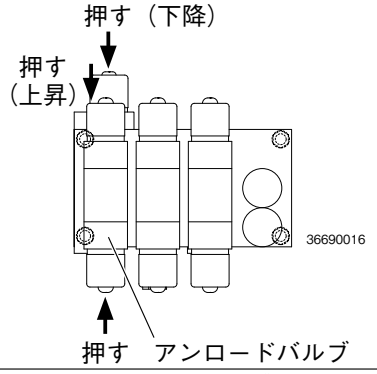
1．エンジン部

不調の状況	原因（点検箇所）	処　置	参照ページ
セルモータが回らない	❶ 脱こく・刈取クラッチレバーが《**入**》になっている。	●脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にします。	23
	❷ クラッチペダルをいっぱい踏込んでいない。	●走行クラッチペダルをいっぱい踏込みます。 V190	20～21
	❸ こく粒排出レバーが《**入**》になっている。	●こく粒排出レバーを《**切**》にします。	24
	❹ バッテリーターミナルのゆるみ。（接触不良）	●ターミナル部をよくみがき締付けます。 V191	104
	❺ バッテリヒューズが切れている。	●配線の短絡箇所を点検し，修正後，バッテリヒューズ（100Ａ）を交換します。	101～103
	❻ バッテリが放電している。	●バッテリを充電します。	104～110
	❼ 《**スタータ**》または《**スタータSW**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 スタータヒューズ……30Ａ スタータSWヒューズ ……10Ａ	101～103

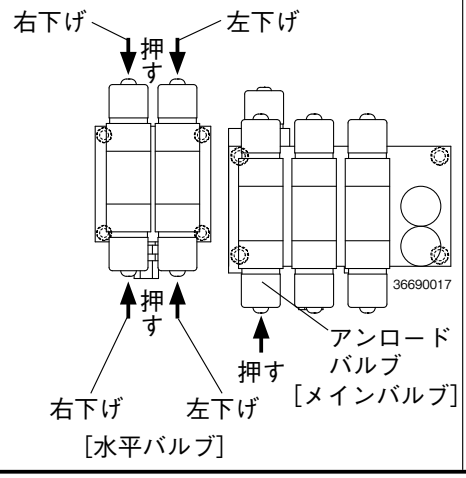
不調時の処置

不調の状況	原因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
セルモータは回るが始動しない	❶　燃料タンクに燃料がない。	●燃料を補給し，エア抜きをします。 （燃料タンク容量……31Ｌ）	83～84 98～99
	❷・燃料系統にエアが入っている。 ・フィルタにエアが溜まっている。	●エア抜きをします。	98～99
	❸　《**E/Gマイコン**》ヒューズが切れているため，燃料ポンプが作動しない。	●ヒューズを交換します。 E/Gマイコンヒューズ……10A	101～103
	❹　燃料コックが「**閉**」のままになっている。	●燃料コックを開ける。	99
エンジンの出力が出ない，または自然に止まる	❶　燃料系統に水・ゴミの混入。	●燃料系統の点検・掃除をします。 ●燃料フィルタを交換します。	98～99
	❷　エアクリーナーの目詰まり。	●掃除またはエアクリーナーエレメントを交換します。	97
	❸　エンジンオイルの不良（汚れ）または不足。	●指定のオイルを補給または交換します。	84～86
	❹　冷却水の不足。	●冷却水を補給します。	86～87
	❺　エンジンファンベルトのゆるみ	●ファンベルトを調整します。	142
	❻　DPFにPM（ススなど粒子状物質）が堆積している。	●手動再生処理をします。	31～33
刈取走行するとエンジンが停止すると同時に倒伏刈ランプ点滅し，ホーン吹鳴	《**搬送制御**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 搬送制御ヒューズ……20A	101～103
刈取りクラッチを入れるとエンジンが停止すると同時にホーン吹鳴	❶　カッタ切替カバーが開いている。	●切替カバーを閉じます。	116
	❷　手こぎ緊急停止スイッチが《**停止**》にセットされている。	●手こぎ緊急停止スイッチを《**運転**》にセットします。	16

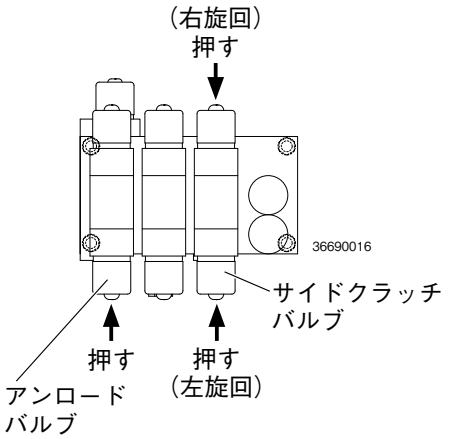
2. 走行・運転操作部

不調の状況	原因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
主変速レバーを操作しても走行しない	❶ 副変速レバーが《**中立**》位置になっている。	●条件に合わせ《**標準**》，または《**走行**》位置にセットします。	20
	❷ 油圧オイルタンクのオイル不足。	●規定量まで油圧作動油を補給します。	88～89
マルチステアリングレバーを操作しても旋回しない	❶ 《**操向**》ヒューズまたは《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 操向ヒューズ……10A マイコンヒューズ……10A	101～103
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●各操作レバーを《**中立**》にしてエンジンを始動します。アンロードバルブを押しながら，サイドクラッチバルブの《**右旋回**》および《**左旋回**》の手動プッシュを数回押すとゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	ー
マルチステアリングレバーを操作しても刈取部が上昇または下降しない	❶ 《**操向**》ヒューズ，《**リフト**》ヒューズ，《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 操向ヒューズ……10A リフトヒューズ……10A マイコンヒューズ……10A	101～103
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●各操作レバーを《**中立**》にしてエンジンを始動します。アンロードバルブを押したり，刈取部リフトバルブの《**上昇**》および《**下降**》の手動プッシュを数回押すとゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	ー
	❸ 油圧固定スイッチが《**油圧固定**》位置になっている。	●油圧固定レバーを《**解除**》にし，油圧固定スイッチを《**作業時**》位置にします。	17

不調時の処置

不調の状況	原因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
水平操作レバーを操作しても作動しない 水平自動制御が作動しない ［L 仕様］	❶ 《**水平**》ヒューズ，《**操向**》ヒューズ，《**マイコン**》ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 水平ヒューズ……10A 操向ヒューズ……10A マイコンヒューズ……10A	**101～103**
	❷ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●各操作レバーを《**中立**》にしてエンジンを始動します。メインバルブユニットのアンロードバルブを押しながら，水平制御用バルブユニットの手動押しボタンを数回押すとゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	**－**

3. 電気・自動制御部

不調の状況	原因（点検箇所）	処　置	参照ページ
モニタランプが点灯しない	❶ **《ランプ・計器》**ヒューズ，**《マイコン》**ヒューズ，**《E/Gマイコン》**ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 ランプ・計器ヒューズ……10A マイコンヒューズ……10A E/Gマイコンヒューズ……15A	101～103
	❷ ランプの電球が切れている。	●電球を交換します。	―
前照灯・ホーン・バックブザー・方向指示器が点灯または作動しない	❶ **《ランプ・計器》**ヒューズ，**《バッテリ電源》**ヒューズ，**《マイコン電源》**ヒューズ，**《前照灯》**ヒューズ，**《フラッシャ》**ヒューズ，**《作業灯》**ヒューズ，**《ホーン・バックホーン》**ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 ランプ・計器ヒューズ……10A バッテリ電源ヒューズ……10A マイコン電源ヒューズ……10A 前照灯ヒューズ……15A フラッシャヒューズ……15A 作業灯ヒューズ……20A ホーン・バックホーンヒューズ……15A	101～103
こぎ深さ自動制御が作動しない	❶ **《こぎ深さ・注油》**ヒューズ，**《マイコン》**ヒューズ，**《バッテリ電源》**ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 こぎ深さ・注油ヒューズ……20A マイコンヒューズ……10A バッテリ電源ヒューズ……10A	101～103
	❷ 刈取部のこぎ深さセンサにワラクズが溜まっている。	●ワラクズを取除きます。	―
刈高さポジションコントロールが作動しない	**《リフト》**ヒューズまたは**《マイコン》**ヒューズが切れている	●ヒューズを交換します。 リフトヒューズ……10A マイコンヒューズ……10A	101～103
方向自動制御が作動しない［ディーラーオプション］	❶ **《操向》**ヒューズまたは**《マイコン》**ヒューズが切れている	●ヒューズを交換します。 操向ヒューズ……10A マイコンヒューズ……10A	101～103
	❷ 刈取部の方向センサに草・泥・ワラクズなどが溜まっている。	●草・泥・ワラクズなどを取除きます。	―
	❸ 油圧バルブへのゴミ噛み。  	●エンジンを始動し，アンロードバルブを押しながら，サイドクラッチバルブの**《右旋回》**および**《左旋回》**の手動プッシュを数回押すとゴミ噛みが解消する場合があります。（バルブユニットは運転席ステップの下にあります。）	―

4. 刈取部

不調の状況	原因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
刈取部で「カタカタ音」がしてチェンが動かない	❶ 搬送通路に詰まりがある。	●つぎの操作手順で処理します。 ① 脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にします。 ② エンジンを停止します。 ③ 刈取搬送部の詰まり箇所を取除きます。 ④ エンジンを始動します。 ⑤ 脱こく・刈取クラッチレバーを《**刈取 入**》**位置**にして確認します。 **取扱いのポイント** **●デバイダが土中に突っ込んで，株抜けしないようにしてください。搬送詰まりの原因になります。**	ー
刈取部が動かない	❶ 刈取クラッチワイヤの調整不良。（ベルトがスリップしている）	●刈取クラッチワイヤの調整をします。	140
刈株の長さにムラがある	❶ 刈刃の注油不足。	●刈刃に十分注油します。	95
	❷ 刈刃の調整不良。（刈刃のスキマが広い）	●調整ライナでスキマを調整します。	156〜157
	❸ 刈刃の摩耗。	●刈刃を交換します。	156〜157
	❹ マルチステアリングレバーの操作不良。	●刈取り条にそって運転するときは急激な操作は避ける。	18，22
刈取部から脱こく部への搬送引きつぎが悪い	❶ 搬送通路に雑草・ワラクズ・泥などが溜まっている。	●搬送通路に雑草・ワラクズ・泥などを除きます。	ー
	❷ 「**深こぎ**」または「**浅こぎ**」となっている。	●適正こぎ深さで作業します。	13

5. 脱こく部

不調の状況	原因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
脱こく搬送詰まりでエンジンが停止した	❶ 排ワラチェン部に詰まりがある。（排ワラチェンエンジン停止スイッチ作動 ❷ 脱こくフィードチェン終端部エンジン停止スイッチ作動。（脱こくフィードチェン終端部エンジン停止スイッチ作動	●つぎの手順により処理します。 ① 脱こく・刈取クラッチレバーを《**切**》にします。 ② 排ワラ関係の詰まり箇所を取除きます。 ③ 排ワラチェンの張りを点検・調整します。 ④ エンジンを始動します。 ⑤ 脱こく・刈取クラッチレバーを《**脱こく 入**》にして確認します。	ー
グレンタンク内にこく粒が出ない（脱こく部の詰まり）	❶ こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物に合った回転計の値になっているか確認し回転計を見て《**作業**》の範囲内になるようにして使用します。	12，48
	❷ ベルトがスリップしている。	●脱こく入力ベルトを張ります。 ●こぎ胴ベルトを張ります。 ●搬送HST入力ベルトを張ります。 ●選別ベルトを張ります。 ●カッタベルトを張ります。	140 144 144 146 145
	❸ こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	69～70
	❹ 作物が雨・霧のために濡れている。（受け網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受け網の掃除をします。	117～118
	❺ 刈取り時期が早く，青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●作業速度を下げ低能率で作業します。	15
	❻ 選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●稲・麦の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットします。	74～75
	❼ １番ラセン底板，２番ラセン底板の掃除口が開いている。	●掃除口を閉じます。	118～119
能率が上がらない（こぎ室内で「ゴトゴト音」がする）	❶ 作物が雨・霧のために濡れている。（受網の目詰まり）	●作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受け網の掃除をします。	117～118
	❷ こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズの発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	69～70
	❸ こぎ胴回転が規定より低い。	●刈取り作物に合ったこぎ胴回転になっているか確認し回転計を見て《**作業**》の範囲内になるようにして使用します。	12，48
	❹ 刈取り速度が速すぎる。	●主変速レバーで速度を作業速度の低速刈側に下げます。	20
	❺ 送じんがスムーズでない。	●送じん量調節位置を《**多い**》方向へ調節します。（必要に応じてガイドを固定します。）	77
	❻ ワラ切カマが切れない。	●ワラ切カマを交換します。	136～137
	❼ 選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●稲・麦の種類，作業条件に合わせてダイヤルをセットします。	74～75

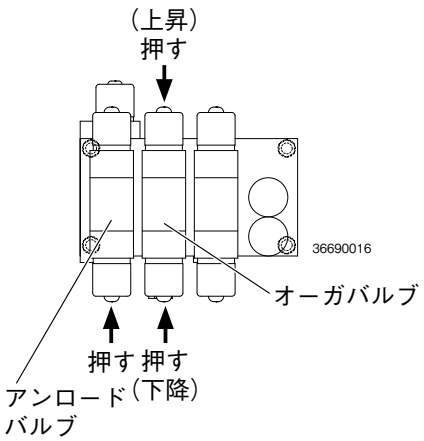
不調時の処置

不調の状況	原因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
スレッシングロスが多い	❶　こぎ深さが「**深こぎ**」のため，こぎ室内のワラクズ発生が多い。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	69〜70
	❷　速度の上げ過ぎにより，揺動流板にワラクズなどが停滞気味。	●脱こく能力以上の高能率作業であり，主変速レバーで速度を作業速度の低速刈側に下げます。	20
	❸　作物が雨・霧のために濡れている。（受網の目詰まり）	●刈作物がよく乾燥してから刈取ります。 ●受網の掃除をします。	117〜118
	❹　刈取り時期が早く青い作物を刈取っている。	●刈取り適期まで待って刈取ります。 ●作業速度内で，できるだけ低能率で作業をします。	20，49
	❺　選別ダイヤルのセットを誤って使用している。	●送稲・麦の種類，作業に合わせてダイヤルをセットします。	74〜75
こぎ残しが多い	❶　こぎ深さが浅すぎる。	●こぎ深さを「**穂先マーク**」位置に合わせます。	69〜70
	❷　こぎ胴の回転が低い。	●こぎ胴回転を規定回転に合わせてマークの範囲内になるようにして作業をします。	12，48
	❸　デバイダで作物を押し刈りしている。	●押し刈りしないように，条間に沿ってデバイダを合わせます。 ●条合わせは，マルチステアリングレバーを小刻みに操作します。（強く操作すると，「**ブレーキ**」が効き，条を外れたり株元を押し倒したりし，高刈りとなります。） ●雑草・ワラクズの詰まりを除去します。 ●横刈りをするとき，刈幅いっぱいの刈取りは行わない。	ー

6. ワラ処理部

不調の状況	原因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
切れ味が悪く，馬力をとる	❶ カッタ刃の磨耗によりカッタの切れ味が悪い。	●刃を交換します。	131
	❷ 排ワラの搬送姿勢が悪い。	●刈取速度を適正にします。 ●こぎ深さ位置を適正にします。	49 69～70
	❸ ワラが濡れているか，雑草が多いためカッタ軸に巻付が発生している。	●エンジンを停止し，巻付いたワラ草を除去します。	－
排ワラ姿勢が悪い（カッタ部での搬送姿勢が悪い）	❶ 排ワラチェンの張り不良。	●チェンを張ります。	154
	❷ こぎ深さが適正でない。	●こぎ深さ位置を適正にします。	69～70
	❸ 刈取速度が遅く搬送姿勢が悪い。	●刈取速度を適正にします。	49
エンジンを始動し,脱こく・刈取クラッチレバーを《入》にするとエンジンが停止する	カッタ切替板が開いている。	●切替板を閉じます。	116

7. グレンタンク部

不調の状況	原因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
排出オーガ操作スイッチを操作しても，動かない	❶ **《操向》**ヒューズ，**《オーガ》**ヒューズ，**《オーガモータ》**ヒューズ，**《マイコン》**ヒューズが切れている。	●ヒューズを交換します。 操向ヒューズ……10A オーガヒューズ……10A オーガモータヒューズ……30A マイコンヒューズ……10A	101～103
	❷ オーガ上下バルブのゴミ噛み。  	●エンジンを始動しオーガ上下バルブの**「上昇」**，**「下降」**それぞれの手動ピンを数回押すと正常にもどる事があります。 （オーガ上下バルブは運転席足元のステップを外すと，下方にあります。） **取扱いのポイント** ●**水，またはスチームでの洗浄は厳禁です。**	－
こく粒排出レバーを操作してもこく粒が出ない	❶ 横ラセンベルトのスリップ。	●横ラセンベルトの張りを調整します。	141
	❷ タンク内のこく粒が流れない。（シャッタ部で滞留している）。	●こく粒排出レバーを繰返し操作します。	－

付　　表

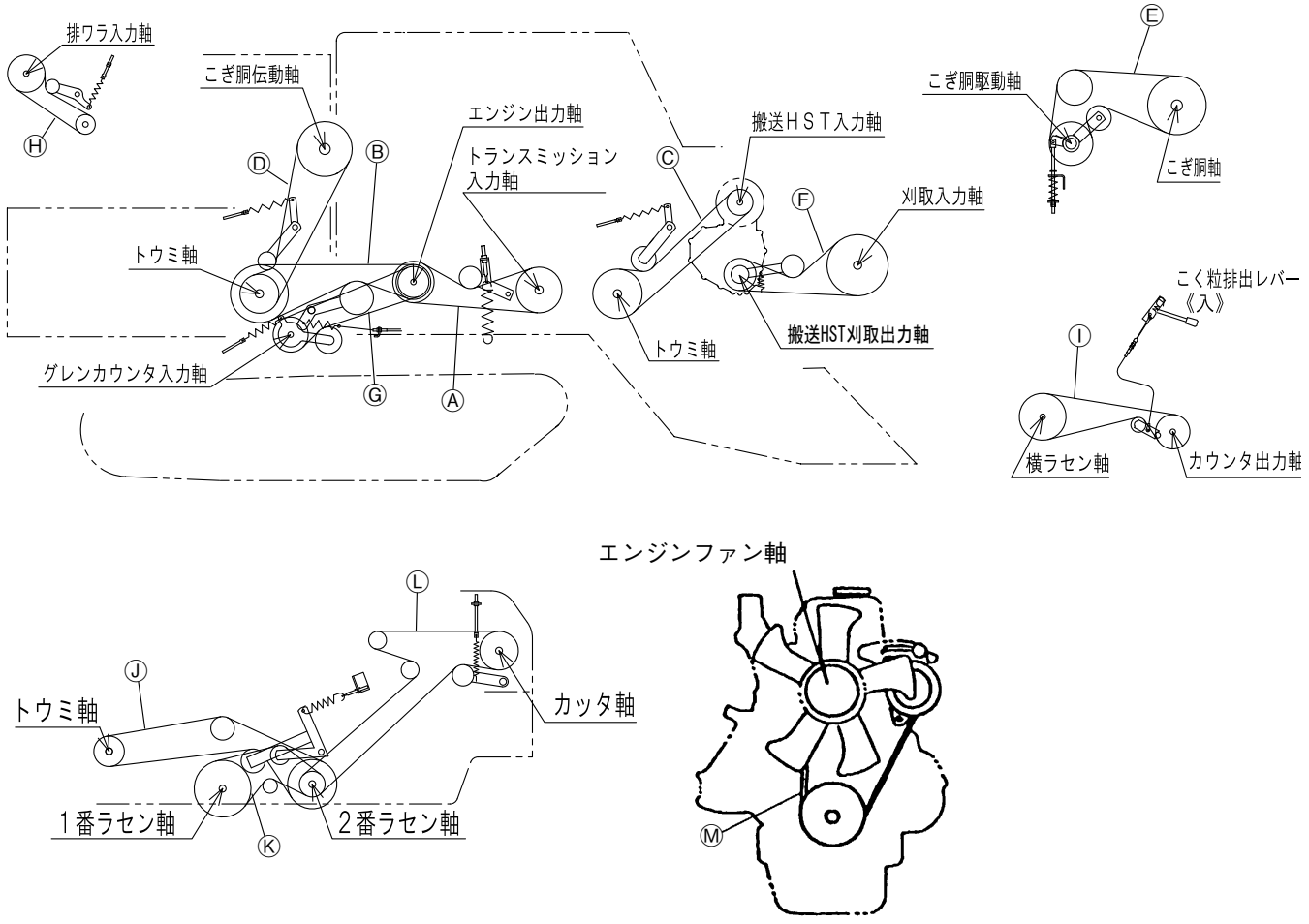
1．主要諸元

型式名			三菱VY433			三菱VS333			
名称			三菱V435			三菱V335			
区分			M	LM	LUM	M	LM	LUM	
車両型式名			三菱YDM－VC35A						
機体寸法（格納時）	全長（㎜）		3,840						
	全幅（㎜）		1,680						
	全高（㎜）		1,990						
機体質量(重量)（kg）			1,955	2,050	2,075	1,915	2,010	2,035	
エンジン	型式		D1803－CR－E4B						
	種類		立形水冷４サイクルコモンレール式ディーゼル						
	総排気量（L{cc}）		1.826 {1826}						
	出力/回転速度(kW{PS}/rpm)		25.8 {35.1} /2400						
	使用燃料		ディーゼル軽油						
	燃料タンク容量（L）		31						
	始動方式		セルモータ式						
	バッテリ（V・Ah）		12・64						
走行部	クローラ	幅×接地長（㎜）	420×1,390		460×1,390	400×1,390		460×1,390	
		中心距離（㎜）	895		935	875		935	
		平均接地圧(kPa{kgf/㎠})	16.4 {0.167}	17.2 {0.176}	15.9 {0.162}	16.9 {0.172}	17.7 {0.181}	15.4 {0.158}	
	変速方式		油圧モータ式（HST）						
	変速段数（段）		前進無段，後進無段（副変速２段）						
	走行速度	前進（m/s）	標準：0～1.02，走行：0～2.12			標準：0～1.22，走行：0～2.52			
		後進（m/s）	標準：0～0.99，走行：0～1.95			標準：0～1.18，走行：0～2.32			
刈取部	刈取り条数（条）		4			3			
	デバイダ先端間隔（㎜）		1,400～1,450			1,150～1,200			
	刈取装置形式		往復動刃式						
	刃幅（㎜）		1,400			1,150			
	変速段数（段）		無段変速（車速同調式）						
	刈高さ範囲（㎜）		40～150						
	こぎ深さ調節方法		電動式（自動・手動併用）						
脱こく部	脱こく方式		複胴下こぎ軸流式（増速ツインこぎ胴）						
	こぎ胴	径×幅（㎜）	410×620						
		回転速度（rpm）	前450・後550						
	処理胴	径×幅（㎜）	140×720						
		回転速度（rpm）	1,670						
	揺動板	幅×長（㎜）	500×1,120						
処理こく粒部	こく粒処理方式		グレンタンク式						
	タンク容量（L）		800						
	排出高さ（㎜）		1,600×4,200						
排ワラ処理装置			マルチカッタ						
適応作物全長（㎜）			550～1,300						
倒伏適応性（度）			追刈：85°　向刈：70°　以下						
作業能率（分/10a）			17～55（計算値）			17～67（計算値）			
運転免許			小型特殊免許						

・この主要諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

2. ベルト一覧表

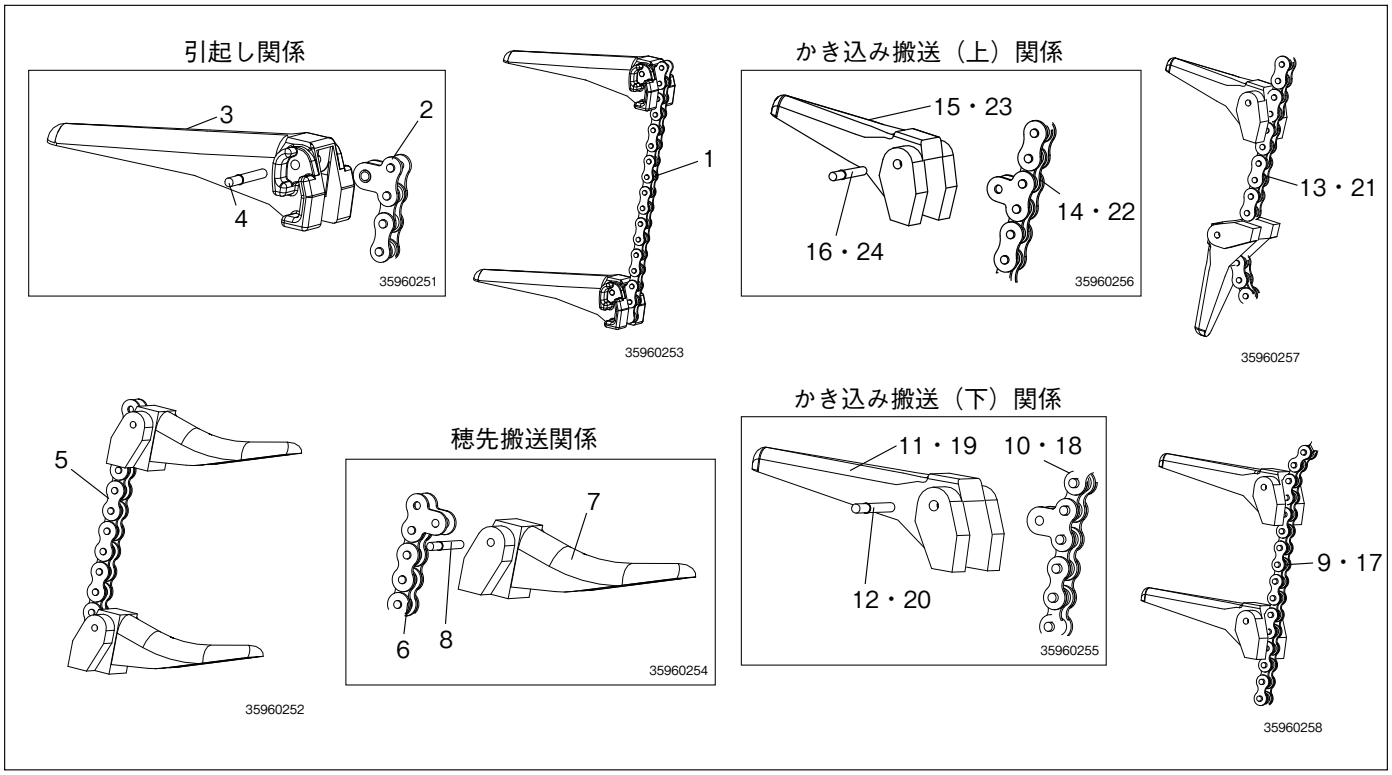
記号	伝　動　系　統	本数	部品番号	仕　様	
A	エンジン出力軸～トランスミッション入力軸	2	3667 1961 000	SB58	走行ベルト［4条型］
		2	3599 0055 000	SB57	走行ベルト［3条型］
B	エンジン出力軸～トウミ軸	1	3553 6537 000	SC74	脱こくベルト
C	トウミ軸～搬送HST入力軸	1	3559 1961 000	LB62	搬送HSTベルト
D	トウミ軸～こぎ胴伝動軸	1	3578 6537 000	SC66	こぎ胴伝動ベルト
E	こぎ胴駆動軸～こぎ胴軸	2	0852 1500 066	SB66	こぎ胴ベルト
F	搬送HST刈取出力軸～刈取入力軸	1	0852 1200 060	LB60	刈取ベルト［4条型］
		1	0852 1200 059	LB59	刈取ベルト［3条型］
G	エンジン出力軸～グレンカウンタ入力軸	1	0852 1500 060	SB60	グレンベルト
H	こぎ胴軸～排ワラ入力軸	1	0851 1200 035	LA35	排ワラベルト
I	カウンタ出力軸～横ラセン軸	1	0852 1500 053	SB53	横ラセンベルト
J	トウミ軸～2番ラセン軸	1	0852 1500 064	SB64	選別ベルト
K	2番ラセン軸～1番ラセン軸	1	0851 1500 043	SA43	1番ラセンベルト
L	2番ラセン軸～カッタ軸	1	0852 1200 098	LB98	カッタベルト
M	エンジンPTO軸～エンジンファン軸	1	9995 0000 020	A39	ファンベルト（コグA39）



3. 主な消耗部品

1. 爪関係

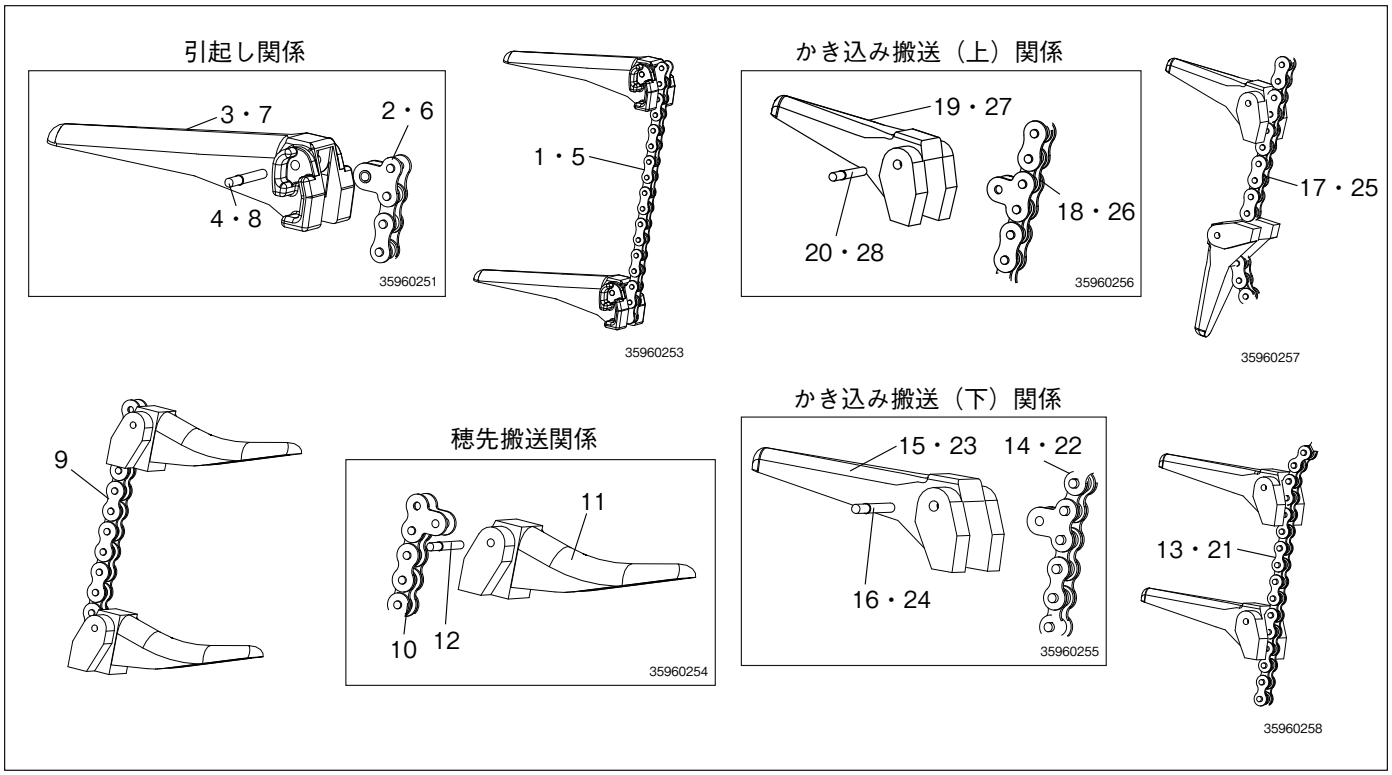
［4条型］



No.	部品名称	部品番号	備考
1	チェンアセンブリ（2組）	3556 4437 006	引起し搬送（左・中右）
	チェンアセンブリ（2組）	3556 4445 000	引起し搬送（右・中左）
2	チェン（4本）	3556 4438 000	
3	ツメ（40本）	3555 4428 002	
4	ピン（40本）	3523 4428 000	
5	チェンアセンブリ（1組）	3599 5211 000	穂先搬送
6	チェン106（1本）	3599 5212 000	
7	ツメ（14本）	3501 5247 000	
8	ピン（14本）	3523 4428 001	
9	チェンアセンブリ（1組）	3597 4758 001	かき込み搬送（左下）
10	チェン54（1本）	3523 4716 001	
11	ツメ（6本）	3523 4742 001	
12	ピン（6本）	3523 4428 000	
13	チェンアセンブリ（1組）	3599 4732 000	かき込み搬送（左上）
14	チェン48（1本）	3597 4733 000	
15	ツメ（6本）	3523 4742 001	
16	ピン（6本）	3523 4428 000	
17	チェンアセンブリ（1組）	3597 4758 001	かき込み搬送（右下）
18	チェン54（1本）	3523 4716 001	
19	ツメ（6本）	3523 4742 001	
20	ピン（6本）	3523 4428 000	
21	チェンアセンブリ（1組）	3599 4783 000	かき込み搬送（右上）
22	チェン66（1本）	3599 4784 000	
23	ツメ（8本）	3543 7765 001	
24	ピン（8本）	3523 4428 000	

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

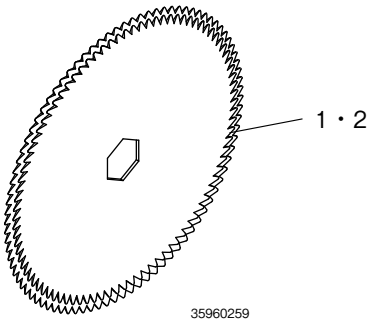
［3条型］



No.	部　品　名　称		部　品　番　号	備　　考
1	チェンアセンブリ	（1組）	3556 4437 006	引起し搬送（左）
	チェンアセンブリ	（1組）	3556 4445 000	引起し搬送（右）
2	チェン	（2本）	3556 4438 000	
3	ツメ	(20本)	3555 4428 002	
4	ピン	(20本)	3523 4428 000	
5	チェンアセンブリ	（1組）	3597 4478 001	引起し搬送（中）
6	チェン155	（1本）	3597 4478 100	
7	ツメ	(11本)	3555 4428 002	
8	ピン	(11本)	3523 4428 000	
9	チェンアセンブリ	（1組）	3555 5211 000	穂先搬送
10	チェン98	（1本）	3555 5212 000	
11	ツメ	(12本)	3501 5247 000	
12	ピン	(12本)	3523 4428 000	
13	チェンアセンブリ	（1組）	3597 4719 002	かき込み搬送（左下）
14	チェン44	（1本）	3597 4722 002	
15	ツメ	（6本）	3523 4742 001	
16	ピン	（6本）	3523 4428 000	
17	チェンアセンブリ	（1組）	3597 4732 000	かき込み搬送（左上）
18	チェン48	（1本）	3597 4733 000	
19	ツメ	（6本）	3543 7765 001	
20	ピン	（6本）	3523 4428 000	
21	チェンアセンブリ	（1組）	3597 4758 001	かき込み搬送（右下）
22	チェン54	（1本）	3523 4716 001	
23	ツメ	（6本）	3523 4742 001	
24	ピン	（6本）	3523 4428 000	
25	チェンアセンブリ	（1組）	3597 4779 000	かき込み搬送（右上）
26	チェン46	（1本）	3597 4779 500	
27	ツメ	（6本）	3543 7765 001	
28	ピン	（6本）	3523 4428 000	

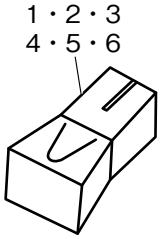
・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

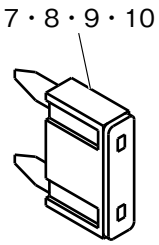
2. カッタ関係



No.	部品名称	部品番号	個数（1セット分）	
			マルチカッタ60/180㎜	マルチカッタ40/160㎜
1	ノコ刃（φ140）	3830 0409 000	12	19
2	ノコ刃（φ160）	3830 0415 000	5	6

3. ヒューズ

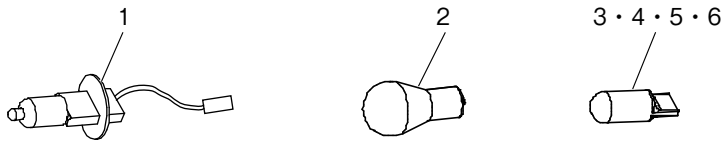




No.	部品名称	部品番号	備考
1	ヒューズ	1968 2927 200	100A，B1バッテリ
2	ヒューズ	1037 5502 200	60A，A2　予熱
3	ヒューズ	2676 9852 200	30A，A2　スタータ
4	ヒューズ	3559 0861 200	40A，A2　キーＳＷ
5	ヒューズ	1038 2815 200	20A，A2　E/G　メイン
6	ヒューズ	1948 0721 200	60A，B1　メイン１電源，メイン３電源
7	ヒューズ	0980 1003 006	30A，ミニヒューズ
8	ヒューズ	0980 1002 006	20A，ミニヒューズ
9	ヒューズ	0980 1001 506	15A，ミニヒューズ
10	ヒューズ	0980 1001 006	10A，ミニヒューズ

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

4. ランプバルブ

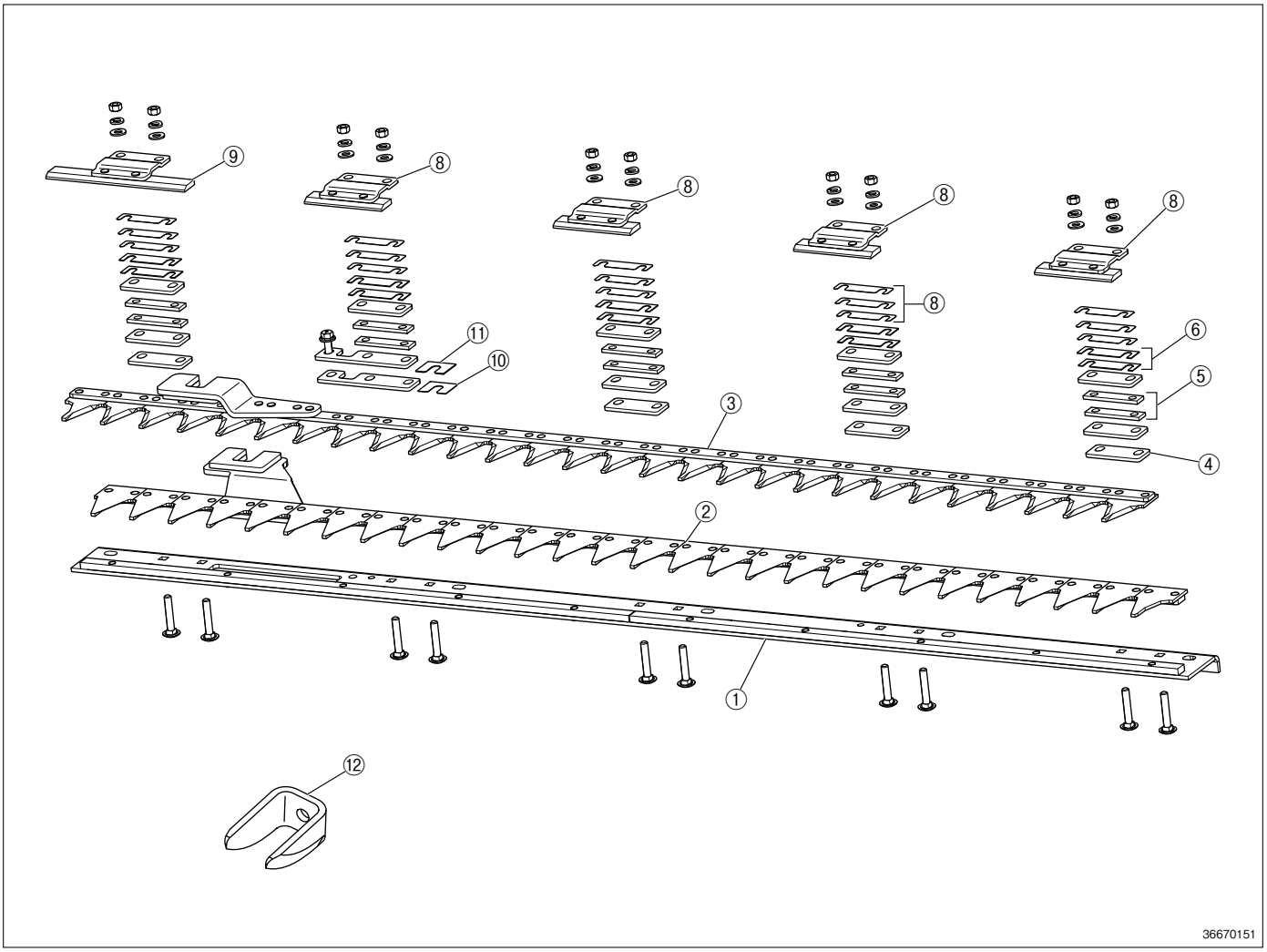


No.	部品名称	部品番号	備考
1	ランプバルブ	3596 3035 200	H3－12V－26W（ハロゲン） 前照灯・作業灯
2	ランプバルブ	0980 8122 104	12V21W（S25） 方向指示器　左前・右前
3	ランプバルブ	0980 8120 508	12V5W（T10） 方向指示器　左側方・右側方
4	ランプバルブ	0980 8121 501	12V15W（G18） 方向指示器　左後方・右後方
5	ランプバルブ	3594 0823 600	12V3W（T6.5） 回転計（照明）
6	ランプバルブ	3594 0823 500	12V1.7W（T6.5） 回転計（機能）

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

5. 刈刃・カマ関係

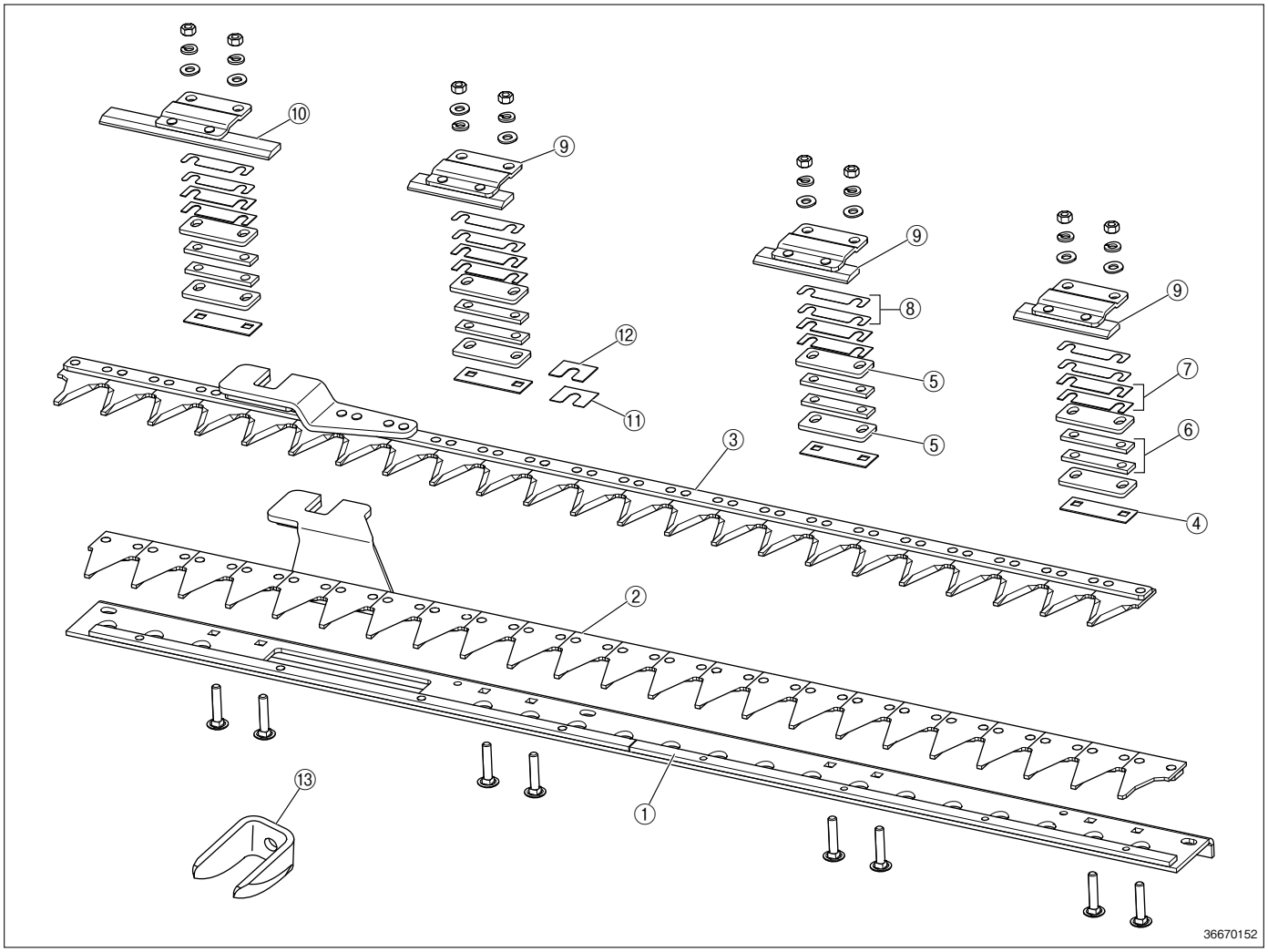
［4条型］



No.	部　品　名　称	部　品　番　号	備　　考
1～11	カリハクミタテ	3628 4391 000	
1	ベースアッシ	3628 4392 000	
2	シタハアッシ	3628 4394 000	
3	ウエハアッシ	3628 4358 000	
4	スライドプレート　（13個）	3532 4365 200	t ＝4.0㎜
5	ライナ　（10個）	3532 4365 300	t ＝4.0㎜
6	シム　（10個）	3532 4365 400	t ＝0.8㎜
7	シム	3532 4365 500	t ＝0.2㎜（必要に応じて使用）
8	ナイフクリップ　（４個）	3532 4364 001	
9	ナイフクリップB　（１個）	3578 4359 000	
10	ライナ	3690 4406 000	t ＝0.5㎜（必要に応じて使用）
11	ライナ	3690 4407 000	t ＝1.0㎜（必要に応じて使用）
12	ワラキリカマ　（13個）	3735 7321 001	

・ご用命のときは，「部品名称」「部品番号」をお知らせください。

［3条型］



No.	部　品　名　称		部　品　番　号	備　　考
1～12	カリハクミタテ		3578 4351 000	
1	ウケハダイアッシ		3578 4352 000	
2	シタハアッシ		3578 4354 000	
3	ウエハアッシ		3578 4358 000	
4	スペーサ	（4個）	3555 4366 000	t ＝1.2㎜
5	スライドプレート	（8個）	3532 4365 200	t ＝4.0㎜
6	ライナ	（8個）	3532 4365 300	t ＝4.0㎜
7	シム	（8個）	3532 4365 400	t ＝0.8㎜
8	シム		3532 4365 500	t ＝0.2㎜（必要に応じて使用）
9	ナイフクリップ	（3個）	3532 4364 001	
10	ナイフクリップB	（1個）	3578 4359 000	
11	ライナ		3690 4406 000	t ＝0.5㎜（必要に応じて使用）
12	ライナ		3690 4407 000	t ＝1.0㎜（必要に応じて使用）
13	ワラキリカマ	（13個）	3735 7321 001	

4. アタッチメント（別売り）

・次のアタッチメントを基本作業機または部品として準備しておりますのでご利用ください。

	型式（部品番号）	品　名	備　考
基本作業機・部品	KN－S333	スライドノッタ	穂先・株元結束型
	R－KSMS20	スタンド装置	チェン搬送方式（取付キット－R－VS281が必要）
	S－S333D	カッタ用ドロッパ	寄せ板・スプリング方式
	D－KNS1	ノッタ用ドロッパ	電気カウント式（３～５束）
	SP－Y433W	スーパーデバイダ	２連［４条型］
	SP－Y433TQ	スーパーデバイダ	３連用追加キット［４条型］
	SP－S323W	スーパーデバイダ	２連［３条型］
	SP－S323TQ	スーパーデバイダ	３連用追加キット［３条型］
	CH333	コンバインフード	折たたみ式
	K－V435DF	電動クラッチ+オーガフラップキット	電動排出クラッチ＋オーガフラップ
	DC－VM219VY433	防じんカバーキット	
	Y433－H－KIT	方向自動キット	
	DMS28S－KIT	スーパーマルチ交換キット	短切カッタ（40/160）
	K－VY434S	拡散ラセンキット	
	K－RCVSVCH	無線リモコンキット	K－V435DFが必要
	K－GTBV435	外部駐車ブレーキキット	

5. 付属品一覧表

No.	部　品　名	個　数	備　考
1	取扱説明書	1	
2	バンパ（スナップピン付き）	1	
3	コンバインシート	1	
4	品質保証券	1	
5	メンテナンスノート	1	
6	チョウナット	2	送じんガイド固定用
7	ワッシャ	2	送じんガイド固定用

6. 潤滑油について

オイルは，三菱農業機械純正油をお奨めします。

1. エンジンオイル

メーカ	商品名
三菱農業機械純正油	スーパークリーンディーゼルDH2（SAE・10W－30，DH－2）
全農	ディーゼルDH－2/CF－4（SAE・10W－30）
JX日鉱日石エネルギー	

2. 油圧作動油

メーカ	商品名
三菱農業機械純正油	スーパーマルチSTOUオイル（SAE・10W－30，SD／CD／GL－4）
JX日鉱日石エネルギー	スーパーハイランド46

3. ギヤオイル

メーカ	商品名
三菱農業機械純正油	マルチSHPギヤオイル（SAE90，GL－5）
JX日鉱日石エネルギー	スーパーハイポイドギヤ（SAE90，GL－5　SAE140，GL－5）

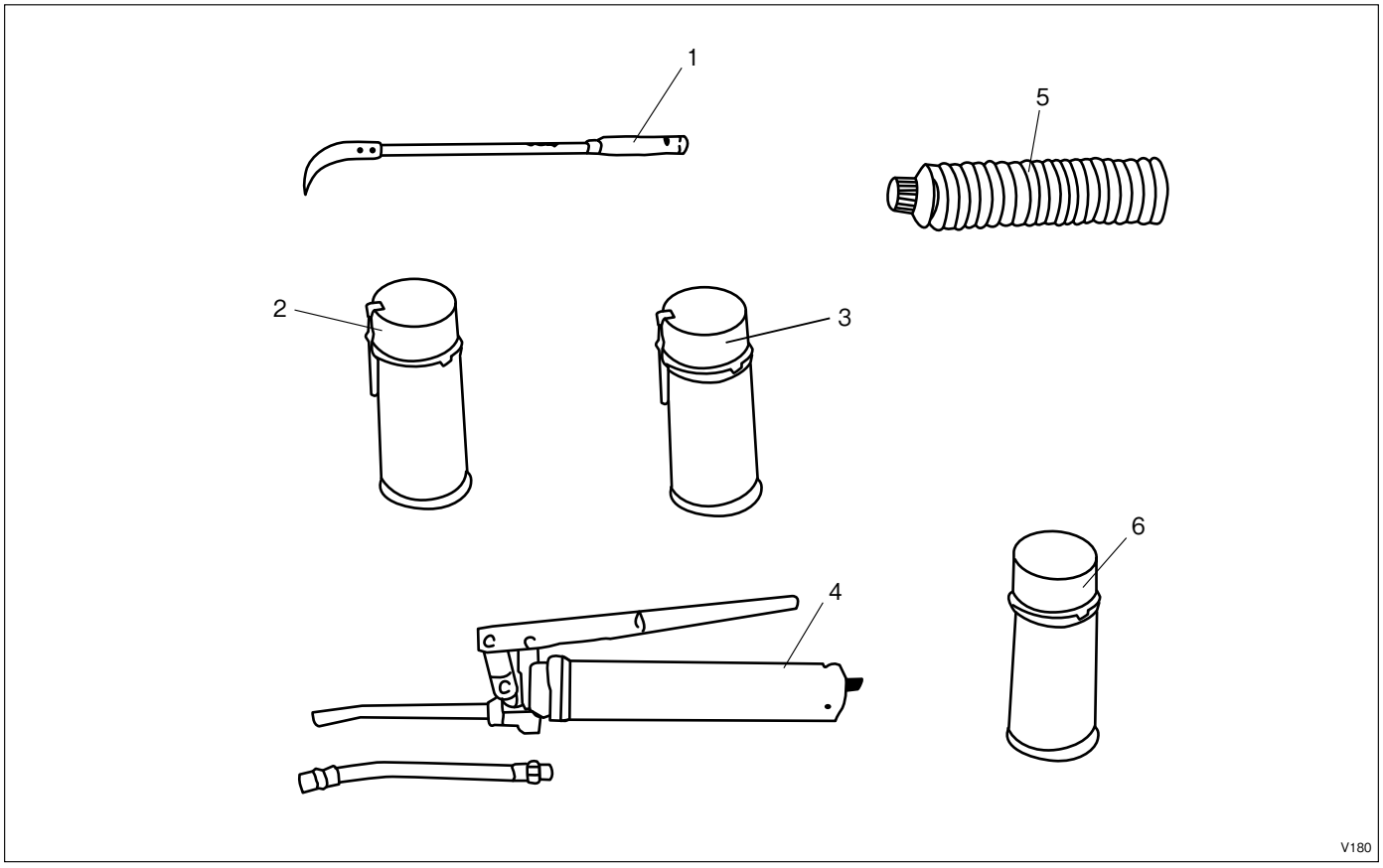
取扱いのポイント

●トランスミッションケースのオイルは，ギヤオイルAPI・GL－5，SAE・90を使用してください。

7. コンバイン関連商品

・代表的なものを選んでご紹介します。

No.	部　品　名	部 品 番 号	
1	万能鎌（ノコ刃）	S309DX	土，ワラの除去に最適
2	ダイヤスプレー（防錆・潤滑）	K1－420DX	金属部品の防錆，潤滑
3	スプレーグリス	SP300	金属部品の防錆，潤滑
4	グリスポンプ	N850－666	フレキシブルパイプ付
5	グリス	NMP400	グリスポンプ詰替え用
6	カラースプレー（ダークグレー） カラースプレー（白） カラースプレー（黒） カラースプレー（赤）	0975 0000 691 0975 0000 651 0975 0000 471 0975 0000 741	補修用塗装



・ご用命のときは，「商品番号」・「商品名」をお知らせください。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式

機械番号（製造番号）

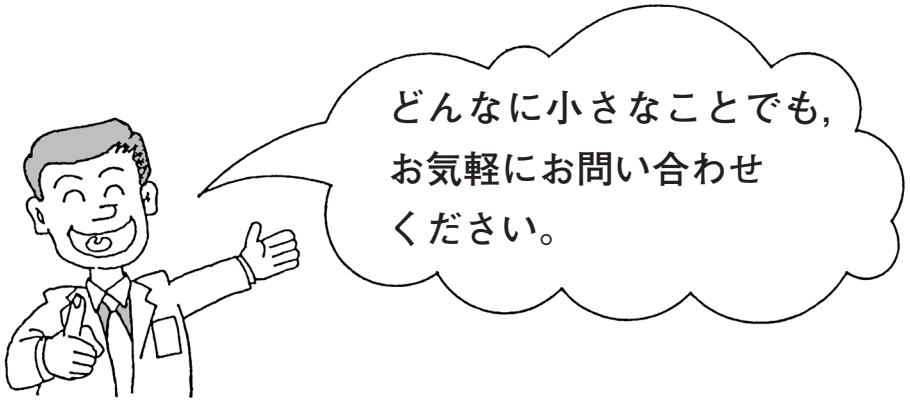
●ご使用状況は…？

（どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

ＴＥＬ　　（　　）